



令和 6 年度

# 学 修 要 項

( PhaseⅣ後期・Ⅴ )

5 年次後期～6 年次生用

佐賀大学医学部医学科

# 佐賀大学憲章

佐賀大学は、これまでに培った文、教、経、理、医、工、農等の諸分野にわたる教育研究を礎にし、豊かな自然溢れる風土や諸国との交流を通して育んできた独自の文化や伝統を背景に、地域と共に未来に向けて発展し続ける大学を目指して、ここに佐賀大学憲章を宣言します

## 魅力ある大学

目的をもって生き活きと学び行動する学生中心の大学づくりを進めます

## 創造と継承

自然と共生するための人類の「知」の創造と継承に努めます

## 教育先導大学

高等教育の未来を展望し、社会の発展に尽くします

## 研究の推進

学術研究の水準を向上させ、佐賀地域独自の研究を世界に発信します

## 社会貢献

教育と研究の両面から、地域や社会の諸問題の解決に取り組みます

## 国際貢献

アジアの知的拠点を目指し、国際社会に貢献します

## 検証と改善

不断の検証と改善に努め、佐賀の大学としての責務を果たします

# 目 次

## 1. 佐賀大学憲章（表紙裏）

## 2. 教育の概要

|                                           |    |
|-------------------------------------------|----|
| 佐賀大学医学部の使命・理念・目的・卒業時学修成果 .....            | 1  |
| 医学部医学科修得課程表（ロードマップ） .....                 | 3  |
| 医学部医学科カリキュラム模式図（令和2年度以降入学生） .....         | 7  |
| 医学部医学科授業科目開設表（令和2年度以降入学生） .....           | 8  |
| 令和5～6年度医学科フェイズチェアパーソン及びコ・チェアパーソン一覧表 ..... | 10 |

## 3. 教育・評価に関する規定等

|                                        |    |
|----------------------------------------|----|
| 進級・卒業認定方法の周知について .....                 | 11 |
| 成績評価の異議申立てについて .....                   | 12 |
| 佐賀大学医学部試験の実施に関する内規 .....               | 13 |
| 佐賀大学医学部医学科の授業科目等の履修に係る資格要件に関する内規 ..... | 15 |
| 佐賀大学医学部規則について .....                    | 16 |
| 佐賀大学学生の懲戒等実施細則 .....                   | 17 |

## 4. 5年次後期～6年次生の学修指針等

|                             |    |
|-----------------------------|----|
| 5年次後期～6年次生の学修 .....         | 21 |
| 臨床実習後OSCE（卒業要件としての試験） ..... | 22 |
| 総括講義 .....                  | 24 |
| シラバスの見かた .....              | 27 |

## 5. PhaseⅣの学修指針等

|                                        |    |
|----------------------------------------|----|
| 5.1 PhaseⅣにおける学修の目的と内容 期待される学修成果 ..... | 29 |
| 令和6年度5年次診療科別臨床実習配属表 .....              | 34 |
| 令和6年度後期 5年次生臨床実習グループ表 .....            | 35 |
| 5.2 (PhaseⅣ後期臨床実習 各診療科の学修指針等)          |    |
| 内科（脳神経内科） .....                        | 36 |
| 内科（膠原病・リウマチ内科） .....                   | 38 |
| 内科（血液・腫瘍内科） .....                      | 40 |
| 内科（呼吸器内科） .....                        | 43 |
| 内科（循環器内科） .....                        | 46 |

|                            |     |
|----------------------------|-----|
| 内科（腎臓内科）                   | 51  |
| 内科（消化器内科）                  | 53  |
| 内科（肝臓・糖尿病・内分泌内科）           | 55  |
| 一般・消化器外科                   | 57  |
| 胸部・心臓血管外科                  | 61  |
| 精神神経科                      | 65  |
| 小児科                        | 68  |
| 産科婦人科                      | 72  |
| 救急科                        | 77  |
| 総合診療部                      | 80  |
| 5.3 関連教育病院実習               | 83  |
| 5.4 地域医療実習                 | 94  |
| 6. PhaseVの学修指針等            |     |
| PhaseVの概要                  | 97  |
| 基礎系・臨床系選択科目題目等一覧表          | 98  |
| 基礎系・臨床系選択科目題目別概要           | 104 |
| 地域枠特別入学生特別プログラム            | 182 |
| 7. 学位授与の方針／教育課程編成・実施の方針    |     |
| 医学部医科学学位授与の方針              | 187 |
| 医学部医学科教育課程編成・実施の方針         | 188 |
| 8. その他                     |     |
| コースナンバリングについて              | 191 |
| アクティブラーニングについて             | 193 |
| 9. オフィスアワー 一覧（オフィスアワーについて） | 195 |

## 2 教育の概要



# 佐賀大学医学部の使命・理念・教育目的・卒業時学修成果

## 医学部の使命

医及び看護の実践とその科学的創造形成の過程を通じて医学及び看護学の知識技術並びに医師又は看護職者たるにふさわしい態度を習得し、かつ、これらを生涯にわたって創造発展させることのできる人材を養成することを目的とし、もって医学及び看護学の水準及び地域医療の向上に寄与する。

## 医学部の基本理念

医学部に課せられた教育・研究・診療の三つの使命を一体として推進することによって、社会の要請に応えうる良き医療人を育成し、もって医学・看護学の発展及び地域包括医療の向上に寄与する。

## 医学科の教育目的

医の実践において、強い生命倫理観に基づくとともに広い社会的視野の下に包括的に問題をとらえ、その解決を科学的・創造的に行うような医師を育成する。

## 医学科の卒業時学修成果

佐賀大学医学部医学科は、以下のような能力を備えた卒業生を輩出する。

1. プロフェッショナリズム
2. 医学的知識
3. 安全で最適な医療の実践
4. コミュニケーションと協働
5. 国際的な視野に基づく地域医療への貢献
6. 科学的な探究心

## 卒業時学修成果の内容

### 1 プロフェッショナリズム

佐賀大学医学部医学科の卒業生は、卒業時に

医師の職責を理解し、患者中心の医療を推進すべく行動できる。

- 1.1 医師の職責を理解し、倫理的・法的な規範に則った行動をとることができる。
- 1.2 患者や家族の価値観と権利を尊重した患者中心の医療を推進できる。
- 1.3 患者のプライバシーを守り、利益相反の生じる可能性に配慮して職務を遂行できる。
- 1.4 医療人への社会的期待を理解し、誠実で責任感のある態度で行動できる。
- 1.5 自らの実践を省察し、課題の発見と改善に努める自己主導型学修の習慣を身に付けている。

### 2 医学的知識

佐賀大学医学部医学科の卒業生は、卒業時に

基礎医学、臨床医学、社会医学、行動科学を統合的に学修し、問題解決に応用できる。

- 2.1 人間のライフサイクル
- 2.2 人間の心理と行動

- 2.3 人間の正常な構造と機能
- 2.4 人間の機能的・構造的異常状態と原因
- 2.5 治療の原理と適応
- 2.6 疾病の疫学, 予防
- 3 安全で最適な医療の実践  
佐賀大学医学部医学科の卒業生は, 卒業時に  
患者の安全を最優先し, 根拠に基づく効果的な医療を実践することができる。
  - 3.1 医療面接, 基本的身体診察を実施し臨床推論ができる。
  - 3.2 必要な検査を選択し, 適切に実施・解釈できる。
  - 3.3 最適な医療情報を患者に適用し, 適切に診断・治療計画を立案することができる。
  - 3.4 問題志向型診療記録を作成し, 正確かつ簡潔に症例提示ができる。
  - 3.5 医療安全に配慮し, 医療チームの一員として診療に参画できる。
  - 3.6 医療制度, 医療経済を理解し, 最適な医療提供のために活用できる。
- 4 コミュニケーションと協働  
佐賀大学医学部医学科の卒業生は, 卒業時に  
患者の価値観を尊重し, 他の医療者と円滑に協働することができる。
  - 4.1 患者の心理社会的背景を理解し, 良好な患者医師関係を築くことができる。
  - 4.2 医療チーム内で信頼関係を築き, 目的達成のために役割を果たすことができる。
  - 4.3 専門の異なる医師や他職種の医療者と円滑に連携することができる。
  - 4.4 患者の意思決定を支援するために, 必要な情報を提供し同意を得ることができる。
  - 4.5 他者に建設的な批判ができ, 他者からの評価や助言を謙虚に受け止めることができる。
  - 4.6 後進のロールモデルとなるべく行動し, 医療者育成に参画することができる。
- 5 国際的な視野に基づく地域医療への貢献  
佐賀大学医学部医学科の卒業生は, 卒業時に  
国際的な視野で医療の発展を理解し, 地域の特性に応じた医療の維持・発展に貢献できる。
  - 5.1 個人, 地域社会, 国際社会における価値観や文化の多様性を理解している。
  - 5.2 医療の国際化を理解し, 英語での情報収集, 情報発信ができる。
  - 5.3 地域の保健・医療・福祉の関連諸機関の適切な連携を理解している。
  - 5.4 地域の特性や多様なニーズを理解し, 地域の急性期および慢性期医療に参画できる。
- 6 科学的な探究心  
佐賀大学医学部医学科の卒業生は, 卒業時に  
医療・医学の発展に貢献すべく, 科学的な探究心と方法論を身につけている。
  - 6.1 医学的研究(基礎研究, 臨床研究, 疫学研究)の方法論と倫理を理解し遵守できる。
  - 6.2 未解決の医療・医学的問題に着目し, 解決に取り組む積極的な姿勢を身につけている。
  - 6.3 問題解決のために情報の質を吟味し, 論理的・批判的な思考ができる。

佐賀大学医学部医学科 修得課程表(ロードマップ)

| A: 医療現場で実践できる (Does) <input checked="" type="checkbox"/><br>B: 基本的な技能・態度を身につけている (shows how) <input type="checkbox"/><br>C: 基礎となる知識・技能・態度を理解している (knows, knows how) <input type="checkbox"/> | 教養教育科目                                   |        |         |        |         |            |       |         | 専門教育科目        |        |        |       |       |     |    |     |   |  |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------|--------|---------|--------|---------|------------|-------|---------|---------------|--------|--------|-------|-------|-----|----|-----|---|--|
|                                                                                                                                                                                              |                                          |        | Phase I |        |         |            |       |         |               |        |        |       |       |     |    |     |   |  |
|                                                                                                                                                                                              | 区分                                       | 共通基礎科目 |         |        |         | 基本教養科目     |       |         |               | 専門基礎科目 |        |       |       |     |    |     |   |  |
|                                                                                                                                                                                              | 単位数                                      | 4      | 4       | 2      | 1       | 14         |       |         |               | 8      | 2      | 2     | 2     | 1   | 2  | 3   | 3 |  |
|                                                                                                                                                                                              | 履修学年                                     | 1      | 1       | 1      | 1       | 1-2        | 1-2   | 1-2     | 1-2           | 1      | 1      | 1-2   | 1     | 1   | 1  | 1   | 1 |  |
|                                                                                                                                                                                              | 授業科目                                     | 医療入門Ⅰ  | 英語      | 情報基礎概論 | 情報基礎演習Ⅰ | 自然科学と技術の分野 | 文化の分野 | 現代社会の分野 | インターネットフェース科目 | 生命倫理学  | 行動科学原論 | 医療入門Ⅱ | 医療統計学 | 物理学 | 化学 | 生物学 |   |  |
| 1 プロフェッショナリズム                                                                                                                                                                                |                                          |        |         |        |         |            |       |         |               |        |        |       |       |     |    |     |   |  |
| 佐賀大学医学部の卒業生は、卒業時に医師の職責を理解し、患者中心の医療を推進すべく行動できる。                                                                                                                                               |                                          |        |         |        |         |            |       |         |               |        |        |       |       |     |    |     |   |  |
| 1.1                                                                                                                                                                                          | 医師の職責を理解し、倫理的・法的な規範に則った行動をとることができる       |        |         |        |         |            |       |         |               |        |        |       |       |     |    |     |   |  |
| 1.2                                                                                                                                                                                          | 患者や家族の価値観と権利を尊重した患者中心の医療を推進できる           |        |         |        |         |            |       |         |               |        |        |       |       |     |    |     |   |  |
| 1.3                                                                                                                                                                                          | 患者のプライバシーを守り、利益相反の生じる可能性に配慮して職務を遂行できる    |        |         |        |         |            |       |         |               |        |        |       |       |     |    |     |   |  |
| 1.4                                                                                                                                                                                          | 医療人への社会的期待を理解し、誠実で責任感のある態度で行動できる         |        |         |        |         |            |       |         |               |        |        |       |       |     |    |     |   |  |
| 1.5                                                                                                                                                                                          | 自らの実践を省察し、課題の発見と改善に努める自己主導型学習の習慣を身に付けている |        |         |        |         |            |       |         |               |        |        |       |       |     |    |     |   |  |
| 2 医学的知識                                                                                                                                                                                      |                                          |        |         |        |         |            |       |         |               |        |        |       |       |     |    |     |   |  |
| 佐賀大学医学部の卒業生は、卒業時に基礎医学、臨床医学、社会医学、行動科学を統合的に学習し、問題解決に応用できる。                                                                                                                                     |                                          |        |         |        |         |            |       |         |               |        |        |       |       |     |    |     |   |  |
| 2.1                                                                                                                                                                                          | 人間のライフサイクル                               |        |         |        |         |            |       |         |               |        |        |       |       |     |    |     |   |  |
| 2.2                                                                                                                                                                                          | 人間の心理と行動                                 |        |         |        |         |            |       |         |               |        |        |       |       |     |    |     |   |  |
| 2.3                                                                                                                                                                                          | 人間の正常な構造と機能                              |        |         |        |         |            |       |         |               |        |        |       |       |     |    |     |   |  |
| 2.4                                                                                                                                                                                          | 人間の機能的・構造的異常状態と原因                        |        |         |        |         |            |       |         |               |        |        |       |       |     |    |     |   |  |
| 2.5                                                                                                                                                                                          | 治療の原理と適応                                 |        |         |        |         |            |       |         |               |        |        |       |       |     |    |     |   |  |
| 2.6                                                                                                                                                                                          | 疾病の疫学、予防                                 |        |         |        |         |            |       |         |               |        |        |       |       |     |    |     |   |  |
| 3 安全で最適な医療の実践                                                                                                                                                                                |                                          |        |         |        |         |            |       |         |               |        |        |       |       |     |    |     |   |  |
| 佐賀大学医学部の卒業生は、卒業時に患者の安全を最優先し、根拠に基づく効果的な医療を実践することができる。                                                                                                                                         |                                          |        |         |        |         |            |       |         |               |        |        |       |       |     |    |     |   |  |
| 3.1                                                                                                                                                                                          | 医療面接、基本的身体診察を実施し臨床推論ができる                 |        |         |        |         |            |       |         |               |        |        |       |       |     |    |     |   |  |
| 3.2                                                                                                                                                                                          | 必要な検査を選択し、適切に実施／解釈できる                    |        |         |        |         |            |       |         |               |        |        |       |       |     |    |     |   |  |
| 3.3                                                                                                                                                                                          | 最適な医療情報を患者に適用し、適切に診断・治療計画を立案することができる     |        |         |        |         |            |       |         |               |        |        |       |       |     |    |     |   |  |
| 3.4                                                                                                                                                                                          | 問題志向型診療記録を作成し、正確かつ簡潔に症例提示ができる            |        |         |        |         |            |       |         |               |        |        |       |       |     |    |     |   |  |
| 3.5                                                                                                                                                                                          | 医療安全に配慮し、医療チームの一員として診療に参画できる             |        |         |        |         |            |       |         |               |        |        |       |       |     |    |     |   |  |
| 3.6                                                                                                                                                                                          | 医療制度、医療経済を理解し、最適な医療提供のために活用できる           |        |         |        |         |            |       |         |               |        |        |       |       |     |    |     |   |  |
| 4 コミュニケーションと協働                                                                                                                                                                               |                                          |        |         |        |         |            |       |         |               |        |        |       |       |     |    |     |   |  |
| 佐賀大学医学部の卒業生は、卒業時に患者の価値観を尊重し、他の医療者と円滑に協働することができる。                                                                                                                                             |                                          |        |         |        |         |            |       |         |               |        |        |       |       |     |    |     |   |  |
| 4.1                                                                                                                                                                                          | 患者の心理社会的背景を理解し、良好な患者医師関係を築くことができる        |        |         |        |         |            |       |         |               |        |        |       |       |     |    |     |   |  |
| 4.2                                                                                                                                                                                          | 医療チーム内で信頼関係を築き、目的達成のために役割を果たすことができる      |        |         |        |         |            |       |         |               |        |        |       |       |     |    |     |   |  |
| 4.3                                                                                                                                                                                          | 専門の異なる医師や他職種の医療者と円滑に連携することができる           |        |         |        |         |            |       |         |               |        |        |       |       |     |    |     |   |  |
| 4.4                                                                                                                                                                                          | 患者の意思決定を支援するために、必要な情報を提供し同意を得ることができる     |        |         |        |         |            |       |         |               |        |        |       |       |     |    |     |   |  |
| 4.5                                                                                                                                                                                          | 他者に建設的な批判ができ、他者からの評価や助言を謙虚に受け止めることができる   |        |         |        |         |            |       |         |               |        |        |       |       |     |    |     |   |  |
| 4.6                                                                                                                                                                                          | 後進のロールモデルとなるべく行動し、医療者育成に参画することができる       |        |         |        |         |            |       |         |               |        |        |       |       |     |    |     |   |  |
| 5 国際的な視野に基づく地域医療への貢献                                                                                                                                                                         |                                          |        |         |        |         |            |       |         |               |        |        |       |       |     |    |     |   |  |
| 佐賀大学医学部の卒業生は、卒業時に国際的な視野で医療の発展を理解し、地域の特性に応じた医療の維持・発展に貢献できる。                                                                                                                                   |                                          |        |         |        |         |            |       |         |               |        |        |       |       |     |    |     |   |  |
| 5.1                                                                                                                                                                                          | 個人、地域社会、国際社会における価値観や文化の多様性を理解している        |        |         |        |         |            |       |         |               |        |        |       |       |     |    |     |   |  |
| 5.2                                                                                                                                                                                          | 医療の国際化を理解し、英語での情報収集、情報発信ができる             |        |         |        |         |            |       |         |               |        |        |       |       |     |    |     |   |  |
| 5.3                                                                                                                                                                                          | 地域の保健・医療・福祉の関連諸機関の適切な連携を理解している           |        |         |        |         |            |       |         |               |        |        |       |       |     |    |     |   |  |
| 5.4                                                                                                                                                                                          | 地域の特性や多様なニーズを理解し、地域の急性期および慢性期医療に参画できる    |        |         |        |         |            |       |         |               |        |        |       |       |     |    |     |   |  |
| 6 科学的な探求心                                                                                                                                                                                    |                                          |        |         |        |         |            |       |         |               |        |        |       |       |     |    |     |   |  |
| 佐賀大学医学部の卒業生は、卒業時に医療・医学の発展に貢献すべく、科学的な探求心と方法論を身につけている。                                                                                                                                         |                                          |        |         |        |         |            |       |         |               |        |        |       |       |     |    |     |   |  |
| 6.1                                                                                                                                                                                          | 医学的研究(基礎研究、臨床研究、疫学研究)の方法論と倫理を理解し遵守できる    |        |         |        |         |            |       |         |               |        |        |       |       |     |    |     |   |  |
| 6.2                                                                                                                                                                                          | 未解決の医療・医学的問題に着目し、解決に取り組む積極的な姿勢を身につけている   |        |         |        |         |            |       |         |               |        |        |       |       |     |    |     |   |  |
| 6.3                                                                                                                                                                                          | 問題解決のために情報の質を吟味し、論理的・批判的な思考ができる          |        |         |        |         |            |       |         |               |        |        |       |       |     |    |     |   |  |

佐賀大学医学部医学科 修得課程表(ロードマップ)

|                                                            | A: 医療現場で実践できる (Does) <br>B: 基本的な技能・態度を身につけている (shows how) <br>C: 基盤となる知識・技能・態度を理解している (knows, knows how)  | 授業科目     | 専門教育科目   |          |       |     |         |         |       |     |          |          |     |      |     |      |   |   |   |   |
|------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|----------|----------|-------|-----|---------|---------|-------|-----|----------|----------|-----|------|-----|------|---|---|---|---|
|                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |          | 区分       | Phase II |       |     |         |         |       |     |          |          |     |      |     |      |   |   |   |   |
|                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |          |          | 基礎医学科目   |       |     |         |         |       |     |          |          |     |      |     |      |   |   |   |   |
|                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |          |          | 単位数      | 2     | 2   | 3       | 2       | 1     | 4   | 1        | 2        | 4   | 2    | 3   | 3    | 2 | 3 | 3 | 1 |
|                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |          |          | 履修学年     | 1     | 1   | 1       | 2       | 2     | 2   | 2        | 1        | 2   | 2    | 2   | 2    | 3 | 2 | 3 | 3 |
|                                                            | 分子細胞生物学Ⅰ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 分子細胞生物学Ⅱ | 分子細胞生物学Ⅲ | 免疫学      | 人体発生学 | 組織学 | 神経解剖学概説 | 肉眼解剖学概説 | 肉眼解剖学 | 生化学 | 動物性機能生理学 | 植物性機能生理学 | 薬理学 | 微生物学 | 病理学 | 遺伝医学 |   |   |   |   |
| 1 プロフェッショナリズム                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |          |          |          |       |     |         |         |       |     |          |          |     |      |     |      |   |   |   |   |
| 佐賀大学医学部の卒業生は、卒業時に医師の職責を理解し、患者中心の医療を推進すべく行動できる。             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |          |          |          |       |     |         |         |       |     |          |          |     |      |     |      |   |   |   |   |
| 1.1                                                        | 医師の職責を理解し、倫理的・法的な規範に則った行動をとることができる                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |          |          |          |       |     |         |         |       |     |          |          |     |      |     |      |   |   |   |   |
| 1.2                                                        | 患者や家族の価値観と権利を尊重した患者中心の医療を推進できる                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |          |          |          |       |     |         |         |       |     |          |          |     |      |     |      |   |   |   |   |
| 1.3                                                        | 患者のプライバシーを守り、利益相反の生じる可能性に配慮して職務を遂行できる                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |          |          |          |       |     |         |         |       |     |          |          |     |      |     |      |   |   |   |   |
| 1.4                                                        | 医療人への社会的期待を理解し、誠実で責任感のある態度で行動できる                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |          |          |          |       |     |         |         |       |     |          |          |     |      |     |      |   |   |   |   |
| 1.5                                                        | 自らの実践を省察し、課題の発見と改善に努める自己主導型学習の習慣を身に付けている                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |          |          |          |       |     |         |         |       |     |          |          |     |      |     |      |   |   |   |   |
| 2 医学的知識                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |          |          |          |       |     |         |         |       |     |          |          |     |      |     |      |   |   |   |   |
| 佐賀大学医学部の卒業生は、卒業時に基礎医学、臨床医学、社会医学、行動科学を統合的に学習し、問題解決に応用できる。   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |          |          |          |       |     |         |         |       |     |          |          |     |      |     |      |   |   |   |   |
| 2.1                                                        | 人間のライフサイクル                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |          |          |          |       |     |         |         |       |     |          |          |     |      |     |      |   |   |   |   |
| 2.2                                                        | 人間の心理と行動                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |          |          |          |       |     |         |         |       |     |          |          |     |      |     |      |   |   |   |   |
| 2.3                                                        | 人間の正常な構造と機能                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |          |          |          |       |     |         |         |       |     |          |          |     |      |     |      |   |   |   |   |
| 2.4                                                        | 人間の機能的・構造的異常状態と原因                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |          |          |          |       |     |         |         |       |     |          |          |     |      |     |      |   |   |   |   |
| 2.5                                                        | 治療の原理と適応                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |          |          |          |       |     |         |         |       |     |          |          |     |      |     |      |   |   |   |   |
| 2.6                                                        | 疾病の疫学、予防                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |          |          |          |       |     |         |         |       |     |          |          |     |      |     |      |   |   |   |   |
| 3 安全で最適な医療の実践                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |          |          |          |       |     |         |         |       |     |          |          |     |      |     |      |   |   |   |   |
| 佐賀大学医学部の卒業生は、卒業時に患者の安全を最優先し、根拠に基づく効果的な医療を実践することができる。       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |          |          |          |       |     |         |         |       |     |          |          |     |      |     |      |   |   |   |   |
| 3.1                                                        | 医療面接、基本的身体診察を実施し臨床推論ができる                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |          |          |          |       |     |         |         |       |     |          |          |     |      |     |      |   |   |   |   |
| 3.2                                                        | 必要な検査を選択し、適切に実施／解釈できる                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |          |          |          |       |     |         |         |       |     |          |          |     |      |     |      |   |   |   |   |
| 3.3                                                        | 最適な医療情報を患者に適用し、適切に診断・治療計画を立案することができる                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |          |          |          |       |     |         |         |       |     |          |          |     |      |     |      |   |   |   |   |
| 3.4                                                        | 問題志向型診療記録を作成し、正確かつ簡潔に症例提示ができる                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |          |          |          |       |     |         |         |       |     |          |          |     |      |     |      |   |   |   |   |
| 3.5                                                        | 医療安全に配慮し、医療チームの一員として診療に参画できる                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |          |          |          |       |     |         |         |       |     |          |          |     |      |     |      |   |   |   |   |
| 3.6                                                        | 医療制度、医療経済を理解し、最適な医療提供のために活用できる                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |          |          |          |       |     |         |         |       |     |          |          |     |      |     |      |   |   |   |   |
| 4 コミュニケーションと協働                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |          |          |          |       |     |         |         |       |     |          |          |     |      |     |      |   |   |   |   |
| 佐賀大学医学部の卒業生は、卒業時に患者の価値観を尊重し、他の医療者と円滑に協働することができる。           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |          |          |          |       |     |         |         |       |     |          |          |     |      |     |      |   |   |   |   |
| 4.1                                                        | 患者の心理社会的背景を理解し、良好な患者医師関係を築くことができる                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |          |          |          |       |     |         |         |       |     |          |          |     |      |     |      |   |   |   |   |
| 4.2                                                        | 医療チーム内で信頼関係を築き、目的達成のために役割を果たすことができる                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |          |          |          |       |     |         |         |       |     |          |          |     |      |     |      |   |   |   |   |
| 4.3                                                        | 専門の異なる医師や他職種の医療者と円滑に連携することができる                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |          |          |          |       |     |         |         |       |     |          |          |     |      |     |      |   |   |   |   |
| 4.4                                                        | 患者の意思決定を支援するために、必要な情報を提供し同意を得ることができる                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |          |          |          |       |     |         |         |       |     |          |          |     |      |     |      |   |   |   |   |
| 4.5                                                        | 他者に建設的な批判ができ、他者からの評価や助言を謙虚に受け止めることができる                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |          |          |          |       |     |         |         |       |     |          |          |     |      |     |      |   |   |   |   |
| 4.6                                                        | 後進のロールモデルとなるべく行動し、医療者育成に参画することができる                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |          |          |          |       |     |         |         |       |     |          |          |     |      |     |      |   |   |   |   |
| 5 国際的な視野に基づく地域医療への貢献                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |          |          |          |       |     |         |         |       |     |          |          |     |      |     |      |   |   |   |   |
| 佐賀大学医学部の卒業生は、卒業時に国際的な視野で医療の発展を理解し、地域の特性に応じた医療の維持・発展に貢献できる。 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |          |          |          |       |     |         |         |       |     |          |          |     |      |     |      |   |   |   |   |
| 5.1                                                        | 個人、地域社会、国際社会における価値観や文化の多様性を理解している                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |          |          |          |       |     |         |         |       |     |          |          |     |      |     |      |   |   |   |   |
| 5.2                                                        | 医療の国際化を理解し、英語での情報収集、情報発信ができる                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |          |          |          |       |     |         |         |       |     |          |          |     |      |     |      |   |   |   |   |
| 5.3                                                        | 地域の保健・医療・福祉の関連諸機関の適切な連携を理解している                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |          |          |          |       |     |         |         |       |     |          |          |     |      |     |      |   |   |   |   |
| 5.4                                                        | 地域の特性や多様なニーズを理解し、地域の急性期および慢性期医療に参画できる                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |          |          |          |       |     |         |         |       |     |          |          |     |      |     |      |   |   |   |   |
| 6 科学的な探求心                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |          |          |          |       |     |         |         |       |     |          |          |     |      |     |      |   |   |   |   |
| 佐賀大学医学部の卒業生は、卒業時に医療・医学の発展に貢献すべく、科学的な探求心と方法論を身につけている。       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |          |          |          |       |     |         |         |       |     |          |          |     |      |     |      |   |   |   |   |
| 6.1                                                        | 医学的研究(基礎研究、臨床研究、疫学研究)の方法論と倫理を理解し遵守できる                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |          |          |          |       |     |         |         |       |     |          |          |     |      |     |      |   |   |   |   |
| 6.2                                                        | 未解決の医療・医学的問題に着目し、解決に取り組む積極的な姿勢を身につけている                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |          |          |          |       |     |         |         |       |     |          |          |     |      |     |      |   |   |   |   |
| 6.3                                                        | 問題解決のために情報の質を吟味し、論理的・批判的な思考ができる                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |          |          |          |       |     |         |         |       |     |          |          |     |      |     |      |   |   |   |   |

佐賀大学医学部医学科 修得課程表(ロードマップ)

| A: 医療現場で実践できる(Does) <br>B: 基本的な技能・態度を身につけている (shows how) <br>C: 基礎となる知識・技能・態度を理解している (knows, knows how)  | 区分                                       | 専門教育科目      |     |     |     |              |           |       |        |       |       |       |             |      |      |      |             | Phase V |               |             |              |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------|-------------|-----|-----|-----|--------------|-----------|-------|--------|-------|-------|-------|-------------|------|------|------|-------------|---------|---------------|-------------|--------------|
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                          | Phase III   |     |     |     |              |           |       |        |       |       |       |             |      |      |      |             | Phase V |               |             |              |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                          | 機能・系統別PBL科目 |     |     |     |              |           |       |        |       |       |       |             |      |      |      |             | 選択コース   |               |             |              |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                          | 単位数         | 3   | 4   | 3   | 4            | 4         | 4     | 3      | 4     | 4     | 4     | 2           | 6    | 7    | 2    | 2           | 6       |               |             |              |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                          | 履修学年        | 3   | 3   | 3   | 3            | 3         | 3     | 3      | 3-4   | 4     | 4     | 4           | 4    | 4    | 3-4  | 3-4         | 6       | 選             | 選           | 選            |
| 授業科目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                          | 地域医療        | 消化器 | 呼吸器 | 循環器 | 代謝・内分泌・腎・泌尿器 | 血液・腫瘍・感染症 | 皮膚・膠原 | 運動・感覚器 | 精神・神経 | 小児・女性 | 救急・麻酔 | 社会医学・医療社会法制 | 臨床入門 | 医学英語 | 総括講義 | 基礎系・臨床系選択科目 | 科目      | 地域特入学生特別プログラム | 特定プログラム教育科目 | 学外研修・ボランティア等 |
| 1 プロフェッショナリズム                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                          |             |     |     |     |              |           |       |        |       |       |       |             |      |      |      |             |         |               |             |              |
| 佐賀大学医学部の卒業生は、卒業時に医師の職責を理解し、患者中心の医療を推進すべく行動できる。                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                          |             |     |     |     |              |           |       |        |       |       |       |             |      |      |      |             |         |               |             |              |
| 1.1                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 医師の職責を理解し、倫理的・法的な規範に則った行動をとることができる       |             |     |     |     |              |           |       |        |       |       |       |             |      |      |      |             |         |               |             |              |
| 1.2                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 患者や家族の価値観と権利を尊重した患者中心の医療を推進できる           |             |     |     |     |              |           |       |        |       |       |       |             |      |      |      |             |         |               |             |              |
| 1.3                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 患者のプライバシーを守り、利益相反の生じる可能性に配慮して職務を遂行できる    |             |     |     |     |              |           |       |        |       |       |       |             |      |      |      |             |         |               |             |              |
| 1.4                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 医療人への社会的期待を理解し、誠実で責任感のある態度で行動できる         |             |     |     |     |              |           |       |        |       |       |       |             |      |      |      |             |         |               |             |              |
| 1.5                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 自らの実践を省察し、課題の発見と改善に努める自己主導型学習の習慣を身に付けている |             |     |     |     |              |           |       |        |       |       |       |             |      |      |      |             |         |               |             |              |
| 2 医学的知識                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                          |             |     |     |     |              |           |       |        |       |       |       |             |      |      |      |             |         |               |             |              |
| 佐賀大学医学部の卒業生は、卒業時に基礎医学、臨床医学、社会医学、行動科学を統合的に学習し、問題解決に応用できる。                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                          |             |     |     |     |              |           |       |        |       |       |       |             |      |      |      |             |         |               |             |              |
| 2.1                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 人間のライフサイクル                               |             |     |     |     |              |           |       |        |       |       |       |             |      |      |      |             |         |               |             |              |
| 2.2                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 人間の心理と行動                                 |             |     |     |     |              |           |       |        |       |       |       |             |      |      |      |             |         |               |             |              |
| 2.3                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 人間の正常な構造と機能                              |             |     |     |     |              |           |       |        |       |       |       |             |      |      |      |             |         |               |             |              |
| 2.4                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 人間の機能的・構造的異常状態と原因                        |             |     |     |     |              |           |       |        |       |       |       |             |      |      |      |             |         |               |             |              |
| 2.5                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 治療の原理と適応                                 |             |     |     |     |              |           |       |        |       |       |       |             |      |      |      |             |         |               |             |              |
| 2.6                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 疾病の疫学、予防                                 |             |     |     |     |              |           |       |        |       |       |       |             |      |      |      |             |         |               |             |              |
| 3 安全で最適な医療の実践                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                          |             |     |     |     |              |           |       |        |       |       |       |             |      |      |      |             |         |               |             |              |
| 佐賀大学医学部の卒業生は、卒業時に患者の安全を最優先し、根拠に基づく効果的な医療を実践することができる。                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                          |             |     |     |     |              |           |       |        |       |       |       |             |      |      |      |             |         |               |             |              |
| 3.1                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 医療面接、基本的身体診察を実施し臨床推論ができる                 |             |     |     |     |              |           |       |        |       |       |       |             |      |      |      |             |         |               |             |              |
| 3.2                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 必要な検査を選択し、適切に実施／解釈できる                    |             |     |     |     |              |           |       |        |       |       |       |             |      |      |      |             |         |               |             |              |
| 3.3                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 最適な医療情報を患者に適用し、適切に診断・治療計画を立案することができる     |             |     |     |     |              |           |       |        |       |       |       |             |      |      |      |             |         |               |             |              |
| 3.4                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 問題志向型診療記録を作成し、正確かつ簡潔に症例提示ができる            |             |     |     |     |              |           |       |        |       |       |       |             |      |      |      |             |         |               |             |              |
| 3.5                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 医療安全に配慮し、医療チームの一員として診療に参画できる             |             |     |     |     |              |           |       |        |       |       |       |             |      |      |      |             |         |               |             |              |
| 3.6                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 医療制度、医療経済を理解し、最適な医療提供のために活用できる           |             |     |     |     |              |           |       |        |       |       |       |             |      |      |      |             |         |               |             |              |
| 4 コミュニケーションと協働                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                          |             |     |     |     |              |           |       |        |       |       |       |             |      |      |      |             |         |               |             |              |
| 佐賀大学医学部の卒業生は、卒業時に患者の価値観を尊重し、他の医療者と円滑に協働することができる。                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                          |             |     |     |     |              |           |       |        |       |       |       |             |      |      |      |             |         |               |             |              |
| 4.1                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 患者の心理社会的背景を理解し、良好な患者医師関係を築くことができる        |             |     |     |     |              |           |       |        |       |       |       |             |      |      |      |             |         |               |             |              |
| 4.2                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 医療チーム内で信頼関係を築き、目的達成のために役割を果たすことができる      |             |     |     |     |              |           |       |        |       |       |       |             |      |      |      |             |         |               |             |              |
| 4.3                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 専門の異なる医師や他職種の医療者と円滑に連携することができる           |             |     |     |     |              |           |       |        |       |       |       |             |      |      |      |             |         |               |             |              |
| 4.4                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 患者の意思決定を支援するために、必要な情報を提供し同意を得ることができる     |             |     |     |     |              |           |       |        |       |       |       |             |      |      |      |             |         |               |             |              |
| 4.5                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 他者に建設的な批判ができ、他者からの評価や助言を謙虚に受け止めることができる   |             |     |     |     |              |           |       |        |       |       |       |             |      |      |      |             |         |               |             |              |
| 4.6                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 後進のロールモデルとなるべく行動し、医療者育成に参画することができる       |             |     |     |     |              |           |       |        |       |       |       |             |      |      |      |             |         |               |             |              |
| 5 国際的な視野に基づく地域医療への貢献                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                          |             |     |     |     |              |           |       |        |       |       |       |             |      |      |      |             |         |               |             |              |
| 佐賀大学医学部の卒業生は、卒業時に国際的な視野で医療の発展を理解し、地域の特性に応じた医療の維持・発展に貢献できる。                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                          |             |     |     |     |              |           |       |        |       |       |       |             |      |      |      |             |         |               |             |              |
| 5.1                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 個人、地域社会、国際社会における価値観や文化の多様性を理解している        |             |     |     |     |              |           |       |        |       |       |       |             |      |      |      |             |         |               |             |              |
| 5.2                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 医療の国際化を理解し、英語での情報収集、情報発信ができる             |             |     |     |     |              |           |       |        |       |       |       |             |      |      |      |             |         |               |             |              |
| 5.3                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 地域の保健・医療・福祉の関連諸機関の適切な連携を理解している           |             |     |     |     |              |           |       |        |       |       |       |             |      |      |      |             |         |               |             |              |
| 5.4                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 地域の特性や多様なニーズを理解し、地域の急性期および慢性期医療に参画できる    |             |     |     |     |              |           |       |        |       |       |       |             |      |      |      |             |         |               |             |              |
| 6 科学的な探求心                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                          |             |     |     |     |              |           |       |        |       |       |       |             |      |      |      |             |         |               |             |              |
| 佐賀大学医学部の卒業生は、卒業時に医療・医学の発展に貢献すべく、科学的な探求心と方法論を身につけている。                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                          |             |     |     |     |              |           |       |        |       |       |       |             |      |      |      |             |         |               |             |              |
| 6.1                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 医学的研究(基礎研究、臨床研究、疫学研究)の方法論と倫理を理解し遵守できる    |             |     |     |     |              |           |       |        |       |       |       |             |      |      |      |             |         |               |             |              |
| 6.2                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 未解決の医療・医学的問題に着目し、解決に取り組む積極的な姿勢を身につけている   |             |     |     |     |              |           |       |        |       |       |       |             |      |      |      |             |         |               |             |              |
| 6.3                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 問題解決のために情報の質を吟味し、論理的・批判的な思考ができる          |             |     |     |     |              |           |       |        |       |       |       |             |      |      |      |             |         |               |             |              |

佐賀大学医学部医学科 修得課程表(ロードマップ)

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 臨床実習(PhaseⅣ) |        |        |              |        |       |    |     |     |    |      |   |   |     |       |    |    |        |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|--------|--------|--------------|--------|-------|----|-----|-----|----|------|---|---|-----|-------|----|----|--------|
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 内科           |        | 外科     |              |        |       |    | 皮膚  | 精神  | 小児 | 産・婦人 | 眼 | 耳 | 放射線 | 麻酔・蘇生 | 救急 | 総合 | 病理部    |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 神経／膠原病       | 血液／呼吸器 | 循環器／腎臓 | 消化器／肝臓・糖・内分泌 | 一般・消化器 | 胸部・心臓 | 整形 | 脳神経 | 泌尿器 | 形成 |      |   |   |     |       |    |    | 検査部    |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |              |        |        |              |        |       |    |     |     |    |      |   |   |     |       |    |    | リハビリ   |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |              |        |        |              |        |       |    |     |     |    |      |   |   |     |       |    |    | 地域医療   |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |              |        |        |              |        |       |    |     |     |    |      |   |   |     |       |    |    | 関連教育病院 |
| A: 医療現場で実践できる(Does) <br>B: 基本的な技能・態度を身につけている(shows how) <br>C: 基礎となる知識・技能・態度を理解している(knows, knows how)  |              |        |        |              |        |       |    |     |     |    |      |   |   |     |       |    |    |        |
| <b>1 プロフェッショナリズム</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |              |        |        |              |        |       |    |     |     |    |      |   |   |     |       |    |    |        |
| 佐賀大学医学部の卒業生は、卒業時に医師の職責を理解し、患者中心の医療を推進すべく行動できる。                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |              |        |        |              |        |       |    |     |     |    |      |   |   |     |       |    |    |        |
| 1.1 医師の職責を理解し、倫理的・法的な規範に則った行動をとることができる                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |              |        |        |              |        |       |    |     |     |    |      |   |   |     |       |    |    |        |
| 1.2 患者や家族の価値観と権利を尊重した患者中心の医療を推進できる                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |              |        |        |              |        |       |    |     |     |    |      |   |   |     |       |    |    |        |
| 1.3 患者のプライバシーを守り、利益相反の生じる可能性に配慮して職務を遂行できる                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |              |        |        |              |        |       |    |     |     |    |      |   |   |     |       |    |    |        |
| 1.4 医療人への社会的期待を理解し、誠実で責任感のある態度で行動できる                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |              |        |        |              |        |       |    |     |     |    |      |   |   |     |       |    |    |        |
| 1.5 自らの実践を省察し、課題の発見と改善に努める自己主導型学習の習慣を身に付けている                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |              |        |        |              |        |       |    |     |     |    |      |   |   |     |       |    |    |        |
| <b>2 医学的知識</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |              |        |        |              |        |       |    |     |     |    |      |   |   |     |       |    |    |        |
| 佐賀大学医学部の卒業生は、卒業時に基礎医学、臨床医学、社会医学、行動科学を統合的に学習し、問題解決に適用できる。                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |              |        |        |              |        |       |    |     |     |    |      |   |   |     |       |    |    |        |
| 2.1 人間のライフサイクル                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |              |        |        |              |        |       |    |     |     |    |      |   |   |     |       |    |    |        |
| 2.2 人間の心理と行動                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |              |        |        |              |        |       |    |     |     |    |      |   |   |     |       |    |    |        |
| 2.3 人間の正常な構造と機能                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |              |        |        |              |        |       |    |     |     |    |      |   |   |     |       |    |    |        |
| 2.4 人間の機能的・構造的異常状態と原因                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |              |        |        |              |        |       |    |     |     |    |      |   |   |     |       |    |    |        |
| 2.5 治療の原理と適応                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |              |        |        |              |        |       |    |     |     |    |      |   |   |     |       |    |    |        |
| 2.6 疾病の疫学、予防                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |              |        |        |              |        |       |    |     |     |    |      |   |   |     |       |    |    |        |
| <b>3 安全で最適な医療の実践</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |              |        |        |              |        |       |    |     |     |    |      |   |   |     |       |    |    |        |
| 佐賀大学医学部の卒業生は、卒業時に患者の安全を最優先し、根拠に基づく効果的な医療を実践することができる。                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |              |        |        |              |        |       |    |     |     |    |      |   |   |     |       |    |    |        |
| 3.1 医療面接、基本的身体診察を実施し臨床推論ができる                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |              |        |        |              |        |       |    |     |     |    |      |   |   |     |       |    |    |        |
| 3.2 必要な検査を選択し、適切に実施／解釈できる                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |              |        |        |              |        |       |    |     |     |    |      |   |   |     |       |    |    |        |
| 3.3 最適な医療情報を患者に適用し、適切に診断・治療計画を立案することができる                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |              |        |        |              |        |       |    |     |     |    |      |   |   |     |       |    |    |        |
| 3.4 問題志向型診療記録を作成し、正確かつ簡潔に症例提示ができる                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |              |        |        |              |        |       |    |     |     |    |      |   |   |     |       |    |    |        |
| 3.5 医療安全に配慮し、医療チームの一員として診療に参画できる                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |              |        |        |              |        |       |    |     |     |    |      |   |   |     |       |    |    |        |
| 3.6 医療制度、医療経済を理解し、最適な医療提供のために活用できる                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |              |        |        |              |        |       |    |     |     |    |      |   |   |     |       |    |    |        |
| <b>4 コミュニケーションと協働</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |              |        |        |              |        |       |    |     |     |    |      |   |   |     |       |    |    |        |
| 佐賀大学医学部の卒業生は、卒業時に患者の価値観を尊重し、他の医療者と円滑に協働することができる。                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |              |        |        |              |        |       |    |     |     |    |      |   |   |     |       |    |    |        |
| 4.1 患者の心理社会的背景を理解し、良好な患者医師関係を築くことができる                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |              |        |        |              |        |       |    |     |     |    |      |   |   |     |       |    |    |        |
| 4.2 医療チーム内で信頼関係を築き、目的達成のために役割を果たすことができる                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |              |        |        |              |        |       |    |     |     |    |      |   |   |     |       |    |    |        |
| 4.3 専門の異なる医師や他職種の医療者と円滑に連携することができる                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |              |        |        |              |        |       |    |     |     |    |      |   |   |     |       |    |    |        |
| 4.4 患者の意思決定を支援するために、必要な情報を提供し同意を得ることができる                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |              |        |        |              |        |       |    |     |     |    |      |   |   |     |       |    |    |        |
| 4.5 他者に建設的な批判ができ、他者からの評価や助言を謙虚に受け止めることができる                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |              |        |        |              |        |       |    |     |     |    |      |   |   |     |       |    |    |        |
| 4.6 後進のロールモデルとなるべく行動し、医療者育成に参画することができる                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |              |        |        |              |        |       |    |     |     |    |      |   |   |     |       |    |    |        |
| <b>5 国際的な視野に基づく地域医療への貢献</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |              |        |        |              |        |       |    |     |     |    |      |   |   |     |       |    |    |        |
| 佐賀大学医学部の卒業生は、卒業時に国際的な視野で医療の発展を理解し、地域の特性に応じた医療の維持・発展に貢献できる。                                                                                                                                                                                                                                                                                                |              |        |        |              |        |       |    |     |     |    |      |   |   |     |       |    |    |        |
| 5.1 個人、地域社会、国際社会における価値観や文化の多様性を理解している                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |              |        |        |              |        |       |    |     |     |    |      |   |   |     |       |    |    |        |
| 5.2 医療の国際化を理解し、英語での情報収集、情報発信ができる                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |              |        |        |              |        |       |    |     |     |    |      |   |   |     |       |    |    |        |
| 5.3 地域の保健・医療・福祉の関連諸機関の適切な連携を理解している                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |              |        |        |              |        |       |    |     |     |    |      |   |   |     |       |    |    |        |
| 5.4 地域の特性や多様なニーズを理解し、地域の急性期および慢性期医療に参画できる                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |              |        |        |              |        |       |    |     |     |    |      |   |   |     |       |    |    |        |
| <b>6 科学的な探求心</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |              |        |        |              |        |       |    |     |     |    |      |   |   |     |       |    |    |        |
| 佐賀大学医学部の卒業生は、卒業時に医療・医学の発展に貢献すべく、科学的な探求心と方法論を身につけている。                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |              |        |        |              |        |       |    |     |     |    |      |   |   |     |       |    |    |        |
| 6.1 医学的研究(基礎研究、臨床研究、疫学研究)の方法論と倫理を理解し遵守できる                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |              |        |        |              |        |       |    |     |     |    |      |   |   |     |       |    |    |        |
| 6.2 未解決の医療・医学的問題に着目し、解決に取り組む積極的な姿勢を身につけている                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |              |        |        |              |        |       |    |     |     |    |      |   |   |     |       |    |    |        |
| 6.3 問題解決のために情報の質を吟味し、論理的・批判的な思考ができる                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |              |        |        |              |        |       |    |     |     |    |      |   |   |     |       |    |    |        |

医学部医学科カリキュラム模式図（令和2年度以降入学生）

| 1年次                        |    | 2年次                         |    | 3年次              |    | 4年次                          |    | 5年次                |    | 6年次                         |    |
|----------------------------|----|-----------------------------|----|------------------|----|------------------------------|----|--------------------|----|-----------------------------|----|
| 前期                         | 後期 | 前期                          | 後期 | 前期               | 後期 | 前期                           | 後期 | 前期                 | 後期 | 前期                          | 後期 |
| 大学入門科目Ⅰ<br>(医療入門Ⅰ) 2-(1,3) |    | 医療入門Ⅱ                       |    | 薬理学              |    | Unit 3<br>(呼吸器)              |    | Unit 7<br>(皮膚・膠原)  |    | Unit11<br>(救急・麻酔)           |    |
| 基本教養科目<br>インターフェース科目       |    | 1-(1,2)<br>2-(1,3), 3-(1,2) |    | 病理学              |    | Unit 4<br>(循環器)              |    | Unit 8<br>(運動・感覚器) |    | Unit12<br>(社会医学・<br>医療社会法制) |    |
| 外国語科目 1-(2)                |    | 組織学                         |    | 遺伝医学             |    | Unit 5<br>(代謝・内分泌・<br>腎・泌尿器) |    | Unit 9<br>(精神・神経)  |    | ◆共用試験<br>(CBT, OSCE)        |    |
| 情報リテラシー<br>科目1-(2)         |    | 生化学                         |    | Unit 1<br>(地域医療) |    | Unit 6<br>(血液・腫瘍・<br>感染症)    |    | Unit10<br>(小児・女性)  |    | ◆臨床実習後<br>OSCE              |    |
| 生命倫理学                      |    | 動物性<br>機能生理学                |    | 免疫学<br>人体発生学     |    | Unit 2<br>(消化器)              |    |                    |    | 臨床実習                        |    |
| 行動科学原論                     |    | 植物性<br>機能生理学                |    | 微生物学             |    |                              |    |                    |    |                             |    |
| 物理学                        |    | 肉眼解剖学<br>概説                 |    | 神経解剖学<br>概説      |    |                              |    | Unit13 (臨床入門)      |    |                             |    |
| 生物学                        |    | 分子細胞<br>生物学<br>Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ        |    | 肉眼解剖学            |    |                              |    | 医学英語               |    | 基礎系・<br>臨床系<br>選択科目         |    |
| 化学                         |    |                             |    |                  |    |                              |    |                    |    | 基礎系・<br>臨床系<br>選択科目         |    |
| 特定プログラム教育科目                |    |                             |    |                  |    |                              |    |                    |    |                             |    |
| 基礎系・臨床系選択科目                |    |                             |    |                  |    |                              |    |                    |    |                             |    |
| 地域枠入学生特別プログラム              |    |                             |    |                  |    |                              |    |                    |    |                             |    |
| 24単位                       |    | 17単位                        |    | 10単位             |    | 13単位                         |    | 15単位               |    | 8単位                         |    |
| 4単位                        |    | 6単位                         |    | 9単位              |    | 15単位                         |    | 15単位               |    | 39単位                        |    |
|                            |    |                             |    |                  |    |                              |    |                    |    | 5単位                         |    |
|                            |    |                             |    |                  |    |                              |    |                    |    | 2単位                         |    |

※上記単位数は標準修得単位数（選択コース6単位除く），教養教育科目及び各Phaseに付した番号は，学位授与の方針

Phase I  
1-(2)

Phase II -A  
1-(3)

Phase II -B  
1-(3)

Phase III  
1-(2,3)  
2-(1~3)  
3-(1)

Phase IV  
2-(2,3)  
3-(1,2)

Phase V  
2-(2)

# 授 業 科 目 開 設 表 (令和2年度以降入学生)

医学科

教養教育科目

| 区 分             |            | 授 業 科 目        | 単<br>位<br>数 | 修<br>得<br>区<br>分 | 履 修 年 次 |    |      |    |      |    |      |    |      |    |      |    | 備 考          |
|-----------------|------------|----------------|-------------|------------------|---------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|--------------|
|                 |            |                |             |                  | 1 年次    |    | 2 年次 |    | 3 年次 |    | 4 年次 |    | 5 年次 |    | 6 年次 |    |              |
|                 |            |                |             |                  | 前期      | 後期 | 前期   | 後期 | 前期   | 後期 | 前期   | 後期 | 前期   | 後期 | 前期   | 後期 |              |
| 大 学 入 門 科 目     |            | 大学入門科目Ⅰ（医療入門Ⅰ） | 4           | 必                | 4       |    |      |    |      |    |      |    |      |    |      |    |              |
|                 |            | 小 計            | 4           |                  | 4       |    |      |    |      |    |      |    |      |    |      |    |              |
| 共通基礎科目          | 外国語科目      | 英語             | 4           | 必                | 4       |    |      |    |      |    |      |    |      |    |      |    |              |
|                 |            | 小 計            | 4           |                  | 4       |    |      |    |      |    |      |    |      |    |      |    |              |
|                 | 情報リテラシー科目  | 情報基礎概論         | 2           | 必                | 2       |    |      |    |      |    |      |    |      |    |      |    |              |
|                 |            | 情報基礎演習Ⅰ        | 1           | 必                | 1       |    |      |    |      |    |      |    |      |    |      |    |              |
|                 |            | 小 計            | 3           |                  | 3       |    |      |    |      |    |      |    |      |    |      |    |              |
| 基本教養科目          | 自然科学と技術の分野 |                | 14          | 選必               | 14      |    |      |    |      |    |      |    |      |    |      |    | 各分野から2単位以上修得 |
|                 | 文化の分野      |                |             |                  |         |    |      |    |      |    |      |    |      |    |      |    |              |
|                 | 現代社会の分野    |                |             |                  |         |    |      |    |      |    |      |    |      |    |      |    |              |
|                 | 小 計        |                | 14          |                  | 14      |    |      |    |      |    |      |    |      |    |      |    |              |
| インターフェース科目      |            |                | 8           | 選必               | 8       |    |      |    |      |    |      |    |      |    |      |    |              |
| 教 養 教 育 科 目 合 計 |            |                | 33          |                  |         |    |      |    |      |    |      |    |      |    |      |    |              |

専門教育科目

| 区 分                        | 授 業 科 目  | 単<br>位<br>数 | 修<br>得<br>区<br>分 | 履 修 年 次 |    |      |    |      |    |      |    |      |    |      |    | 備考 |
|----------------------------|----------|-------------|------------------|---------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|----|
|                            |          |             |                  | 1 年次    |    | 2 年次 |    | 3 年次 |    | 4 年次 |    | 5 年次 |    | 6 年次 |    |    |
|                            |          |             |                  | 前期      | 後期 | 前期   | 後期 | 前期   | 後期 | 前期   | 後期 | 前期   | 後期 | 前期   | 後期 |    |
| 専<br>門<br>基<br>礎<br>科<br>目 | 生命倫理学    | 2           | 必                | 2       |    |      |    |      |    |      |    |      |    |      |    |    |
|                            | 行動科学原論   | 2           | 必                | 2       |    |      |    |      |    |      |    |      |    |      |    |    |
|                            | 医療入門Ⅱ    | 2           | 必                |         |    | 2    |    |      |    |      |    |      |    |      |    |    |
|                            | 医療統計学    | 1           | 必                |         | 1  |      |    |      |    |      |    |      |    |      |    |    |
|                            | 物理学      | 2           | 必                | 2       |    |      |    |      |    |      |    |      |    |      |    |    |
|                            | 化学       | 3           | 必                | 3       |    |      |    |      |    |      |    |      |    |      |    |    |
|                            | 生物学      | 3           | 必                | 3       |    |      |    |      |    |      |    |      |    |      |    |    |
|                            | 小 計      | 15          |                  |         | 13 |      | 2  |      |    |      |    |      |    |      |    |    |
| 基<br>礎<br>医<br>学<br>科<br>目 | 分子細胞生物学Ⅰ | 2           | 必                |         | 2  |      |    |      |    |      |    |      |    |      |    |    |
|                            | 分子細胞生物学Ⅱ | 2           | 必                |         | 2  |      |    |      |    |      |    |      |    |      |    |    |
|                            | 分子細胞生物学Ⅲ | 3           | 必                |         | 3  |      |    |      |    |      |    |      |    |      |    |    |
|                            | 免疫学      | 2           | 必                |         |    |      | 2  |      |    |      |    |      |    |      |    |    |
|                            | 人体発生学    | 1           | 必                |         |    |      | 1  |      |    |      |    |      |    |      |    |    |
|                            | 組織学      | 4           | 必                |         |    | 4    |    |      |    |      |    |      |    |      |    |    |
|                            | 神経解剖学概説  | 1           | 必                |         |    | 1    |    |      |    |      |    |      |    |      |    |    |
|                            | 肉眼解剖学概説  | 2           | 必                |         | 2  |      |    |      |    |      |    |      |    |      |    |    |
|                            | 肉眼解剖学    | 4           | 必                |         |    | 4    |    |      |    |      |    |      |    |      |    |    |
|                            | 生化学      | 2           | 必                |         |    | 2    |    |      |    |      |    |      |    |      |    |    |
|                            | 動物性機能生理学 | 3           | 必                |         |    | 3    |    |      |    |      |    |      |    |      |    |    |
|                            | 植物性機能生理学 | 3           | 必                |         |    | 3    |    |      |    |      |    |      |    |      |    |    |
|                            | 薬理学      | 2           | 必                |         |    |      |    | 2    |    |      |    |      |    |      |    |    |
|                            | 微生物学     | 3           | 必                |         |    |      | 3  |      |    |      |    |      |    |      |    |    |
|                            | 病理学      | 3           | 必                |         |    |      |    | 3    |    |      |    |      |    |      |    |    |
|                            | 遺伝医学     | 1           | 必                |         |    |      |    | 1    |    |      |    |      |    |      |    |    |
|                            | 小 計      | 38          |                  |         | 9  |      | 23 |      | 6  |      |    |      |    |      |    |    |

| 区 分             | 授 業 科 目         | 単<br>位<br>数 | 修<br>得<br>区<br>分 | 履 修 年 次 |    |      |    |      |    |      |    |      |    |      |    | 備 考                   |
|-----------------|-----------------|-------------|------------------|---------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|-----------------------|
|                 |                 |             |                  | 1 年次    |    | 2 年次 |    | 3 年次 |    | 4 年次 |    | 5 年次 |    | 6 年次 |    |                       |
|                 |                 |             |                  | 前期      | 後期 | 前期   | 後期 | 前期   | 後期 | 前期   | 後期 | 前期   | 後期 | 前期   | 後期 |                       |
| 機能・系統別 PBL 科目   | 地域医療            | 3           | 必                |         |    |      |    | 3    |    |      |    |      |    |      |    | PBL 教育（医学英語及び総括講義を除く） |
|                 | 消化器             | 4           | 必                |         |    |      |    | 4    |    |      |    |      |    |      |    |                       |
|                 | 呼吸器             | 3           | 必                |         |    |      |    | 3    |    |      |    |      |    |      |    |                       |
|                 | 循環器             | 4           | 必                |         |    |      |    | 4    |    |      |    |      |    |      |    |                       |
|                 | 代謝・内分泌・腎・泌尿器    | 4           | 必                |         |    |      |    |      | 4  |      |    |      |    |      |    |                       |
|                 | 血液・腫瘍・感染症       | 4           | 必                |         |    |      |    |      | 4  |      |    |      |    |      |    |                       |
|                 | 皮膚・膠原           | 3           | 必                |         |    |      |    |      | 3  |      |    |      |    |      |    |                       |
|                 | 運動・感覚器          | 4           | 必                |         |    |      |    |      |    | 4    |    |      |    |      |    |                       |
|                 | 精神・神経           | 4           | 必                |         |    |      |    |      |    | 4    |    |      |    |      |    |                       |
|                 | 小児・女性           | 4           | 必                |         |    |      |    |      |    | 4    |    |      |    |      |    |                       |
|                 | 救急・麻酔           | 2           | 必                |         |    |      |    |      |    |      | 2  |      |    |      |    |                       |
|                 | 社会医学・医療社会法制     | 6           | 必                |         |    |      |    |      |    |      | 6  |      |    |      |    |                       |
|                 | 臨床入門            | 7           | 必                |         |    |      |    |      |    | 7    |    |      |    |      |    |                       |
|                 | 医学英語            | 2           | 必                |         |    |      |    |      |    | 2    |    |      |    |      |    |                       |
|                 | 総括講義            | 2           | 必                |         |    |      |    |      |    |      |    |      |    |      | 2  |                       |
|                 | 小 計             | 56          |                  |         |    |      |    |      |    | 54   |    |      |    |      | 2  |                       |
|                 | 臨床実習            | 臨床実習        | 39               | 必       |    |      |    |      |    |      |    |      | 39 |      |    |                       |
| 地域医療実習          |                 | 2           | 必                |         |    |      |    |      |    |      |    |      |    | 2    |    |                       |
| 関連教育病院実習        |                 | 3           | 必                |         |    |      |    |      |    |      |    |      |    | 3    |    |                       |
| 小 計             |                 | 44          |                  |         |    |      |    |      |    |      |    | 44   |    |      |    |                       |
| 選択コース           | 基礎系・臨床系選択科目     | 6           | 選                |         |    |      |    |      |    |      |    |      |    |      |    |                       |
|                 | 地域枠入学生特別プログラム科目 |             | 選                |         |    |      |    |      |    |      |    |      |    |      |    |                       |
|                 | 特定プログラム教育科目     |             | 選                |         |    |      |    |      |    |      |    |      |    |      |    |                       |
|                 | 学外研修・ボランティア等    |             | 選                |         |    |      |    |      |    |      |    |      |    |      |    |                       |
|                 | 小 計             | 6           |                  |         |    |      |    |      |    |      |    |      |    |      |    |                       |
| 専 門 教 育 科 目 合 計 |                 | 159         |                  |         |    |      |    |      |    |      |    |      |    |      |    |                       |

## 令和 5 ～ 6 年度 医学科フェイズチェアパーソン 及びコ・チェアパーソン一覧表

| フェイズ  | 職 名       | 氏 名     |
|-------|-----------|---------|
| フェイズⅠ | チェアパーソン   | 川 口 淳   |
|       | コ・チェアパーソン | 坂 本 麻衣子 |
| フェイズⅡ | チェアパーソン   | 吉 田 裕 樹 |
|       | コ・チェアパーソン | 宮 本 比呂志 |
| フェイズⅢ | チェアパーソン   | 小 田 康 友 |
|       | コ・チェアパーソン | 横 山 正 俊 |
| フェイズⅣ | チェアパーソン   | 多 胡 雅 毅 |
|       | コ・チェアパーソン | 小 網 博 之 |
| フェイズⅤ | チェアパーソン   | 阿 部 竜 也 |
|       | コ・チェアパーソン | 福 森 則 男 |

### 3 教育・評価に関する規定等



# 進級・卒業認定方法の周知について

(医学科)

## 進級について

### 【進級要件】

医学科においては、1年次から2年次、2年次から3年次、4年次から5年次への進級要件がそれぞれ定められています。

[本冊子「佐賀大学学部医学科の授業科目等の履修に係る資格要件に関する内規」参照]

在学年限は10年と定められています。ただし、1年次及び2年次の在学年限は、同一年次において2年を超えることはできません。

[学生便覧「佐賀大学学則」参照]

### 【進級判定】

進級判定は、3月の教授会において行います。その結果については、3月下旬に掲示にて通知します。

## 卒業について

### 【卒業要件】

医学科を卒業するためには、6年以上在学（休学期間は含めない。）し、所定の単位を修得しなければなりません。

[本冊子「授業科目開設表」参照]

### 【卒業判定】

卒業判定は、1月の教授会において行います。その結果については、1月中旬に掲示にて通知します。

# 成績評価の異議申立てについて

佐賀大学学生の成績評価の異議申立ての手続きに関する要項

(平成19年1月30日制定)

(趣旨)

第1 この要項は、佐賀大学成績判定等に関する規程（平成16年4月1日制定）第2条第2項により行われる佐賀大学（以下「本学」という。）の学生の成績評価について、本学の学生（学生であったものを含む。以下同じ。）が自身の成績評価に対して異議を申し立てる場合の手続き等に関し必要な事項を定めるものとする。

(異議の申立て)

第2 学生が、自身の成績評価に対して異議がある場合は、成績通知後1月以内（やむを得ない事情がある場合には、2月以内）に、授業科目を開講する当該学部等（以下「当該学部等」という。）の学部長等（教養教育科目にあっては、全学教育機構長、大学院の授業科目にあっては研究科長とする。以下同じ。）に異議を申し立てることができる。

2 前項の申立ては、学務部教育企画課、教務課又は医学部学生課の担当窓口において、所定の様式により行うものとする。

(異議申立てへの対応等)

第3 学部長等は、第2の手続きにより学生から異議申立てがあった場合には、当該学部等の教育に関する委員会（以下「委員会」という。）に異議申立ての内容等の調査・検討を行わせるものとする。

2 前項の委員会による調査・検討は、当該授業科目の試験問題、答案、課題、学生が提出したレポートその他授業及び成績評価に用いた資料（以下「成績評価資料等」という。）並びに当該授業科目を担当した教員に対するヒアリングにより行うものとし、委員会は、その調査結果を学部長等に報告しなければならない。

3 第1項の委員会による調査・検討は、異議申立てがあった日から起算して、原則、1月以内に終えるものとする。

4 本学において授業を担当する教員は、教育活動の正当性を証明するとともに、前項の調査・検討の可能性を確保するため、当該授業科目の成績評価資料等を1年間保存・管理しなければならない。

第4 学部長等は、第3の委員会による調査・検討結果の結果報告に基づき、教授会（教養教育科目にあっては、全学教育機構運営委員会、大学院の授業科目にあっては、研究科委員会）の議を経て、異議の認否及び成績評価の取扱いを決定し、速やかに当該学生及び授業担当教員に通知するものとする。

(再度の異議の申立て)

第5 学生は第4の決定に対して、再度、異議を申し立てることはできない。

(雑則)

第6 この要項に定めるもののほか、必要な事項は、当該学部等において別に定める。

附 則

この要項は、平成19年2月1日から実施する。

附 則

この要項は、平成22年4月1日から実施する。

附 則

この要項は、平成25年4月1日から実施する。

附 則（平成26年2月1日改正）

この要項は、平成26年4月1日から実施する。

附 則（平成27年12月21日改正）

この要項は、平成27年12月21日から実施する。

附 則（平成29年9月26日改正）

この要項は、平成29年9月26日から実施し、平成28年4月1日から適用する。

附 則（平成31年2月14日改正）

この要項は、平成31年2月14日から実施し、平成30年4月1日から適用する。

附 則（令和4年3月30日改正）

この要項は、令和4年4月1日から実施する。

# 佐賀大学医学部試験の実施に関する内規

(令和3年12月15日 制定)

(趣旨)

第1条 佐賀大学医学部履修細則第5条における各授業科目の試験の実施については、この内規の定めるところによる。

(試験の実施時期)

第2条 試験を実施する場合は、試験実施の告示を原則として実施日の2週間前に掲示するものとする。

(試験の種別)

第3条 各授業科目において実施する試験の種別は、本試験、追試験及び再試験とする。

2 試験は、各授業科目の担当教員（教科主任を含む。）が実施するものとする。

(本試験)

第4条 本試験を受験できる者は、当該各授業科目の担当教員から受験資格を認められた者とする。ただし、複数の教員が担当する授業科目の場合は、当該授業科目の教科主任がその認定を行うものとする。

2 前項の規定により、本試験の受験資格を認められなかった者は、再履修をしなければならない。

3 前項の規定により、再履修を課せられた者は、再履修届を提出しなければならない。

(追試験)

第5条 追試験は、本試験の受験資格を有し、かつ、傷病その他やむを得ない理由により本試験を欠席した者で、当該授業科目の担当教員（教科主任を含む。）が認めた者に限り、受験することができるものとする。

2 前項の理由に該当し、本試験を欠席する者は、あらかじめ試験欠席届及び医師の診断書又は理由書（その理由を記載し、説明できるもの）を提出しなければならない。ただし、やむを得ない事情により、事前に提出できなかった者は、遅延理由書を添付して、可及的速やかに手続を行わなければならない。

3 追試験は、当該年度において実施される当該授業科目の再試験の際に行うものとする。

(再試験)

第6条 再試験は、本試験又は追試験の不合格者のうち、あらかじめ再試験受験願を提出した者で、当該授業科目の担当教員（教科主任を含む。）が認めた者に限り、受験することができるものとする。ただし、本試験（追試験該当者を除く。）を無断で欠席した者は、当該学期において実施される当該授業科目の再試験は受験することができない。

2 再試験は、当該授業科目の開講期内に原則として1回のみ行うものとする。

3 再試験における合格の評価は、「可」とする。ただし、次年度以降に当該授業科目を受講した場合において、その授業科目の担当教員（教科主任を含む。）が教育上の見地から必要と判断したときに限り、「可」より上位の評価を与えることができる。

(追試験又は再試験の不合格者の取扱)

第7条 当該学期内に実施される追試験又は再試験を受験し、不合格となった者は、次年度以降に実施される試験を、再試験として受験させることができる。

2 前項の規定により、再試験を受験する者は、試験科目ごとに再試験受験願を提出しなければならない。

(不正行為の取扱)

第8条 各授業科目の試験において、不正行為があった場合は、次により措置する。

(1) 試験において、不正行為と認められる行為があったときは、当該学生がその年度において受講する全ての授

業科目の履修（受講）及び試験を無効とし、原級に留めおく。ただし、前年度以前に履修（受講）した授業科目については、試験のみを無効とすることがある。

(2) 不正行為の内容によっては、佐賀大学学則第39条の規定により処分することがある。

(3) 本項の適用に疑義があるときは、教育委員会において審議する。

#### 附 則

この内規は、令和3年12月15日から施行する。

# 佐賀大学医学部医学科の授業科目等の履修に係る 資格要件に関する内規

(令和3年12月15日 制定)

(趣旨)

第1条 佐賀大学医学部履修細則第6条における授業科目等の履修に係る資格要件については、この内規の定めるところによる。

(医学科の2年次に開講される授業科目を履修するための資格要件)

第2条 2年次に開講される授業科目を履修することができるのは、1年次の学年末までに開講される科目のうち、大学入門科目、共通基礎科目の全て及び専門教育科目の必修科目を修得した者とする。

2 前項により資格を認められなかった者は、原級に留まり、原則として未修得の科目を再履修しなければならない。

(医学科の3・4年次に開講される授業科目を履修するための資格要件)

第3条 3年次及び4年次に開講される授業科目を履修することができるのは、2年次の学年末までに開講される科目のうち、教養教育科目の全て及び専門教育科目の必修科目を修得している者とする。

2 前項により資格を認められなかった者は、原級に留まり、原則として未修得の科目を再履修しなければならない。

(医学科の臨床実習を行うための資格要件)

第4条 5年次以降に実施される臨床実習を行うことができる者は、次の各号のいずれかに該当し、かつ、健康診断の結果、実習に支障がないと認められた者とする。

(1) 4年次の学年末までに開講される授業科目のうち、教養教育科目の全て及び専門教育科目の必修科目を修得し、かつ、共用試験のCBT及びOSCEに合格した者

(2) 前号のほか、教授会において、特にその資格を認められた者

2 前項各号のいずれかに該当し、その資格を認められた者には、「Student Doctor (略称：S.D.)」の呼称を与え、臨床実習適格認定書を授与する。

3 第1項により資格を認められなかった者は、原級に留まり、原則として未修得の科目を再履修しなければならない。

(医学科の6年次に開講される総括講義を受験するための資格要件)

第5条 臨床実習に合格した者のみが総括講義を受講することができる。

(医学科の6年次に実施される臨床実習後OSCE等の取扱)

第6条 医学科を卒業するためには、佐賀大学医学部規則第13条の要件に加えて、臨床実習後OSCE及び総括講義に合格することを必要とする。

2 前項本文の規定にかかわらず、令和4年度以前に入学した者については、医学科を卒業するためには、佐賀大学医学部規則第13条の要件に加えて、臨床実習後OSCEに合格することを必要とする。

附 則

この内規は、令和3年12月15日から施行する。

附 則 (令和5年3月15日改正)

この内規は、令和5年4月1日から施行する。

## 佐賀大学医学部規則について

佐賀大学医学部規則は、医学部ホームページの学部内関連情報内「医学部規則・関連法規」に掲載されています。

# 佐賀大学学生の懲戒等実施細則

(平成23年2月9日 制定)

(趣旨)

第1条 この細則は、佐賀大学学生の懲戒に関する規程（平成16年4月1日制定）第17条の規定に基づく懲戒の適正な実施及び厳重注意について必要な事項を定めるものとする。

(懲戒の標準例)

第2条 懲戒の標準例については、別表左欄に掲げる懲戒対象行為の区分及び同表中欄に掲げる行為の内容に応じて、同表右欄に掲げる懲戒の種類のとおりとする。

(懲戒の具体的な種類の決定)

第3条 前条に定める懲戒の具体的な種類の決定に当たっては、その原因となった行為の動機及び態様並びに社会に与えた影響等を、総合的に検討し、教育的観点を踏まえ判断するものとする。

(厳重注意)

第4条 学生が、懲戒対象行為以外の行為で学生としてあるまじき行為をした場合において、当該行為を行った学生の所属する学部又は研究科（以下「各学部等」という。）の長は、各学部等の教授会の議を経て、厳重注意を行うことができる。

2 厳重注意は、口頭又は文書により行うものとする。

(教育的措置)

第5条 各学部等の長は、停学又は出席停止中の学生に対して、更生のため教育的措置を講ずることができるものとする。

附 則

この細則は、平成23年2月9日から施行する。

附 則（平成28年3月25日改正）

この細則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則（令和6年3月1日改正）

この細則は、令和6年3月1日から施行する。

別表（第2条関係）

懲戒の標準例

| 区分                                                                 | 行 為 の 内 容                                                                                              | 懲戒の種類     |
|--------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|
| 犯 罪<br>行 為                                                         | ・殺人、強盗、不同意性交、放火、誘拐、障害等の凶悪な犯罪行為又はこれらの犯罪行為の未遂行為を行った場合                                                    | 退学        |
|                                                                    | ・窃盗、詐欺、恐喝、脅迫、強要、過失致死、過失傷害等の凶悪な犯罪行為を行った場合                                                               | 退学又は停学    |
|                                                                    | ・賭博、住居侵入、万引き、他人を傷害するに至らない暴力行為等の犯罪行為であって、刑法（明治40年法律第45号）等に抵触する場合                                        | 停学又は訓告    |
|                                                                    | ・性的な迷惑行為（痴漢、のぞき見、盗撮行為等）、わいせつ行為（公然わいせつ、わいせつ物頒布等）及び性暴力行為（不同意わいせつ等）の犯罪行為であって、刑法、軽犯罪法（昭和23年法律第39号）等に抵触する場合 | 退学、停学又は訓告 |
|                                                                    | ・ハラスメントに起因する犯罪行為を行った場合                                                                                 | 退学、停学又は訓告 |
|                                                                    | ・ストーカー行為等の規制等に関する法律（平成12年法律第81号）に抵触する行為を行った場合                                                          | 退学、停学又は訓告 |
|                                                                    | ・薬物犯罪（禁止薬物の使用及び不法所持並びに禁止薬物の売買又はその仲介等及び薬物となり得る植物の栽培）を行った場合                                              | 退学又は停学    |
|                                                                    | ・コンピュータ又はネットワークの不正使用等による犯罪行為を行った場合（SNS犯罪、サイバー犯罪を含む。）                                                   | 退学、停学又は訓告 |
|                                                                    | ・上記以外の刑罰法令に触れる行為を行った場合                                                                                 | 退学、停学又は訓告 |
| 非 違<br>行 為                                                         | ・本学の財物に対し、故意に著しく物的損傷を与えた場合                                                                             | 退学又は停学    |
|                                                                    | ・一気飲み等により飲酒を強制し、重大な事態に至った場合                                                                            | 退学又は停学    |
|                                                                    | ・20歳未満の者自らの飲酒又は20歳未満の者と知りながら飲酒をすすめた場合                                                                  | 停学又は訓告    |
|                                                                    | ・ハラスメント行為（犯罪行為以外）を行った場合                                                                                | 停学又は訓告    |
|                                                                    | ・上記以外の非違行為                                                                                             | 停学又は訓告    |
| 交 通<br>事故等<br>（自動<br>車のほ<br>か、バ<br>イク及<br>び自転<br>車の場<br>合を含<br>む。） | ・飲酒運転（酒気帯び運転を含む。以下同じ。）、無免許運転、大幅な制限速度超過違反（制限速度30キロ以上の超過）等の悪質な運転による死亡事故又は重度の後遺症を残す人身事故を伴う交通事故を起こした場合     | 退学        |
|                                                                    | ・ひき逃げ、あて逃げ、飲酒運転、無免許運転、暴走運転等の悪質な運転による人身事故を伴う交通事故を起こした場合                                                 | 退学又は停学    |
|                                                                    | ・飲酒運転、無免許運転、暴走運転等の悪質な交通法規違反                                                                            | 停学        |
|                                                                    | ・前方不注意等の相当な過失のある、死亡又は重度の後遺症を残す人身事故を伴う交通事故を起こした場合                                                       | 停学        |
|                                                                    | ・前方不注意等の相当な過失のある、上記以外の人身事故を伴う交通事故を起こした場合                                                               | 停学又は訓告    |
|                                                                    | ※上記以外の反則金に該当する道路交通法（昭和35年法律第105号）違反については、懲戒処分の対象としない。                                                  |           |
| 試 験<br>不 正<br>行為等                                                  | ・本学が実施する試験等における極めて悪質な行為（替え玉受験、試験問題の不正入手等）                                                              | 退学又は停学    |
|                                                                    | ・本学が実施する試験等における上記以外の不正行為（ノート類や携帯電話等を不正に使用したカンニング等）                                                     | 停学        |

| 区分                | 行 為 の 内 容                                         | 懲戒の種類     |
|-------------------|---------------------------------------------------|-----------|
| 試 験<br>不 正<br>行為等 | ・ 本学が実施する試験等における極めて悪質な行為の教唆又はほう助行為を行った場合          | 退学、停学又は訓告 |
|                   | ・ レポート等の盗作や剽窃を行った場合                               | 停学又は訓告    |
|                   | ・ 試験監督者の注意又は指示に従わなかった場合（使用を許可されていない電子機器等を所持する行為等） | 訓告        |
| 研究活動上の<br>不正行為    | ・ 研究活動におけるねつ造、改ざん又は倒錯を行った場合                       | 退学、停学又は訓告 |
|                   | ・ 研究にかかる公的資金（研究費）を不正使用した場合                        | 退学、停学又は訓告 |



## 4 5 年次後期～6 年次生の 学修指針等



## 5 年次後期～6 年次生の学修（PhaseⅣ，Ⅴ，およびⅢ）

5 年次後期～6 年次に学修するものは、

- ① 5 年次後期～6 年次前期の「臨床実習」、「関連教育病院実習」、「地域医療実習」（以上PhaseⅣの後期実習）、
- ②基礎系・臨床系選択科目（PhaseⅤ）の後半、6 年次後期の「総括講義」である。

PhaseⅣ後期実習ならびにPhaseⅤの学修には5 年次10月から6 年次9 月までの40週間を当て、「臨床実習」30 週間、「関連教育病院実習」4 週間、「地域医療実習」2 週間、「基礎系・臨床系選択科目」4 週間からなり、ローテーションしながら実修を行う。

最後に6 年次後期に「総括講義」としてこれまでに修得した知識、技能、態度を再学修するとともに、卒業に向けての評価を行う。

# 臨床実習後OSCE

臨床実習後OSCE実施責任者 福 森 則 男

## 1. 試験の概要

臨床実習後OSCEは、6年次医学生の臨床能力を実技面から包括的に評価する実技試験である。本学の定めた卒業時学修成果（「学修要項」1～2ページ参照）のうち、主として「1. プロフェッショナリズム」「3. 安全で最適な医療の実践」「4. コミュニケーションと協働」に関する能力を評価する。卒業認定を受けるためには、本学の全ての臨床実習に合格したうえで、本OSCEに合格することが要件となる。

また本試験は2020年度より、卒後の臨床研修に参加するだけの臨床能力を備えているかを評価する、共用試験として実施することとなった。臨床実習前OSCEと同様に、全国標準試験であるから、学内評価者だけでなく、外部評価者、監査を行う試験モニターを迎えた大掛かりな試験となる。

## 2. 試験の内容

上記の目的のために、具体的には以下のような内容を出題する。

1. 病歴を聴取して身体診察を行う。
2. 鑑別診断を想定する。
3. 基本的な検査の結果を解釈する。
4. 処方計画を計画する。
5. 診療録（カルテ）を記載する。
6. 患者の状況について口頭でプレゼンテーションする。
7. 患者さんの申し送りを行う・受け取る。
8. 多職種チームで協働する。
9. 緊急性の高い患者さんの初期対応を行う。
10. インフォームド・コンセントを得る。
11. 基本的臨床手技を実施する。

（「医学教育モデル・コア・カリキュラム」（H28年度改訂版）、「G-1-1）-（3）学生を信頼し任せられる役割」を改変）

- ・ 課題症例の設定としては、「医学教育モデル・コア・カリキュラム」（H28年度改訂版）「G-2 臨床推論」に記載されている症候・病態の中から出題する。
- ・ 診察手技、基本的検査、基本的臨床手技については、「学修要項」（PhaseⅣ）の「医学生に許容される医行為の範囲」水準ⅠⅡが出題対象となる。

## 3. 試験の方法

### （1）試験日程・場所

- ・ 2025年9月上旬の1日で実施予定（未確定）
- ・ 医学科講義棟PBL室、スキルスラボ、講義室他
- ・ 6課題を出題予定（1課題10～16分）

- ▶ 模擬患者ステーション（3 課題）：医療面接、身体診察、指導医への報告等
- ▶ スキルスラボステーション（3 課題）：面接・診察、診療録、基本的手技等

(2) 成績判定と再試験

課題ごとではなく全ステーション一括の合否判定を行い、結果を発表する。不合格者は、再試験を受験し合格しなければならない。

合格発表は本試験の1週間後を目途に行い、再試験は概ね合格発表後2週間後に1回のみ実施する予定。

(3) 成績開示と異議申し立て

成績開示を希望する学生には、面談を行うため、学生課に申し出ること。全国標準試験であり、評価表や評価基準は公開することはできないため、口頭での一般的な情報提供となることを了解されたい。判定結果に異議のある学生は、所定の手続きを行うこと。

#### 4. 注意事項

- 試験実施2か月前までに実施説明会を開催するので、開催案内に注意すること。
- 臨床実習を修了していない者には、受験資格を与えない。OSCE実施・合否判定後に臨床実習不合格が判明した場合には、OSCE結果を取り消す。
- やむを得ない事由による試験欠席は、再試験を追試験と扱う。ただし再試験は1回しか実施しないため、追試験受験者が不合格であった場合、再試験受験機会はない。
- 公正で客観性の高い試験を実施することが求められており、不正行為（及び疑わしい行為）には厳しく対処する。
- 新型コロナウイルス感染症等の対策のため、直前に試験方法や内容を変更することがある。その際は可及的速やかに学生への情報提供を行う。
- 2021年の医師法改正に伴い、共用試験実施評価機構は、本試験の公的化を目的に、課題内容・出題数の変更を検討している。変更が生じた場合、学生に情報提供を行う。

# 総 括 講 義

教科主任 多 胡 雅 毅

## 1. 科目の概要

総括講義は、医学科6年間のカリキュラムの最後に位置し、診療科ごとの筆記試験を中心とした科目であり、実質的には卒業認定のための試験である。本学の卒業認定は、本学の定める卒業時学修成果に到達しているかを、臨床実習における諸評価、臨床実習後OSCE、そして総括講義によって包括的に評価するものとなっている。

しかしそれを「卒業試験」とせず、「総括講義」としているのは、試験を通して自らの足らざる点を把握し、試験後の講義における質疑応答及び解説によって6年間の学びを総括する機会となることを意図しているからである。医学の全領域を1か月余りの期間に網羅的に学修し、各領域の専門家の解説を集中的に受けることのできる機会は、医師としての長いキャリアにおいて二度と無いものである。学生諸子が、本講義を有効に活用し、卒後の初期臨床研修に向けての準備をしっかりと整えてもらうことを期待する。

## 2. 講義項目

|                     |               |       |
|---------------------|---------------|-------|
| 1) 内科（脳神経/膠原病・リウマチ） | 内 科 学         | 小池 春樹 |
| 2) 内科（血液/呼吸器）       | ”             | 木村 晋也 |
| 3) 内科（循環器/腎臓）       | ”             | 野出 孝一 |
| 4) 内科（消化器/肝・糖・内分泌）  | ”             | 江崎 幹宏 |
| 5) 総合診療             | 総合診療部         | 多胡 雅毅 |
| 6) 救急               | 救 急 医 学       | 阪本雄一郎 |
| 7) 麻酔・蘇生            | 麻酔・蘇生学        | 坂口 嘉郎 |
| 8) 公衆衛生             | 社 会 医 学       | 原 めぐみ |
| 9) 検査               | 検 査 部         | 末岡榮三朗 |
| 10) 放射線             | 放射線医学         | 中園 貴彦 |
| 11) 外科（一般・消化器）      | 一般・消化器外科学     | 能城 浩和 |
| 12) 外科（胸部）          | 胸部・心臓血管外科学    | 蒲原 啓司 |
| 13) 外科（脳神経）         | 脳神経外科学        | 阿部 竜也 |
| 14) 外科（整形）          | 整形外科学         | 森本 忠嗣 |
| 15) 外科（泌尿器）         | 泌尿器科学         | 野口 満  |
| 16) 小児              | 小 児 科 学       | 松尾宗 明 |
| 17) 産・婦人            | 産科婦人科学        | 横山 正俊 |
| 18) 精神神経            | 精 神 医 学       | 溝口 義人 |
| 19) 眼               | 眼 科 学         | 江内田 寛 |
| 20) 耳鼻咽喉            | 耳鼻咽喉科学・頭頸部外科学 | 杉山庸一郎 |
| 21) 皮膚              | 内 科 学         | 杉田 和成 |
| 22) 病理              | 病因病態科学        | 青木 茂久 |

### 3. 評価の方法と基準

#### (1) 試験スケジュール

- ・ 1 校時（8：50－10：20）試験、2 校時（10：30－12：00）まとめの講義

#### (2) 評価の基準

- ・ 試験は診療科ごとに**MCQ**・25問または50問で出題する。
- ・ 診療科ごとに合否判定を行い、70％以上の得点をもって合格とする。内科は2つの診療科の合計得点で判定する。
- ・ 点数は概ね 7 日以内に発表し、不合格者は不合格となった診療科の再試験を受け、合格しなければならない。

#### (3) 成績開示と異議申し立て

- ・ 成績開示を希望する学生には、面談を行うため、結果発表後30日以内に学生課を通じて申し込むこと。
- ・ 判定結果に異議のある学生は、所定の手続きをもって申し出ること。

### 4. 総括講義日程表

| No. | 年 月 日         | 曜日 | 項 目              | 担 当 者  |
|-----|---------------|----|------------------|--------|
| 1   | 令和 7 年10月 1 日 | 水  | 内科（脳神経／膠原病・リウマチ） | 小池     |
| 2   |               |    |                  |        |
| 3   | 令和 7 年10月 3 日 | 金  | 内科（血液／呼吸器）       | 木村     |
| 4   |               |    |                  |        |
| 5   | 令和 7 年10月 6 日 | 月  | 内科（循環器／腎臓）       | 野出     |
| 6   |               |    |                  |        |
| 7   | 令和 7 年10月 8 日 | 水  | 内科（消化器／肝臓・糖・内分泌） | 江崎     |
| 8   |               |    |                  |        |
| 9   | 令和 7 年10月10日  | 金  | 総合診療             | 多胡     |
| 10  |               |    |                  |        |
| 11  | 令和 7 年10月15日  | 水  | 救急／麻酔・蘇生         | 阪本／坂口  |
| 12  |               |    |                  |        |
| 13  | 令和 7 年10月17日  | 金  | 公衆衛生             | 原      |
| 14  |               |    |                  |        |
| 15  | 令和 7 年10月20日  | 月  | 検査／放射線           | 末岡／中園  |
| 16  |               |    |                  |        |
| 17  | 令和 7 年10月22日  | 水  | 外科（一般・消化器）       | 能城     |
| 18  |               |    |                  |        |
| 19  | 令和 7 年10月24日  | 金  | 外科（胸部／脳神経）       | 蒲原／阿部  |
| 20  |               |    |                  |        |
| 21  | 令和 7 年10月27日  | 月  | 外科（整形／泌尿器）       | 森本／野口  |
| 22  |               |    |                  |        |
| 23  | 令和 7 年10月29日  | 水  | 小児               | 松尾     |
| 24  |               |    |                  |        |
| 25  | 令和 7 年10月31日  | 金  | 精神・神経            | 溝口     |
| 26  |               |    |                  |        |
| 27  | 令和 7 年11月 5 日 | 水  | 産・婦人             | 横山     |
| 28  |               |    |                  |        |
| 29  | 令和 7 年11月 7 日 | 金  | 眼／耳鼻咽喉           | 江内田／杉山 |
| 30  |               |    |                  |        |
| 31  | 令和 7 年11月10日  | 月  | 皮膚／病理            | 杉田／青木  |
| 32  |               |    |                  |        |

## 総括講義（再試験）日程表

| No. | 年 月 日         | 曜日 | 項 目          | 担 当 者  |
|-----|---------------|----|--------------|--------|
| 33  | 令和 7 年11月12日  | 水  | 脳神経／膠原病・リウマチ | 小池     |
| 34  |               |    | 血液／呼吸器       | 木村     |
| 35  | 令和 7 年11月14日  | 金  | 循環器／腎臓       | 野出     |
| 36  |               |    | 消化器／肝臓・糖・内分泌 | 江崎     |
| 37  | 令和 7 年11月17日  | 月  | 総合診療         | 多胡     |
| 38  |               |    | 救急／麻酔・蘇生     | 阪本／坂口  |
| 39  | 令和 7 年11月19日  | 水  | 公衆衛生         | 原      |
| 40  |               |    | 検査／放射線       | 末岡／中園  |
| 41  | 令和 7 年11月21日  | 金  | 外科（一般・消化器）   | 能城     |
| 42  |               |    | 外科（胸部／脳神経）   | 蒲原／阿部  |
| 43  | 令和 7 年11月26日  | 水  | 外科（整形／泌尿器）   | 森本／野口  |
| 44  |               |    | 小児           | 松尾     |
| 47  | 令和 7 年11月28日  | 金  | 眼／耳鼻咽喉       | 江内田／山内 |
| 48  |               |    | 皮膚／病理        | 杉田／青木  |
| 45  | 令和 7 年12月 1 日 | 月  | 産・婦人         | 横山     |
| 46  |               |    | 精神神経         | 溝口     |

## 5. 注意事項

- ・本講義は、5・6年次の臨床実習及び選択科目を全て修了した学生が受講することができる。
- ・再試験においてはまとめの講義は行わない。

## シラバスの見かた

シラバス [syllabus] は、個々の授業科目の目的、内容、目標、予定、成績評価の方法など授業の概要を書き示したもので、この学修要項では「授業科目の学習指針等」として掲載してあります。

各授業科目は、医学部の教育目的・目標に沿って年次ごとに開講、配置されていますが、その教育課程における個々の授業科目の位置付け（開講目的）や学習内容・到達目標、成績評価基準・開示方法等をシラバスで明示することにより、教育課程の内容を保証するとともに、学生が、いつ、何を、何のために、どのようにして学び、どこまで到達すべきかを知る学修指針として、重要な役割を果たすものです。

PhaseⅣにおいては、全診療科共通の内容を「5. PhaseⅣの学修指針等」の「PhaseⅣにおける学修の目的と内容 期待される学修成果」に掲載しています。まずは、この部分を熟読した上で、各診療科のシラバスを参照するようにしてください。

PhaseⅤにおいては、全体の概要を「6. PhaseⅤの学修指針等」の「PhaseⅤの概要」に掲載しています。まずは、この部分を熟読した上で、各題目のシラバスを参照するようにしてください。

注：医学部のシラバスは、「医学部ホームページ ⇒学部学生・大学院生 ⇒ 学部学生」にも掲載してあるので、利用してください。

また、「教養教育科目」のシラバスについては、「佐賀大学ホームページのオンラインシラバス」に掲載されています。



## 5 PhaseⅣの学修指針等



## 5.1 【Phase IVにおける学修の目的と内容 期待される学修成果】（全科共通）

（学士力2（2）（3）、3（2）（3））

（コースナンバリング3492x-211）

（医学部医学科卒業時学修成果と修得課程表（ロードマップ）も参照のこと）

チェアパーソン 多 胡 雅 毅

PhaseIVでは、これまでに学習してきた基礎医学・臨床医学・社会医学・行動科学の知識や早期体験実習で得られた経験を統合し、臨床実習を通じて将来医師となるべき者としての職責を理解し、安全で適切な医療を実践できる診療能力を身につける。

PhaseIV前期で、内科や中央診療部門などの一部の診療科においては1週間あるいは2週間の実習期間中に、後期臨床実習において更に深く診療参加するのに必要となる診断学の知識や身体診察法、基本的技能などを身につけ、実践できるようになる。

他の多くの2週間実習診療科と、PhaseIV後半では、学生は診療チームの1員として、他の医療スタッフや患者・患者家族と協働しながら実際の診療に参加する、診療参加型臨床実習を主体に学修し（4週間の実習を行う診療科のみならず、実習期間2週間の診療科でも単に見学ではなく、積極的に診療に参加して学ぶことが重要である。）、臨床実習終了時には他の医療スタッフや患者・患者家族と協働し、患者中心の安全な医療を実践できるようになる。

また、院内ならびに地域実習や学外実習を通じて、地域の医療の現状を理解し、将来地域の特性に応じた医療に貢献できる力を身につける。

臨床実習では情報の適正な利用による問題解決の方法や医学の進歩、未だ解決できていない課題なども学ぶが、それを通じて科学的探究や医療や文化に対する国際的な視点を身につけ、生涯にわたり自己研鑽を行う。

### 【Student Doctor育成のための臨床実習】

Student Doctorとは全国の医学部共通のCBT（共用試験）とOSCE（客観的臨床能力試験）に合格し、臨床実習を行うに足る十分な知識、技術、態度を身につけていると認定された学生に与えられる資格で、医師法改正（2023年4月1日施行）に伴い、この資格を有する医学生は、臨床実習で指導教員の監督の下、一部の医療行為の実施を行うことができることが法的に明確化された。

本学では資格取得後に実施される臨床実習を充実させることで診療能力の高いStudent Doctorを育成するため、臨床実習の到達目標を「現在の臨床研修3ヵ月終了時点での研修医と同等の医療行為ができる診療能力を修得すること」と再定義し、実習の質向上と学修環境の改善に取り組んでいる。

そのため各科に医行為と症候を割り当て、教育担当分野を明確にする。学生個々の修得状況をモニタリングするため、学生と指導医はe-クリニカルクラークシップを入力し、修得状況を可視化する。さらに2023年度より「卒前臨床実習コーディネートセンター」を設置し、臨床実習コーディネート担当医を配置し、可視化された修得状況をモニタリングし、臨床実習終了時に全ての学生に臨床推論・診断学・治療学・医行為を修得できるようにする。臨床推論を学ぶためには新患外来実習が有用であり、学生自ら病歴・身体診察・鑑別診断・検査計画・診療記録を実施し、指導医とコーディネート担当医にプレゼンテーションを行い、臨床推論力を高める。

### 【臨床実習中に修得すべき能力（コンピテンシー）】

1. 倫理的・法的な規範に則った行動をとることができる

2. 患者や家族の価値観と権利を尊重することができる
3. 患者のプライバシーを守ることができる
4. 社会の医学生に対する期待を理解し、誠実で責任感のある態度で行動できる
5. 自らを省み、自己学習する態度・習慣を持続ける
6. これまでに学んできた医学的知識を統合し、問題解決に応用することができる
7. 医療面接、基本的身体診察法を実施し、臨床推論ができる
8. 必要な検査を選択し、適切な実施や解釈ができる
9. 適切な診断、治療計画の立案ができる
10. 問題志向型診療記録を記載できる
11. 正確かつ簡潔な症例提示ができる
12. 医療安全に配慮することができる
13. 医療制度、医療経済を学ぶ
14. 患者の心理社会的背景を理解し、良好な患者医師関係を築くことができる
15. 他の医療者と円滑に連携することができる
16. 患者の意思決定を支援するために適切な情報を提供し同意をえることができる
17. 価値観や文化の多様性を理解する
18. 英語での情報収集ができる
19. 地域の保険・医療・福祉の連携を理解できる
20. 地域の特性や多様なニーズを理解し、地域の医療に参画できる
21. 情報の質を吟味し理論的・批判的な思考ができる

【経験すべき症候】（R 4 年度改訂版 医学教育モデル・コア・カリキュラム参照）

1. 発熱、2. 全身倦怠感、3. 食思（欲）不振、4. 体重減少、5. 体重増加、6. 意識障害、7. 失神、8. けいれん、9. めまい、10. 浮腫、11. 発疹、12. 咳・痰、13. 血痰・咯血、14. 呼吸困難、15. 胸痛、16. 動悸、17. 嚥下困難、18. 腹痛、19. 悪心・嘔吐、20. 吐血、21. 下血、22. 便秘、23. 下痢、24. 黄疸、25. 腹部膨隆・腫瘍、26. リンパ節腫脹、27. 尿量・排尿の異常、28. 血尿、29. 月経異常、30. 不安・抑うつ、31. 認知機能障害、32. 頭痛、33. 運動麻痺・筋力低下、34. 歩行障害、35. 感覚障害、36. 腰背部痛、37. 関節痛・関節腫脹

【経験すべき疾患】各診療科学習要項に記載。

【医師の監視下で医学生に許容される医行為】（全科共通）

（全科共通の医行為はR 4 年度改訂版 医学教育モデル・コア・カリキュラム診療参加型臨床実習実施ガイドラインに準じる。これ以外の各診療科で許容される医行為は診療科毎に記載。）

| 分類 | ①必須項目<br>医師養成の観点から臨床実習中に実施が開始されるべき医行為                             | ②推奨項目<br>医師養成の観点から臨床実習中に実施が開始されることが望ましい医行為 |
|----|-------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------|
| 診察 | 診療記録記載（診療録作成）※ <sup>1</sup><br>医療面接<br>バイタルサインチェック<br>診察法（全身・各臓器） | 患者・家族への病状の説明<br>分娩介助<br>直腸鏡・肛門鏡            |

|                  |                                                                                                                                                                    |                                                           |
|------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|
|                  | 耳鏡・鼻鏡<br>眼底鏡<br>基本的な婦人科診察<br>乳房診察<br>直腸診察<br>前立腺触診<br>高齢者の診察（ADL 評価、高齢者総合機能評価）                                                                                     |                                                           |
| 一般手技             | 皮膚消毒<br>外用薬の貼付・塗布<br>気道内吸引 <sup>※2</sup><br>ネブライザー<br>静脈採血<br>末梢静脈確保 <sup>※2</sup><br>胃管挿入 <sup>※2</sup><br>尿道カテーテル挿入・抜去 <sup>※2</sup><br>注射（皮下・皮内・筋肉・静脈内）<br>予防接種 | ギプス巻き<br>小児からの採血<br>カニューレ交換<br>浣腸                         |
| 外科手技             | 清潔操作<br>手指消毒（手術前の手洗い）<br>ガウンテクニック<br>皮膚縫合<br>消毒・ガーゼ交換<br>抜糸<br>止血処置<br>手術助手                                                                                        | 膿瘍切開、排膿<br>嚢胞・膿瘍穿刺（体表）<br>創傷処置<br>熱傷処置                    |
| 検査手技             | 尿検査<br>血液塗抹標本の作成と観察<br>微生物学的検査（Gram 染色含む）<br>妊娠反応検査<br>超音波検査（心血管）<br>超音波検査（腹部）<br>心電図検査<br>経皮的酸素飽和度モニタリング<br>病原体抗原の迅速検査<br>簡易血糖測定                                  | 血液型判定<br>交差適合試験<br>アレルギー検査（貼付）<br>発達テスト<br>知能テスト<br>心理テスト |
| 救急 <sup>※3</sup> | 一次救命処置<br>気道確保<br>胸骨圧迫<br>バックバルブマスクによる換気<br>AED                                                                                                                    | 電気ショック<br>気管挿管<br>固定などの整形外科的保存療法                          |
| 治療 <sup>※4</sup> | 処方薬（内服薬、注射、点滴など）のオーダー <sup>※5</sup><br>食事指示<br>安静度指示<br>定型的な術前・術後管理の指示<br>酸素投与量の調整 <sup>※6</sup><br>診療計画の作成                                                        | 健康教育                                                      |

- ※1 診療参加型臨床実習実施ガイドライン「学生による診療録記載と文章作成について」を参考に記載する
- ※2 特にシミュレーターによる修得後に行うべき
- ※3 実施機会がない場合には、シミュレーターによる修得も可である
- ※4 指導医等の確認後に実行される必要がある
- ※5 処方薬のオーダーは電子カルテのシミュレーションモードを用いて行う
- ※6 酸素投与を実施している患者が対象

## 【実習スケジュール】

(全科ローテーション参照)

## 【臨床実習にあたって遵守されるべき一般的事項】

### 1. 服装・みだしなみ・姿勢

- 1) 患者が肉体的あるいは精神的に傷ついていることを考慮し、常に自らを清潔に保ち、他人に不快感を与えることのないよう心がけねばならない。
- 2) 服装は大学において決められたものを着用する。また所定の名札を装着する。  
白衣姿で登下校せず、必ず専用のロッカーを使用する。
- 3) 頭髪は派手な髪形を避ける。男子学生は耳や目にかからない長さに調髪する。
- 4) 爪は常に手入れをしておく。
- 5) 非常の場合の患者搬送に備え、スリッパ・サンダル・草履・ハイヒール等を使用しない。
- 6) ネックレス・イヤリング・腕輪等の装飾品並びに厚化粧は差し控える。

### 2. 応 対

- 1) 挨拶を励行する。
- 2) 言葉づかいは、標準語を基本として、わかりやすく、かつ要領よく話す。
- 3) 不用意、不注意な発言を慎む。
- 4) 相手の言い分を正しく理解し、敏速かつ正確に対応する。
- 5) 辛抱強く対応する。

### 3. 電 話

- 1) 電話は簡潔、明快に、かつ高声をさける。
- 2) 私用の電話はこれを慎む。
- 3) 私用の携帯電話の持ち込みは実習中の緊急招集などの業務連絡用にのみ認めるが、常にマナーモードにし  
ておき、使用を許可された場所でのみ使用すること。私用電話は厳禁とする。診療録やデータ、画像、病変  
部など診療や実習に関する一切の写真撮影は厳禁とし、違反した者は処罰の対象とする。

### 4. 病棟・外来・手術室での注意事項

- 1) 患者に接するには、あらかじめ診療録（電子カルテ）、又は医師、看護師等から当該患者の病状・性格等  
についての情報を得ておく。
- 2) 患者の診断・病状・検査内容・治療内容等の説明に関しては、主治医と相談の上、学生が対応可能な範囲  
をあらかじめ定める。原則として主治医立ち会いのもとに説明を行う。学生単独で病状・予後についての説  
明を行ってはならない。
- 3) 患者に関して得た診療情報や秘密は、これを他に漏らしてはならない。診療録やデータ、画像、病変部な  
ど診療や実習に関する一切の写真撮影は厳禁とし、違反した者は処罰の対象とする。また、診療や実習に関

することをSNS等にアップしてはならない。

- 4) 患者に対する態度・言葉づかい等は、精神的・肉体的安静を損なわないよう特に配慮する。
- 5) 診療録（電子カルテ）は主治医の指導のもとに学生用エディターを用いて記載する。
- 6) 実習に関係する患者以外の診療録（電子カルテ）を閲覧してはならない。必要のない患者の診療録を閲覧した場合は処罰の対象となる。
- 7) 設備・備品を大切に取り扱い、材料その他消耗品を浪費しない。
- 8) 時間を厳守する。
- 9) 常に所在を明らかにしておく。
- 10) ステーション、処置室、医師控室、検査室、カンファレンスルームにおいて、資料、図書、器具などを使用した際には、使用後速やかに所定の位置に戻す。
- 11) 手術室では周囲の衛生環境を保つように努めなければならない。
- 12) 手術室実習において、更衣室・休憩室・カンファレンスルーム以外（手術室内および廊下など）で飲料水や食べ物を摂取してはならない。
- 13) 手術室への物品の持ち込みは必要最低限とする。

## 【評価の方法と基準】

### 1) 評価方法

出席状況ならびに症例に関するプレゼンテーションやレポート、技能や態度に関する指導医等の実習担当者による評価（全科共通評価表ならびに診療科別評価表）、自己評価などを総合して、各診療科長が評価する。最終的には各診療科の評価と、診療科や看護部門等によるアンプロフェッショナルな行動がなかったかに関する評価を総合し、PhaseⅣの総合評価判定を行う。

臨床実習前期終了時に臨床実習コア試験を実施、後期の診療参加型臨床実習を開始するのに必要な医療安全や診療に関する全科共通の基本的な知識を問う。

令和6年度の臨床実習コア試験については下記のとおりである

試験日：令和6年10月15日（火）～10月18日（金）の間の1日 後日通知

出題数 25～50問（MCQ方式）

臨床実習コア試験は卒業の案件には含めない。

### 2) 評価基準

- ・実習については医学生として診療参加可能な能力であることを合格基準とする。
- ・臨床実習コア試験については70点以上を合格とする。この試験については形成的評価を目的とし、合格点に到達するまで再試験と振り返りを行う。

### 3) 評価結果の開示

- ・レポート課題については出題の意図を開示する。各実習終了後2週間以内に電子メールで担当教員に申し込むこと。
- ・臨床実習コア試験の課題については、問題と正解を開示する。

## 【履修上の注意】

- ・欠席する場合は事前に理由を実習担当者に報告する。無断欠席の場合は不合格となるので注意する。
- ・欠席した実習は、事前に実習担当者と打ち合わせの上、夏季・冬季休暇などを利用して日数分を補習する。

[illegible]

1グループ(7~)8名×13

内科には4グループ計20(～24)名(1診療科あたり2～3名+5年前期8～9名)

外科には、一般・消化器外科と胸部外科それぞれに4W型(外科参加)5～6名+2W型(外②)2～3名で各7～9名(4週間参加型で実習しないほうの科を外科②で2週間実習)

Phase V: 基礎系・臨床系選択科目



## 5. 2 (診療科別 内科実習後期用)

(診療科名) 脳神経内科

【実習主任】：小池 春樹

【実習担当者】：鈴木 耕平，七條 千佳

### 【学修の目的と内容 期待される学修成果】

PhaseⅢ並びにⅣ前期実習で得た知識を下に、時代に即したガイドライン等のコンセンサスに基づいた神経内科疾患の診断、及び診断に必要な低侵襲の検査手技を行うことができる。またそれら診断・所見に基づいた治療の計画ができる。

### 【実習中に修得すべき能力（コンピテンシー）】

(全科共通のコンピテンシーは(5.1) 参照。)

- 1) 脳卒中の急性期から亜急性期の内科的管理を行う診療グループの一員として携わり、治療方針を決定できる。
- 2) てんかん患者の治療方針を決定できる。
- 3) 認知症患者、及び家族の問診を実践し、鑑別疾患を挙げることができる。
- 4) 神経変性疾患の外来・入院診療で基本的な問診、神経診察を通じて鑑別疾患を挙げることができる。
- 5) 神経免疫疾患の外来・入院診療で基本的な問診、神経診察を通じて鑑別疾患を挙げることができる。
- 6) 腰椎穿刺の介助ができる。
- 7) 脳波で特徴的な波形を判読できる。
- 8) 神経難病の診療に携わり、病名告知等の場面等で患者・家族の感情に寄り添う行動ができる。

### 【経験すべき疾患】

(全科共通(5.1) 経験すべき症候も参照)

- 1) 脳血管障害(脳梗塞, 脳出血, 一過性脳虚血発作)
- 2) てんかん
- 3) 認知症疾患(アルツハイマー型認知症, レビー小体型認知症など)
- 4) 神経変性疾患(パーキンソン病, 多系統萎縮症, 筋萎縮性側索硬化症)
- 5) 神経免疫疾患(多発性硬化症, 視神経脊髄炎, 重症筋無力症)

### 【医学生に許容される医行為】

(全科共通 (5.1) 医行為も参照)

全科共通 (5.1) 医行為に加え神経内科実習では以下を許容する(指導医の指導, 監視下で)。

頸部超音波検査, 経頭蓋超音波検査, 神経心理検査

### 【実習スケジュール】

4週間の期間, SD全員は1診療チームに振り当てられる。担当医師, 主治医, 指導医とともに診療チームの1員としての自覚を持ち行動する。下記スケジュールに詳細が掲載されていない時間帯は診療チームのリーダーの指示, 了解を得ながら実習していく。

|   | 8:00                               | 9:00                                      | 10:00                               | 11:00                         | 12:00 | 13:00                                     | 14:00                                  | 15:00                             | 16:00                | 17:00 |
|---|------------------------------------|-------------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------|-------|-------------------------------------------|----------------------------------------|-----------------------------------|----------------------|-------|
| 月 | 8:15～<br>神経チーム回診                   | (第1週)<br>チーム回診終了後<br>オリエンテーション<br>(3階北CR) | 10:00～ 吉川、11:00～ 鈴山<br>脳神経内科外来 新患当番 |                               |       | 13:00～<br>物忘れ外来<br>(神経内科外来)               |                                        |                                   |                      |       |
| 火 | 8:15～<br>神経チーム回診                   |                                           |                                     | 11:00～ 井手<br>脳神経内科外来 新患<br>当番 |       | 13:00～<br>学生カルテ回診<br>(3階北CR 七條)           | 第1週 15:00～<br>頸動脈エコーLC<br>(井手)         |                                   |                      |       |
| 水 | 8:15～<br>神経チーム回診                   |                                           | 10:00～ 小池、10:30～ 鈴山<br>脳神経内科外来 新患当番 |                               |       |                                           | 14:00～ 1-2人/週<br>神経電気生理<br>(検査室12番 吉川) | 第2週 15:00～<br>レクチャー<br>(3階北CR 鈴山) |                      |       |
| 木 | 8:15～<br>神経チーム回診                   |                                           | 10:00～ 津村<br>脳神経内科外来 新患当番           |                               |       | 第1週 14:00～<br>末梢神経レクチャー<br>(研究棟4階2456 小池) |                                        |                                   | 17:30～抄読会<br>(3階北CR) |       |
| 金 | 8:30～9:00<br>脳卒中カンファレンス<br>(3階北CR) | 9:00～<br>神経内科カンファレンス・病棟回診<br>(3階北CR)      |                                     |                               |       | 第4週 14:30～<br>症例発表・最終評価<br>(3階北CR 小池)     |                                        | 16:00～<br>神経病理検討会<br>(研究棟4階 2456) |                      |       |

CR:カンファレンスルーム

## 【評価の方法と基準】

以下の項目を、振り分けられた診療チームリーダー（助教）、実習担当者（七條/鈴山）、レクチャー担当者、実習主任により採点化し、その結果により実習主任が最終評価する。

以下各10点満点 計100点

- 1) 欠席、遅刻、早退なく実習に参加できたか。（評価者：診療グループリーダー）
- 2) 実習内でのみだしなみ、態度、姿勢が医療人として許容されたか。（実習担当者）
- 3) 診療グループ医師と患者診察を適切に行えたか。（評価者：診療グループリーダー）
- 4) 腰椎穿刺の介助に携わることができたか。（評価者：診療グループリーダー）
- 5) 脳波読影を医師とともにできたか。（評価者：診療グループリーダー）
- 6) 脳卒中救急診療に参加し、治療の流れを説明することができたか。（評価者：診療グループリーダー）
- 7) 物忘れ外来で担当医師とともに患者を診療し、鑑別疾患の協議を行ったか。（評価者：外来担当医師）
- 8) 神経変性疾患、免疫疾患の患者を診療し、鑑別疾患の協議を行ったか。（評価者：診療グループリーダー）
- 9) 担当患者を毎日診察し、その診療記録を適切に記載できたか。（評価者：診療グループリーダー）
- 10) カンファレンスで適切にプレゼンテーションができたか。（評価者：実習主任）

## 原則

60点未満は不可。61-70点は可。71-80点は良。81-90点は優。91-100点は秀

## 【履修上の注意】

（全科共通（5.1）履修上の注意も参照）

初日は、8：15に3階北病棟ナースステーションに集合し、チーム回診に同席する。チーム回診後、学生用PH S2578にオリエンテーションの連絡があるので、連絡がつき次第オリエンテーションに向かう。

実習担当者連絡先：七條千佳（PHS ■■■）つながらなければ、鈴山耕平（PHS ■■■）もしくは星野有紀  
前の週の金曜日（金曜が祝日の場合は木曜）までに、学生課にオリエンテーション資料を取りにきてください。  
学生用のPHS■■■は3階北病棟にありますので実習中は携帯してください。

## 【オフィスアワー一覧】

巻末参照

## 5. 2 (診療科別 内科実習後期用)

(診療科名) 膠原病・リウマチ内科

【実習主任】：多田 芳史

【実習担当者】：赤星 光輝, 丸山 暁人, 竹山 悠希子, 堺 真梨子

### 【学修の目的と内容 期待される学修成果】

これまでの基礎的学習に加え、前期実習で修得した臨床的な知識や技能をもとに、診療チームの一員として他の医療スタッフと連携して実際の診療に参加し、診療の実際について学修する。医療スタッフの監督下に患者や患者家族とコンタクトをとり、診療行為を行う。これらにより診療技術、問題点の抽出およびその解決、研究課題の探索、などについて修得することを期待する。

膠原病リウマチ診療では、病歴、理学的所見、検査、画像などの基本的診療に加え全身的疾患を管理する多彩な総合的知識が要求される。このような統合的な管理、包括的な診療知識を学修することで、実習終了後に単一臓器のみならず全身を対象とした思考や診療の幅が広がることが期待される。

### 【実習中に修得すべき能力（コンピテンシー）】

(全科共通のコンピテンシーは(5.1) 参照。)

1. 関節、皮膚の診察ができる
2. 関節炎に対する画像検査の概要が説明できる
3. 関節リウマチの診断と評価、治療方針を説明できる
4. 全身性エリテマトーデスの臨床像、検査所見、診断と治療の概略を説明できる
5. 免疫抑制剤、生物学的製剤の作用、副作用について説明できる
6. 主な自己抗体の臨床的意義について説明できる

### 【経験すべき疾患】

(全科共通(5.1) 経験すべき症候も参照)

全身性エリテマトーデス、関節リウマチ、血管炎症候群、多発性筋炎・皮膚筋炎、

全身性強皮症、ベーチェット病、シェーグレン症候群

その他可能であれば、強直性脊椎炎、乾癬性関節炎、成人スチル病、痛風、偽痛風など

### 【医学生に許容される医行為】

(全科共通 (5.1) 医行為も参照)

全科共通の医行為に加えて、関節超音波検査（レベルⅠ）、関節穿刺（レベルⅡ）、胸腔穿刺（レベルⅡ）

### 【実習スケジュール】

| 午前                  | 午後          |
|---------------------|-------------|
| (月) 病棟              | 病棟, カンファレンス |
| (火) 病棟              | 病棟          |
| (水) 病棟              | 病棟          |
| (木) カンファレンス, 回診     | 病棟          |
| (金) 病棟              | 病棟, レクチャー   |
| 第1週月曜朝：オリエンテーション    |             |
| 第4週金曜午後：まとめのカンファレンス |             |

### 【評価の方法と基準】

出席状況, 実習態度, 症例プレゼンテーション, カルテ記載, 症例や課題に対する考察やレポート, などの評価を総合して実習担当医と診療科長が協議して総合評価を行う。

秀 (90-100点), 優 (80-89点), 良 (70-79点), 可 (60-69点) を合格とする。

### 【履修上の注意】

(全科共通 (5.1) 履修上の注意も参照)

全科共通事項を参照

実習初日は7階西病棟カンファレンスルームに8:50に集合のこと

### 【オフィスアワー一覧】

巻末参照

## 5. 2 (診療科別 内科実習後期用)

(診療科名) 血液・腫瘍内科

【実習主任】：木村 晋也

【実習担当者】：安藤 寿彦, 勝屋 弘雄, 岡本 翔, 板村 英和, 佐野 遥菜

### 【学修の目的と内容 期待される学修成果】

血液疾患または固形腫瘍を持つ患者の問題を把握し、その診断、治療に積極的に参加し臨床医としての基本姿勢を身につける。またPhase IIIおよび前期実習で得た基礎知識や基本的な技能を、臨床に役立つ知識や技術を高め、医師として最低限必要な基本的臨床技能および態度を身につけ、治療上の問題解決能力を身につけることを目的とする。さらに専門分化した診療体制の中での総合診療の役割についても理解を図る。

卒業後、どのような科を専門としても、最低限の血液疾患や固形腫瘍の診断ができるようになることが期待される学修成果である

### 【実習中に修得すべき能力（コンピテンシー）】

(全科共通のコンピテンシーは (5.1) 参照。)

1. プロフェッショナリズム
2. 医学的知識、特に血液・腫瘍内科に関する知識（抗がん剤、感染症）の取得
3. 安全で最適な医療の実践
4. コミュニケーションと協働、ネガティブな情報の伝え方
5. 国際的な視野に基づく地域医療への貢献
6. 科学的な探究心

### 【経験すべき疾患】

(全科共通 (5.1) 経験すべき症候も参照)

1. 急性白血病
2. 慢性白血病
3. 悪性リンパ腫
4. 多発性骨髄腫
5. 血液良性疾患
6. 食道がん, 胃がん, 大腸がん, 膵がん, 胆道系がん, 原発不明がん, 肉腫

### 【医学生に許容される医行為】

(全科共通 (5.1) 医行為も参照)

特に、末梢血塗抹標本, 血液型判定, 末梢血および骨髄像の鏡検

### 【実習スケジュール】

血液内科4週間, あるいは腫瘍内科4週間かのいずれかを選択し履修する。腫瘍内科選択はグループで最大2名までとする（腫瘍内科の希望が無い場合は、グループ全員が血液内科を選択しても構わない）。腫瘍内科での実習

を希望する実習開始2週間までに、実習責任者（血液・腫瘍内科木村）までメールで連絡をする（  
連絡のない場合は、血液内科の実習とする。

血液内科、腫瘍内科ともに医師（教官、医員）1名に学生1～2名がマンツーマンでつき、原則としてその医師と行動をともにする。受け持ち患者の中の1名の患者を対象とし、レポートを提出する。最終評価の方法は、上記レポートと共に、各学生が指導を受けた主治医が2週間の態度（協調性、積極性、言葉使いなど）、知識（病歴聴取、診察技能、診療録記載）、問題解決能力（検査の解釈、鑑別疾患、治療計画）を5段階で評価したものを総合して教科主任が行う。

\*ミニレクチャーに関しては、前期実習の学生を対象としているが、復習のため参加を希望する学生は参加可能である。前期実習のスケジュールを確認して、参加すること。

#### 血液内科のスケジュール

|   |             |                           |
|---|-------------|---------------------------|
| 月 | 08:30-09:00 | （第1週目のみ全員）オリエンテーション       |
|   | 09:00-17:00 | 受け持ち患者の診察、診療録記載           |
|   | 14:00-15:00 | *ミニレクチャー（血液・腫瘍内科全体に関する内容） |
| 火 | 09:00-16:00 | 受け持ち患者の診察、診療録記載           |
|   | 16:00-17:00 | *ミニレクチャー（症例検討）            |
| 水 | 09:00-16:30 | 受け持ち患者の診察、診療録記載           |
|   | 14:30-15:30 | *ミニレクチャー（カンファレンス発表準備の確認）  |
|   | 16:30-17:30 | 新患カンファレンス                 |
| 木 | 08:30-11:30 | 症例カンファレンス                 |
|   | 11:30-16:30 | 受け持ち患者の診察、診療録記載           |
|   | 16:30-17:00 | *ミニレクチャー（血液像）             |
| 金 | 09:00-16:00 | 受け持ち患者の診察、診療録記載           |
|   | 16:00-17:00 | *ミニレクチャー（骨髄生検シミュレーターを利用）  |

#### 腫瘍内科のスケジュール

|   |             |                                     |
|---|-------------|-------------------------------------|
| 月 | 08:30-09:00 | （第1週目のみ全員）オリエンテーション                 |
|   | 09:00-12:00 | 入院患者の診察または外来化学療法患者の診察               |
|   | 13:00-17:00 | 受け持ち入院患者の診察、検査、処置、診療録記載             |
| 火 | 09:00-12:00 | 入院患者の診察または外来化学療法患者の診察               |
|   | 13:00-17:00 | 受け持ち入院患者の診察、検査、処置、診療録記載             |
|   | 17:30-18:30 | Webカンファレンス（がんクリニカルシークエンス、エキスパートパネル） |
| 水 | 08:00-09:00 | 腫瘍内科カンファレンス                         |
|   | 09:00-12:00 | 入院患者の診察または外来化学療法患者の診察               |
|   | 13:00-17:00 | 受け持ち入院患者の診察、検査、処置、診療録記載             |
| 木 | 09:00-12:00 | 入院患者の診察または外来化学療法患者の診察               |
|   | 13:00-17:00 | 受け持ち入院患者の診察、検査、処置、診療録記載             |
| 金 | 09:00-12:00 | 入院患者の診察または外来化学療法患者の診察               |

13:00-17:00 受け持ち入院患者の診察，検査，処置，診療録記載

(第4週目のみ)

12:00-13:00 受け持ち患者プレゼンテーション，ディスカッション

### 【評価の方法と基準】

基本的に欠席は認めない（ミニレクチャーおよび各種カンファレンスも含め）。病気あるいはどうしても休む必要がある場合は，教科主任の許可を（できれば事前に）取ること。全日程の実習に参加することが，評価の最低限の資格となる。

各医師（教官，医員）に対し学生1～2名がつき，原則としてそのDrと行動をともにする。総合評価では受け持ち患者の中の1名の患者を対象とし，レポートを提出する。

最終評価の方法は，上記レポートと共に，各学生が指導を受けた主治医が2週間の態度（協調性，積極性，言葉使いなど），知識（病歴聴取，診察技能，診療録記載），問題解決能力（検査の解釈，鑑別疾患，治療計画）を5段階で評価したものを総合して教科主任が行う。

### 【履修上の注意】

（全科共通（5.1）履修上の注意も参照）

- 1) 初日の集合時刻・場所：8：30 北病棟2階ナースステーション
- 2) カルテの記載は毎日行うよう努める。
- 3) 手洗い，マスク着用など感染予防に留意する。

### 【オフィスアワー一覧】

巻末参照

## 5. 2 (診療科別 内科実習後期用)

(診療科名) 呼吸器内科

【実習主任】：高橋 浩一郎

【実習担当者】：高橋 浩一郎, 中島 千穂, 田代 宏樹, 小楠 真典, 栗原 有紀,  
小宮 奈津子, 梶原 心, 南里 水晶

### 【学修の目的と内容 期待される学修成果】

実習前期で学んだ呼吸器疾患の診断に関して, 病歴聴取, 身体診察を基に, 画像診断, 検査所見などを総合的に判断し, 診断, 治療方針決定に積極的に参加する。また, PhaseⅢで得た基礎知識を, 臨床に役立つ知識や技術に高め, 医師として必要な基本的臨床技能および態度と, 治療上の問題解決能力を身につける。

### 【実習中に修得すべき能力 (コンピテンシー)】

1. 診断に有用な病歴聴取ができる。
2. 以下に挙げる症候の発生機序と原因疾患を説明できる。
  - ① 胸水
  - ② 胸痛・胸部圧迫感
  - ③ 呼吸困難・息切れ
  - ④ 咳・痰
  - ⑤ 血痰・咯血
3. 呼吸音を含めた身体所見を, 実践し評価できる。
4. 単純エックス線撮影, コンピュータ断層撮影<CT>, 磁気共鳴画像法<MRI>, 及び核医学検査 (ポジトロン断層法 (positron emission tomography<PET>) 検査を含む) 等の画像検査の適応と意義, 結果を説明できる。
5. スパイロメトリーの結果を説明できる。
6. 動脈血ガス所見を説明できる。
7. 気管支内視鏡検査の適応, 意義, 合併症を説明できる。
8. 喀痰検査 (喀痰細胞診, 喀痰培養) の意義を説明できる。
9. 総合的病態について説明できる。

### 【経験すべき疾患】

- (1) 呼吸不全  
急性呼吸不全, 慢性呼吸不全, 急性呼吸促迫症候群
- (2) 呼吸器感染症  
気管支炎, 肺炎, 真菌症, 抗酸菌症, 誤嚥性肺炎, 肺化膿症/膿胸
- (3) 閉塞性換気障害をきたす肺疾患  
慢性閉塞性肺疾患 (COPD), 気管支喘息,
- (4) びまん性肺疾患  
間質性肺炎, 膠原病関連間質性肺炎, 過敏性肺炎, 放射線性肺炎, じん肺症 (珪肺, 石綿肺)

(5) 肺循環障害

肺性心, 肺血栓塞栓症, 肺高血圧症

(6) 免疫学的機序による肺疾患

サルコイドーシス, 好酸球性肺炎, 薬剤性肺炎

(7) 気管支拡張症とその他の肺疾患

気管支拡張症, びまん性汎細気管支炎, 肺リンパ脈管筋腫症, 肺胞タンパク症

(8) 胸膜・縦隔疾患

胸膜炎, 気胸, 縦隔気腫

(9) 腫瘍性疾患

肺癌, 転移性肺腫瘍, 縦隔腫瘍, 胸膜中皮腫

【医学生に許容される医行為】

全科共通 (5.1) 医行為を参照

【実習スケジュール】

1 週目

|   | 8:00                      | 9:00                            | 10:00 | 11:00 | 12:00           | 13:00                            | 14:00                    | 15:00                        | 16:00                    | 17:00                          |
|---|---------------------------|---------------------------------|-------|-------|-----------------|----------------------------------|--------------------------|------------------------------|--------------------------|--------------------------------|
| 月 | 8:00～<br>気管支鏡カンファ<br>3階CR | 病棟実習                            |       |       |                 | 病棟実習                             |                          |                              | 16:00～<br>合同カンファ<br>3階CR |                                |
| 火 |                           | 8:30～<br>抄読会、カンファレンス、回診<br>3階CR |       |       | 12:00～<br>製薬説明会 |                                  | 14:00～<br>気管支鏡検査<br>放射線科 |                              |                          | 17:30～<br>WEBカ<br>ンファ<br>(カ&ム) |
| 水 |                           | 病棟実習                            |       |       |                 | 病棟実習                             |                          | 15:00～<br>COPD講義(高橋)<br>3階CR | 病棟実習                     |                                |
| 木 |                           | 病棟実習                            |       |       |                 | 病棟実習                             | 14:00～<br>気管支鏡検査<br>放射線科 |                              |                          | 16:30～<br>X線カンファ<br>(隔週)       |
| 金 |                           | 病棟実習                            |       |       |                 | 13:30～<br>呼吸リハ<br>カンファ<br>(3重NS) | 病棟実習                     |                              |                          |                                |

2 週目

|   | 8:00                      | 9:00                            | 10:00 | 11:00 | 12:00           | 13:00 | 14:00                            | 15:00                    | 16:00 | 17:00                    |                               |  |
|---|---------------------------|---------------------------------|-------|-------|-----------------|-------|----------------------------------|--------------------------|-------|--------------------------|-------------------------------|--|
| 月 | 8:00～<br>気管支鏡カンファ<br>3階CR |                                 | 病棟実習  |       |                 |       | 病棟実習                             |                          |       | 16:00～<br>合同カンファ<br>3階CR |                               |  |
| 火 |                           | 8:30～<br>抄読会、カンファレンス、回診<br>3階CR |       |       | 12:00～<br>製薬説明会 |       | 14:00～<br>気管支鏡検査<br>放射線科         |                          |       |                          | 17:30～<br>WEBカ<br>ンファ<br>(がム) |  |
| 水 |                           |                                 | 病棟実習  |       |                 |       | 病棟実習                             |                          |       |                          |                               |  |
| 木 |                           |                                 | 病棟実習  |       |                 |       | 病棟実習                             | 14:00～<br>気管支鏡検査<br>放射線科 |       |                          | 16:30～<br>X線カンファ<br>(隔週)      |  |
| 金 |                           |                                 | 病棟実習  |       |                 |       | 13:30～<br>呼吸リハ<br>カンファ<br>(3重NS) | 病棟実習                     |       |                          |                               |  |

### 3 週目

|   | 8:00                      | 9:00                            | 10:00 | 11:00 | 12:00           | 13:00                            | 14:00                    | 15:00                      | 16:00                    | 17:00                         |
|---|---------------------------|---------------------------------|-------|-------|-----------------|----------------------------------|--------------------------|----------------------------|--------------------------|-------------------------------|
| 月 | 8:00～<br>気管支鏡カンファ<br>3階CR | 病棟実習                            |       |       |                 | 病棟実習                             |                          |                            | 16:00～<br>合同カンファ<br>3階CR |                               |
| 火 |                           | 8:30～<br>抄読会、カンファレンス、回診<br>3階CR |       |       | 12:00～<br>製薬説明会 | 病棟実習                             | 14:00～<br>気管支鏡検査<br>放射線科 |                            | 病棟実習                     | 17:30～<br>WEBカ<br>ンファ<br>(がん) |
| 水 |                           | 病棟実習                            |       |       |                 | 病棟実習                             |                          | 15:00～<br>喘息講義（高橋）<br>3階CR | 病棟実習                     |                               |
| 木 |                           | 病棟実習                            |       |       |                 | 病棟実習                             | 14:00～<br>気管支鏡検査<br>放射線科 |                            |                          | 16:30～<br>X線カンファ<br>(隔週)      |
| 金 |                           | 病棟実習                            |       |       |                 | 13:30～<br>呼吸リハ<br>カンファ<br>(3重NS) | 病棟実習                     |                            |                          |                               |

### 4 週目

|   | 8:00                      | 9:00                            | 10:00 | 11:00 | 12:00           | 13:00 | 14:00                            | 15:00                    | 16:00                     | 17:00                    |                               |
|---|---------------------------|---------------------------------|-------|-------|-----------------|-------|----------------------------------|--------------------------|---------------------------|--------------------------|-------------------------------|
| 月 | 8:00～<br>気管支鏡カンファ<br>3階CR |                                 | 病棟実習  |       |                 |       | 病棟実習                             |                          |                           | 16:00～<br>合同カンファ<br>3階CR |                               |
| 火 |                           | 8:30～<br>抄読会、カンファレンス、回診<br>3階CR |       |       | 12:00～<br>製薬説明会 |       | 14:00～<br>気管支鏡検査<br>放射線科         |                          |                           |                          | 17:30～<br>WEBカ<br>ンファ<br>(がん) |
| 水 |                           |                                 | 病棟実習  |       |                 |       | 病棟実習                             |                          |                           |                          |                               |
| 木 |                           |                                 | 病棟実習  |       |                 |       | 病棟実習                             | 14:00～<br>気管支鏡検査<br>放射線科 |                           |                          | 16:30～<br>X線カンファ<br>(隔週)      |
| 金 |                           |                                 | 病棟実習  |       |                 |       | 13:30～<br>呼吸リハ<br>カンファ<br>(3重NS) |                          | 15:00～<br>症例発表・評価<br>3階CR |                          |                               |

### 【評価の方法と基準】

#### 1. 評価方法

①出席状況，②回診時のプレゼンテーション，③技能や態度に関する指導医による評価，④最終週に症例呈示を総合して評価する。

#### 2. 評価基準

①無断欠席は不合格，②③④については秀，優，良，可，不可の5段階する。診療科長が総合的に5段階評価を行う。①の不合格，ないしは不可は一つでもあれば総合的に不合格とする。

### 【履修上の注意】

初日の集合時間・場所 8時・3階カンファレンスルーム

### 【オフィスアワー一覧】

巻末参照

## 5. 2 (診療科別 内科実習後期用)

(診療科名) 循環器内科

【実習主任】：野出 孝一

【実習担当者】：夏秋 政浩

### 【学修の目的と内容 期待される学修成果】

医学部卒業時までに必要な循環器疾患・腎疾患を系統だてて診療できる臨床能力を身につけるために、Phase IIIで学んだ循環器疾患に対する知識と、内科前期実習（循環器内科・腎臓内科）での経験を活かし、指導医とともに担当患者の診察、病態の考察、治療方針決定にあたる。

また、全人的診療の中での循環器内科の役割を理解し、医師として必要な態度を身につける。

### 【実習中に修得すべき能力（コンピテンシー）】

（全科共通のコンピテンシーは（5.1）参照。）

内科前期実習（循環器内科）に加え、以下の修得を目標とする。（太字が後期実習追加分）

#### （I）検 査

##### 1）心電図

- ① 標準12誘導心電図の記録ができる。
- ② 心電図の基本的な計測ができる。
- ③ 心電図における正常と異常の判断ができる。
- ④ Holter心電図の適応を述べることができる。
- ⑤ 運動負荷心電図の適応と禁忌を述べることができる。

##### 2）胸部X線検査

- ① 心陰影を構成する解剖学的部位を述べることができる。
- ② 心拡大の有無を客観的に評価できる。
- ③ 胸部X線検査において肺うっ血や胸水の有無を評価できる。

##### 3）心臓超音波検査

- ① 心臓超音波検査の原理を理解する。
- ② 正常心臓超音波検査像と心臓の構造の関係を述べることができる。
- ③ 心臓超音波検査が有用な代表的疾患（心筋梗塞・心臓弁膜症・肥大型および拡張型心筋症・心のう液貯留）におけるエコー所見を説明することができる。
- ④ 経胸壁心臓超音波検査を施行できる。
- ⑤ 経食道心臓超音波検査の適応を述べる事ができる。

##### 4）冠動脈CT 検査

- ① 冠動脈CT検査の適応と注意事項を述べる事ができる。
- ② 冠動脈CT検査での冠動脈の解剖を理解できる。

##### 5）心臓MRI検査

- ① 心臓MRI検査の適応と注意事項を述べる事ができる。
- ② 心臓MRI検査における異常所見の意味を説明できる。

#### 6) 心臓カテーテル検査

- ① 心臓カテーテル検査の適応と禁忌・合併症を述べることができる。
- ② 右心カテーテル検査の結果から循環動態を推測することができる。
- ③ 正常冠動脈の支配領域を説明することができる。

#### 7) 電気生理学的検査・アブレーション

- ① 電気生理学的検査・アブレーションが必要とされる病態を説明できる。

### (II) 診断と治療

#### 1) 診察技能

- ① バイタルおよび心臓に関する基本的診察法を実施することができる。
- ② I 音・II 音・III 音・IV 音の鑑別ができる。
- ③ III 音・IV 音が聴取される病態を説明することができる。
- ④ 代表的な心雑音から原因となる疾患を診断することができる。

#### 2) 心不全

- ① 左心不全・右心不全の症状・徴候と病態生理を関連づけることができる。
- ② ガイドラインにもとづいた心不全治療について述べることができる。
- ③ 代表的な利尿薬・循環作動薬の作用を述べることができる。
- ④ CPXの結果を解釈できる。
- ⑤ 治療継続が必要な成人先天性心疾患を挙げる事ができる。
- ⑥ 心臓リハビリテーションの適応疾患を説明できる。
- ⑦ 重症心不全患者の治療について説明できる。
- ⑧ 心疾患の緩和ケアについて説明できる。
- ⑨ 循環補助装置について説明できる。
- ⑩ 心移植について説明できる。

#### 3) 虚血性心疾患

- ① 胸痛をきたす疾患をあげ、その鑑別点を説明することができる。
- ② 心電図における虚血性変化を診断することができる。
- ③ 狭心症発作時もしくは急性心筋梗塞に対する初期対応を説明できる。
- ④ 虚血性心疾患に対する内科的治療と外科的治療の適応・選択と禁忌を説明することができる。
- ⑤ 虚血性心疾患の危険因子を挙げる事ができる。
- ⑥ 心筋梗塞後のリハビリテーションプログラムの意義を理解する。
- ⑦ 虚血性心疾患の治療適応について述べる事ができる。
- ⑧ 虚血性心疾患の高リスク群を認識し、必要な治療を述べる事ができる。

#### 4) 不整脈

- ① 代表的不整脈の心電図診断ができる。
- ② 緊急を要する不整脈の判断ができる。
- ③ 代表的な抗不整脈剤の作用を説明することができる。
- ④ ペースメーカーやアブレーションの適応を説明することができる。
- ⑤ 致死的不整脈疾患の診断と治療について述べる事ができる。

#### 5) 心筋症・心臓弁膜症

- ① 心音および心電図、X線、心エコーの結果から代表的な心筋症・心臓弁膜症の診断をすることができる。

- ② 心臓弁膜症の手術適応の時期を説明することができる。
- ③ 心臓弁膜症に対するカテーテルインターベンションについて述べる事ができる。

6) 高血圧症・生活習慣病

- ① 高血圧症・高脂血症・糖尿病・肥満と循環器疾患の関連を説明することができる。
- ② 高血圧の他臓器への影響を説明することができる。
- ③ ガイドラインに基づいた血圧の治療・管理について述べる事ができる。
- ④ 主な降圧剤の作用機序を説明し、病態に応じて選択することができる。
- ⑤ 心腎連関について説明することができる。

7) 動脈疾患・静脈疾患

- ① 閉塞性動脈硬化症および大動脈解離の診断および内科的治療について述べる事ができる。
- ② 深部静脈血栓と肺塞栓の危険因子を説明することができる。
- ③ 閉塞性動脈硬化症の治療適応について説明できる。

(Ⅲ) その他

良好な医師（医学生）－患者関係を構築することができる。

**【経験すべき疾患】**

（全科共通（5.1）経験すべき症候も参照）

内科前期実習（循環器内科）に加え、以下の疾患の経験を目標とする。（太字が後期実習追加分）

1) 心不全

心原性ショック，急性心不全，慢性心不全，左心不全，右心不全，左室拡張障害  
末期心不全

2) 虚血性心疾患

急性冠症候群（急性心筋梗塞，不安定狭心症）  
労作性狭心症，冠攣縮性狭心症，無症候性心筋虚血

3) 不整脈

頻脈性不整脈（発作性上室性頻拍，心房細動，心室性期外収縮，心室頻拍）  
徐脈性不整脈（洞不全症候群，房室ブロック）  
致死性不整脈疾患（Brugada症候群，QT延長症候群）

4) 心筋・心膜疾患

肥大型心筋症，拡張型心筋症，心筋炎，収縮性心膜炎，心嚢液貯留  
感染性心内膜炎  
心サルコイドーシス，心アミロイドーシス，高血圧性心臓病

5) 心臓弁膜症

大動脈弁狭窄症，大動脈弁閉鎖不全症，僧帽弁狭窄症，僧帽弁閉鎖不全症，僧帽弁逸脱症，三尖弁閉鎖不全症

6) 高血圧症・生活習慣病

高血圧症（本態性，二次性），糖尿病，脂質異常症，高尿酸血症，肥満

7) 肺血管疾患

肺高血圧症，急性肺塞栓/深部静脈血栓症

8) 動脈疾患・静脈疾患

大動脈解離

閉塞性動脈硬化症，バジュー病，急性肺塞栓/深部静脈血栓症

## 9) 先天性心疾患

心房中隔欠損症，心室中隔欠損症，ファロー四徴症

## 【医学生に許容される医行為】

(全科共通 (5.1) 医行為も参照)

水準Ⅰ：心電図の記録・判読・結果記載（指導医のオーディットサインを要する。），胸部X線像の読影，ベッドサイドモニター（スワングantzカテーテル圧含む）の観察・記録，抗生剤皮内反応，ACT測定，経胸壁心臓超音波検査，簡易スパイロによる呼吸機能検査，発作性上室性頻拍におけるバルサルバ法指導と頸動脈洞マッサージ（高齢者は禁忌），胸痛発作時のニトログリセリン舌下投与

水準Ⅱ：負荷心電図，耳朶・指先血などによる血糖測定，貯血用自己血採取，胸水・腹水穿刺（カテーテル挿入は除く），体表式ペースング，気管内挿管中・気管切開後の患者における吸引，医師指示簿の記載（いずれも指導医の厳密な監視・指導・二重チェック必要。オーディットサイン必要）

水準Ⅲ：経食道心臓超音波検査，心臓カテーテル検査，カテーテルインターベンション，電気生理学的検査，経静脈的体外式ペースメーカー挿入，ペースメーカー・ICD植え込み，IABP，PCPS，胸腔・腹腔内カテーテル挿入，中心静脈穿刺，動脈ライン確保，輸血，気管内挿管（予定手術時の挿管は除く），予後・治療方針に関連した説明

## 【実習スケジュール】

各コースによって個別に日程が異なる。実習初日に連絡する。

実習初日の月曜日が休日の場合のオリエンテーションは，火曜日の循環器内科カンファレンス参加後に実施する。

## 【評価の方法と基準】

各コースにおける診療見学・経験，適宜指示される課題，実習態度等により総合的に評価される。

注意：先生方に用務が入った場合は別日に都度調整があります。

|   |    |                                    |
|---|----|------------------------------------|
| 月 | AM | 9:00-【初日オリエンテーション】夏秋（臨床研究棟4階2454室） |
|   | PM |                                    |
| 火 | AM | 9:30-【循環器内科カンファレンス】（臨床小講堂）         |
|   | PM |                                    |
| 水 | AM |                                    |
|   | PM |                                    |
| 木 | AM | ● 9:00-【循環器新患外来】夏秋（隔週）             |
|   | PM |                                    |
| 金 | AM |                                    |
|   | PM |                                    |

下線は全員参加です。

心臓カテーテル検査・PCI・デバイス手術：水・金：9：00～、火・木：13：30～

カテーテルアブレーション：月・木・金：9：00～

**【履修上の注意】**

(全科共通 (5.1) 履修上の注意も参照)

実習初日は9時00分までに臨床研究棟4階2454室に集合する。

実習までに3年時PhaseⅢ循環器についての復習をしておくこと。

医学生としてふさわしい服装・態度に留意する。聴診器は各自持参すること。

無断欠席は厳禁とする。

**【オフィスアワー一覧】**

巻末参照

## 5. 2 (診療科別 内科実習後期用)

(診療科名) 腎臓内科

【実習主任】：宮園 素明

【実習担当者】：福田 誠, 池田 裕貴, 山崎 政虎, 野中 枝理子

### 【学修の目的と内容 期待される学修成果】

臨床実習前半での動機付けとそれを補い学修した知識を持って、医師になった気持ちでスタッフと同じ空間・同じ動きの中で過ごし、学生として可能な範囲内で実臨床に取り組み、さらに知識・技能、そして意識を高める。

当科の担当領域である腎臓は、臓器の重量では体重の5%にも満たない小さなものであるが、循環血液の20%以上が流れ込んでおり、絶えず全身の様々な変化を感知しその影響を受け、またその修復に大きな寄与をしている。従って腎臓内科では、おのずと腎疾患のみならず、全身の様々な問題を抱えた症例を扱うことになり、総合内科的な知識や技能を身に着けるためには絶好の診療科と言える。また本科では末期腎不全に至った症例の血液浄化療法や、内シャント手術といった外科的手技も行っており、腎臓疾患を通じて医師として従事する上で必要とされる基本的診療力を養うことが期待される。

### 【実習中に修得すべき能力（コンピテンシー）】

(全科共通のコンピテンシーは (5.1) 参照。)

1. 検尿から得られる情報から、病態を想定して次の検査計画を示すことができる。
2. 腎機能検査の種類とそれぞれの特徴を踏まえて、個々の患者への適応ができる。
3. 腎疾患患者の検査所見を評価し、次のステップを示すことができる。
4. 腎生検の方法を理解し、患者ごとに適応と禁忌の評価ができる。
5. 超音波装置による腎臓の描出と、簡単な評価ができる。
6. 個々の腎疾患患者に、病状に応じた食事療法の原則を指示できる。
7. 腎疾患における薬物治療の適応と副作用を踏まえて、治療計画が立案できる。
8. 主な水電解質異常について病因、病態生理を踏まえた輸液療法が立案できる。
9. 主な利尿剤、降圧剤を作用機序と副作用を踏まえて、簡単な使い分けができる。
10. 腹膜灌流、血液透析、腎移植、各々の原理、適応、効果、限界、合併症を踏まえて、末期腎不全患者に治療の選択を示せる。

### 【経験すべき疾患】

(全科共通 (5.1) 経験すべき症候も参照)

脱水、浮腫、血尿・タンパク尿

電解質異常：高・低Na血症、高・低K血症、高・低Ca血症、高P血症

代謝性アシドーシス・アルカローシス

腎不全：急性腎不全（急性腎障害）、慢性腎不全（慢性腎臓病）、慢性腎不全の合併症、透析導入

急性糸球体腎炎、慢性糸球体腎炎（IgA 腎症）、ネフローゼ症候群、急速進行性糸球体腎炎

高血圧による腎障害（腎硬化症）

全身性疾患による腎障害：糖尿病性腎症、ループス腎炎など

遺伝性腎疾患：多発性嚢胞腎など

## 【医学生に許容される医行為】

（全科共通（5.1）医行為も参照）

水準Ⅰ：血液浄化機器の準備，検尿（沈渣まで）

水準Ⅱ：血液浄化機器の操作，血液浄化開始時の介助

水準Ⅲ：腎生検

内シャント設置手術

CAPDカテーテル挿入・抜去手術

体外循環用カテーテル留置術

経皮的血管拡張術

（注）

水準Ⅰ：指導医の指導・監視のもと実施が許される医行為

水準Ⅱ：受け持ち患者のみを対象に，状況によって，指導医の指導・監視のもとに実施が許される医行為

水準Ⅲ：原則として指導医の実施の介助または見学にとどめ，実施させない医行為

## 【実習スケジュール】

|   | 8:30 | 9:00 | 10:00              | 11:00 | 12:00 | 13:00 | 14:00           | 15:00           | 16:00         | 17:00         | 17:15 |
|---|------|------|--------------------|-------|-------|-------|-----------------|-----------------|---------------|---------------|-------|
| 月 | 透析実習 |      | 手術見学（手術室）          |       |       |       |                 |                 |               |               |       |
| 火 |      |      | 研修医の病棟業務<br>に同行    |       |       |       | 腎生検<br>（不定期/病棟） | レクチャー           | 透析<br>カンファレンス |               |       |
| 水 | 透析実習 |      |                    |       |       |       |                 |                 |               |               |       |
| 木 |      | 抄読会  | 入院患者カンファレンス、<br>回診 |       |       |       |                 | 腎生検<br>（不定期/病棟） |               | 病理<br>カンファレンス |       |
| 金 | 透析実習 |      | 研修医の病棟業務<br>に同行    |       |       |       |                 | レポート<br>発表      |               |               |       |

## 【評価の方法と基準】

指導医を中心に，関係者すべてからの意見を総合して評価する。

無断欠席は厳禁とする。

## 【履修上の注意】

（全科共通（5.1）履修上の注意も参照）

実習初日は8時30分に透析室に集合する。

（火曜日が初日の場合も，8時30分に透析室に集合）

実習までに3年時PhaseⅢの腎疾患について十分な復習と前半の実習で学習した点を十分復習しておくこと。

## 【オフィスアワー一覧】

巻末参照

## 5. 2 (診療科別 内科実習後期用)

(診療科名) 消化器内科

【実習主任】：江崎 幹宏

【実習担当者】：下田 良、鶴岡 ななえ、山口 太輔、芥川 剛至、島村 拓弥

### 【学修の目的と内容 期待される学修成果】

前期実習での経験をもとに、診療チームの一員として診療に参加し、診療の実際について学修する。医療スタッフの監督下に診療行為を行うことにより診療技術、問題点の抽出およびその解決、医療スタッフ間の連携などについて修得することを期待する。

消化器疾患の診断・治療計画の策定、診療録記載、症例プレゼンテーション、インフォームド・コンセント、医療スタッフへの連絡・指示および検査・治療の介助などを経験し医療の実践を学ぶ。

### 【実習中に修得すべき能力（コンピテンシー）】

(全科共通のコンピテンシーは (5.1) 参照。)

1. 症候および腹部診察所見から診断に必要な検査を挙げることができる。
2. 検査、治療の内容を理解しインフォームド・コンセントをとることができる。
3. 消化器救急患者、特に消化管出血に対する初期対応ができる。
4. 消化器腫瘍の検査・治療の介助ができる。
5. 炎症性腸疾患における治療薬の適応、作用機序、副作用について説明できる。

### 【経験すべき疾患】

(全科共通 (5.1) 経験すべき症候も参照)

消化管出血(食道静脈瘤、出血性胃十二指腸潰瘍、大腸憩室出血)

消化器腫瘍 (食道癌、胃癌、大腸癌、胃腺腫、大腸腺腫)

炎症性腸疾患 (クローン病、潰瘍性大腸炎)

腸閉塞、逆流性食道炎、ヘリコバクターピロリ感染症、便秘症

総胆管結石

### 【医学生に許容される医行為】

(全科共通 (5.1) 医行為も参照)

全科共通の医行為に加えて、

レベルⅠ：腹部超音波検査

レベルⅡ：消化管造影検査、消化管内視鏡検査、超音波内視鏡検査、内視鏡的逆行性胆管膵管造影検査、腹腔穿刺検査・治療の介助

## 【実習スケジュール】

|   | 8:00                                              | 9:00        | 10:00 | 11:00       | 12:00              | 13:00 | 15:00                         | 16:00 | 17:00 |
|---|---------------------------------------------------|-------------|-------|-------------|--------------------|-------|-------------------------------|-------|-------|
| 月 | オリエンテーション（2階光学医療診療部医局）<br>（第一週）<br>病棟／内視鏡検査（内視鏡室） |             |       |             |                    |       | 放射線カンファ<br>（放射線科CR）・消<br>化器回診 |       |       |
| 火 | 消化器カンファ<br>（内視鏡室）                                 | 内視鏡検査（内視鏡室） |       | 内視鏡治療（内視鏡室） |                    |       | 治療前カンファ（4<br>階CR2）            |       |       |
| 水 | 病棟／内視鏡検査（内視鏡室）                                    |             |       |             |                    |       |                               |       |       |
| 木 | 病棟／内視鏡検査（内視鏡室）                                    |             |       |             | 内視鏡治療（内視鏡室）        |       |                               |       |       |
| 金 | 病棟／内視鏡検査（内視鏡室）                                    |             |       |             | 評価（最終週）<br>（4階CR2） |       |                               |       |       |
| 土 |                                                   |             |       |             |                    |       |                               |       |       |

第1週月曜朝：オリエンテーション 集合場所：4階西 カンファレンスルーム

第3週月曜午後：抄読会（担当症例に関連する論文を紹介する）

第4週金曜午後：まとめのカンファレンス

## 【評価の方法と基準】

実習態度（出席状況、積極性など）ならびに診療録の記載内容、プレゼンテーションの内容や課題に対する考察について実習担当医と主任が協議して評価を行う。

秀 (90-100点)、優 (80-89点)、良 (70-79点)、可 (60-69点) を合格とする。

## 【履修上の注意】

（全科共通 (5.1) 履修上の注意も参照）

実習のオリエンテーションは、第一週の午前8時30分から4階西カンファレンスルームで行う。所定の白衣を着用し実習にさしつかえないような格好で臨むことが重要である。あらかじめクリニカルクラークシップの目標を記載しておく必要がある。

## 【オフィスアワー一覧】

| 氏名    | オフィスアワー | 連絡先 | PHS | 部屋       | 備考  |
|-------|---------|-----|-----|----------|-----|
| 江崎 幹宏 | 毎木午後    |     |     | 2442     | 要予約 |
| 下田 良  | 毎木午後    |     |     | 北棟2階教員室2 | 要予約 |
| 鶴岡ななえ | 毎木午後    |     |     | 2460     | 要予約 |
| 芥川 剛至 | 毎水午後    |     |     | 2460     | 要予約 |
| 島村 拓弥 | 毎木午後    |     |     | 2460     | 要予約 |
| 山口 太輔 | 毎木午後    |     |     | 2460     | 要予約 |

## 5. 2 (診療科別 内科実習後期用)

(診療科名) 肝臓・糖尿病・内分泌内科

【実習主任】：桑代 卓也

【実習担当者】：美奈川 仁美(糖尿病・内分泌)、窪津 祥仁(肝・胆・膵)

### 【学修の目的と内容 期待される学修成果】

これまでの基礎的学習に加え、前期実習で修得した臨床的な知識や技能をもとに、診療チームの一員として他の医療スタッフと連携して実際の診療に参加し、診療の実践について学修する。医療スタッフの監督下に患者や患者家族とコンタクトを取り、診療行為を行う。これらにより診療技術、問題点の抽出およびその解決、研究課題の探索、などについて修得することを期待する。

肝臓・糖尿病・内分泌内科は肝・胆・膵疾患と内分泌・代謝(糖尿病)疾患の2分野と多様な疾患を経験することにより、統合的な管理、包括的な診療知識を学修することで臓器を診るにとどまらず、患者特性を評価し、入院から退院後の生活まで考慮した多職種によるマネジメントプランの策定を学修する。

### 【実習中に修得すべき能力(コンピテンシー)】

(全科共通のコンピテンシーは(5.1)および(5.19)を参照。)

- 1) 肝臓・胆嚢・膵疾患および内分泌・代謝(糖尿病)疾患の診察ができる
- 2) 患者の生活や社会的背景に配慮する
- 3) X線検査(胸部単純撮影、腹部単純撮影、上部・下部消化管造影検査、ERCP、血管造影)の実施法を理解し、病的所見と正常像の判断ができる。
- 4) 腹部エコー、頸動脈エコー、甲状腺エコー、造影CT、造影MRIの病的所見と正常像の判断ができる。
- 5) 生検と細胞診の意義と適応を説明できる
- 6) 肝臓・胆嚢・膵疾患および内分泌・代謝(糖尿病)疾患の治療について、薬物療法、食事療法、運動療法、動機付け面接法、周術期管理を学習し、患者及び患者家族に説明できる。
- 7) 多職種によるチーム医療および地域連携を学修する。
- 8) 患者背景を考慮した社会資源を組み込んだマネジメントプランの策定をできる。

### 【経験すべき疾患】

(全科共通(5.1)の経験すべき症候も参照。)

1. 肝疾患、2. 胆道疾患、3. 膵臓疾患、4. 腫瘍性疾患、5. 糖代謝異常、
6. 脂質代謝異常、7. 視床下部・下垂体疾患、8. 副腎皮質・髄質疾患、
9. 甲状腺疾患、10. 副甲状腺疾患とカルシウム代謝異常

### 【医学生に許容される医行為】

(全科共通(5.1)の医行為も参照。)

- ① 指導医の指導・監視の下で実施されるべき行為(レベル1)

◆検査手技：超音波検査(頸動脈・甲状腺)、血管内皮機能検査、肝硬度検査  
自己血糖測定、神経伝導速度、フットケア(検査)

② 指導医の実施の介助・見学にとどめることが推奨される医行為（レベル2）

◆検査手技：内分泌負荷試験、甲状腺穿刺細胞診、ERCP、EUS、

◆治療：患者の処方（内服薬、注射薬、点滴など）のオーダー、食事指示、  
インスリン自己注射指導、人工膵臓による血糖管理、フットケア（治療）、  
患者・家族への症状説明、診療計画の作成

### 【実習スケジュール】

スケジュール詳細については随時連絡いたします。

### 【評価の方法と基準】

出席状況ならびに症例に対するプレゼンテーション、カルテ記載内容やレポート、態度に関する評価を指導医と多職種（360°）、診療科長が協議して総合評価する。

秀（90-100点）、優（80-89点）、良（70-79点）、可（60-69点）を合格とする。

### 【履修上の注意】

（全科共通（5.1）履修上の注意も参照）

実習初日は4階西病棟カンファレンス室に9：00に集合

### 【オフィスアワー一覧】

| 氏名    | オフィスアワー | 連絡先 | PHS | 部屋   | 備考  |
|-------|---------|-----|-----|------|-----|
| 桑代 卓也 | 毎火午後    |     |     | 2450 | 要予約 |
| 窪津 祥仁 | 毎火午後    |     |     | 2450 | 要予約 |
| 美奈川仁美 | 毎火午後    |     |     | 2450 | 要予約 |

## 5. 2 (診療科別 一般・消化器外科, 胸部外科 2週間型用)

(診療科名) 一般・消化器外科

【実習主任】：能城 浩和

【実習担当者】：松藤 祥平

### 【学修の目的と内容 期待される学修成果】

一般・消化器外科患者に接するために必要な基本的態度・知識を身につける。

また手術の基本手技を身につける。

### 【実習中に修得すべき能力（コンピテンシー）】

(全科共通のコンピテンシーは (5.1) 参照。)

#### 1 基本的態度

- 1.1 患者さんと適切なコミュニケーションを持つことができる。特に悪性疾患を持つ患者さんに対しては診断・治療方針の発言には十分に配慮できる。
- 1.2 医療スタッフと適切な連携をとることができる。
- 1.3 身だしなみ、挨拶、時間厳守等、社会人として必要な態度・行動をとることができる。

#### 2 検 査

- 2.1 消化器疾患、一般外科疾患（乳腺疾患、外傷など）に必要な血液生化学検査とその正常値を述べることができる。
- 2.2 レントゲン線検査（胸部単純撮影、腹部単純撮影）や内視鏡検査（上部消化管、下部消化管、ERCP等）、CTやMRI検査の目的、必要性について説明できる。さらにその所見を述べることができる。

#### 3 診 断

- 3.1 消化器症状および腹部所見（腹痛、下痢、便秘、悪心、嘔吐、吐血、食思不振、黄疸、圧痛点、腫瘤形成、腸蠕動音など）からどのような消化器疾患が考えられるか、その鑑別診断を述べることができる。
- 3.2 診察所見と検査所見から総合的な診断ができる。

#### 4 治 療

- 4.1 診断を基に治療方針をたてることができる。
- 4.2 手術の適応を述べることができる。
- 4.3 手術術式の概略を述べることができる。

#### 5 処 置

- 5.1 手洗いができ、滅菌手術衣着用のガウンテクニックができる。
- 5.2 結紮・縫合ができる。

### 【経験すべき疾患】

(全科共通 (5.1) 経験すべき症候も参照)

胃癌、大腸癌、肝臓癌、膵臓癌、乳癌

胆嚢炎、腸閉塞、腸管穿孔、ヘルニア

## 【医学生に許容される医行為】

(全科共通 (5.1) 医行為も参照)

水準Ⅰ：腹部超音波検査、乳房超音波検査、簡易呼吸機能検査、手術助手（縫合・結紮）

水準Ⅱ：創傷処置

(注)

水準Ⅰ：指導医の指導・監視のもと実施が許される医行為

水準Ⅱ：受け持ち患者のみを対象に、状況によって、指導医の指導・監視のもとに実施が許される医行為

## 【実習スケジュール】

|       | 月          | 火                                    | 水                 | 木               | 金          |
|-------|------------|--------------------------------------|-------------------|-----------------|------------|
| 7:00  |            |                                      |                   | 7:30 - 術後 Conf  |            |
| 8:00  | 8:10 手術搬入  | 7:30 - 術後 Conf<br>抄読会<br>(病棟)        | 8:10 手術搬入         | ビデオセミナー<br>(病棟) | 8:10 手術搬入  |
| 9:00  |            | 9:00 -<br>外 来                        | 9:00 -<br>外 来(乳腺) | 9:00 -<br>外 来   |            |
|       | 10:30 包交回診 | 10:30 包交回診                           | 10:30 包交回診        | 10:30 包交回診      | 10:30 包交回診 |
| 13:00 |            |                                      |                   |                 |            |
| 16:00 |            | 15:30 -<br>術前 Conf<br>(医局)           |                   |                 |            |
| 17:00 |            | 17:00 -<br>Clinical Conf(隔週)<br>(医局) |                   |                 |            |
|       | グループ回診     | グループ回診                               | グループ回診            | グループ回診          | グループ回診     |

回診やカンファレンス開始は時間厳守！

## 【評価の方法と基準】

実習の最終週に症例およびテーマ課題について5～10分程度でプレゼンテーションを行い、その内容を実習担当者が評価する。また実習の出席状況、態度も評価内容に加味する。評価が「不可」であった場合は追加の実習を行う。

## 【履修上の注意】

(全科共通 (5.1) 履修上の注意も参照)

実習初日の午前8時30分に4階東病棟に名札・白衣を着用し集合すること。

実習中は学生専用PHS携帯すること。

患者の診断・治療方針に対する発言および個人情報の取り扱いには十分に注意すること。

遅刻・欠席は事前に連絡すること。

## 【オフィスアワー一覧】

巻末参照

## 5. 2 (診療科別 一般・消化器外科, 胸部外科 4 週間型用)

(診療科名) 一般・消化器外科

【実習主任】：能城 浩和

【実習担当者】：松藤 祥平

### 【学修の目的と内容 期待される学修成果】

- ・一般・消化器外科患者に接するために必要な基本的態度・知識を身につける。
- ・外科的疾患の理解と併存疾患を評価し、手術適応について考察することができる。またそれを患者さんに平易な言葉で説明することができる。
- ・医療安全への配慮のもと周術期管理を理解し、併発する可能性がある術後合併症が理解できる。

### 【実習中に修得すべき能力（コンピテンシー）】

(全科共通のコンピテンシーは (5.1) 参照。)

#### 1 基本的態度

- 1.1 患者さんと適切なコミュニケーションを持つことができる。特に悪性疾患を持つ患者さんに対しては診断・治療方針の発言には十分に配慮できる。
- 1.2 医療スタッフと適切な連携をとることができる。
- 1.3 身だしなみ、挨拶、時間厳守等、社会人として必要な態度・行動をとることができる。

#### 2 検 査

- 2.1 消化器疾患、一般外科疾患（乳腺疾患、外傷など）に必要な血液生化学検査とその正常値を述べることができる。
- 2.2 レントゲン線検査（胸部単純撮影、腹部単純撮影）や内視鏡検査（上部消化管、下部消化管、ERCP等）、CTやMRI検査の目的、必要性について説明できる。さらにその所見を述べることができる。

#### 3 診 断

- 3.1 消化器症状および腹部所見（腹痛、下痢、便秘、悪心、嘔吐、吐血、食思不振、黄疸、圧痛点、腫瘤形成、腸蠕動音など）からどのような消化器疾患が考えられるか、その鑑別診断を述べることができる。
- 3.2 診察所見と検査所見から総合的な診断ができる。

#### 4 治 療

- 4.1 診断を基に治療方針をたてることができる。
- 4.2 手術の適応を述べることができる。
- 4.3 手術術式の概略を述べることができる。

#### 5 処 置

- 5.1 手洗いができ、滅菌手術衣着用のガウンテクニックができる。
- 5.2 結紮・縫合ができる。

### 【経験すべき疾患】

(全科共通(5.1) 経験すべき症候も参照)

胃癌、大腸癌、肝臓癌、膵臓癌、乳癌  
胆嚢炎、腸閉塞、腸管穿孔、ヘルニア

## 【医学生に許容される医行為】

(全科共通 (5.1) 医行為も参照)

水準Ⅰ：腹部超音波検査、乳房超音波検査、簡易呼吸機能検査、手術助手（縫合・結紮）

水準Ⅱ：創傷処置

(注)

水準Ⅰ：指導医の指導・監視のもと実施が許される医行為

水準Ⅱ：受け持ち患者のみを対象に、状況によって、指導医の指導・監視のもとに実施が許される医行為

## 【実習スケジュール】

|       | 月          | 火                                    | 水                 | 木                                 | 金          |
|-------|------------|--------------------------------------|-------------------|-----------------------------------|------------|
| 7:00  |            |                                      |                   |                                   |            |
| 8:00  | 8:10 手術搬入  | 7:30 - 術後 Conf<br>抄読会<br>(病棟)        | 8:10 手術搬入         | 7:30 - 術後 Conf<br>ビデオセミナー<br>(病棟) | 8:10 手術搬入  |
| 9:00  |            | 9:00 -<br>外 来                        | 9:00 -<br>外 来(乳腺) | 9:00 -<br>外 来                     |            |
|       | 10:30 包交回診 | 10:30 包交回診                           | 10:30 包交回診        | 10:30 包交回診                        | 10:30 包交回診 |
| 13:00 |            |                                      |                   |                                   |            |
| 16:00 |            | 15:30 -<br>術前 Conf<br>(医局)           |                   |                                   |            |
| 17:00 |            | 17:00 -<br>Clinical Conf(隔週)<br>(医局) |                   |                                   |            |
|       | グループ回診     | グループ回診                               | グループ回診            | グループ回診                            | グループ回診     |

回診やカンファレンス開始は時間厳守！

## 【評価の方法と基準】

実習の最終週に症例およびテーマ課題について5～10分程度でプレゼンテーションを行い、その内容を実習担当者が評価する。また実習の出席状況、態度も評価内容に加味する。評価が「不可」であった場合は追加の実習を行う。

## 【履修上の注意】

(全科共通 (5.1) 履修上の注意も参照)

実習初日の午前8時00分に4階東病棟に名札・白衣を着用し集合すること。

実習中は学生専用PHS携帯すること。

患者の診断・治療方針に対する発言および個人情報の取り扱いには十分に注意すること。

遅刻・欠席は事前に連絡すること。

## 【オフィスアワー一覧】

巻末参照

## 5. 2 (診療科別 一般・消化器外科, 胸部外科 2週間型用)

(診療科名) 胸部・心臓血管外科

【実習主任】：(心臓血管外科) 蒲原 啓司、(呼吸器外科) 平塚 昌文

【実習担当者】：(心臓血管外科) 柚木 純二、伊藤 学、諸隈 宏之、陣内 宏紀、林 奈宜、  
七條 正英、(里 学 好生館)  
(呼吸器外科) 宮原 尚文、手石方 崇志、(武田 雄二 好生館)

### 【学修の目的と内容 期待される学修成果】

臨床実習を通じて外科的循環器・呼吸器疾患の基本的知識と技能を修得し、患者の問題を正しくとらえ解決する能力を養う。

### 【実習中に修得すべき能力（コンピテンシー）】

(全科共通のコンピテンシーは (5.1) 参照。)

- 1) 患者の病歴のとり方に習熟する。
- 2) 身体検査を全身にわたって行い、異常所見を要約して述べることができる。
- 3) POSに従って病歴と現症を正しく記載することができる。
- 4) 病歴と現症をもとにして問題リストを作成することができる。
- 5) それに基づいて初期検査計画と治療計画を立てることができる。
- 6) 主要な心疾患、血管疾患、呼吸器疾患のX線像、CT像、MRI像、血管造影などを読影できる。
- 7) 主要な疾患の手術適応を述べることができる。
- 8) 主な手術々式の概略を述べることができる。
- 9) 心臓手術の補助手段（人工心肺、ECMO、IABP、IMPELLA など）の原理を説明できる。
- 10) 血行動態の各種モニターの意義を理解できる。
- 11) 術後管理の診療に参加し、血液ガス、電解質などの緊急検査を施行できる。
- 12) 症例検討会において受持患者を要領よくプレゼンテーションできる。
- 13) 胸部外科の手術に手洗いして参加し、手術の流れを理解することができる。

### 【経験すべき疾患】

(全科共通 (5.1) 経験すべき症候も参照)

(心臓血管外科)

心不全、虚血性心疾患、不整脈、弁膜症、心筋・心膜疾患、先天性心疾患、動脈疾患、静脈・リンパ管疾患、腫瘍性疾患

(呼吸器外科)

呼吸不全、呼吸器感染症、閉塞性換気障害・拘束性換気障害をきたす肺疾患、  
肺循環疾患、胸膜・縦隔疾患、腫瘍性疾患

### 【医学生に許容される医行為】

(全科共通 (5.1) 医行為も参照)

特に、一般手技、外科手技を中心とする。

## 【実習スケジュール】

|   | 7:30         | 8:30                 | 10:30-13:00                      | 12:45 | 13:30 | 14:00                            | 15:00         | 16:00                          | 17:00               | 18:00                     |
|---|--------------|----------------------|----------------------------------|-------|-------|----------------------------------|---------------|--------------------------------|---------------------|---------------------------|
| 月 | カンファレンス(ICU) |                      | 胸部外科専門外来<br>(呼吸器外科)<br>手術        |       |       | 胸部外科専門外来<br>(心臓血管外科・呼吸器外科)<br>手術 |               | 呼吸器<br>合同カンファ<br>レンス           | カンファ<br>レンス(医<br>局) | 循環器<br>合同カン<br>ファレ<br>レンス |
| 火 | 抄読会<br>(ICU) | 手術報告<br>(ICU)        | 胸部外科専門外来<br>(心臓血管外科・呼吸器外科)<br>手術 | 医局会   | 回診    | 症<br>例<br>検<br>討                 | 術前カンファ<br>レンス | 麻酔科<br>カン<br>ファ<br>レ<br>ン<br>ス | 医<br>局<br>会         |                           |
| 水 | カンファレンス(ICU) |                      | 胸部外科専門外来(呼吸器外科) AM<br>手術         |       |       |                                  |               |                                | カンファ<br>レンス(医<br>局) |                           |
| 木 | カンファレンス(ICU) | 下肢救<br>済カンファ<br>(3西) | 手術                               |       |       |                                  |               |                                | カンファ<br>レンス(医<br>局) |                           |
| 金 | カンファレンス(ICU) | 回診                   | 手術                               |       |       | 学生評価<br>(第2週のみ)                  |               |                                | カンファ<br>レンス(医<br>局) |                           |
| 土 |              |                      |                                  |       |       |                                  |               |                                |                     |                           |

胸部外科医局 TEL : 0952-34-2345 FAX : 0952-34-2061

## 【評価の方法と基準】

### 1) 評価方法

出席状況ならびに症例に関するプレゼンテーション、医行為記録表に基づく診療に対する積極性、技能や態度に関する実習担当者による評価、自己評価、学生相互評価を総合して、実習主任が評価する。

### 2) 評価基準

- ・実習については医学生として診療参加可能な能力であることを合格基準とする。

## 【履修上の注意】

(全科共通 (5.1) 履修上の注意も参照)

- ・初日はICUカンファレンスルームに7時30分に集合することとする。
- ・担当患者の手術時には手洗い実習を行うため爪をきちんと切ってくる。
- ・欠席する場合は事前に理由を実習担当者に報告する。無断欠席の場合は不合格となるので注意する。

## 【オフィスアワー一覧】

巻末参照

## 5. 2 (診療科別 一般・消化器外科, 胸部外科 4週間型用)

(診療科名) 胸部・心臓血管外科

【実習主任】：(心臓血管外科) 蒲原 啓司、(呼吸器外科) 平塚 昌文

【実習担当者】：(心臓血管外科) 柚木 純二、伊藤 学、諸隈 宏之、陣内 宏紀、林 奈宜、七條 正英  
(呼吸器外科) 宮原 尚文、手石方 崇志

### 【学修の目的と内容 期待される学修成果】

臨床実習を通じて外科的循環器・呼吸器疾患の基本的知識と技能を修得し、患者の問題を正しくとらえ解決する能力を養う。

### 【実習中に修得すべき能力（コンピテンシー）】

(全科共通のコンピテンシーは(5.1) 参照。)

- 1) 患者の病歴のとり方に習熟する。
- 2) 身体検査を全身にわたって行い、異常所見を要約して述べることができる。
- 3) POSに従って病歴と現症を正しく記載することができる。
- 4) 病歴と現症をもとにして問題リストを作成することができる。
- 5) それに基づいて初期検査計画と治療計画を立てることができる。
- 6) 主要な心疾患、血管疾患、呼吸器疾患のX線像、CT像、MRI像、血管造影などを読影できる。
- 7) 主要な疾患の手術適応を述べることができる。
- 8) 主な手術々式の概略を述べることができる。
- 9) 心臓手術の補助手段(人工心肺、ECMO、IABP、IMPELLAなど)の原理を説明できる。
- 10) 血行動態の各種モニターの意義を理解できる。
- 11) 術後管理の診療に参加し、血液ガス、電解質などの緊急検査を施行できる。
- 12) 症例検討会において受診患者を要領よくプレゼンテーションできる。
- 13) 胸部外科の手術に手洗いして参加し、手術の流れを理解することができる。

### 【経験すべき疾患】

(全科共通 (5.1) 経験すべき症候も参照)

(心臓血管外科)

心不全、虚血性心疾患、不整脈、弁膜症、心筋・心膜疾患、先天性心疾患、動脈疾患、静脈・リンパ管疾患、腫瘍性疾患

(呼吸器外科)

呼吸不全、呼吸器感染症、閉塞性換気障害・拘束性換気障害をきたす肺疾患、肺循環疾患、胸膜・縦隔疾患、腫瘍性疾患

### 【医学生に許容される医行為】

(全科共通 (5.1) 医行為も参照)

特に、一般手技、外科手技を中心とする。

## 【実習スケジュール】

|   | 7:30         | 8:30                 | 10:30－13:00                      | 12:45 | 13:30 | 14:00                            | 15:00         | 16:00                      | 17:00               | 18:00                    |
|---|--------------|----------------------|----------------------------------|-------|-------|----------------------------------|---------------|----------------------------|---------------------|--------------------------|
| 月 | カンファレンス(ICU) |                      | 胸部外科専門外来<br>(呼吸器外科)<br>手術        |       |       | 胸部外科専門外来<br>(心臓血管外科・呼吸器外科)<br>手術 |               | 呼吸器<br>合同カンファ<br>レンス       | カンファ<br>レンス(医<br>局) | 循環器<br>合同カン<br>ファレ<br>ンス |
| 火 | 抄読会<br>(ICU) | 手術報告<br>(ICU)        | 胸部外科専門外来<br>(心臓血管外科・呼吸器外科)<br>手術 | 医局会   | 回診    | 症<br>例<br>検<br>討                 | 術前カンファ<br>レンス | 麻酔科<br>カン<br>ファ<br>レ<br>ンス | 医<br>局<br>会         |                          |
| 水 | カンファレンス(ICU) |                      | 胸部外科専門外来(呼吸器外科) AM<br>手術         |       |       |                                  |               |                            | カンファ<br>レンス(医<br>局) |                          |
| 木 | カンファレンス(ICU) | 下肢救<br>済カンファ<br>(3西) | 手術                               |       |       |                                  |               |                            | カンファ<br>レンス(医<br>局) |                          |
| 金 | カンファレンス(ICU) | 回診                   | 手術                               |       |       | 学生評価<br>(第2週のみ)                  |               |                            | カンファ<br>レンス(医<br>局) |                          |
| 土 |              |                      |                                  |       |       |                                  |               |                            |                     |                          |

胸部外科医局 TEL : 0952-34-2345 FAX : 0952-34-2061

## 【評価の方法と基準】

### 1) 評価方法

出席状況ならびに症例に関するプレゼンテーション、医行為記録表に基づく診療に対する積極性、技能や態度に関する実習担当者による評価、自己評価、学生相互評価を総合して、実習主任が評価する。

### 2) 評価基準

- ・実習については医学生として診療参加可能な能力であることを合格基準とする。

## 【履修上の注意】

(全科共通 (5.1) 履修上の注意も参照)

- ・初日はICUカンファレンスルームに7時30分に集合することとする。
- ・担当患者の手術時には手洗い実習を行うため爪をきちんと切ってくること。
- ・欠席する場合は事前に理由を実習担当者に報告する。無断欠席の場合は不合格となるので注意する。

## 【オフィスアワー一覧】

巻末参照

## 5. 2 (診療科別)

(診療科名) 精神神経科

【実習主任】：溝口 義人

【実習担当者】：國武 裕、立石 洋、松島 淳、小嶋 亮平、大石 絢子、白石 匠、高田 拳

### 【学修の目的と内容 期待される学修成果】

これまでに学習してきた精神医学の知識を活用し、精神と行動の障害に対して、児童・思春期から老年期のライフステージに応じた病態生理、診断、治療を理解し、良好な患者と医師の信頼関係に基づいた全人的医療の実践を修得する。大学医学部附属病院での実習期間中、学生は診療チームの一員として、他の医療スタッフや患者、患者家族と協働しながら、実際の診療に参加する診療参加型臨床実習を主体に学修する。日本を代表する精神神経疾患の基幹病院である国立病院機構肥前精神医療センターでの1週間の実習においては、重要な疾患を経験するとともに、地域医療の現状を理解し、将来幅広い視野を持って医療に貢献できる力を身につける。

### 【実習中に修得すべき能力（コンピテンシー）】

- ① 患者-医師の良好な信頼関係に基づく精神科面接の基本を修得する。
- ② 主訴からの診断推論を組み立てる、又はたどる。
- ③ 疾患の病態や疫学を理解する。
- ④ 精神科的治療に可能な範囲で参加する。
- ⑤ 基本的な精神科面接技法について学ぶ。
- ⑥ どのように精神科にコンサルテーションすればよいかわかる。

### 【経験すべき疾患】

統合失調症、気分障害（うつ病、双極性障害）、身体症状症、認知症（アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症）はとくに経験すべき疾患である。その他、下記の疾患も経験してほしい。

症状精神病、薬物使用に関連する精神障害やアルコール、ギャンブル等への依存症、不安障害群と心的外傷及びストレス因関連障害群、食行動障害及び摂食障害群、解離性（転換性）障害、パーソナリティ障害、知的能力障害群、自閉症スペクトラム障害（autism spectrum disorder＜ASD＞）、注意欠如・多動性障害（attention deficit / hyperactivity disorder＜ADHD＞）と運動障害群、てんかん

また、以下に経験すべき症候として、鑑別診断を想定しながら診断に必要な病歴聴取・身体診察をとり、基本的な検査の実施に参加することが望まれる。

1. 全身倦怠感 2. 食思（欲）不振 3. 体重増加・体重減少 4. 意識障害・失神
5. けいれん 6. めまい 7. 呼吸困難 8. 胸痛 9. 動悸 10. 嚥下困難・障害
11. 腹痛 12. 悪心・嘔吐 13. 不安・抑うつ 14. もの忘れ 15. 運動麻痺・筋力低下

### 【医学生に許容される医行為】

- ① 指導医の指導・監視の下で実施が開始されるべき医行為（レベルⅠ）

〔診療の基本〕 臨床推論、診断・治療計画立案、EB、診療録作成、症例プレゼンテーション、診療記録、  
脳波検査（記録）

〔診察手技〕 医療面接

② 指導医の実施の介助・見学にとどめることが推奨される医行為（レベルⅡ）

〔一般手技〕 腰椎穿刺、各種診断書・検案書・証明書の作成

〔検査手技〕 脳波検査（判読）、CT/MRI、核医学、内視鏡検査

〔救急〕 救急病態の初期治療

## 【実習スケジュール】

〔学生の1日の基本的流れ〕

- ① 毎朝受け持ち患者を診察し、看護・診療録（カルテ）を必ずチェックし、前日や夜起こったことについて把握する。毎日、患者の状態・検査結果・検査治療計画について指導に当たる医師に口頭で提示し、検討する。
- ② 前項について毎日診療録を記載する。記載した診療録は指導に当たる医師に必ず読んでもらい、指導を受けて署名をもらう。
- ③ 回診やカンファレンスの時には受け持ち患者を口頭で提示する。
- ④ 初診患者の予診を担当し、診療録に記載するとともに本診の診察医にプレゼンテーションを行う。記載した診療録は指導に当たる医師に必ず読んでもらい、指導を受けて署名をもらう。
- ⑤ 病棟主治医、外来主治医の診療を積極的に見学し指導を受ける。
- ⑥ 医療チームと患者、患者家族とで持たれる病状説明や検査治療計画の策定等に参加する。
- ⑦ 可能であれば、指導に当たる医師の下で実際に指示箋や処方箋、他科受診依頼等を書く。記載した文書は、指導に当たる医師が執筆、署名を行う。

### \*グループ 1

#### 第1週: 大学病院 病棟・外来・リエゾン・コンサルテーション実習

| 8:30 | 9:00             | 10:00                                 | 11:00 | 12:00 | 13:00 | 14:00          | 15:00 | 16:00 | 17:00  |
|------|------------------|---------------------------------------|-------|-------|-------|----------------|-------|-------|--------|
| 月    | 集合<br>実習概要<br>説明 | ・専門外来実習<br>・リエゾン・コンサルテーション実習<br>・病棟実習 |       |       |       |                |       |       | 病棟実習   |
| 火    |                  | 心理検査リクチャー<br>(熊本県長子先生)                | 病棟実習  |       |       | 臨床面接実習<br>(松島) |       |       | 病棟実習   |
| 水    |                  | ・専門外来実習<br>・リエゾン・コンサルテーション実習<br>・病棟実習 |       |       |       |                |       |       | 病棟実習   |
| 木    |                  | ・リエゾンカンファレンス<br>・入院カンファレンス<br>・病棟回診   |       |       |       | 病棟実習           |       | 抄読会   |        |
| 金    |                  | ・専門外来実習<br>・病棟実習                      |       |       |       |                | 病棟実習  |       | 臨床カンファ |

#### 第2週: 肥前精神医療センター実習

※月曜日の午前中は大学病院での実習

| 8:30 | 9:00   | 10:00                     | 11:00           | 12:00            | 13:00               | 14:00                            | 15:00        | 16:00         | 17:00 |
|------|--------|---------------------------|-----------------|------------------|---------------------|----------------------------------|--------------|---------------|-------|
| 月    |        | ・専門外来実習<br>・病棟実習          |                 |                  | 全体<br>オリエン<br>テーション | フォーミュ<br>レーション<br>レクチャー          | 実習病棟<br>ラウンド | 医療観察法<br>病棟見学 |       |
| 火    |        | 情報収集<br>・患者               | ディナイトーク<br>見学実習 |                  | ECT見学               | 精神科救急病棟<br>見学実習                  |              | 情報収集<br>・診療   |       |
| 水    |        | 8:45～12:00<br>アルコールミーティング |                 |                  |                     | 児童思春期病棟実習                        |              | 情報収集・診療       |       |
| 木    |        | 情報収集<br>・患者               | 院長回診            | 情報収集・診療<br>・発表準備 |                     |                                  |              | 情報収集・診療       |       |
| 金    | ミーティング |                           | 集団療法見学          | 情報収集・診療<br>・発表準備 |                     | 13:15～14:00<br>タラダス<br>NDD精神医学講義 | 発表準備         | 発表会           | まとめ   |

#### 第3週: 大学病院 病棟・外来・リエゾン・コンサルテーション実習

| 8:30 | 9:00 | 10:00                                 | 11:00 | 12:00 | 13:00 | 14:00      | 15:00      | 16:00 | 17:00      |
|------|------|---------------------------------------|-------|-------|-------|------------|------------|-------|------------|
| 月    |      | ・専門外来実習<br>・リエゾン・コンサルテーション実習<br>・病棟実習 |       |       |       | 病棟<br>カンファ |            |       | 病棟実習       |
| 火    |      |                                       | 病棟実習  |       |       | 病棟<br>カンファ | 施設後<br>方見学 |       | 病棟実習       |
| 水    |      | ・専門外来実習<br>・リエゾン・コンサルテーション実習<br>・病棟実習 |       |       |       | 病棟<br>カンファ |            |       | 病棟実習       |
| 木    |      | ・リエゾンカンファレンス<br>・入院カンファレンス<br>・病棟回診   |       |       |       | 病棟<br>カンファ | 病棟実習       | 抄読会   | 講義<br>(山本) |
| 金    |      | ・専門外来実習<br>・病棟実習                      |       |       |       | 病棟<br>カンファ |            |       | 病棟実習       |

#### 第4週: 大学病院 病棟・外来・リエゾン・コンサルテーション実習

| 8:30 | 9:00 | 10:00                                 | 11:00 | 12:00 | 13:00 | 14:00      | 15:00        | 16:00     | 17:00                   |
|------|------|---------------------------------------|-------|-------|-------|------------|--------------|-----------|-------------------------|
| 月    |      | ・専門外来実習<br>・リエゾン・コンサルテーション実習<br>・病棟実習 |       |       |       |            |              |           | 病棟実習                    |
| 火    |      |                                       | 病棟実習  |       |       |            |              |           | 病棟実習                    |
| 水    |      | ・専門外来実習<br>・リエゾン・コンサルテーション実習<br>・病棟実習 |       |       |       | 講義<br>(大石) |              |           | 病棟実習                    |
| 木    |      | 実習のまとめ                                |       |       |       |            | 集団レク<br>リエゾン | 症例<br>検討会 | 講義<br>(岡武)              |
| 金    |      | ・専門外来実習<br>・病棟実習                      |       |       |       |            | 病棟実習         |           | ※実習ファイル提出 13:00 - 15:00 |

※講義は、偶数月のみ実施

### \*グループ 2

#### 第1週: 大学病院 病棟・外来・リエゾン・コンサルテーション実習

| 8:30 | 9:00             | 10:00                                 | 11:00 | 12:00 | 13:00 | 14:00      | 15:00          | 16:00 | 17:00  |
|------|------------------|---------------------------------------|-------|-------|-------|------------|----------------|-------|--------|
| 月    | 集合<br>実習概要<br>説明 | ・専門外来実習<br>・リエゾン・コンサルテーション実習<br>・病棟実習 |       |       |       |            |                |       | 病棟実習   |
| 火    |                  | 心理検査リクチャー<br>(熊本県長子先生)                | 病棟実習  |       |       | 施設後<br>方見学 | 臨床面接実習<br>(松島) |       | 病棟実習   |
| 水    |                  | ・専門外来実習<br>・リエゾン・コンサルテーション実習<br>・病棟実習 |       |       |       |            |                |       | 病棟実習   |
| 木    |                  | ・リエゾンカンファレンス<br>・入院カンファレンス<br>・病棟回診   |       |       |       | 病棟<br>カンファ | 病棟実習           | 抄読会   |        |
| 金    |                  | ・専門外来実習<br>・病棟実習                      |       |       |       |            |                | 病棟実習  | 臨床カンファ |

#### 第2週: 大学病院 病棟・外来・リエゾン・コンサルテーション実習

| 8:30 | 9:00 | 10:00                                 | 11:00 | 12:00 | 13:00 | 14:00      | 15:00        | 16:00 | 17:00 |
|------|------|---------------------------------------|-------|-------|-------|------------|--------------|-------|-------|
| 月    |      | ・専門外来実習<br>・リエゾン・コンサルテーション実習<br>・病棟実習 |       |       |       | 病棟<br>カンファ |              |       | 病棟実習  |
| 火    |      |                                       | 病棟実習  |       |       | 病棟<br>カンファ |              |       | 病棟実習  |
| 水    |      | ・専門外来実習<br>・リエゾン・コンサルテーション実習<br>・病棟実習 |       |       |       | 病棟<br>カンファ |              |       | 病棟実習  |
| 木    |      | ・リエゾンカンファレンス<br>・入院カンファレンス<br>・病棟回診   |       |       |       | 病棟<br>カンファ | 集団レク<br>リエゾン | 抄読会   |       |
| 金    |      | ・専門外来実習<br>・病棟実習                      |       |       |       | 病棟<br>カンファ |              |       | 病棟実習  |

#### 第3週: 肥前精神医療センター実習

※月曜日の午前中は大学病院での実習

| 8:30 | 9:00   | 10:00                     | 11:00           | 12:00            | 13:00               | 14:00                            | 15:00        | 16:00         | 17:00 |
|------|--------|---------------------------|-----------------|------------------|---------------------|----------------------------------|--------------|---------------|-------|
| 月    |        | ・専門外来実習<br>・病棟実習          |                 |                  | 全体<br>オリエン<br>テーション | フォーミュ<br>レーション<br>レクチャー          | 実習病棟<br>ラウンド | 医療観察法<br>病棟見学 |       |
| 火    |        | 情報収集<br>・患者               | ディナイトーク<br>見学実習 |                  | ECT見学               | 精神科救急病棟<br>見学実習                  |              | 情報収集<br>・診療   |       |
| 水    |        | 8:45～12:00<br>アルコールミーティング |                 |                  |                     | 児童思春期病棟実習                        |              | 情報収集・診療       |       |
| 木    |        | 情報収集<br>・患者               | 院長回診            | 情報収集・診療<br>・発表準備 |                     |                                  |              | 情報収集・診療       |       |
| 金    | ミーティング |                           | 集団療法見学          | 情報収集・診療<br>・発表準備 |                     | 13:15～14:00<br>タラダス<br>NDD精神医学講義 | 発表準備         | 発表会           | まとめ   |

#### 第4週: 大学病院 病棟・外来・リエゾン・コンサルテーション実習

| 8:30 | 9:00 | 10:00                                 | 11:00 | 12:00 | 13:00 | 14:00 | 15:00        | 16:00     | 17:00                   |
|------|------|---------------------------------------|-------|-------|-------|-------|--------------|-----------|-------------------------|
| 月    |      | ・専門外来実習<br>・リエゾン・コンサルテーション実習<br>・病棟実習 |       |       |       |       |              |           | 病棟実習                    |
| 火    |      |                                       | 病棟実習  |       |       |       |              |           | 病棟実習                    |
| 水    |      | ・専門外来実習<br>・リエゾン・コンサルテーション実習<br>・病棟実習 |       |       |       | 講義    |              |           | 病棟実習                    |
| 木    |      | 実習のまとめ                                |       |       |       |       | 集団レク<br>リエゾン | 症例<br>検討会 |                         |
| 金    |      | ・専門外来実習<br>・病棟実習                      |       |       |       |       | 病棟実習         |           | ※実習ファイル提出 13:00 - 15:00 |

## 【評価の方法と基準】

原則として、教員が分担して評価者となる。受け持ち患者に関する医学知識について、口頭試問とレポートを重視するが、評価表を用いて、診察や基本的臨床手技等の技能、医師のプロフェッショナリズム等の態度を評価し、学生へのフィードバックを徹底する。

### 〔評価の基準〕

- ① 病歴：① 初診外来の場合は現病歴で聞くべきこと（症状の性状・程度・経過・状況・増悪寛解因子・随伴症状・患者の対応）を聞いたか。最低限聞くべき他の項目（既往歴・アレルギー・内服薬・女性の月経と妊娠）を聞いたか。状況が許せば聞くべき他の項目（生活状況・家族状況・嗜好等）を聞いたか。正確で十分な情報を得たか。  
② 入院中の患者の場合は、その時点で把握しておくべき情報をしっかり聞いたか。
- ② コミュニケーション：患者が話しやすいように話を聞いたか。視線や表情や姿勢等の非言語コミュニケーションで不快感を与えなかったか。患者の解釈モデルや心理社会面についても情報を引き出したか。患者の理解度を確認したか。
- ③ 臨床判断：診断的検査を適切に選択し、指示・実施したか。患者にとっての利益とコスト・リスクを考慮したか。可能性の高い疾患、見落としとしてはいけない疾患を考えたか。
- ④ プロフェッショナリズム：患者に対して敬意、思いやり、共感を示し、信頼関係を形成したか。患者の不快感、遠慮、守秘義務、個人情報につき注意を払ったか。
- ⑤ マネジメント：適切な治療方法を選んだか。アセスメントとプランを患者が納得いくように説明したか。患者が何に注意したらいいか、次にどういう行動をとったらいいかを説明したか。
- ⑥ 総合：優先順序を適切につけたか。タイミングがよかったか。無駄が少なく迅速だったか。患者も評価者も納得でき、有効な判断をしたか。観察者がいなくてもこの患者を一人で診察できたか。

## 【履修上の注意】

- ① 1週目の初日は、臨床研究棟1階（2147）精神神経科医局に8：30集合とする。
- ② 肥前精神医療センター実習初日は、肥前精神医療センター管理棟3階第1会議室に12：30までに集合。月曜日が祝日の時は、火曜日の9：00集合。

## 【オフィスアワー一覧】

巻末参照

## 5. 2 (診療科別)

(診療科名) 小児科

【実習主任】：松尾 宗明

【実習担当者】：大学附属病院：實藤 雅文、山田 耕治、尾形 善康、西 眞範、岩永 学、  
垣内 俊彦、熊本 崇、岡 政史、大串 栄彦、中村 拓自、溝口 ゆかり、  
樋口 直弥  
好生館：西村 真二、熊本 愛子、岩永 晃、伊東 優哉  
NHO佐賀病院：江頭 智子、江頭 政和、七條 了宣、荻原 俊、富野 弘通、水上 朋子  
嬉野医療センター：在津 正文、西川 小百合、浦島 真由美、一ノ瀬 文男、森田 駿、  
吉浦 真登

### 【学修の目的と内容 期待される学修成果】

小児科実習ではPhaseⅢまでに学んだ小児に関する知識を活かしつつ、チームの一員として積極的に診療に参加し、小児診療に必要な基本的な診察技能や検査、治療計画、診療録の記載などを修得する。実習期間中は大学病院と市中病院の両方で実習を行うことにより、小児のCommon diseaseと頻度は低いが重要、重篤な疾患、小児救急、障害児医療まで様々な小児科疾患を学ぶことができる。

期待される学修成果：

1. 小児の成長・発達の特性を理解し、臓器の特性、家族背景、心理社会的要因を考慮した診療の必要性を認識する。
2. 主治医の指導の下で、患児やその家族と良好なコミュニケーション、信頼関係を築くことができるようになる。
3. 予防接種や乳幼児健診の意義、障害児医療の特性について理解し、地域の小児保健の問題やニーズを認識する。

### 【実習中に修得すべき能力（コンピテンシー）】

(全科共通のコンピテンシーは(5.1) 参照。)

1. 小児の正常な成長・発達を理解し、評価できる。
2. 予防接種・乳幼児健診の意義について認識し、実施の補助ができる。
3. 小児の基本的身体診察手技を身につけ、生理的所見と異常所見を判断することができる。
4. 病態に応じた検査計画と年齢層別検査正常値に基づいた検査の評価ができる。
5. 主要な疾患の治療計画を立てることができる。
6. 新生児・小児の栄養や水分・電解質管理、輸液計画ができる。
7. 小児の脱水の評価ができる。
8. 小児の主要な感染症の鑑別診断ができる。
9. TORCH症候群の症状と予防対策について説明できる。
10. 小児の予防接種スケジュールを立てることができる。
11. 小児の心電図を記録し、その所見を述べるができる。
12. 主要な先天性心疾患の解剖学的異常から血行動態の変化、理学的所見の発現について説明することができる。

13. 小児がん化学療法の副作用を考慮した診療ができる。
14. 小児の輸血の目安、必要な輸血量を判断できる。
15. 小児期の腹部腫瘍の鑑別診断ができる。
16. 易感染性の患児の免疫に関する検査を述べることができる。
17. 食物アレルギーの評価とアナフィラキシー対策について述べることができる。
18. 小児喘息発作時の重症度評価と治療および日常の長期管理について述べることができる。
19. 新生児、小児の神経学的診察ができる。
20. 小児のけいれんに対する救急処置と鑑別診断ができる。
21. 障害児医療の特性を理解し、医療的ケアを実施できる。
22. 未熟児・新生児の保育の実際に触れて、特にその保育環境、栄養法および輸液療法について述べるができる。
23. 早産児の合併症とその対策について述べることができる。
24. 成人期・次世代までを見据えた成育医療の必要性を認識できる。
25. 患児・家族と良好なコミュニケーションをとることができる
26. 疾病と治療が患児や家族に及ぼす心理・社会的影響を認識できる。
27. 育児に関する様々な問題を認識できる。

#### 【経験すべき疾患】（医学教育モデルコア・カリキュラム参照）

（全科共通(5.1) 経験すべき症候も参照）

感染症（特に、発疹を呈する感染症、呼吸器感染症、髄膜炎、下痢嘔吐を生じる感染症）、新生児感染症、TORCH症候群、先天性心疾患、心不全、川崎病、貧血、小児白血病、小児腫瘍、小児の化学療法、アレルギー、アナフィラキシー、小児喘息、免疫不全、熱性けいれん、てんかん症候群、脳性まひ、小児神経筋疾患、神経発達症（自閉スペクトラム症など）、先天性腸疾患、小児の下痢・便秘、腸重積、先天性胆道疾患、ヘルニア、急性糸球体腎炎、慢性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、尿路奇形、先天性代謝異常症、糖尿病、低身長、思春期早発症、甲状腺疾患ビタミン欠乏症、染色体異常症、未熟児、低出生体重児

#### 【医学生に許容される医行為】

（全科共通（5.1）医行為も参照）

（乳児・小児の特性も考慮し、全科共通と重複するものも記載した）

水準Ⅰ：医療面接、全身の視診、打診、触診、簡単な器具を用いる全身の診察（聴診器、舌圧子、血圧計、ハンマー、検眼鏡）、検尿、検便、検痰、細菌塗沫染色検査、赤血球沈降速度、心電図検査、超音波検査、体位交換、移送、気道内吸引、ネブライザー、手洗い、ガウンテクニック、バイタルサインチェック、正規の診療録記載、検査表を用いた発達検査

水準Ⅱ：小児の静脈採血（乳幼児を除く）

（注）

水準Ⅰ：指導医の指導・監視のもとに実施が許される医行為

水準Ⅱ：受け持ち患者のみを対象に、状況によって指導医の指導・監視のもとに実施が許される医行為

水準Ⅲ：原則として指導医の実施の介助または見学にとどめ、実施させない医行為

## 【実習スケジュール】

### 【大学】

| 【入学】 |          | 7:30 | 8:00             | 8:30                 | 9:00                | 10:30        | 12:00               | 13:00                         | 18:00       |  |
|------|----------|------|------------------|----------------------|---------------------|--------------|---------------------|-------------------------------|-------------|--|
| 月    | 朝の<br>処置 |      |                  | モー<br>ニングカン<br>ファレンス | 病棟実習                | 教授回診<br>2階CR | 産業会社<br>説明会<br>2280 | 病棟実習                          | ま<br>と<br>め |  |
| 火    |          |      | ※                |                      | 病 棟 実 習/総合外来        | 昼<br>休<br>み  | 病棟実習／循環器・血液・膠原・腎外来  | * 小児科カンファ<br>2階カンファレンス<br>ルーム |             |  |
| 水    |          |      | 病 棟 実 習/腎検査,発達外来 |                      | 病棟実習/アレルギー・新生児・神経外来 |              |                     |                               |             |  |
| 木    |          |      | 病 棟 実 習/総合外来     |                      | 病棟実習/神経・循環器外来       |              |                     |                               |             |  |
| 金    |          |      | 学生用回診<br>2階CR集合  |                      | 2                   |              | 病棟実習                | **                            |             |  |

\* 月はモーニングカンファ後に抄読会

※ 実習第2週金曜日は実習まとめ(振り返り)があります、2週間の実習中に1回夜間こども診療所実習(20:00-22:00;任意参加)があります。

※ モーニングレクチャー

月1回小児放射線カンファレンス

### 【NHO佐賀病院】

| 【NICU在真病院】 |  |      |  |      |  |      |  |       |  |       |             |       |                       |                        |                            |       |                                                                  |       |  |       |  |                                     |
|------------|--|------|--|------|--|------|--|-------|--|-------|-------------|-------|-----------------------|------------------------|----------------------------|-------|------------------------------------------------------------------|-------|--|-------|--|-------------------------------------|
| 7:30       |  | 8:00 |  | 8:30 |  | 9:00 |  | 10:30 |  | 12:00 |             | 13:30 |                       | 15:30                  |                            | 16:30 |                                                                  | 17:00 |  | 18:00 |  |                                     |
| 月          |  |      |  |      |  |      |  |       |  |       | 昼<br>休<br>み |       | 小児病棟回診                | 新生児入院<br>退院カン<br>ファレンス | 産科小児<br>科合同カン<br>ファレン<br>ス |       | S<br>i<br>g<br>n<br><br>o<br>u<br>t<br><br>r<br>o<br>u<br>n<br>d |       |  |       |  |                                     |
| 火          |  |      |  |      |  |      |  |       |  |       |             |       | 新生児総合カンファレンス<br>乳児健診* | 新生児・小児病棟               |                            |       |                                                                  |       |  |       |  | * 大学小児科カン<br>ファ<br>2階カンファレンス<br>ルーム |
| 水          |  |      |  |      |  |      |  |       |  |       |             |       | 発育外来*                 | 新生児・小児病棟               |                            |       |                                                                  |       |  |       |  |                                     |
| 木          |  |      |  |      |  |      |  |       |  |       |             |       | 予防接種*                 | 新生児・小児病棟               |                            |       |                                                                  |       |  |       |  |                                     |
| 金          |  |      |  |      |  |      |  |       |  |       |             |       | 新生児・小児病棟              |                        |                            |       |                                                                  |       |  |       |  |                                     |

\*14時～

### 【好生館】

| 8:00 | 8:30     | 9:00 | 10:30         | 12:00       | 13:00                   | 16:30                         | 16:50                               |
|------|----------|------|---------------|-------------|-------------------------|-------------------------------|-------------------------------------|
| 月    |          |      | 病棟実習/外来実習(一般) | 昼<br>休<br>み | 外来実習/健診・予防接種            | イー<br>ブ<br>ン<br>グ<br>カン<br>ファ | 周産期<br>カンファ                         |
| 火    | 朝の<br>処置 |      | 病棟実習/外来実習(一般) |             | 外来実習(専門:循環器・神経)/予防接種    |                               | * 大学小児科カン<br>ファ<br>2階カンファレンス<br>ルーム |
| 水    |          |      | 病棟実習/外来実習(一般) |             | 外来実習(専門:循環器・内分泌)/予防接種   |                               |                                     |
| 木    |          |      | 病棟実習/外来実習(一般) |             | 外来実習(専門:神経・アレルギー)/1か月健診 |                               |                                     |
| 金    |          |      | 病棟実習/外来実習(一般) |             | 外来実習(専門:アレルギー)          |                               |                                     |

\* 第2週日金曜日は8:00から学生発表(評価)

※ 抄読会は8:15から8:30まで

### 【NHO嬉野医療センター】

| 8:20 | 9:00 | 10:30      | 12:00       | 13:00            | 17:00       | 18:00           |
|------|------|------------|-------------|------------------|-------------|-----------------|
| 月    |      | 病棟実習/小児科外来 | 昼<br>休<br>み | 病棟実習/腎外来/アレルギー外来 | ま<br>と<br>め |                 |
| 火    | ※    | 病棟実習/小児科外来 |             | 病棟実習/乳児健診/予防接種   |             | * 大学小児科カン<br>ファ |
| 水    |      | 病棟実習/小児科外来 |             | 病棟実習/心臓外来        |             |                 |
| 木    |      | 病棟実習/小児科外来 |             | 病棟実習/神経外来        |             |                 |
| 金    |      | 病棟実習/小児科外来 |             | 病棟実習/代謝・内分泌外来    |             |                 |

\* 毎週火曜日の大学小児科カンファに出席 18:30から(Web視聴)

※ 8:10より抄読会あります

## 【評価の方法と基準】

### 1) 評価方法

出席状況ならびに症例に関するプレゼンテーションやレポート、技能や態度に関する指導医等の実習担当者による評価、自己評価、学生相互評価などを総合して評価する。

最終評価は、大学と院外実習の評価を総合して行う。

### 2) 評価基準

実習予定日数の9割以上の出席並びに技能、態度、プレゼンテーション、レポートの総合評価で可以上の場合に合格とする。

### 3) 評価結果の開示

学生からの申請があれば、最終評価の結果については開示する。

## 【履修上の注意】

(全科共通 (5.1) 履修上の注意も参照)

### 1) 小児科の教科書を準備する。

### 2) 回診でのプレゼンテーションにあたっては、患児や親に聞かせてはならないことについて、十分に配慮する。

### 3) 実習初日の集合時間と集合場所、学生実習担当医師、連絡先は以下の通りです。

大学：8：00に小児科医局2239に集合する。学生実習担当医師 溝口ゆかり

好生館：8：00に5階西カンファレンス室 学生実習担当医師 岩永

NHO佐賀病院：8:40に小児科外来 学生実習担当医師 江頭政和

嬉野医療センター：9：00に嬉野医療センター医局 学生実習担当医師 一ノ瀬

### 4) 実習時間は予定表より長くなることが多いので、夜は余裕を持ったスケジュールにしておいてください。

佐賀市休日こども診療所の外来見学（月水木金20：00～22：00）に、参加してもらう予定です。

体調不良時・その他急用時で出席不可能な際には8：00－8：30までに①(小児科医局)

②(2階東病棟)に電話を必ずしてください。(院外は各病院の担当者に連絡)

## 【オフィスアワー一覧】

「巻末参照」

## 5. 2 (診療科別)

(診療科名) 産科婦人科

【実習主任】：横山 正俊

【実習担当者】：大学附属病院 梅崎 靖、津田 聡子（病棟医長）、  
NHO佐賀病院 津村 圭介（部長）  
好生館 室 雅巳（産科部長）、安永 牧生（婦人科部長）、  
高木病院 小島 加代子（副院長）、野見山 真理（部長）

### 【学修の目的と内容 期待される学修成果】

女性患者に対応する際に、常に生殖生理を念頭におき女性性機能に留意した診療態度がとれるようになることを目標とする。

学修成果としては女性生殖器の構造と機能およびその異常を理解し、患者の病態に正しく対応できるようになること、妊娠・分娩の生理を理解し、母児の適格な管理の一端を担えることにある。

### 【実習中に修得すべき能力（コンピテンシー）】

（全科共通のコンピテンシーは（5.1）参照。）

1. 産婦人科診察の手順、目的、その特殊性を理解し、そこに使用される器具の種類、使い方実施方法について説明できる
2. 妊娠反応、帯下についての顕微鏡検査が実施できる
3. 経腹および経膈超音波断層検査について、その方法、解釈そして意義を説明できる
4. 分娩監視装置を使用でき、胎児心拍数陣痛図について説明できる
5. 術前、術後の輸液を適切に計画・実施できる
6. 術後疼痛の管理を計画・実施できる
7. 妊娠母体の生理的变化を述べることができる
8. 胎児の発育および各種生理的变化を理解し、説明することができる
9. 妊娠に伴う母児の病態を整理し、理解することができる
10. 分娩の生理的経過を理解し、その適切な管理法を述べることができる
11. 新生児の取扱いをその特殊性との関連において理解することができる
12. 産褥復古の経過、乳汁分泌の機序を述べることができる
13. 女性性機能の周期的変化を理解し、その異常について述べることができる
14. 不妊の病態生理、その検索手順、および不妊治療（体外受精などの高度生殖医療を含む）について理解することができる
15. 女性生殖器疾患（とくに子宮・卵巣の良・悪性腫瘍）の診断と治療法について理解することができる
16. 婦人科手術の特殊性を理解することができる

### 【経験すべき疾患】

（全科共通（5.1）経験すべき症候も参照）

1. 正常周産期（正常妊娠、正常分娩、正常産褥）

2. 主な異常妊娠（流産、切迫流産、異所性妊娠、妊娠高血圧症候群、多胎妊娠、胎児発育不全）
3. 主な異常分娩（早産、微弱陣痛、遷延分娩、回旋異常、前置胎盤、癒着胎盤、常位胎盤早期剥離、弛緩出血、分娩外傷）
4. 主な異常産褥（子宮復古不全、産褥熱、乳腺炎）
5. 産科救急（産科出血、産科DIC）
6. 主な合併症妊娠（耐糖能異常、甲状腺疾患、血液型不適合妊娠、TORCH症候群）
7. 内外生殖器の先天異常（子宮奇形）
8. 卵巢機能障害（原発無月経、続発無月経、月経不順、月経前緊張症、卵巢欠落状態、更年期障害）
9. 不妊症（卵管因子、男性因子、原因不明因子、器質的疾患合併症例など）
10. 良性疾患（子宮筋腫、子宮腺筋症、子宮内膜症、卵巢腫瘍）
11. 感染症（外陰炎、子宮留膿腫、子宮付属器炎、骨盤腹膜炎）
12. 悪性腫瘍（子宮頸癌、子宮体癌、卵巢癌、卵巢境界悪性腫瘍）
13. 妊娠絨毛性疾患（胎状奇胎、侵入奇胎、絨毛癌）

### 【医学生に許容される医行為】

（全科共通（5.1）医行為も参照）

#### ① 指導医の指導・監視下で実施が開始されるべき医行為（レベルⅠ）

|       |                                                                                   |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| 診療の基本 | 臨床推論、診断・治療計画立案、診療録作成、症例プレゼンテーション                                                  |
| 一般手技  | 正常新生児診察、新生児かかと採血                                                                  |
| 外科手技  | 手術助手（腹壁消毒、腹壁の縫合、結紮、腹腔鏡カメラ把持、子宮マニピレーター保持など）、（経膈および帝切）分娩立ち会い                        |
| 検査手技  | CTGの装着、CTG判読、妊娠反応、破水確認検査、帯下の顕微鏡検査<br>臍帯血血液ガス検査<br>新生児ヘマトクリット・ビリルビン検査<br>フーナーテスト鏡検 |
| 診察手技  | レオポルド触診、子宮底・腹囲計測<br>麻酔下での内診・腔鏡診そして尿道カテーテルの挿入                                      |
| 救急    | 一次救命処置、新生児蘇生の介助                                                                   |

#### ② 指導医の実施の介助・見学にとどめることが推奨される医行為（レベルⅡ）

|      |                                                                                           |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------|
| 一般手技 | 腔洗浄、子宮内洗浄、輸血の実施                                                                           |
| 外科手技 | 手術助手（腹腔内操作）、子宮マニピレーター挿入、除去<br>分娩介助<br>採卵、媒精（体外受精）、顕微受精、胚移植、胚や精子の培養                        |
| 検査手技 | 婦人科臓器に対する細胞診、生検の実施<br>腹水穿刺<br>羊水・臍帯穿刺<br>新生児静脈採血<br>子宮卵管造影、フーナーテスト検体採取、子宮鏡検査（外来子宮鏡下手術を含む） |
| 診察手技 | 腔鏡診、内診、経膈超音波検査                                                                            |
| 救急   | 二次救命処置、新生児蘇生                                                                              |

## 【実習スケジュール】

大学附属病院 2 週間と関連病院 2 週間（NHO 佐賀病院、好生館、高木病院のいずれか 1 箇所）で併せて 4 週間を単位とします。

大学附属病院 実習日程表（第1-2週もしくは第3-4週）

|        |              |        |           |      |  |         |           |              |  |           |  |                    |  |         |        |
|--------|--------------|--------|-----------|------|--|---------|-----------|--------------|--|-----------|--|--------------------|--|---------|--------|
| 8 : 30 |              | 9 : 00 |           | 9:30 |  | 12 : 30 |           | 13 : 30      |  | 16 : 30   |  | 17 : 00            |  | 17 : 15 |        |
| 月      | モーニングカンファレンス | グループ回診 | 外来実習      |      |  | 昼食・休憩   | 病棟実習      |              |  |           |  |                    |  |         | グループ回診 |
| 火      |              |        | 手術および病棟実習 |      |  |         | 手術および病棟実習 |              |  |           |  | 放射線カンファレンス<br>(隔週) |  |         |        |
| 水      |              |        | 外来実習      |      |  |         | 病棟実習      |              |  | 病理カンファレンス |  |                    |  |         |        |
| 木      |              |        | 手術および病棟実習 |      |  |         | 手術および病棟実習 |              |  |           |  |                    |  |         |        |
| 金      |              |        | 外来実習      |      |  |         | 回診        | 症例・術前カンファレンス |  | 抄読会       |  | 学生評価               |  |         |        |

NHO 佐賀病院 実習日程表（第1-2週もしくは第3-4週）

|        |              |           |      |      |  |         |           |         |  |         |  |         |  |         |            |         |              |         |  |       |  |
|--------|--------------|-----------|------|------|--|---------|-----------|---------|--|---------|--|---------|--|---------|------------|---------|--------------|---------|--|-------|--|
| 8 : 30 |              | 9 : 00    |      | 9:30 |  | 12 : 00 |           | 13 : 00 |  | 15 : 00 |  | 15 : 30 |  | 16 : 00 |            | 16 : 30 |              | 17 : 00 |  | 17:15 |  |
| 月      | モーニングカンファレンス | 外来実習      |      |      |  | 昼食・休憩   | 手術および病棟実習 |         |  |         |  |         |  |         | 周産期カンファレンス |         | イブニングカンファレンス |         |  |       |  |
| 火      |              | 病棟カンファレンス | 外来実習 |      |  |         | 手術および病棟実習 |         |  |         |  |         |  |         |            |         |              |         |  |       |  |
| 水      |              | 抄読会       | 外来実習 |      |  |         | 手術および病棟実習 |         |  |         |  |         |  |         |            |         |              |         |  |       |  |
| 木      |              | 外来実習      |      |      |  |         | 手術および病棟実習 |         |  |         |  |         |  |         | カンファレンス    |         |              |         |  |       |  |
| 金      |              | 外来実習      |      |      |  |         | 手術および病棟実習 |         |  |         |  |         |  |         |            |         |              |         |  |       |  |

|        |              |           |      |      |  |         |           |         |  |         |           |         |  |         |            |              |  |         |  |       |  |
|--------|--------------|-----------|------|------|--|---------|-----------|---------|--|---------|-----------|---------|--|---------|------------|--------------|--|---------|--|-------|--|
| 8 : 30 |              | 9 : 00    |      | 9:30 |  | 12 : 00 |           | 13 : 00 |  | 15 : 00 |           | 15 : 30 |  | 16 : 00 |            | 16 : 30      |  | 17 : 00 |  | 17:15 |  |
| 月      | モーニングカンファレンス | 外来実習      |      |      |  | 昼食・休憩   | 手術および病棟実習 |         |  |         |           |         |  |         | 周産期カンファレンス | イブニングカンファレンス |  |         |  |       |  |
| 火      |              | 病棟カンファレンス | 外来実習 |      |  |         | 手術および病棟実習 |         |  |         |           |         |  |         |            |              |  |         |  |       |  |
| 水      |              | 抄読会       | 外来実習 |      |  |         | 手術および病棟実習 |         |  |         | 部長回診・病棟実習 |         |  |         |            |              |  |         |  |       |  |
| 木      |              | 外来実習      |      |      |  |         | 手術および病棟実習 |         |  |         | カンファレンス   |         |  |         |            |              |  |         |  |       |  |
| 金      |              | 外来実習      |      |      |  |         | 手術および病棟実習 |         |  |         | 評価（最終週）   | 手術・病棟実習 |  |         |            |              |  |         |  |       |  |

高木病院 実習日程表（第1-2週もしくは第3-4週）

|        |           |         |  |         |                        |       |  |
|--------|-----------|---------|--|---------|------------------------|-------|--|
| 8 : 30 |           | 13 : 00 |  | 14 : 00 |                        | 17:15 |  |
| 月      | 手術および病棟実習 |         |  | 昼食・休憩   | 手術および病棟実習              |       |  |
| 火      | 外来・培養室実習  |         |  |         | 外来・培養室実習               |       |  |
| 水      | 手術および病棟実習 |         |  |         | 手術および病棟実習・第1水曜日カンファレンス |       |  |
| 木      | 外来・培養室実習  |         |  |         | 外来・培養室実習               |       |  |
| 金      | 外来実習      |         |  |         | 外来実習・学生評価              |       |  |

佐賀県医療センター好生館 実習日程表（第1-2週もしくは第3-4週）

|        |                              |      |         |       |         |  |         |  |         |  |
|--------|------------------------------|------|---------|-------|---------|--|---------|--|---------|--|
| 8 : 30 |                              |      | 12 : 30 |       | 13 : 30 |  | 16 : 00 |  | 17:30   |  |
| 月      | 外来実習                         |      |         | 昼食・休憩 | 外来実習    |  |         |  |         |  |
| 火      | 外来実習                         |      |         |       | 外来実習    |  |         |  |         |  |
| 水      | 手術実習                         |      |         |       | 手術実習    |  |         |  |         |  |
| 木      | 外来実習                         |      |         |       | 外来実習    |  |         |  | カンファレンス |  |
| 金      | 8 : 00 病理<br>カンファレンス<br>(隔週) | 手術実習 |         |       | 手術実習    |  |         |  |         |  |

## 【評価の方法と基準】

3, 4については、4週間を通じて1枚のセルフチェックリストを使用し、4週間の終了時に担当医を通じて実習主任に提出する。（注意：このチェックリストは実習の偏りを自覚し、今後の自己学習に役立ててもらうために存在するので、チェックが少ないからといって評価が低いわけではない）

1, 2と5については、前半および後半の病院で担当医、所属医師により評価し、実習主任に報告する。

6は、前半および後半の病院でそれぞれ1回ずつ行い、実習主任に報告する。

産科婦人科としての最終的な評価は、上記の指標を元に総合的に実習主任が評価する。

1. 実習態度（出席状況、服装、振る舞いなど）
2. 習得すべきコンピテンシーの達成状況
3. 経験すべき疾患の達成状況
4. 実習で行うべきまたは経験すべき医行為の達成、実施内容
5. 回診、カンファレンスでの症例提示能力
6. 実習レポートでの症例提示および考察能力

### 基準

いずれの評価項目も「概ね標準レベル」以上であることを総合的に判断する

### 【履修上の注意】

(全科共通 (5.1) 履修上の注意も参照)

初日の集合時刻、場所

大学：8時30分 2階西病棟 カンファレンスルーム

NHO佐賀病院：8時30分 2階病棟MFICU ナースステーション

好生館：8時30分 5階東病棟 ナースステーション

高木病院：8時30分 A棟5階 不妊センター受付前

### 【オフィスアワー一覧】

巻末参照

## 5. 2 (診療科別)

### (診療科名) 救急科

【実習主任】：阪本 雄一郎

【実習担当者】：中山 賢人, 小川 弘貴

#### 【学修の目的と内容 期待される学修成果】

医師として身に付けるべき救急医療の基本的な臨床能力と問題解決能力を学習するために、救急患者の病歴聴取と記載の仕方、身体診察手技とその手順、身体所見の記載法、外来検査法（検体の取り扱いと検査の実施）、初期評価（initial assessment and plan）を実践することができる。また、救急患者の入院後の管理（集中治療等）を理解する。救急医療の現場において他の医療スタッフと協働し、チーム医療の重要性を理解する。

また、救急医療の社会的重要性を認識し、的確な臨床判断を迅速に行なうとともに、救急患者の社会・心理的側面を含む救急医療の特徴について理解する。さらに、病院前診療の重要性を理解するとともに病院前の救急隊活動に関しても体験する。

#### 【実習中に修得すべき能力（コンピテンシー）】

（全科共通のコンピテンシーは（5.1）参照。）

##### (1) 救急患者について

- a. 救急搬送患者に対する初期対応を実施できる。
- b. 問診：主訴を含む症状発現の過程を聴取し、問題点を把握し、病歴を順序よく、漏れなく記載できる。
- c. 救急搬送患者における身体診察：系統的な身体診察を正確に行い、身体診察で得られた所見とバイタルサインを正確にわかりやすく記載できる。
- d. 問診と身体所見で得られた所見、検査データにもとづいた総合的診断手法を修得する。
- e. 緊急に対応を要する代表的症候である意識障害、胸痛、ショック、呼吸困難、腹痛等について、緊急検査の選択及び指示方法を選択し、診断のプロセス（診断手順）を修得する。
- f. 専門的治療の必要性を迅速に判断する重要性を理解する。
- g. 治療：それぞれの患者について下記の基本的事項を具体的に述べることができる。  
診断又は処置すべき問題の緊急度と優先順位  
適切な専門的治療の選択と入院の必要性の有無  
重症患者の入院後管理  
治療の必要理由と治療薬の作用機序
- h. 心肺蘇生術であるBLS（Basic Life Support）とACLS（Advanced Cardiovascular Life Support）を的確に行なうことができる。また、外傷初期診療ガイドラインであるJATEC（Japan advanced trauma evaluation and care）の概略を理解している。

##### (2) 急性疾患の経過観察について

救急患者の症状経過観察の必要性を理解し、各急性疾患の症状、理学所見、検査データの推移について述べるることができる。

##### (3) 病院前診療について（ドクターヘリ、ドクターカー）

病院前診療の実際の活動に関しての重要性をカンファレンス、ドクターヘリやドクターカーによる搬送事案

から理解する。

### 【経験すべき疾患】

(全科共通 (5.1) 経験すべき症候も参照)

救急科において主に経験できる頻度が高い

発熱、ショック、心停止、意識障害・失神、けいれん、脱水、呼吸困難、胸痛、腹痛、頭痛、運動麻痺・筋力低下、外傷・熱傷、凝固障害

代表的疾患として、

肺炎、敗血症、尿路感染症、心不全、急性冠症候群、大動脈解離、大動脈瘤破裂、肺塞栓、緊張性気胸、アナフィラキシー、中毒、消化管出血、脳梗塞、脳出血、くも膜下出血、てんかん、熱中症、気管支喘息、ARDS、急性膵炎、胆石症、急性腸炎、虫垂炎、尿路結石、多発外傷、頭部外傷、脊髄損傷、重度熱傷、DIC など

### 【医学生に許容される医行為】

(全科共通 (5.1) 医行為も参照)

全科共通と同じ。

### 【実習スケジュール】

2週間のうちに1人2回は当直実習を行う。

|     |          | 日      | 月                                 | 火                       | 水                       | 木                       | 金                                | 土      |
|-----|----------|--------|-----------------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|----------------------------------|--------|
| 第1週 | 午前       | 休<br>み | 9:00～回診<br>朝カンファ<br>オリエンテー<br>ション | 9:00～ 回診<br>朝カンファ       | 9:00～ 回診<br>朝カンファ       | 9:00～ 回診<br>朝カンファ       | 9:00～ 回診<br>朝カンファ                | 休<br>み |
|     | 午後       |        | 外来・病棟実<br>習                       | 外来・病棟実習                 | 外来・病棟実習                 | 外来・病棟実習                 | 外来・病棟実習                          |        |
|     | 夜間<br>実習 |        | 17:00～<br>タカンファ<br>当直実習           | 17:00～<br>タカンファ<br>当直実習 | 17:00～<br>タカンファ<br>当直実習 | 17:00～<br>タカンファ<br>当直実習 | 17:00～<br>タカンファ<br>当直実習          |        |
|     |          |        |                                   |                         |                         |                         |                                  |        |
| 第2週 | 午前       | 休<br>み | 9:00～ 回診<br>朝カンファ                 | 9:00～ 回診<br>朝カンファ       | 9:00～ 回診<br>朝カンファ       | 9:00～ 回診<br>朝カンファ       | 9:00～ 回診<br>朝カンファ<br>外来・病棟実<br>習 | 休<br>み |
|     | 午後       |        | 外来・病棟実習                           | 外来・病棟実習                 | 外来・病棟実習                 | 外来・病棟実習                 | 評価                               |        |
|     | 夜間<br>実習 |        | 17:00～<br>タカンファ<br>当直実習           | 17:00～<br>タカンファ<br>当直実習 | 17:00～<br>タカンファ<br>当直実習 | 17:00～<br>タカンファ<br>当直実習 | 17:00～<br>タカンファ                  |        |
|     |          |        |                                   |                         |                         |                         |                                  |        |

※回診は9:00～ 南診療棟2F EICUより開始する

※朝カンファは南診療棟1階のカンファレンス室で行う

※評価は2週目金曜日の午後を予定するが、日程が変更となる場合もある

### 【評価の方法と基準】

以下の項目を総合的に評価する。

- a. 高度救命救急センターでの実習態度と技能
- b. 高度救命救急センターカンファレンスでの発表能力
- c. 第2週のグループディスカッションにおける発表能力と問題発掘能力

### 【履修上の注意】

(全科共通 (5.1) 履修上の注意も参照)

- a. 実習初日の集合について

カンファレンス後に実習のオリエンテーションを行う。

集合時間：月曜日 9：00

集合場所：南診療棟 2 階 E I C U (救急車対応中は 1 階救急処置室)

- b. 事前にやっておくべきこと：実習予定表、実習配属表で自分のスケジュールを確認し、救急医学の成書を実習までに読んでくること。
- c. 指導教員と共に救急患者の診療について勉強すること。
- d. 毎日の実習の中で生まれた疑問は自分で調べ、臨床医学における自己学習の習慣を身につけること。わからないときは、実際の診療の中でも担当医に質問すること。
- e. 高度救命救急センター外来診療では担当教員の指示に従い、積極的に問診や診察を行うこと。

### 【オフィスアワー一覧】

巻末参照

## 5. 2 (診療科別)

### (診療科名) 総合診療部

【実習主任】：多胡 雅毅

【実習担当者】：藤原 元嗣、徳島 圭宜、相原 秀俊、香月 尚子、山下 駿、大石 透、牧尾 成二郎

#### 【学修の目的と内容 期待される学修成果】

総合診療部では、臓器や疾患を選ばず、様々な訴えの患者に適切な診断と治療を提供できる医師の育成を目標としている。あらゆる症例を断ることなく柔軟に対応するためには、医療面接、系統的身体診察、基本的検査の選択と結果の解釈、臨床推論、診療録への記載、症例提示といったすべての医師に必須の基本的診療能力に磨きをかけることが重要である。当科の実習では、PhaseⅣ前半までに培った内科的な知識を統合し、積極的に診療参加し、患者中心のチーム医療を実践できるようになることが目標である。また実習を通して、幅広いcommon diseaseに対して適切な評価・治療を行うことの重要性を理解すること、難解なプロブレムであっても問題解決の糸口を見つける論理的思考ができるようになる。特に大学病院における総合診療部の特徴として重症・診断困難症例への対応、他診療科や医療施設との連携についても学修する。

#### 【実習中に修得すべき能力（コンピテンシー）】

(全科共通のコンピテンシーは(5.1)参照。)

- ・初診患者の医療面接を行い、病歴をまとめることが出来る
- ・全身状態の観察から優先すべき処置や重点的診察項目を把握出来る
- ・全身のスクリーニングが短時間で手際よく出来る
- ・病態把握に必要な陽性所見・陰性所見を診療録へ明瞭・的確に記載出来る
- ・臨床推論を用いて診断仮説を形成し、仮説検証・除外診断を検討出来る
- ・適切な治療法を提案、実践ないし専門診療科へコンサルトすることが出来る

#### 【経験すべき疾患】

(全科共通 (5.1) 経験すべき症候も参照)

総合外来もしくは救急外来で初療対応を行う患者の主訴には、医学教育コアカリキュラムに含まれる経験すべき症候のうち、ほとんど全てが含まれる。経験すべき疾患としては一般に頻度の高い疾患、見逃すと予後に重大な影響を及ぼすものすべてとなる。

大学病院の総合診療部として、当科で特に対応しているものとして、不明熱の原因精査（原因としては感染性心内膜炎、化膿性脊椎炎、結核、サルコイドーシス、血管内リンパ腫など）、原発不明癌の原因精査、検診異常、電解質異常、などが挙げられる。

#### 【医学生に許容される医行為】

(全科共通 (5.1) 医行為も参照)

全科共通の医行為以外で特に当科で修得すべきものはない。

### 【実習スケジュール】

- ・ 詳細な実習スケジュールは初日に配布する。別紙参照のこと。
- ・ 実習初日は朝 9 時に北病棟 2 F カンファレンス室 2 に集合。
- ・ 平日午前は交代で総合外来にて初診患者の問診を行う。午後1時30分からは外来カンファレンスに参加。それ以外の時間帯は病棟チームの一員として入院患者の診療に付き添う。
- ・ 上記以外に教員によって実施されるレクチャー（EMPやG-Moreレクチャーなど、開催時期は適宜変更あり）への参加が義務付けられている。

### 【評価の方法と基準】

- ・ 実習学生は期間中診療チームの一員として診療に参加する。外来もしくは入院で経験した症例において、それぞれカンファレンス・もしくはチーム回診における症例プレゼンテーションを行う。教員は学生とのディスカッションを通して、病態・治療について適切な理解が出来ているかを適宜評価する。
- ・ 受け持ち症例、経験症例についてはレポートを記載する。書式に従って簡潔にまとめる。自分なりのアセスメントを行うことが求められる。
- ・ 診療チームの一員として適切な参加態度が出来ているかも評価の対象となる。特に外来では医学生が医師の診察の前に初診患者と対応するため、病院で最初に出会う医療者となる。服装、髪、爪の清潔さには充分注意し、実習への協力に対する感謝の心とプロとしての厳しさの両面をもって対応すること。

### 【履修上の注意】

（全科共通（5.1）履修上の注意も参照）

- ・ 白衣着用、診察用具、メモ帳などを持参する。
- ・ 遅刻・欠席について：欠席は事前に理由を学生課に報告すること。やむを得ず欠席した場合は、夏季・冬季休暇などを利用して補習する。遅刻は2回で欠席1日と換算する。無断欠席の場合は不合格となるので注意すること。

### 【オフィスアワー一覧】

巻末参照

5. 実習日程表 (週間予定表)

|        |   |  |  | 8:30       | 9:00      | 9:15      | 10:00                            | 12:00 | 12:30  | 13:00  | 13:30                             | 14:30                      | 15:00 | 15:30        | 16:00 | 16:30 | 17:00 | 17:30 | 18:00 |
|--------|---|--|--|------------|-----------|-----------|----------------------------------|-------|--------|--------|-----------------------------------|----------------------------|-------|--------------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 総合外来実習 | 月 |  |  |            | オリエンテーション | 外来問診の注意事項 | 病棟診療<br>(チームリーダーと合流、問診、診療、カルテ記載) | 昼休み   | 入院カンファ | 外来conf | G-more<br>／総合診療部紹介                | 病棟診療                       |       |              |       |       |       |       |       |
|        | 火 |  |  | 朝カンファ      | 総合外来・病棟診療 |           | 採血実習<br>(2グループに分かれて)             | 昼休み   | 昼休み    | 外来conf | 病棟診療                              |                            |       |              |       |       |       |       |       |
|        | 水 |  |  | 朝カンファ      | 総合外来・病棟診療 |           |                                  | 昼休み   | 昼休み    | 外来conf | 学生レクチャー                           | 病棟診療                       |       |              |       |       |       |       |       |
|        | 木 |  |  | 朝カンファ      | 総合外来・病棟診療 |           |                                  | 昼休み   | 昼休み    | 外来conf | 学生・研修医<br>バーセルインデックス<br>を検査       | 病棟診療、<br>バーセルインデックス<br>を検査 | EMP   |              |       |       |       |       |       |
|        | 金 |  |  | 朝カンファ      | 総合外来・病棟診療 |           |                                  | 昼休み   | 昼休み    | 外来conf | 電カルトレーニング                         | 病棟診療                       |       |              |       |       |       |       |       |
|        | 月 |  |  | 8:20～朝カンファ | 総合外来・病棟診療 |           |                                  | 昼休み   | 入院カンファ | 外来conf | 病棟診療                              |                            |       |              |       |       |       |       |       |
|        | 火 |  |  | 朝カンファ      | 総合外来・病棟診療 |           | 採血実習<br>(2グループに分かれて)             | 昼休み   | 昼休み    | 外来conf | 病棟診療                              |                            |       |              |       |       |       |       |       |
|        | 水 |  |  | 朝カンファ      | 総合外来・病棟診療 |           |                                  | 昼休み   | 昼休み    | 外来conf | 病棟診療                              | 病棟診療                       |       | 病原体抗原の迅速検査実習 |       |       |       |       |       |
|        | 木 |  |  | 朝カンファ      | 総合外来・病棟診療 |           |                                  | 昼休み   | 昼休み    | 外来conf | 学生・研修医<br>バーセルインデックスを検査           | 病棟診療、<br>バーセルインデックスを検査     |       | 症例ピックアップ     |       |       |       |       |       |
|        | 金 |  |  | 朝カンファ      | 総合外来・病棟診療 |           |                                  | 昼休み   | 昼休み    | 外来conf | カンファ終了後<br>実習まとめ・グループ<br>ディスカッション | ポストアンケート<br>提出             |       |              |       |       |       |       |       |

|                                            |                                                                        |
|--------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|
| 1F総合外来カンファレンスルーム                           | ： 外来、外来conf、入院カンファ                                                     |
| 北病棟 2F北総合診療部医師室(教員室⑥)                      | ： 学生レクチャー                                                              |
| 北病棟 2F北カンファレンス室2                           | ： オリエンテーション、外来問診の注意事項、EMP、朝カンファ、総合診療部の紹介・G-more紹介、電カルトレーニング、症例報告ピックアップ |
| 地域医療支援センター2Fセミナー室                          | ： 実習まとめ                                                                |
| TEAMS (動画)                                 | ： 問診講義、臨床実習研究講義                                                        |
| ※「採血実習」、「病原体抗原の迅速検査実習」は担当講師に集合場所を確認してください。 |                                                                        |

《外来confについて》

総合外来カンファレンス室で行います。開始10分前に集合してください。

《カンファレンス室2について》

- ・私物を置いたままにしないでください。
- ・用事のないときは使用しないでください。

《その他》

- ・開始時間は、目安です。連絡で予定されている場合は、引き続き行われます。
- ・問い合わせ先：総合診療部事務

注) 予定は変更になる可能性があります。その際は連絡しますのでご注意ください。

## 5. 3 関連教育病院実習

【実習主任】：江村 正、多胡 雅毅、徳島 圭宜

【実習担当者】：甘利 香織（佐賀県医療センター好生館 総合教育研修センター長）

### 【学修の目的と内容 期待される学修成果】

関連教育病院研修では、地域の中核病院における医療を体験し、大学病院と市中病院との疾患や患者の構成の違い、医療連携について学び、将来地域での医療に貢献できる力を身につける。

### 【実習中に修得すべき能力（コンピテンシー）】

1. 倫理的・法的な規範に則った行動をとることができる
2. 患者や家族の価値観と権利を尊重することができる
3. 患者のプライバシーを守ることができる
4. 社会の医学生に対する期待を理解し、誠実で責任感のある態度で行動できる
5. 自らを省み、自己学習する態度・習慣を維持続ける
6. これまでに学んできた医学的知識を統合し、問題解決に応用することができる
7. 医療面接、基本的身体診察法を実施し、臨床推論ができる
8. 適切な診断、治療計画の立案ができる
9. 正確かつ簡潔な症例提示ができる
10. 医療安全に配慮することができる
11. 患者の心理社会的背景を理解し、良好な患者医師関係を築くことができる
12. 他の医療者と円滑に連携することができる
13. 地域の保険・医療・福祉の連携を理解できる
14. 地域の特性や多様なニーズを理解し、地域の医療に参画できる

### 【経験すべき疾患】

（下記全科共通(5.1) 経験すべき症候 参照。 関連教育病院において、配属される診療科によりこれらの中から該当する疾患は異なる。）

1. 発熱、2. 全身倦怠感、3. 食思（欲）不振、4. 体重減少・体重増加、5. ショック、6. 心停止、7. 意識障害・失神、8. けいれん、9. めまい、10. 脱水、11. 浮腫、12. 発疹、13. 咳・痰、14. 血痰・咯血、15. 呼吸困難、16. 胸痛、17. 動悸、18. 胸水、19. 嚥下困難・障害、20. 腹痛、21. 悪心・嘔吐、22. 吐血・下血、23. 便秘・下痢、24. 黄疸、25. 腹部膨隆（腹水を含む）腫瘍、26. 貧血、27. リンパ節腫脹、28. 尿量・排尿の異常、29. 血尿・タンパク尿、30. 月経異常、31. 不安・抑うつ、32. もの忘れ、33. 頭痛、34. 運動麻痺・筋力低下、35. 腰背部痛、36. 関節痛・関節腫脹、37. 外傷・熱傷

### 【医学生に許容される医行為】

（全科共通の医行為はモデル・コア・カリキュラム 診療参加型臨床実習実施ガイドラインに準ず。このうち関連教育病院実習では配属される各科の現状に応じて許容される医行為は異なるため、実習時に必ず指導医と事前に相談をすること）

① 指導医の指導・監視の下で実施が開始されるべき行為（レベルⅠ）

|       |                                                                                                                     |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 診療の基本 | 臨床推論、診断・治療計画立案、EB、診療録作成、症例プレゼンテーション                                                                                 |
| 一般手技  | 体位交換、移送、皮膚消毒、外用薬の貼付・塗布・気道内吸引、<br>ネブライザー、静脈採血、末梢静脈確保、胃管挿入、尿道カテーテル挿入抜去、<br>注射（皮下・皮内・筋肉・静脈内）、診療記録                      |
| 外科手技  | 清潔操作、手洗い、ガウンテクニック、縫合、抜糸、消毒・ガーゼ交換                                                                                    |
| 検査手技  | 尿検査、末梢血塗抹標本、微生物学的検査（Gram 染色含む）、<br>妊娠反応検査、血液型判定、脳波検査（記録）、超音波検査（心・腹部）、<br>視力・視野検査、聴力検査、平衡検査、12誘導心電図、<br>経皮的酸素飽和度モニター |
| 診察手技  | 医療面接、<br>診察法（成人・小児・全身・各臓器）（侵襲性、羞恥的医行為は含まない）<br>基本的な婦人科診察、バイタルサイン、耳鏡、鼻鏡、眼底鏡、直腸診察、<br>前立腺触診、乳房診察、高齢者の診察（ADL評価、CGA）    |
| 救急    | 一次救命処置                                                                                                              |

② 指導医の実施の介助・見学にとどめることが推奨される医行為（レベルⅡ）

|      |                                                                                         |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| 一般手技 | 中心静脈カテ挿入、動脈採血・ライン確保、腰椎穿刺、膀胱洗浄、<br>ドレーン挿入・抜去、全身麻酔、局所麻酔、輸血、眼球に直接触れる治療<br>各種診断書・検案書・証明書の作成 |
| 外科手技 | 手術、術前・術中・術後管理                                                                           |
| 検査手技 | 脳波検査（判読）、筋電図、眼球に直接触れる検査、超音波検査（判読）、エックス線検査、<br>CT/MRI、核医学、内視鏡検査                          |
| 診察手技 | 婦人科疾患の診察、妊婦の診察と分娩                                                                       |
| 救急   | 救命治療（二次救命処置等）、救急病態の初期治療、外傷処置                                                            |

## 令和6年度10月～ 関連教育病院（佐賀県医療センター好生館）での実習にあたって

### I G. I. O.（一般学習目標）

地域の中核病院で遂行されている第一線の医療を体験し、地域医療の特徴や住民のニーズを知るとともに、地域包括ケアの概念や大学病院との医療連携について学ぶ。

### II S. B. O.（個別行動目標）

1. 大学病院と地域の中核病院（好生館）における患者および疾患の違いを述べることができる。
2. 大学病院と地域の中核病院（好生館）との連携について述べることができる。
3. 地域の中核病院（好生館）と2次病院および診療所との連携について述べることができる。
4. 疾患のみならず、本人・家族の意向に沿った治療計画の重要性を述べることができる。
5. 医師のみならず、病院職員全員によるチーム医療の重要性を説明できる。
6. 地域の中核病院（好生館）の地域医療連携センターおよび入退院支援センターの役割について説明できる。
7. 地域包括ケアの概念について説明できる。

### III 評価の方法と基準

#### 1. 評価方法

各科実習終了時に態度・技能・問題解決能力などについて、出席状況とともに指導医が評価します。

#### 2. 評価基準

総合評価として、「佐賀大学医学部Phase IV臨床選択実習評価表」に、「秀」、「優」、「良」、「可」、「不可」、で表します。「不可」を不合格とします。

提出を求める資料は、以下のとおりです。

(1) 自己評価表

(2) 診療科によっては、症例のまとめ、および実習のまとめ、もしくはレポート

#### 3. 評価結果の開示

評価結果の閲覧を希望するものは、電子メールで教科主任に申し込んでください。

### IV 履修上の注意

#### 1. 臨床実習の体制

- ・実習指導医には、当館のスタッフがあたり、man-to-man指導を原則とします。
- ・受入れ可能な診療科は、以下のとおりです。

循環器内科、呼吸器内科、肝胆膵内科、消化器内科、腎臓内科、脳神経内科、血液内科、糖尿病代謝内科、臨床腫瘍科、総合内科

小児外科、消化器外科、肝胆膵外科、呼吸器外科、眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、整形外科、放射線科、脳神経外科、麻酔科、心臓血管外科、救命救急センター（救急科）、緩和ケア科、産婦人科、病理、皮膚科

- ・受入れができない診療科：精神科、感染制御部、集中治療部(ICU)、形成外科、

リハビリテーション科

（小児科・産婦人科は、別枠で研修受入れ）

## 2. オリエンテーション

- ・一般的なオリエンテーションは、当館での実習に先立って佐賀大学で行いますが、各科のオリエンテーションは、その科の責任指導医が行います。

## 3. 初日の集合場所

- ・病院実習初日は、佐賀県医療センター好生館（病院棟）の東側に隣接する「研修棟」の1階ロビーに、8：00までに集合してください（図参照）。看護部実習などもあるため、実習に関する説明会（オリエンテーション）は、研修棟1階の「研修室1 A&B」もしくは「控室1」で行います。

また、第2日目のモーニング・レクチャーは、研修棟3階の「シミュレータ室」にて実施します。

- ・休憩場所は、研修棟1階の奥にある「控室1」となっています（図参照）。

「控室1」の鍵は、令和4年度から電子錠に変更になりました。解錠のための暗証番号は、実習初日の説明会でお教えします。昼食時はローソン東側に隣接した職員休憩室を利用してもかまいません（図参照）。

- ・実習初日のオリエンテーションは、総務課庶務係の係長および総合教育研修センターの担当者（藤田／甘利）が行います。まずICカードとPHSおよびオリエンテーション資料を受け取り、書類に必要事項を記載してください。その後、電子カルテにアクセスするのに必要なIDとPWを各自に付与します（PWは変更しないでください）。また指紋の認証・登録も同時に行います。

その後、ロッカー及び控室の使用上の注意点、病院における業務上の注意事項などの説明を受けたのちに白衣に着替え、各自が実習予定の診療科に移動します。

- ・引き続き、各診療科の指導医らによるオリエンテーションを受けます。各診療科の集合場所と集合時間は、別表をご参照ください。
- ・盗難防止のため、ロッカー付属の4桁の暗証番号を設定した後の注意点について実習初日に説明しますので、必ず参加してください。実習最終日は必ず、ロッカーのロックを解除してください。
- ・貴重品（財布、カード、スマートフォンなど）は必ず、ロッカーの中に入れずに、身につけるようにしましょう。
- ・平成27年度からICカードのセキュリティー・レベルを変更し、医局1や麻酔科控室にも入室できるように設定しているため、ICカードの取り扱いには特に留意してください。また、ICカードで入室後は必ず、ドアを閉めるようにお願いします。ICカードをロッカー内に忘れた時や、ロッカーの暗証番号を失認した場合は、総合教育研修センターまで申し出てください。
- ・「控室1」は、休憩や昼食、自己学習などで自由に使用してかまいません。
- ・「控室1」の中にPHS用の充電器を複数台置いておきますので、適宜充電してください。
- ・節電のため、病院棟および研修棟の1階～3階の廊下の照明は、最小限となっています。また省エネルギー推進のため、4月～10月の期間、便座の暖房を休止していますが、ご理解のほどよろしくお願いします。

## 4. 2日目のレクチャーについて

- ・病院実習2日目は、7：50から、研修棟3階のシミュレータ室にて30分程度のレクチャーを行いますので、できるだけ参加してください。講師は総合教育研修センターが担当します。医師国家試験問題の救急領域の解説に加え、好生館の臨床研修医（皆さんの先輩）が実際にERで経験した「冷や汗症例」や「見落とし症例」をテーマ別に紹介します。また、電子カルテ記載上の留意点やSnap Shot Diagnosis（一発診断）等についてもレクチャーします。8：00に実習が始まる診療科に登録した医学生の皆さんは、参加しなくても結構です（実習を優先させること）。

## 5. 臨床実習カリキュラム

- 1) 学生数：大学での割当てにしたがって、実習学生を受け入れます。
- 2) 実習期間：5年次の10月～6年次の8月の期間
- 3) 実習の日時：月曜日～金曜日。8：30～17：15が原則ですが、時間外に及ぶこともあります。
- 4) 実習診療科の割当て：

受け入れ診療科への実習割り当ては、大学において行われます。

好生館の各診療科における実習期間は、1クール2週間で、総計は2クール（4週間）となります。期間内においては、同一診療科での実習を2回行うことも可能です。ただし、佐賀大学で実習した診療科とは重複しない方が望ましいと思われます。

| 診療科      | 指導医     | 集合時刻と集合場所・留意点                                                                                    | 受入れ人数            |
|----------|---------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------|
| 血液内科     | 吉本部長    | AM08:30 4階西 スタッフ・ステーション                                                                          | 1名／2週間           |
| 脳神経内科    | 江里口部長   | AM08:00 6階西 カンファレンス・ルーム                                                                          | 1名／2週間           |
| 腎臓内科     | 中村部長    | AM08:30 3階西 透析室                                                                                  | 1名／2週間           |
| 呼吸器内科    | 岩永部長    | AM08:30 8階東 カンファレンス・ルーム                                                                          | 1名／2週間           |
| 肝・胆・膵内科  | 大座部長    | AM08:30 2階医局1 中央テーブル                                                                             | 2名／2週間           |
| 消化器内科    | 富永部長    | AM08:55 に集合<br>火曜日 1階 13番外来26番診察室<br>火曜日以外 1階 内視鏡室スタッフルーム<br>※内視鏡室へのiPadなどのタブレット端末の持ち込みは、原則禁止です。 | 1名／2週間           |
| 糖尿病・代謝内科 | 吉村部長    | AM08:30 に集合<br>2階 22番外来54番診察室                                                                    | 1名／2週間           |
| 循環器内科    | 吉田部長    | AM08:30 6階東 カンファレンス・ルーム                                                                          | 2名／2週間           |
| 総合内科     | 原野部長    | AM08:30 1階18番外来1番診察室                                                                             | 1名／2週間           |
| 臨床腫瘍科    | 柏田部長    | AM08:45 2階 26番外来<br>外来化学療法室                                                                      | 1名／2週間           |
| 小児外科     | 山内部長    | AM08:30 5階西南 スタッフ・ステーション                                                                         | 1名／2週間           |
| 消化器外科    | 池田部長    | AM08:30 7階東 カンファレンス・ルーム                                                                          | 1名／2週間           |
| 肝・胆・膵外科  | 三好部長    | AM08:30 7階東 カンファレンス・ルーム                                                                          | 1名／2週間           |
| 呼吸器外科    | 武田部長    | AM08:30 8階東 スタッフ・ステーション                                                                          | 1名／2週間           |
| 眼科       | 佐々部長    | AM08:30 8階東 眼科 診察室                                                                               | 2名／2週間           |
| 耳鼻咽喉科    | 宮崎部長    | AM08:30 1階 耳鼻科外来                                                                                 | 1名／2週間           |
| 泌尿器科     | 諸隈部長    | AM09:00 1階 泌尿器科外来                                                                                | 1名／2週間           |
| 整形外科     | 林田部長    | AM08:30 4階東 カンファレンス・ルーム                                                                          | 1名／2週間           |
| 脳神経外科    | 松本部長    | AM08:30 6階西 カンファレンス・ルーム                                                                          | 1名／2週間           |
| 放射線科     | 相部副館長   | AM08:30 1階 放射線科読影室<br>(1クール目：2名、2クール目：0名)                                                        | 2名／2週間<br>0名／2週間 |
| 麻酔科      | 三浦部長    | AM08:30 3階 麻酔科医局                                                                                 | 1名／2週間           |
| 心臓血管外科   | 里部長     | AM08:30 6階東 カンファレンス・ルーム                                                                          | 1名／2週間           |
| 救命救急センター | 岩村センター長 | AM08:30 3階 救急科医局                                                                                 | 2名／2週間           |
| 緩和ケア科    | 小杉部長    | AM08:30 8階西 スタッフ・ステーション                                                                          | 2名／2週間           |

| 診療科        | 指導医    | 集合時刻と集合場所・留意点           | 受入れ人数  |
|------------|--------|-------------------------|--------|
| 病理         | 森部長    | AM08:30 2階 病理部医局        | 1名／2週間 |
| 皮膚科        | 米倉部長   | AM08:30 5階西 スタッフ・ステーション | 1名／2週間 |
| 産婦人科       | 安永・室部長 | 産婦人科院外実習の受入れに伴う処置       | 0名／2週間 |
| 精神科        | 石井部長   |                         | 0名／2週間 |
| 感染制御部      | 福岡部長   |                         | 0名／2週間 |
| 集中治療部（ICU） | 三溝部長   |                         | 0名／2週間 |
| 形成外科       | 原田部長   |                         | 0名／2週間 |
| リハビリテーション科 | 山之内部長  |                         | 0名／2週間 |
| 小児科        | 西村部長   | 小児科院外実習の受入れに伴う処置        | 0名／2週間 |

## 6. 臨床実習の方法

- ・学生に許容される医療行為の範囲は 佐賀大学医学部医学科の学習要項（phaseⅣ）に準じます。
- ・直接患者さんに接し、man-to-manの指導方式で行うことを原則としますが、複数の指導医が指導することもあります。
- ・実習は、各科の実情に合わせ、科別のカリキュラムに沿って行います。
- ・指導は、主に入院患者を中心に行いますが、診療科によっては外来患者についても指導を行うこともあります（救急科など）。
- ・病院の研究集会（CPC、抄読会、カンファレンス、好生館医学会など）には積極的に参加するようにお願いします。
- ・担当指導医が当直する場合や、時間外勤務の場合も、見学および実習は可能です。

## 7. 実習生の心得

### 1) 患者さんに対する時の注意

- ・実習は、担当指導医の監督下に行います。
- ・患者さんに対しては、親切誠実を旨として、丁寧に接し、人間と人間の触れ合いであることを念頭におきましょう。
- ・患者さんに対する態度・言葉づかいなどは、精神的・肉体的安静を損なわないように配慮します。
- ・さわやかな明るい挨拶はチーム医療の基本となるものであり、病院の雰囲気をよくします。  
廊下ですれ違う際などは、医師・看護師だけでなく、コメディカル・スタッフ、事務系職員、派遣社員など、病院に勤務するスタッフの方々にも積極的に、明るく挨拶をするように心がけましょう。
- ・医療事故を起こさないように、細心の注意をはらいましょう。
- ・患者さんに接するには、あらかじめ診療録、または医師や看護師などから当該患者の病状や性格などについて情報を得ておくことが望ましいです。
- ・患者さんに対しては、診断、病状、検査内容、治療内容などの説明をしてはいけません。もし、患者さんから求められた場合には、主治医に相談するようにしてください。
- ・患者さんに関して得た秘密は、他に漏らしてはなりません。

### 2) 職員に対する時の注意

- ・院内で勤務する者は、診療担当者、もしくは診療協力者ですから、礼儀正しく、謙虚に、かつ積極的に教えを受けましょう。チーム医療の基本は、他職種（コメディカル・スタッフ）に対する ほんの少しの

“リスペクト”です。

3) 服装・みだしなみ・姿勢

- ・学生は、患者が肉体的あるいは精神的に傷ついていることを考え、常に清潔で他人に不快感をあたえることのないよう、心がけましょう。
- ・服装は、大学で定められた清潔な白衣を着用し、名札を装着しましょう。白衣姿で登下館せず、専用のロッカーを使用しましょう。
- ・頭髮は、派手な髪型をさけ、爪も常に手入れをしておきましょう。
- ・スリッパ、サンダル、ぞうりなどは履かないしにないようにしましょう。クロックスは大部分が穴があいているため、感染予防の面からも履かないようにお願いします。
- ・ネックレス、イヤリング、腕輪などの装飾品ならびに厚化粧は差し控えましょう。
- ・常により姿勢を保つように努めましょう。

4) 応対

- ・明るい挨拶を励行しましょう。
- ・言葉づかいは、標準語でわかりやすく、かつ要領よく。  
(佐賀弁を禁止するわけではありませんが、患者さんによっては方便を馴れ馴れしく感じる方もいらっしゃるので、“臨機応変に”使い分けましょう)
- ・不用意、不注意な発言を慎みましょう。
- ・相手の言い分を正しく理解し、敏速かつ正確に対応するようにしましょう。
- ・辛抱強く対応することも、大切です。

5) 電話 (PHS含む)

- ・電話での会話は、簡潔、明快に、かつ大声をさけましょう。
- ・私用の電話は慎むよう、お願いします。
- ・実習中は、私用の携帯電話・スマートフォンの使用は、原則として禁止します。  
(どうしても必要な場合は、マナー・モードに設定してください)

6) 病棟・外来での注意

- ・設備、備品を大切に取り扱い、材料その他の消耗品を浪費しないようにしましょう。
- ・好生館は、敷地内禁煙です。
- ・時間を厳守するよう、心がけましょう。
- ・常に所在を明らかにしておくようにしましょう。都合で病院を離れるときは、その旨を指導医に伝えておくようにしましょう。
- ・連絡用のPHSを貸与します。実習開始時に受け取り、終了時に返却してください。  
PHSの充電装置は、「控室1」に複数台、置いてあります。
- ・ナース・ステーション、処置室、検査室、カンファレンス・ルーム、医師控室、医局等において、資料、図書、器具などを使用した際には、使用後、速やかに所定の位置に戻してください。
- ・患者給食の見学および試食に際し、下痢などの感染性疾患に罹患しているものは、指導医に連絡し、給食室に立ち入らないようにしてください。

7) タブレット端末などの持ち込みについて

- ・iPadなどのタブレット端末やノートPCの持ち込みは可能です。休憩時間に自己学習に使用するのは許可します。ただし、臨床実習中（内視鏡室での見学など）に、タブレット端末を持ち込んで、実習以外の

目的（医師国家試験の過去問題を解くなど）で使用するものは、禁止しています。

#### 8. 剖検・検査など

- ・剖検は時間内のみならず、時間外にも実施されることがあります。見学を希望する場合は、連絡方法を指導医に申し出ておくようにしましょう。
- ・原則として、毎月第3水曜日の17：30～18：30の時間帯にCPC（臨床病理カンファランス）が、研修棟1階の研修室1A、Bにて開催されます。できるだけ参加しましょう。
- ・臨床検査、X線検査、栄養指導などは、指導医の指示により実習可能です。

#### 9. 図書室使用について

- ・病院の図書を利用する場合は、図書室内で読んでください。持ち出しは禁止します。
- ・必要箇所のコピーは、図書室で可能です（無料）。
- ・病院図書には、文字、線などを書き込まないこと。
- ・図書室に設置しているコンピューターから、佐賀大学医学部図書館の図書にアクセス可能です。

#### 10. 電子カルテの利用について

- ・電子カルテ利用にあたって、学生各個人へIDとPWが付与されます。同時に指紋認証が必要です（オリエンテーション時に説明します；指紋登録に要する時間は数分です）。
- ・プログレスノートへの診察記事の記載など、カルテ記載は「可」とします。  
(電子カルテへの記載記事の最後に、佐賀大学医学部6年 ○○ ○○などのように、記載者がわかるようにしてください)
- ・医師や看護師によって記載された記事の修正は「不可」とします。  
(修正した場合は、ログに修正時刻および修正者が記録されるようになっていきます。)
- ・検査結果、画像、写真の閲覧は「可」とします。
- ・処方（内服、注射など）は、「不可」とします。
- ・看護師への指示は、「不可」とします。
- ・検査結果、画像、写真などの印刷は、指導医の許可のもとで「可」とします。
- ・症例報告や発表のために、検査結果、画像、写真などを電子媒体へ取り出したい場合は、指導医へ依頼します（指導医が病院の規則に沿って、データ取り出し申請を行います）。

#### 11. 控室

- ・ロッカーは、使用中は、必ず、鍵をかけておくようにしましょう！  
繰り返しますが、貴重品（財布やカード、スマートフォンなど）はロッカーに入れず、必ず身につけておくこと。また、実習最終日には必ず、ロッカーのロックを解除してください。
- ・電気など火気には十分、注意してください。しつこいようですが、好生館は敷地内禁煙です。
- ・ロッカールーム及び控室は、お互いに迷惑のかからないように、整理整頓に努めましょう。

#### 12. 仮眠室、宿泊

- ・夜間見学の際は、宿泊施設も利用可能です（研修棟6階のゲスト・ルーム）。宿泊を希望する場合は、総務課庶務係へ申し出てください。  
救急科を選択した場合は、希望すれば、夜間の救急車対応等にも参加できます。その際は、ERの一角にある「仮眠室」を使用できますので、予め救急科岩村部長に申し出てください。

#### 13. 欠席について

- ・欠席する場合は、事前に理由を付して、総務課庶務係および各診療科の部長（指導医）まで届け出てください

い。なお、急病、事故、突然の体調不良などにより欠席する場合は、好生館の代表電話（ ）にかけ、総務課庶務係および各診療科の部長（指導医）に連絡するようにしてください。時間外などの理由により上記担当部署に連絡がとれない場合は、総合教育研修センターの担当者（藤田／甘利）に繋いでもらうか、伝言を依頼してください。

また、大雨、大雪等による交通網の混乱時など職員を含め多数の遅刻が予想される場合は、上記に依らず朝8時15分以降に総務課庶務係直通（ ）へ電話し、名前、実習中の診療科名と要件を連絡してください。

#### 14. 駐車場について

- ・実習の都合上、駐車場が必要な場合は、研修棟北側にある大型職員駐車場（職員第3駐車場）に駐車可能です（図参照）。平日朝は、そのまま駐車場に入れます。帰る際は西側ゲートのバーが降りていますので、貸与されたICカードをかざして出てください。実習最終日に帰る際は、ゲート下のボタンを押して守衛室に佐賀大学医学部の学生実習者である旨を告げ、バーを挙げてもらってください（料金は不要です）。なお、駐車場②に車を駐めた場合は、実習終了後に病院棟1階西側の守衛室で佐賀大学医学部学生である旨を告げ、駐車券の処理を依頼してください。

駐車料金は、無料となります。

#### 15. その他

- ・食事に関しては、病院棟1階西側の職員食堂を利用するか、館外にあるコンビニエンス・ストア（ローソン）でお弁当などを購入後、控室1（研修棟1階）を利用してください（前述）。  
なお、ローソンは、病院棟1階の南側（病院棟の敷地外）に移動しているので、ご注意ください（営業時間：24時間営業）。
- ・実習期間中に、針刺し事故や自損他損などの事故が発生した場合は、遅滞なく、指導医あるいは総務課庶務係に連絡してください。針刺し事故では、当館の感染制御部および医療安全部が介入します。
- ・実習終了時は、アンケート用紙に記載し、総務課庶務係へ提出してください（改善を望むこと等、自由に意見を書いてもらって結構です）。問題点があれば、できるだけ対応する予定です。

#### 16. 所在地

〒840-8571 佐賀市嘉瀬町大字中原400番地

地方独立行政法人佐賀県医療センター好生館

教育研修センター

## V テキスト など

各診療科で配布されることがあります。

## VI 週間予定表など

実習は、各診療科のカリキュラムに沿って実施されます。

■ 好生館の所在地



■ 研修棟への道案内(駐車場)】



Ⅰ 研修棟への道案内(本館通路)



## 研修棟 1 階マップ

（総合教育研修センター／研修室1A&B／控室1）



## 5. 4 地域医療実習

【実習主任】江村 正, 多胡 雅毅, 徳島 圭宜, 藤原 元嗣

【実習担当者】各実習施設担当者

### 【学修の目的と内容 期待される学修成果】

本実習では、診療（プライマリ・ケア）、すなわち、一般外来・入院診療だけではなく、地域の中核病院、診療所等で実際におこなわれている訪問診療や訪問看護も含め第一線の医療を体験し、地域医療の特徴や地域医療に対する住民のニーズを知るとともに、地域完結・循環型医療のあり方、地域包括ケアシステムの実践について学ぶ。

### 【実習中に修得すべき能力（コンピテンシー）】

1. 地域の医療機関（地域密着型、クリニック、中核病院）と大学病院を受診する患者の背景や疾患の違い、必要される医療行為の違いについて述べることができる。
2. 疾患のみならず、患者の心理社会的側面、生活状況等を踏まえた問題点を列挙することができる。
3. 患者とその家族の要望や意向を尊重しつつ問題解決を図ることの重要性を説明できる。
4. 地域の特性が患者の疾患、受療行動、診療経過などにどのように影響するかを述べることができる。
5. 地域の医療機関と地域医療支援病院や大学病院との連携について、その重要性とあり方を述べることができる。
6. 地域包括ケアを遂行する上で必要な事柄を列挙し、その重要性について述べることができる。
7. 健診や健康教育等、地域における予防活動について述べることができる。
8. 介護やリハビリ、福祉との連携の重要性について述べることができる。
9. 在宅医療のあり方、必要性について述べることができる。

### 【実習スケジュール】

#### 1) 実習日程

実習のオリエンテーションは、実習初日（月曜日が休日の時は火曜日）朝 9 時 00 分より地域医療支援センター（2 階セミナー室）にて行う。

|    | Mon                                      | Tue           | Wed           | Thu           | Fri                                    |
|----|------------------------------------------|---------------|---------------|---------------|----------------------------------------|
| AM | (1 週目)<br>9:00 オリエンテーション<br>(地域医療支援センター) | 実習<br>(各医療機関) | 実習<br>(各医療機関) | 実習<br>(各医療機関) | 実習<br>(各医療機関)                          |
| PM | 実習<br>(各医療機関)                            | 実習<br>(各医療機関) | 実習<br>(各医療機関) | 実習<br>(各医療機関) | (2 週目)<br>14:30 実習のまとめ<br>(地域医療支援センター) |

#### 2) 実習先への移動について

実習先へは、なるべく公共交通機関を利用すること。自家用車を使う場合には十分に安全に留意して、事故のないように余裕をもって移動すること。事故を起こした場合は自己責任になるので、必ず任意保険に加入しておくこと。

### 3) 遅刻・欠席について

体調不良時には実習は欠席とし、保健管理センター、実習先医療機関の担当者へ連絡し、報告すること。その他の理由の場合は、医師育成・定着支援センター（Mail：saga.coms@gmail.com）および実習先医療機関の担当者へ連絡し、報告すること。欠席の理由や日数によっては、夏季・冬季休業日などを利用して再実習するなどの方法で欠席日数分の補習を行うことがある。無断欠席の場合は不合格となるので注意すること。

### 4) 協力していただける学外医療機関は以下のとおりである。

事前にホームページ等で施設情報を入手し、実習を行う施設の概要を知っておくことが望ましい。

#### 【1週目】地域密着型医療機関・クリニック

- |                          |                                                                                           |
|--------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|
| ① 池田内科・消化器科<br>(池田信博院長)  | 佐賀市若宮3-1-24                                                                               |
| ② 矢ヶ部医院<br>(矢ヶ部伸也院長)     | 佐賀市木原3-2-11<br>HP：https://yakabeiin.com/                                                  |
| ③ 三瀬診療所<br>(西智子所長)       | 佐賀市三瀬村藤原3882-6                                                                            |
| ④ ぶどうの木クリニック<br>(山本巻一院長) | 佐賀市水ヶ江1丁目2-21<br>HP：https://www.budounoki-mc.jp/index.html                                |
| ⑤ 唐津市民病院きたはた<br>(大野每子院長) | 唐津市北波多徳須恵1424-1<br>HP：https://www.city.karatsu.lg.jp/kenko/kenko/iryo/kitahata/index.html |
| ⑥ 町立太良病院<br>(上通一泰院長)     | 藤津郡太良町多良1520-12<br>HP：https://tara-hp.com/                                                |
| ⑦ くらたクリニック<br>(倉田毅院長)    | 久留米市長門石1丁目5-32<br>HP：https://kurata-cl.com/                                               |

#### 【2週目】地域中核病院

- |                              |                                                       |
|------------------------------|-------------------------------------------------------|
| ① 佐賀市立富士大和温泉病院<br>(杉岡隆院長)    | 佐賀富士町大字梅野1721-1<br>HP：http://www.hospitalfj.saga.jp/  |
| ② ひらまつ病院<br>(加藤雅人院長)         | 小城市小城町1000番地1<br>HP：http://www.hiramatsu-hp.or.jp/    |
| ③ 織田病院<br>(織田正道理事長)          | 鹿島市高津原4306<br>HP：http://www.yuai-hc.jp/               |
| ④ 伊万里有田共立病院<br>(桃崎宣明院長)      | 西松浦郡有田町二ノ瀬甲860<br>HP：http://www.imari-arita-hp.or.jp/ |
| ⑤ 国立病院機構佐賀病院<br>(円城寺昭人院長)    | 佐賀市日ノ出1-20-1<br>HP：https://saga.hosp.go.jp/           |
| ⑥ 国立病院機構嬉野医療センター<br>(力武一久院長) | 嬉野市嬉野町大字下宿甲4760-1<br>HP：https://ureshino.hosp.go.jp/  |
| ⑦ 今村病院<br>(今村一郎理事長)          | 鳥栖市轟木町1523-6<br>HP：http://josuikai.or.jp              |
| ⑧ 唐津赤十字病院<br>(宮原正晴院長)        | 唐津市和多田2430<br>HP：https://www.karatsu.jrc.or.jp/       |
| ⑨ 山元記念病院<br>(山元謙太郎理事長)       | 伊万里市二里町八谷搦88-4<br>HP：http://www.kenjin-kai.com/       |

## 【評価の方法と基準】

評価は、実習への参加日数およびグループディスカッションでの発言、レポート提出で行う。

レポート様式は、各グループ実習開始時にTeams内にアップロードするが、当日のオリエンテーションにて詳細を説明する。

### 1) 評価基準

提出を求める資料は以下の通りである。現場で経験したことを記述するだけでなく、感想や考察が含まれているか否かについても評価基準とする。

- ① 実習内容と症例の記録
- ② 地域医療実習のまとめ
- ③ 今後の学習目標

### 2) 提出期限

実習終了後2週間以内に、医師育成・定着支援センター宛（Mail：saga.coms@gmail.com）へ提出すること。提出が大幅に遅れた場合は不合格となるので注意すること。

### 3) 評価結果の開示

評価結果開示希望者には、提出されたレポートに則して、実習の意図との関連で、評価の基準とその結果を開示する。希望者は電子メールで実習主任に申し込むこと。なお、レポートは、実習が修了した後に実習施設にフィードバックとして送付する。

## 【履修上の注意】

地域の医療機関は、本来、学生の教育を目的とした施設ではなく、診療体制も効率的な患者サービスを第一としている。学生実習の受け入れは各施設の責任者の教育に対する理解と好意によって実現したものである。したがって診療の流れを著しく乱すことがないように以下の点にはとりわけ注意を払ってほしい。

- 1) 実習当初は見学を中心として施設の特性や診療体制の理解に努め、徐々に予診（簡単な問診）、面接、身体診察へと参加の度合いが深まるよう、努力すること。
- 2) 実習先の医師、看護師の他、メディカルスタッフとのコミュニケーションを密にとり、スタッフの指示には迅速に対応すること。
- 3) 診療への参加が許可された場面では積極的に面接や診療を実施し、医師への報告・質問が手際よく行えるよう、面接、診療、プレゼンテーションの方法を十分復習しておくこと。
- 4) 実習先の指導医にはもちろんのこと、看護師はじめメディカルスタッフ、事務職員、患者、家族にも毎日きちんと挨拶をすること。
- 5) 実習では、服装、髪、爪の清潔さには充分注意し、実習への協力に対する感謝の心とプロとしての厳しさの両面をもって対応すること。
- 6) 実習・見学中に知り得た個人情報ははじめとする、すべての情報は実習中および実習終了後も、一切漏らさないこと。
- 7) 実習施設の個人情報、実習施設を誹謗中傷する文章などをSNS等へ書き込みをしないこと。

## 【オフィスアワー一覧】

巻末参照

## 6 Phase V の学修指針等



# Phase V の概要

Phase V チェアパーソン 副 島 英 伸

## 1. 概要

Phase Vは、2～6年次の「基礎系・臨床系選択科目」、1～6年次の「地域枠入学生特別プログラム」からなる選択コースである。

「基礎系・臨床系選択科目」は、基礎系・臨床系の教育・研究分野の中から、自己のそれまでの学習の振り返りや将来のキャリアなどを踏まえて、学習が必要な分野や更に深めたい分野などを各講座や研究グループから提示されたテーマの中から選択する。

「基礎系・臨床系選択科目」のうち2年後期～4年次の「区分A研究プログラム」は医学的研究の方法論や研究倫理を理解し、問題解決の科学的思考・技法を用いて新たな知見や倫理を発見する研究マインドを涵養することを目標としている。5年後期～6年次の「区分B発展的学修・実習プログラム」には臨床系科目が追加されており、臨床の現場を経験したうえで、自らの学びの深化、論理的思考や研究マインドの発展的育成を目的としている。

「地域枠入学生特別プログラム」は、佐賀県推薦入学者、佐賀県枠推薦入学者等を対象とし、佐賀県内の医療者等との交流や医学修得への意欲向上を目的とする特別プログラムである。

## 2. 該当する卒業時学修成果

- ・ 1 プロフェッショナリズム (1.5), 2 医学的知識 (全般), 6 科学的探究心 (全般)。
- ・ 地域枠入学生特別プログラムには、4 コミュニケーションと協働 (全般), 5 国際的な視野に基づく地域医療への貢献 (全般) が追加される。

## 3. 講義・実習・演習項目

後掲の基礎系・臨床系選択科目題目等一覧表と題目別概要を参照のこと。

## 4. 評価の方法と基準

- ・ プロフェッショナリズムの修得を常に意識して、真剣に授業に取り組むこと。
- ・ 実習が中心であり、すべての授業への出席と課題レポート等の提出が求められる。
- ・ 病気や災害などやむを得ない事由で欠席した場合は速やかに欠席届を提出すること。
- ・ 出席をしても実習中の態度に著しい問題がある場合は、出席とは認めない。
- ・ 課題レポート等の提出物に関しては、形式・内容の不備、提出の遅延がある場合は、提出と認めない。
- ・ 成績判定は、「佐賀大学成績判定等に関する規程」2条の2に準ずる。
- ・ 出席、提出物、その他に関する不正行為は、「佐賀大学学生の懲戒等実施細則」および「佐賀大学医学部の試験の実施等に関する取扱要項」に則って対処する。(たとえば、「レポート等の盗作や剽窃を行った場合」は、「停学または訓告」処分となる。)

## 基礎系・臨床系選択科目題目等一覧表

### 基礎系

| 番号   | 題 目                           | 週数      | 連 絡 先 (室番号)<br>実 施 場 所                                             | 担 当 者      | 受入<br>人数 | 実施時期                        | 備 考 |
|------|-------------------------------|---------|--------------------------------------------------------------------|------------|----------|-----------------------------|-----|
| B001 | CRISPR/Cas9 によるゲノム・エピゲノム編集入門  | 2?4     | 分子生命科学講座教授室(2318)<br>分子生命科学講座分子遺伝学・エビジェネティクス分野・研究室                 | 副島, 原      | 1~2      | 全期 (但し, 2024年11月25日~29日は不可) |     |
| B002 | 生化学実験法                        | 原則<br>2 | 分子生命科学講座 分子医化学・アレルギー学分野事務室 (内線■■■■)<br>分子生命科学蛋白質実験室, 分子生命科学細胞培養実験室 | 出原, 布村, 南里 | 2        | 相談の上決定                      |     |
| B003 | 遺伝子操作の基本技術と遺伝子機能解析入門          | 4~8     | 分子生命科学講座 吉田教授室 (2294)<br>分子生命科学講座免疫学分野教室                           | 吉田, 三宅, 石塚 | 2        | 全期 (33週、および免疫学実習期を除く)       |     |
| B004 | タンパク質の発現と機能解析                 | 2~4     | 分子生命科学講座細胞生物学分野教員資料室 (2269)<br>分子生命科学講座細胞生物学                       | 池田, 井原, 岡田 | 1        | 相談の上決定                      |     |
| B005 | 分子細胞生物学的研究                    | 2~4     | 生体構造機能学教員室<br>生体構造機能学講座の実験室                                        | 城戸, 吉本     | 4        | 7月~3月, 長期休業期間               |     |
| B006 | 心臓イオンチャネルの電気生理学入門             | 4~8     | 生理学事務室 (2313)<br>生体構造機能学器官・細胞生理学教室                                 | 塩谷         | 1~2      | 全期 (ただし3月と7月を除く)            |     |
| B007 | 記憶・学習メカニズムの電気生理学的解析           | 2~4     | 生体構造機能学事務室(2313)<br>生体構造機能学神経生理学教室                                 | 安田, 惣谷, 栗原 | 数名       | 全期 (生理学実習期間を除く)             |     |
| B008 | 生物学的精神医学研究法                   | 2~4     | 生体構造機能学事務室(2313)<br>生体構造機能学生理学教室                                   | 安田, 惣谷, 栗原 | 数名       | 全期 (生理学学生実習期間を除く)           |     |
| B009 | 英語論文を用いて行う質問力を鍛えるための実践的トレーニング | 2~4     | 生体構造機能学事務室(2313)<br>生体構造機能学薬理学研究室 (2286)                           | 鬼頭         | 4        | 全期 (相談の上決定)                 |     |
| B010 | 実践的病理診断のイロハ<br>~学習と検鏡を中心に~    | 2       | 病因病態科学講座診断病理学教授室 内線■■■■<br>病理学教室                                   | 木戸, 橋口, 甲斐 | 2        | 4月~7月を除く                    |     |
| B011 | 実験病理学入門                       | 4       | 病因病態科学講座事務室(2114)<br>探索病理学分野                                       | 青木茂, 西山    | 2        | 全期                          |     |
| B012 | 細菌感染実験研究法 (レジオネラの細胞内増殖アッセイ)   | 2~4     | 病因病態科学講座教授室(2212)<br>病因病態科学講座微生物学分野研究室                             | 宮本, 菖蒲池    | 2        | 全期 (相談の上決定)                 |     |
| B013 | 疫学研究における統計解析の実践               | 2       | 社会医学教員室 (2407)<br>社会医学セミナー室, 上記教員室, その他                            | 原          | 2        | 10~12月を除く                   |     |
| B014 | 生活習慣病への問題解決型アプローチ             | 4       | 社会医学教員室 (2406)<br>運動生理学研究室 (2401), 社会医学セミナー室, 上記教員室                | 原, 西田      | 4        | 前期                          |     |

| 番号   | 題 目                           | 週数  | 連 絡 先 (室番号)<br>実 施 場 所                                   | 担 当 者                    | 受入<br>人数  | 実施時期                                                              | 備 考 |
|------|-------------------------------|-----|----------------------------------------------------------|--------------------------|-----------|-------------------------------------------------------------------|-----|
| B015 | 労働・住宅環境の健康影響                  | 2   | 社会医学教員室 (2409)<br>社会医学実験室, その他                           | 市場, 松本                   | 2         | 全期 (但し,<br>2025年3月17<br>日～21日, 5<br>月12日～16日,<br>6月9日～13日<br>を除く) |     |
| B016 | ALDH2遺伝子多型<br>による個別化医療の<br>推進 | 2   | 社会医学教員室 (2408)<br>社会医学実験室, その他                           | 松本, 市場                   | 2         | 全期 (但し,<br>2025年3月17<br>日～21日を除<br>く)                             |     |
| B017 | 法医診断学                         | 2   | 法医学教員室(2204),<br>事務室(2203)<br>法医学教室他                     | 池田                       | 2         | 全期                                                                |     |
| B018 | 発生工学手法を用いた疾患モデル動物の作製          | 2   | 総合分析実験センター・生物資源開発部門 (2431)<br>動物実験施設                     | 北嶋, 松久                   | 2         | 全期 (但し,<br>実施の1ヶ月<br>以上前に担当<br>教員に実施時期の相談を行うこと)                   |     |
| B019 | 救急診療の初期対応－指導者としての視点を身につけるために－ | 4   | 地域医療科学教育研究センター事務室 (1210)<br>スキルスラボ                       | 阪本, 小田,<br>小網, 鳴海,<br>木庭 | 4         | 全期 (履修希望学生と相談の上決定)                                                |     |
| B020 | 医学教育体験実習 (肉眼解剖学アドバンスドコース)     | 1～4 | 生体構造機能学講座 解剖学・人類学分野 教授室 (2105)<br>組織実習室 (骨学実習), 系統解剖実習室  | 倉岡, 菊池,<br>川久保           | 最大<br>10名 | 2024年9月3日<br>～11月22日                                              |     |
| B021 | 医療データ解析法の実装                   | 4   | 地域医療科学教育研究センター<br>数理解析部門 (内線■■■■)<br>医学科講義棟セミナー室,<br>その他 | 川口                       | 年間<br>4名  | 相談の上決定                                                            |     |

## 臨床系

| 番号   | 題 目                                  | 週 数  | 連 絡 先（室番号）<br>実 施 場 所                                            | 担 当 者                        | 受入<br>人数 | 実施時期                            | 備 考 |
|------|--------------------------------------|------|------------------------------------------------------------------|------------------------------|----------|---------------------------------|-----|
| B101 | 冠動脈インターベンション治療                       | 2or4 | 内科循環器研究室 内線■■■■<br>循環器内科                                         | 夏秋, 横井,<br>園田, 野出            | 10       | 全期                              |     |
| B102 | 生活習慣病治療の実際                           | 2or4 | 内科循環器研究室 内線■■■■<br>循環器内科                                         | 野出, 田中                       | 10       | 全期                              |     |
| B103 | 不整脈診療の実際                             | 2or4 | 内科循環器研究室 内線■■■■<br>循環器内科                                         | 山口, 新里,<br>野出                | 10       | 全期                              |     |
| B104 | 膠原病・リウマチ性疾患を対象とした臨床研究                | 2    | 膠原病・リウマチ内科研究室 (2367)<br>膠原病・リウマチ内科研究室 (2367)                     | 多田, 赤星,<br>丸山                | 2        | 全期 (2025年<br>4月21日～5月<br>9日は不可) |     |
| B105 | 神経筋疾患の診断の進め方                         | 2～4  | 神経内科研究室 内線■■■■<br>神経筋外来, 3階北病棟 (南)                               | 鈴山, 七條千,<br>小池               | 1～2      | 全期                              |     |
| B106 | 急性期脳血管障害の診断と治療                       | 2～4  | 神経内科研究室 内線■■■■<br>佐賀県医療センター好生館                                   | 江里口, 七條<br>千, 小池             | 2        | 全期                              |     |
| B107 | 腎代替療法とその治療の実際                        | 2    | 腎臓内科研究室 (2465)<br>腎臓内科                                           | 山崎, 池田,<br>福田, 宮園            | 1        | 全期 (但し,<br>4月～5月を除く)            |     |
| B108 | 消化器診療の実際                             | 2or4 | 消化器内科研究室 (2460)<br>内線2361<br>消化器内科研究室 (2460)、<br>内視鏡室および4階西病棟    | 江崎, 下田,<br>鶴岡, 山口,<br>芥川, 島村 | 2        | 全期                              |     |
| B109 | 糖尿病・内分泌の病態とその治療                      | 2    | 肝・糖・内分泌内科研究室 (2450) 内線■■■■<br>肝・糖・内分泌内科研究室<br>および4階西病棟           | 小島, 美奈川                      | 2        | 全期                              |     |
| B110 | 肝・胆・膵疾患の評価法                          | 2    | 肝・糖・内分泌内科研究室 (2450) 内線■■■■<br>肝・糖・内分泌内科研究室,<br>超音波検査室他           | 桑代, 田中,<br>窪津, 野下            | 3        | 全期                              |     |
| B111 | 肺がん遺伝子検査・がんゲノム検査結果の解釈と理解             | 2    | 呼吸器内科研究室 (院生棟<br>4階2474室)<br>内線■■■■<br>呼吸器内科研究室 (院生棟<br>4階2474室) | 中島                           | 2        | 全期                              |     |
| B112 | 肺結核の診断、治療の実際                         | 2    | 呼吸器内科研究室 (2474)<br>内線■■■■<br>独立行政法人国立病院機構<br>東佐賀病院               | 柴田, 犬山,<br>高橋 他              | 2        | 全期                              |     |
| B113 | 慢性閉塞性肺疾患 (COPD) の身体活動性と患者QOL改善への取り組み | 2    | 呼吸器内科研究室 (2474)<br>内線■■■■<br>呼吸器内科研究室 (2474),<br>3階東病棟, 呼吸器内科外来  | 高橋                           | 2        | 全期                              |     |
| B114 | 血液疾患の診断から治療にいたる系統的学習                 | 2    | 内科事務室 (2456)<br>血液外来, 血液研究室, 教<br>員室, 2階北病棟                      | 木村, 安藤,<br>勝屋, 岡本            | 2        | 全期                              |     |
| B115 | 固形がん治療の実際                            | 2    | 内科事務室 (2456)<br>外来化学療法室, 2階北病棟南                                  | 木村, 勝屋,<br>佐野                | 2        | 全期                              |     |
| B116 | 伊万里市黒川町研究を通じた高齢者の精神的健康に関する生物学的検討     | 2    | 精神科事務室 (2147) 内線■■■■<br>■■■■<br>精神医学講座 (2147)                    | 溝口                           | 1        | 全期                              |     |
| B117 | コンサルテーション・リエゾン精神医学                   | 2    | 精神科事務室 (2147) 内線■■■■<br>精神科医局員室                                  | 溝口                           | 1        | 全期                              |     |

| 番号   | 題 目                                                     | 週<br>数 | 連 絡 先 (室番号)<br>実 施 場 所                                | 担 当 者                                          | 受入<br>人数 | 実施時期                                                            | 備 考 |
|------|---------------------------------------------------------|--------|-------------------------------------------------------|------------------------------------------------|----------|-----------------------------------------------------------------|-----|
| B118 | ベッドサイドの小児<br>の診かた<br>ーadvanced courseー                  | 2      | 小児科事務室 (2239)<br>内線■■■■<br>小児科病棟, 小児科関連病院             | 松尾, 實藤,<br>尾形, 大塚,<br>垣内, 岩永,<br>熊本, 西眞,<br>中村 | 2        | 全期                                                              |     |
| B119 | 一般・消化器外科手術<br>と基本手術手技                                   | 2      | 一般・消化器外科事務室<br>(内線■■■■)<br>4階東病棟                      | 能城, 他                                          | 2        | 全期                                                              |     |
| B120 | 乳腺疾患の診断と治療                                              | 2      | 一般・消化器外科事務室<br>(内線■■■■)<br>4階東病棟, 消化器外来, 他            | 能城, 他                                          | 2        | 全期                                                              |     |
| B121 | 心臓・大血管の病態<br>と外科治療                                      | 2      | 胸部外科医局 (2356) 内線■■■■<br>胸部外科医局, 動物実験施設,<br>手術室等       | 蒲原, 伊藤                                         | 2        | 全期                                                              |     |
| B122 | 呼吸器疾患の病態と<br>外科治療                                       | 2      | 胸部外科医局 (2356) 内線■■■■<br>胸部外科医局                        | 平塚                                             | 4        | 全期                                                              |     |
| B123 | 整形外科アドバイス<br>セミナー                                       | 2      | 整形外科医局 (2343)<br>整形外科医局                               | 森本, 藤井,<br>塚本                                  | 2        | 全期                                                              |     |
| B124 | リハビリテーション<br>医療の実際                                      | 2      | リハビリテーション科<br>(内線■■■■)<br>リハビリテーション科・先進<br>総合機能回復センター | 村田                                             | 1        | 全期                                                              |     |
| B125 | 形成再建外科の治療<br>学入門                                        | 2      | 形成外科医局 (2330)<br>内線■■■■<br>5階東病棟, 形成外科医局<br>(2330)    | 上村, 渡邊,<br>永野, 吉住                              | 1        | 受け入れ不可<br>期間 (学会<br>期間)                                         |     |
| B126 | 脳神経外科手術のための<br>微小外科解剖と<br>基本手術手技                        | 2～4    | 脳神経外科事務室 (2349)<br>内線■■■■                             | 阿部, 増岡,<br>緒方, 吉岡,<br>古川                       | 4        | 全期                                                              |     |
| B127 | 脳腫瘍の遺伝子解析<br>と腫瘍幹細胞をターゲット<br>とした新規治療法の開発                | 2～8    | 脳神経外科事務室 (2349)<br>内線■■■■                             | 阿部, 中原,<br>伊藤                                  | 数名       | 全期                                                              |     |
| B128 | 脳血管内治療入門                                                | 2～4    | 脳神経外科事務室 (2349)<br>内線■■■■                             | 阿部, 緒方,<br>古川                                  | 数名       | 全期                                                              |     |
| B129 | 小児・女性泌尿器疾患<br>の診断・治療                                    | 2      | 泌尿器科医局 (2356)<br>泌尿器科医局, 泌尿器外来,<br>手術室など              | 野口, 東武                                         | 2        | 全期                                                              |     |
| B130 | 内視鏡外科手術を中心<br>とした泌尿器低侵襲<br>治療の手術実習                      | 2～4    | 泌尿器科医局 (2356)<br>泌尿器科医局, 泌尿器外来,<br>手術室など              | 野口, 有働,<br>東武, 柿木                              | 2～4      | 全期                                                              |     |
| B131 | 周産期医療 (母体・<br>胎児) 実習                                    | 2      | 産婦人科医局 (2257)<br>内線■■■■<br>独立行政法人国立病院機構<br>佐賀病院       | 横山, 山本,<br>津村 (佐賀病<br>院)                       | 1～2      | 全期                                                              |     |
| B132 | 産婦人科領域における<br>細胞診断学                                     | 2～4    | 産婦人科医局 (2257)<br>内線■■■■<br>産婦人科病理実験室, 資料<br>作成室       | 横山, 奥川,<br>梅崎                                  | 2        | 全期                                                              |     |
| B133 | 眼球の解剖の理解と<br>手術シミュレーション<br>(ウェットラボ実習)<br>ならびに手術助手<br>実習 | 2      | 眼科事務室 (2384) を経て<br>坂井博明助教へ連絡<br>臨床研究棟および附属病院<br>手術室  | 江内田, 坂井<br>博, 永浜ほか<br>眼科学教員お<br>よび医員           | 2        | (受入可能時期)<br>2024年10<br>月21日～2025<br>年3月21日お<br>よび8月4日～<br>8月15日 |     |

| 番号   | 題 目                           | 週<br>数 | 連 絡 先 (室番号)<br>実 施 場 所                                                        | 担 当 者                                   | 受入<br>人数   | 実施時期                                                                                                           | 備 考                      |
|------|-------------------------------|--------|-------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------|------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------|
| B134 | 頭頸部癌                          | 2      | 耳鼻咽喉科学講座事務室<br>(2523) 内線■■■■<br>耳鼻咽喉科学講座医局 (2523), 耳鼻咽喉科・頭頸部外科<br>外来, 手術室     | 山内, 峯崎                                  | 同一期<br>2   | Unit8 耳鼻咽喉科講義期間<br>中および日本耳鼻咽喉科学<br>会および日本頭頸部癌学会<br>期間中を除く                                                      |                          |
| B135 | 聴覚および音声障害                     | 2      | 耳鼻咽喉科学講座事務室<br>(2523) 内線■■■■ 耳鼻咽<br>喉科・頭頸部外科外来およ<br>び5階西病棟                    | 山内, 嶋崎,<br>森本                           | 同一期<br>2   | Unit8 耳鼻咽喉科講義期間<br>中および日本耳鼻咽喉科学<br>会および日本頭頸部癌学会<br>期間中, 2024年10月21日～<br>25日, 2024年12月23日～202<br>5年1月6日を含む期間を除く |                          |
| B136 | 鼻副鼻腔疾患の診断<br>と内視鏡下鼻副鼻腔<br>手術  | 2      | 耳鼻咽喉科学講座事務室<br>(2523)内線■■■■<br>耳鼻咽喉科学講座医局(2523),<br>耳鼻咽喉科・頭頸部外科外<br>来, 手術室    | 山内, 佐藤                                  | 同一期<br>2まで | 全期(2024年1<br>1月11日～15<br>日, 2024年12<br>月23日～2025<br>年1月5日を含<br>む期間を除く)                                         |                          |
| B137 | 画像診断入門                        | 2      | 放射線医学医局(第1資料室)<br>(2148)内線■■■■ 放射線部<br>読影室 内線■■■■<br>放射線部                     | 中園, 山口,<br>江頭秀, 江頭<br>玲, 西原, 平<br>井, 武下 | 2          | 全期                                                                                                             |                          |
| B138 | 手術麻酔を中心とし<br>た周術期管理・ICU<br>管理 | 2      | 麻酔蘇生学事務室 (2324)<br>手術部, 集中治療部                                                 | 坂口, 谷川,<br>中川                           | 同一期<br>2   | 全期                                                                                                             |                          |
| B139 | ペインクリニックに<br>おける疼痛治療          | 2      | 山田信一 (■■■■@cc. sa<br>ga-u. ac. jp)<br>ペインクリニック外来およ<br>び病棟                     | 山田, 原野                                  | 2          | 10月～8月末<br>(但し、2025<br>年6月30日～7<br>月12日までに<br>2週間を除く)                                                          |                          |
| B140 | 一般病棟および緩和<br>ケア病棟における緩<br>和ケア | 2      | 山田信一 (■■■■@cc. sa<br>ga-u. ac. jp)<br>(1週目) 佐賀大学医学部附属病院<br>(2週目) 佐賀県医療センター好生館 | 山田, 原野,<br>久保, 小杉                       | 2          | 10月～8月末<br>(但し、2025<br>年6月30日～7<br>月12日までに<br>2週間を除く)                                                          |                          |
| B141 | 口腔顔面の先天異常                     | 2      | 口腔外科事務室 院生棟4F<br>(2471) 内線■■■■<br>口腔外科外来, 口腔外科病棟,<br>こどもセンター, 手術室             | 合島, 他                                   | 1          | 全期 (実施時<br>期に関しては<br>症例によって<br>要相談)                                                                            | 141～143<br>同時に1テー<br>マのみ |
| B142 | 顎顔面外傷                         | 2      | 口腔外科事務室 院生棟4F<br>(2471) 内線■■■■<br>口腔外科外来, 病棟, 手術室                             | 檀上, 他                                   | 1          | 全期                                                                                                             |                          |
| B143 | 口腔の腫瘍および炎<br>症                | 2      | 口腔外科事務室 院生棟4F<br>(2471) 内線■■■■<br>口腔外科病棟, 口腔外科外<br>来, 手術室                     | 山下, 他                                   | 1          | 全期                                                                                                             |                          |
| B144 | ゲノム医療入門コー<br>ス                | 2～4    | 病院検査部 (3242)<br>病院検査部血液検査部門                                                   | 末岡, 中村,<br>佐藤, 吉原                       | 2          | 全期                                                                                                             |                          |
| B145 | 救急診療と救急患者<br>の初期対応            | 2      | 救急医局室 内線■■■■<br>救急外来, 病棟, 他医療施設                                               | 阪本, 小網,<br>中山                           | 4          | 全期                                                                                                             |                          |

| 番号   | 題 目                                         | 週数  | 連 絡 先 (室番号)<br>実 施 場 所                                                                                                               | 担 当 者                                    | 受入<br>人数  | 実施時期                                                               | 備 考 |
|------|---------------------------------------------|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------|-----------|--------------------------------------------------------------------|-----|
| B146 | ACLS特訓コース                                   | 2   | 救急医局室 内線■■■■<br>救急部 (高度救命救急センター)                                                                                                     | 阪本, 小網,<br>品田                            | 2         | 全期                                                                 |     |
| B147 | JATEC特訓コース                                  | 2   | 救急医局室 内線■■■■<br>救急部 (高度救命救急センター)                                                                                                     | 阪本, 小網,<br>中山                            | 4         | 全期                                                                 |     |
| B148 | 病院総合診療実践コース                                 | 2～4 | 総合診療部医師室 内線■■■■<br>総合診療部医師室, 病棟,<br>総合外来, 救急外来                                                                                       | 多胡, 徳島圭,<br>藤原, 相原,<br>香月, 大石,<br>牧尾, 山下 | 1回<br>4以内 | 全期                                                                 |     |
| B149 | 在宅医療・在宅ケア<br>実習                             | 2   | 医師育成・定着支援センター<br>事務室 地域医療支援セン<br>ター1階 内線■■■■<br>医療法人ひらまつ病院, ひ<br>らまつ在宅クリニック                                                          | 鐘ヶ江, 江村,<br>多胡, 徳島圭                      | 1         | 全期                                                                 |     |
| B150 | 地域包括ケア実習                                    | 2   | 医師育成・定着支援センター<br>事務室 地域医療支援セン<br>ター1階 内線■■■■<br>祐愛会織田病院および関連<br>施設                                                                   | 織田, 千々岩,<br>江村, 多胡,<br>徳島圭               | 1         | 全期                                                                 |     |
| B151 | 地域家庭医療実習                                    | 2～4 | 医師育成・定着支援センター<br>事務室 地域医療支援セン<br>ター1階 内線■■■■<br>唐津市民病院きたはた, 他                                                                        | 大野, 秋山,<br>竹内, 江村,<br>多胡, 徳島圭            | 1         | 全期                                                                 |     |
| B152 | 海外臨床実習                                      | 2～4 | 福森則男 (■■■■<br>@gmail.com)<br>地域医療科学教育研究セン<br>ター医療教育部門事務室<br>(2208) 内線■■■■<br>地域医療科学教育研究センター<br>および海外臨床実習施設                           | 小田, 青木洋,<br>福森                           | 指定無       | 全期                                                                 |     |
| B153 | 感染症の診断と抗菌<br>薬治療                            | 2～4 | 感染制御部 内線■■■■<br>感染制御部                                                                                                                | 青木洋, 的野,<br>浦上                           | 2～4       | 全期                                                                 |     |
| B154 | 教育者としての視点<br>を身につけるー学ぶ<br>立場から評価方法を<br>開発する | 2   | 医師育成・定着支援センター<br>教職員室 (地域医療支援セ<br>ンター棟2階) 内線■■■■<br>医師育成・定着支援センター<br>(地域医療支援センター棟2階)                                                 | 江村, 徳島緑,<br>徳島圭, 七條<br>千                 | 3         | 全期                                                                 |     |
| B155 | ヘルスプロモーションを<br>実践！<br>幼児を対象とした健康<br>講和をしよう  | 2   | 八板静香 (■■■■@cc.sag<br>a-u.ac.jp)<br>地域医療科学教育研究セン<br>ターセンター会議室 臨床<br>実習コーディネーター室<br>健康講和実施施設 (ひなた村<br>自然塾, 三瀬保育園, 佐賀カ<br>トリック幼稚園のいずれか) | 山下, 八板静<br>香, 溝口, 井<br>上香, 井手則           | 1～4       | 2024年10月21<br>日～12月13日,<br>2025年1月14<br>日～3月7日,<br>5月19日～7月<br>25日 |     |

## B 001. CRISPR/Cas9によるゲノム・エピゲノム編集入門

担 当 者 副島 英伸, 原 聡史

学習週数 2～4週 (応相談)

受入人数 1～2人

実施時期 全期 (但し, 2024年11月25日～29日は不可。)

連 絡 先 分子生命科学講座 2318室 (内線 2264)

実施場所 分子生命科学講座 分子遺伝学・エピジェネティクス分野・研究室

### 1. コースの概要

CRISPR/Cas9システムを用いたゲノム編集が普及したことで、遺伝子の個体レベルでの機能解明が容易に行えるようになった。さらに近年、これまで不可能だった遺伝子のエピゲノム状態を操作する「エピゲノム編集」も可能になった。本コースでは、培養細胞あるいはマウス受精卵へゲノム・エピゲノム編集を行い、これらを受けた細胞やマウス個体を用いて分子生物学的な解析を行う。上記を通して、基礎医学研究で用いられる基本的な遺伝子操作やゲノム編集の原理を実践的に学ぶとともに、遺伝子発現やエピゲノム制御への理解を深める。

### 2. 実習項目および学修目標

実習項目：培養細胞やマウス受精卵への遺伝子導入、遺伝子改変マウスの遺伝子型やエピゲノム状態の解析、新規ゲノム・エピゲノム編集ツールのプラスミド作成などを行う。実施する具体的な内容については各自と相談のうえ、希望に応じて上記を組み合わせたものとする。

学修目標：

- ・基本的な分子生物学的実験の原理を説明、実践できる。
- ・ゲノム編集（特にCRISPR/Cas9）の原理について理解し、説明できる。
- ・実験で得られたデータを正しく解釈し、説明できる。

### 3. 評価の方法と基準

- 1) 評価方法 実習に取り組む姿勢と実習内容のプレゼンテーションを総合的に評価する。
- 2) 評価基準 学修目標について、指導者の助言のもとに「概ね」達成できれば可とする。
- 3) 評価結果の開示 プレゼンテーションの課題の意図を開示する・希望者はオフィスアワー等の時間帯を利用して担当教員を訪ねること。

### 4. 履修上の注意

特になし

### 5. テキスト等

特になし

## B 002. 生化学実験法

|       |                                                 |
|-------|-------------------------------------------------|
| 担 当 者 | 出原 賢治, 布村 聡, 南里 康弘                              |
| 学習週数  | 基本的には2週とし, 希望によりそれよりも長期を可能とする。<br>同一期間内の受入人数 2名 |
| 対象学生  | 生化学履修後の学生                                       |
| 実施時期  | 希望者と相談の上, 決定する。                                 |
| 連 絡 先 | 分子生命科学講座 分子医化学・アレルギー学分野事務室 (内線2269)             |
| 実施場所  | 分子生命科学蛋白質実験室, 分子生命科学細胞培養実験室                     |

### 1. コースの概要

遺伝子, タンパク質, 細胞, モノクローナル抗体の取り扱いに必要な基礎的技術を学習し, 実際に自分でそれらを取り扱うことにより分子生物学・生化学的探究心と理解を深める。

### 2. 実習項目および学修目標

各自の興味に応じたテーマ, 材料等を話し合いの上決定し, そのテーマに沿って遺伝子, タンパク質, 細胞の機能解析に必要な基礎的技術を修得し, その成果についてレポートを作成する。

(学修目標)

- ・テーマの目的に応じた基本的技術の理解と修得
- ・結果の整理とそれについての考察
- ・テーマに関する知識の修得

### 3. 評価の方法と基準

- 1) 評価方法 各自のテーマに対する取組み状況とレポートの内容を総合的に評価する。
- 2) 評価基準 学修目標について, 「概ね」の達成状況を可とする。
- 3) 評価結果の開示 希望に応じて評価結果を開示する。

### 4. 履修上の注意

特になし

### 5. テキスト等

特になし

## B 003. 遺伝子操作の基本技術と遺伝子機能解析入門

担 当 者 吉田 裕樹, 三宅 靖延, 石塚 茂宜

学習週数 4～8週 受入人数 2名

実施時期 全期 (33週 (12月2日～12月6日), および免疫学実習期を除く)

連 絡 先 分子生命科学講座 吉田教授室 (2294)

実施場所 分子生命科学講座免疫学分野教室

### 1. コースの概要

ヒトのゲノムの解読が終了し、ヒトでは約3万種の遺伝子が存在していることが明らかになった。これらの遺伝子の個体レベルでの機能を明らかにし、さらに様々な疾患との関連を解明する手段の一つが遺伝子改変技術である。当研究室では、以下のようなアプローチで遺伝子操作の基本的な技術や細胞培養から、遺伝子欠損（ノックアウト）細胞・個体の作成、遺伝子編集細胞・個体の作成、遺伝子発現抑制（ノックダウン）細胞の作成、および遺伝子が改変された細胞やマウスの解析までを行っている。このコースでは、分子生物学的手法に基づいた遺伝子操作技術の基礎を学び、その実践と応用により遺伝子に基づいた個体機能の解析力を身につける。

### 2. 実習項目および学修目標

- (1) データベース検索や遺伝子操作による、目的とする遺伝子のゲノム地図の作成
- (2) 遺伝子改変（ノックアウト・ノックダウン）用プラスミドの作成、ノックアウト・ノックダウン細胞の作成
- (3) CRISPR/Cas9システムを利用した遺伝子編集用プラスミドの作成
- (4) (2) (3) で作成された遺伝子改変用核酸類の細胞への導入
- (5) 遺伝子改変細胞・マウスの同定と免疫学的手法による表現型の解析
  - ▶ リンパ球機能の解析
  - ▶ 自然免疫細胞のシグナル伝達
  - ▶ 感染実験 など

本コースでは、相談により上記(1)～(5)の中から希望に応じ学習内容を決める。

各遺伝子改変・編集技術の理論と実験方法を説明できる、また、改変細胞/動物の表現型の解析とその意味を説明できる。

### 3. 評価の方法と基準

- 1) 評価方法 実験方法・結果の修得と理解を総合的に評価する。
- 2) 評価基準 学修目標について、「概ねできた」の達成状況を「可」とする。
- 3) 評価結果の開示 履修学生に対して直接個別に説明する。

### 4. 履修上の注意

特になし

### 5. テキスト等

特になし

#### B 004. タンパク質の発現と機能解析

担 当 者 池田 義孝, 井原 秀之, 岡田 貴裕

学習週数 2～4週 受入人数 1名

実施時期 相談の上決定

連 絡 先 分子生命科学講座細胞生物学分野教員資料室 (2269)

実施場所 分子生命科学講座細胞生物学

##### 1. コースの概要

大腸菌や昆虫細胞を用いた組換えタンパク質の人工的な発現やアミノ酸置換・ドメイン欠失などの変異タンパク質の作製を経験してもらう。

##### 2. 実習項目および学修目標

ホストとなる細胞の培養方法、遺伝子の細胞導入法、タンパク質の精製、機能の分析・評価等を学ぶ。また、糖タンパク質の糖鎖改変についても実験することが出来る。何を対象にしてどのような実験系で行なうかなどは話し合いの上で決定する。(1) タンパク質の発現のしくみを理解できる, (2) 遺伝子導入の原理を説明できる, (3) タンパク質の構造-機能相関や機能の化学的基盤について考察出来る, を学修目標とする。

##### 3. 評価の方法と基準

- 1) 評価方法 各自の実習状況およびレポート等から総合的評価する。
- 2) 評価基準 学修目標についてある程度の達成が認められれば可とする。
- 3) 評価結果の開示 希望に応じて評価の根拠等について個別に開示を行なう

##### 4. 履修上の注意

特になし

##### 5. テキスト等

特になし

## B 005. 分子細胞生物学的研究

担 当 者 城戸 瑞穂, 吉本 怜子

学習週数 2～4週 同一期間内の受入人数 4名程度 対象学生 組織学履修後の学生

実施時期 7月～3月, 長期休業期間など(相談に応じます)

連 絡 先 生体構造機能学教員室

実施場所 生体構造機能学講座の実験室

### 1. コースの概要

細胞および組織の形態観察に必要な基礎技術を自ら体験する。教科書に記載されている研究成果はどのようにして得られるのか, 正常と病態はどのように異なるのかを自分で作った標本で自分の目で観察し, 臨床力の基盤となる違いを見抜くトレーニングをする。分子から細胞, そして組織の成り立ちへの理解を深め, 生体の構造の美しさや精緻さを実感し, 研究の楽しさと面白さを共感する。

### 2. 実習項目および学修目標

実習項目 試料作製, 染色, 各種顕微鏡等による観察, 画像取得や解析を行い, その成果について, 生理機能や病態との関連を考察しレポートを作成する。免疫組織化学や細胞培養法なども実習できる。推進しているメカノバイオロジー研究の中から各自の興味に応じたテーマに取り組む。希望に応じて長期の研究への取り組みや学会発表や論文作成の指導も可能である。

#### 目的

- ・研究目的に応じた標本作成, 観察方法の利点と限界を理解する。
- ・標本作成, 観察, データの記録(画像撮影)等のプロセスを遂行できる。
- ・データを整理し, 所見について科学的に考察する。

### 3. 評価方法と基準

- 1) 評価方法 各自の取組状況を総合的に評価する。
- 2) 評価基準 学修目標について, 「概ね」の達成状況を可とする。
- 3) 評価結果の開示 評価結果について個別に説明する。希望する者はオフィスアワー等の時間帯を利用して担当教員を訪ねること。

### 4. 履修上の注意

ヒトやマウスの組織を用いて実験する場合もあり。

### 5. テキスト等

必要に応じて資料を提供する。

## 006. 心臓イオンチャネルの電気生理学入門

担 当 者 塩谷 孝夫 ( )@cc.saga-u.ac.jp)

学習週数 4～8週 同一期間内の受入人数 1～2名

実施時期 全期 (ただし3月と7月は学生を受け入れない)

連絡先 生理学事務室 (基礎研究棟3階2313室)

実施場所 生体構造機能学 器官・細胞生理学教室

### 1. コースの概要

心電図の異常や不整脈をもたらすのは、心臓の興奮性異常だ。その診断や治療のためには、常態や病態での心臓イオンチャネルの挙動を、正確に理解することが不可欠だ。このコースでは、心臓のイオンチャネルに関する各自の疑問や興味に応じた実験テーマを、事前の相談によって選定し、そのテーマについて実験的に検討する。実験を通じて、細胞外記録法 (心電図・吸引電極)、細胞内記録法 (パッチクランプ)、カルシウムイメージング、コンピュータによる波形データ解析など、テーマに応じた心臓の電気生理学の基本手技を身につける。さらに、科学的な考察の方法と、実験結果の文書化の方法を習得する。

### 2. 実習項目および学修目標

- 1) 吸引電極法を用いて、麻酔下の動物から、心電図と心筋活動電位 (MAP) を同時記録する。抗不整脈薬やカルシウム拮抗薬などの、イオンチャネル作用薬の投与や、人工血漿の電解質組成の操作を行って、心電図波形の変化を観察する。さらに、同時記録した心筋活動電位との対応について、器官レベルで検討する。
- 2) 心筋細胞を動物の心臓から単離し、パッチクランプ法を用いて、活動電位やイオンチャネル電流を記録する。ホールセル記録を行なって、イオンチャネル電流の性質や挙動について、細胞レベルで分析する。また、可能な場合は、シングルチャネル記録を行なって、個々のチャネル分子の挙動について分析する。もし希望があれば、カルシウムイメージングによる、心筋細胞の細胞内カルシウム動態の観察も可能だ。
- 3) コンピュータを用いて、イオンチャネル電流の波形データを解析し、さらにデータの図を作図する。また、文献を検索・収集して、実験データと比較し、実験結果について科学的に考察する。実験と考察の内容を、実験ノートに正確に記録し、作図したデータの図とともに、レポートに能率的に文書化する。
- 4) 学修目標
  - ① 各人のテーマに応じた、適切な実験計画を立案できる。
  - ② 溶液調製、記録装置の操作、データの取得と保存など、電気生理学実験の基本手技を行える。
  - ③ 文献を検索・収集し、実験結果と文献を比較して、科学的に考察することができる。
  - ④ 各人がおこなった実験と考察の内容を、実験ノートに正確に記録し、レポートとして能率的に文書化できる。

### 3. 評価の方法と基準

- 1) 評価方法 各自の履修状況とレポートを、総合的に評価する。
- 2) 評価基準 学修目標①～④について、「概ね」達成した状況を、可と評価する。
- 3) 評価結果の開示 履修者には、面談で評価結果を開示する。

### 4. 履修上の注意

人手の制約から、週に2日の実験を上限とする。実験の特性から、実験日には、終日の出席が必要だ。本コースの履修を希望する者は、実験テーマを選定するため、自身の疑問と興味を明確にしたうえで、事前に担当者に相談せよ。

### 5. テキスト等

実験テーマに合わせて、適切な参考文献を指示する。

## B 007. 記憶・学習メカニズムの電気生理学的解析

担 当 者 安田 浩樹, 惣谷 和広, 栗原 大河  
学習週数 2～4週 受入人数 数名  
実施時期 全期（生理学学生実習期間を除く）  
連 絡 先 生体構造機能学事務室（2313）  
実施場所 生体構造機能学・生理学教室

### 1. コースの概要

海馬で観察されるシナプス可塑性は、動物の記憶・学習メカニズムと考えられておりその分子メカニズムは、主にげっ歯類海馬スライス標本を使った電気生理学的手法で精力的にリサーチされてきた。この選択コースでは、マウス海馬からスライス標本を作製し、シナプス応答およびシナプス可塑性を高いクオリティで記録できる技術習得、および可塑性分子メカニズムの一端を明らかにすることを目的とする。

### 2. 実習項目および学修目標

マウスから400  $\mu\text{m}$ 厚の海馬スライス標本を作製し、海馬CA1領域から細胞外記録法によって、シナプス応答を記録する。高頻度刺激や低頻度刺激によってシナプス長期増強・長期抑圧を誘発できれば、これらを制御している物質の阻害剤、あるいはノックアウトマウスを用いて、シナプス可塑性へのその物質の関与を検討する。

#### 目標

- (1) 海馬スライス標本を作製できる。
- (2) 海馬スライスにおけるシナプス応答を長時間記録することが出来る

### 3. 評価の方法と基準

- 1) 評価方法 各自のテーマに対する取組み状況とレポート内容を総合的に評価する。
- 2) 評価基準 学修目標の到達度をそれぞれ5段階評価し、総合評点3以上を合格とする。
- 3) 評価結果の開示 評価結果の閲覧を希望する者は、電子メールで担当教員（安田）に申し込むこと。

### 4. 履修上の注意

学生さんの個別の都合に対応します。

### 5. テキスト等

なし

## B 008. 生物学的精神医学研究法

担 当 者 安田 浩樹, 惣谷 和広, 栗原 大河  
学習週数 2～4 週 受入人数 数名  
実施時期 全期（生理学学生実習期間を除く）  
連 絡 先 生体構造機能学事務室（2313）  
実施場所 生体構造機能学・生理学教室

### 1. コースの概要

これまでマウスを利用した精神医学研究は、マウスを行動試験することにより進められてきた。現在、マウスの行動とそれを司る脳活動を結び付ける研究が盛んに進められているが、抗c-fos抗体による免疫組織化学染色法は、非常に簡便に脳の自発活動量を評価する方法として、多くの研究室で利用されている。本選択コースでは、動物がストレス負荷を受けた時の神経活動の変化を観察し、それに付随する行動変化を評価することで、ストレスによる気分の変化を制御する脳領域を探索する。

### 2. 実習項目および学修目標

マウスに慢性拘束、あるいは頻回水泳等のストレスを負荷した後、抑うつ行動評価試験を行う。その後、様々な皮質領域のストレス前後の神経活動を抗c-fos抗体による免疫組織化学染色法によって観察することにより、ストレスによる気分の制御をしている領域を推測する。

目標

- (1) 抑うつ行動評価試験が出来る。
- (2) 脳スライス標本の抗c-fos抗体による免疫組織化学染色ができる。

### 3. 評価の方法と基準

- 1) 評価方法 各自のテーマに対する取り組み状況とレポート内容を総合的に評価する。
- 2) 評価基準 学修目標の到達度をそれぞれ5段階評価し、総合評点3以上を合格とする。
- 3) 評価結果の開示 評価結果の閲覧を希望する者は、電子メールで担当教員（安田）に申し込むこと。

### 4. 履修上の注意

学生さんの個別の都合に対応します。

### 5. テキスト等

特になし

## B 009. 英語論文を用いて行う質問力を鍛えるための実践的トレーニング

担 当 者 鬼頭佳彦

学習週数 2～4週 受入人数 4名

実施時期 全期（相談の上決定）

連 絡 先 生体構造機能学事務室（2313室）（内線■■■■）

実施場所 薬理学研究室（院生棟2階2286室）

### 1. コースの概要

英語論文の精読・発表を行う事で、深く学び理解することの重要性を学習する。また、発表に対する質疑応答を通して、知識を組み合わせる論理的に考えることの重要性を理解する。

### 2. 実習項目および学修目標

（実習項目）

各自が興味を持つ論文を選び、15～20分程度のプレゼンテーションを行う。発表者以外は発表に対して質問を行い、発表内容および質問への対応について評価する。

（学修目標）

- ・ある事柄を正確に理解するにはどの程度の知識（量および質）が必要か予測を立てることができる。
- ・常に自らの疑問点を抽出しながら発表を聞くことができる。
- ・疑問点から質問に至るまでの自らの思考のプロセスを理解し、洞察力の向上に役立てることができる。

### 3. 評価の方法と基準

- 1) 評価方法 各自の取組み状況と達成度、理解度を総合的に評価する。
- 2) 評価基準 学修目標にて、概ねの達成を可として判定する。
- 3) 評価結果の開示 閲覧を希望する者は電子メールで担当教員に申し込むこと。

### 4. 履修上の注意

特になし

### 5. テキスト等

必要な資料については履修時に提示する。

## B 010. 実践的病理診断のイロハ～学習と検鏡を中心に

担 当 者 木戸 伸一, 橋口 真理子, 甲斐 敬太 (附属病院病理診断科)

学習週数 2週 受け入れ人数 2名以内

対象学生 5～6年次学生

実施時期 5年時後期～6年時前期 (4月～7月は受け入れ不可)

連 絡 先 診断病理学教授室 (内線■■■■)

実施場所 病理学教室

### 1. コースの概要

病理診断は診療の礎となる医行為である。病理診断には当該疾患に対する最新で深い知識と、微細な細胞・組織形態の差異を見抜く検鏡力が要求される。本コースでは、病理医と同等レベルの病理診断業務を、5年生時の臨床実習よりさらに1歩踏み込んで経験することにより、種々の疾患に関する深い実践的な知識の学習と、病理診断に耐えうる検鏡力の習得を目指す。

### 2. 実習項目および学修目標

実習項目

- 1) 指導医と共に実際の病理診断 (切り出し、検鏡、病理診断) を行う。
- 2) 診断に必要な知識を、適宜文献 (教科書、規約、ガイドライン、論文等) を用いて学習する。

学修目標

診断に必要な最新かつ幅広い知識を学習する。

病理診断に必要な検鏡力の習得を目指す。

### 3. 評価の方法と基準

- 1) 評価方法 日頃の取り組みと、カンファレンスでのプレゼンテーションにより、総合的に評価する。
- 2) 評価基準 学修目標について、概ね達成できていれば「可」とする。
- 3) 評価結果の開示 閲覧を希望するものは担当教員に申し出ること。

### 4. 履修上の注意

白衣を持参すること

研究上知り得た個人情報については守秘義務を守ること

### 5. テキスト等

特になし

## B 011. 実験病理学入門

担 当 者 青木 茂久, 西山 めぐみ  
学習週数 4 週 同一期間内の受入人数 2 名以内  
実施時期 全期  
連 絡 先 病因病態科学講座 事務室  
実施場所 探索病理学分野

### 1. コースの概要

実験を基盤として病態を解析する実験病理学は病理学の一分野である。本コースでは、教室内で実施している研究課題プロジェクトに加わり、実際に科学研究を实践することで、科学者としての思考法、科学的解決法を学ぶ。

### 2. 実習項目および学修目標

(実習項目) 実施する内容を記載してください

- 1) 細胞株を用いて、擬似的な癌組織を再構築する。
- 2) 再構築した癌組織内におけるシグナル経路を解析する。

(学修目標)

- 1) 細胞株の培養に必要な試薬・器材を理解し、無菌操作を実施できる。
- 2) 細胞内シグナルの解析方法を理解し、自ら実践できる。

### 3. 評価の方法と基準

- 1) 評価方法 各自のテーマに対する取り組みとレポート内容により総合評価する。
- 2) 評価基準 学修目標に対して概ね達成していれば、「可」とする。
- 3) 評価結果の開示 閲覧を希望する者は担当教員に申し出ること。

### 4. 履修上の注意

研究上知り得た個人情報に関しては、守秘義務を守ること。

### 5. テキスト等

特になし

## B 012. 細菌感染実験研究法（レジオネラの細胞内増殖アッセイ）

担 当 者 宮本 比呂志, 菖蒲池 健夫

学習週数 2～4週 受入人数 2人

実施時期 全期（相談の上決定）

連 絡 先 病因病態科学講座 宮本教授室（2212）

実施場所 病因病態科学講座 微生物学分野 研究室

### 1. コースの概要

微生物学の研究で実際におこなわれる実験を経験することにより、無菌操作や培養操作の基礎技術を習得するとともに、微生物学的探求心と理解力を深める。

### 2. 実習項目および学修目標

高齢者に肺炎などをおこすレジオネラ属菌は、食細胞に貪食されても殺菌されず、食細胞内を増殖の場とするユニークな細菌である。本コースでは、レジオネラの細胞内増殖を試験管内で調べる実験をおこない、一連の実験操作を通じて、菌と細胞の取扱い方を学ぶ。具体的には、マウスのマクロファージ細胞株にレジオネラを貪食させて、(1) 細胞内で増殖するレジオネラをヒメネス染色で直接観察する。(2) 感染細胞の溶解液を固形培地にまいてコロニーを出現させ、細胞内の菌数を計測する。(3) (1), (2)について、レジオネラの強毒株と弱毒株とで比較し、病原性と細胞内寄生性との関連について検討する。

（学修目標）

実験の意味を理解して正しい手順で遂行し、得られたデータを整理・考察することができる。

### 3. 評価の方法と基準

1) 評価方法 実験に取り組む姿勢とレポートの内容から総合的に評価する。

2) 評価基準 学修目標が概ね達成されれば可とする。

3) 評価結果の開示担当教員へメール（ ）で問い合わせることにより個別に対応する。

### 4. 履修上の注意

特になし

### 5. テキスト等

特になし

## B 013. 疫学研究における統計解析の実際

担 当 者 原 めぐみ

学習週数 2 週 同一期間内の受入人数 2 名 対象学生 社会医学履修後の学生

実施時期 10～12月を除く

連 絡 先 社会医学教員室 (2407)

実施場所 社会医学セミナー室, 上記教員室, その他

### 1. コースの概要

実際に行われた疫学研究の統計解析を行う事により, 疫学および生物統計学の基礎と応用に関する理解を深める。

### 2. 実習項目および学修目標

教室で現在までに実施された幾つかの疫学研究の中から各自が興味を持つ研究を選び, そのデータを用いて汎用統計パッケージSAS, STATAなどにより統計解析を行い, 解析結果についてのレポートを作成する。レポートについてはあらかじめ提示された課題に基づいて作成する。以下の項目を学修目標とする。

- ・疫学研究の方法に応じた適切な統計学的手法を選択することができる。
- ・コンピュータを用いて汎用統計パッケージによる統計解析を行うことができる。
- ・コンピュータによる統計解析の結果について正しく解釈することができる。
- ・医学論文に記載された統計解析の結果について理解できる。

### 3. 評価の方法と基準

- 1) 評価方法 各自のテーマに対する取組状況とレポートの内容を総合的に評価する。
- 2) 評価基準 学修目標について, 「概ね」の達成状況を可とする。
- 3) 評価結果の開示 レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は電子メールで担当教員 ( [■■■■@cc.saga-u.ac.jp](mailto:■■■■@cc.saga-u.ac.jp) ) に申し込むこと。

### 4. 履修上の注意

特になし

### 5. テキスト等

必要なテキストおよび実習資料については, 履修時に提示する。

## B 014. 生活習慣病への問題解決型アプローチ

担 当 者 原 めぐみ, 西田 裕一郎

学習週数 連続した4週 受入人数 4名以内(厳守)

実施時期 前期

連 絡 先 社会医学教員室(2406)

実施場所 運動生理学研究室(2401), 社会医学セミナー室, 上記教員室

### 1. コースの概要

相対的な身体活動量不足や栄養過剰, 喫煙などは, 肥満, 高血圧, 糖尿病(耐糖能異常), 脂質異常症・高尿酸血症などの生活習慣病をもたらす, 現代人の健康阻害要因として重要である。本コースでは, まず自分をcaseとして問題点の発見とその改善方法を計画・実行し, 患者の行動変容に関する効果的なアプローチを考える。それらを通して, 生活習慣病の予防および治療のために, 対象者に応じた個別プログラムを計画し, 実施の支援ができるようになる。

### 2. 実習項目および学修目標

危険因子改善や健康維持増進を目的とし, 運動負荷試験にもとづく運動処方, 肥満の評価に必要な身体組成の測定方法を学ぶ。1日の消費エネルギーの測定と摂取エネルギーの計算を行い, 生活習慣や健康状態を評価する。禁煙支援方法についても合わせて学ぶ。生活習慣病に関する文献を読み, これまでに報告されているエビデンスを理解する。

以下の項目を学修目標とする。

- ・個人に応じた生活習慣の問題点を把握できる。
- ・運動処方ができる。
- ・食事記録を用いて, 個人の栄養摂取状況や食生活について評価できる。
- ・禁煙指導・支援ができる。
- ・必要なエビデンスを抽出し活用することができる。

### 3. 評価の方法と基準

- 1) 評価方法 各自の取組状況とレポートの内容を総合的に評価する。
- 2) 評価基準 学習目標について「概ね」の達成状況を可とする。
- 3) 評価結果の開示 レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は電子メールで担当教員( [XXXXXXXXXX@cc.saga-u.ac.jp](mailto:XXXXXXXXXX@cc.saga-u.ac.jp) ) に申し込むこと。

### 4. 履修上の注意

特になし

### 5. テキスト等

必要なテキストおよび実習資料については, 履修時に呈示する。

## B 015. 労働・住宅環境の健康影響

担 当 者 市場 正良, 松本 明子

学習週数 2週 受入人数 2名

実施時期 全期 (2025年3月17日-21日, 5月12日-16日, 6月9日-13日を除く)

連絡先 社会医学教員室 (2409)

実施場所 社会医学実験室, その他

### 1. コースの概要

労働・環境や住宅環境の健康影響を知る。

### 2. 実習項目および学修目標

労働環境の健康影響では、労働安全衛生法について学習した後、各自の希望により、産業医活動の実際を見学する。また、産業医の協力者である産業保健師、衛生管理者、作業環境測定士あるいは企業外労働衛生機関の活動も理解する。労働局や労働基準監督署という行政機関の存在も学習する。学習した内容をレポートにまとめる。

住宅環境の健康影響では、有害因子として、化学物質や温熱の健康影響を考える。文献等により、基礎知識を整理し、実際に化学物質や温熱の測定を行い、結果を考察する。

(学修目標)

- ・産業医の資格要件を説明できる。
- ・産業医に関わる社会の現状と問題点を説明できる。
- ・住宅環境の健康影響の課題を説明できる。
- ・住宅環境因子の測定法を説明できる。

### 3. 評価の方法と基準

- 1) 評価方法 各自のテーマに対する取組状況とレポートの内容を総合的に評価する。
- 2) 評価基準 学修目標について、「概ね」の達成状況を可とする。
- 3) 評価結果の開示 レポートの出題意図を開示する。希望者は申し出ること。

### 4. 履修上の注意

特になし

### 5. テキスト等

特になし

## B 016. ALDH2遺伝子多型による個別化医療の推進

担 当 者 松本 明子, 市場 正良  
学習週数 2週 受入人数 2名  
実施時期 全期 (2025年3月17日-21日を除く)  
連 絡 先 社会医学教員室 (2408)  
実施場所 社会医学実験室, その他

### 1. コースの概要

ALDH2遺伝子多型を学び, 個別化医療の可能性について考察し, 実装化に向けた活動を行う。

### 2. 実習項目および学修目標

ALDH2遺伝子多型の生体影響を学習する。

各自の希望により以下のような活動を行う。

- ・ 遺伝子型判定実験
- ・ ALDH2多型関連の論文抄読やデータ解析
- ・ ALDH2多型の認知度を高めるためのウェブページ作成
- ・ 各種団体や事業場, 医療機関等に対しALDH2多型の認知度を高めるための働きかけを行う

(学修目標)

- ・ ALDH2遺伝子多型の生体影響を説明できる。
- ・ ALDH2遺伝子多型を考慮した医療の実践にむけた現状と問題点を説明できる。
- ・ ALDH2遺伝子多型を考慮した医療の実践にむけた活動を行う。

### 3. 評価の方法と基準

- 1) 評価方法 理解度, 活動結果を総合的に評価する。
- 2) 評価基準 学修目標について「概ね」の達成状況を可とする。
- 3) 評価結果の開示 コース最終日に開示する。

### 4. 履修上の注意

特になし

### 5. テキスト等

松本明子 アルデヒド脱水素酵素 2 (ALDH2) の構造・機能の基礎と ALDH2 遺伝子多型の重要性 日衛誌 71, 55-68 (2016)

[https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjh/71/1/71\\_55/\\_pdf](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjh/71/1/71_55/_pdf)

松本明子 アルデヒド脱水素酵素2 (ALDH2) 遺伝子多型の予防医学的重要性 日衛誌 73, 9-20 (2018)

[https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjh/73/1/73\\_9/\\_pdf](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjh/73/1/73_9/_pdf)

佐賀大学musubimeウェブサイト [https://musubime.saga-u.ac.jp/medicine/matsumoto\\_akiko/](https://musubime.saga-u.ac.jp/medicine/matsumoto_akiko/)

## B 017. 法医診断学

担 当 者 池田知哉  
学習週数 2 週 1 ユニットの受入れ人数 2 名程度まで  
実施時期 5 年次後期から 6 年次前期  
連 絡 先 法医学教員室 (2204) または事務室 (2203)  
実施場所 法医学教室他

### 1. コースの概要

法医学診断の基本を学び、死体検案が正しく行えるようにする。法医解剖に立会し、鑑定までの流れを理解する。

### 2. 実習項目および学修目標

(実習項目)

検案や解剖があれば教員に帯同してその実際を学ぶ。必要な検査についてもその原理と方法を学ぶ。また、機会があれば、監察医活動の実際についても実習する。

(学修目標)

- ・ 検案を行い、正しく文書作成ができる。
- ・ 解剖に立会し、補助等を行い、その後の検査ができる。
- ・ 法医診断ができる。

### 3. 評価の方法と基準

- 1) 評価方法 実習の取り組み状況と、作成した文書、検査結果とその診断等を総合的に評価する。
- 2) 評価基準 学修目標について「概ね」の達成状況を可とする。
- 3) 評価結果の開示 評価結果の開示を希望する場合は担当教員を訪ねること。

### 4. 履修上の注意

特になし

### 5. テキスト等

特になし

## B 018. 発生工学手法を用いた疾患モデル動物の作製

担 当 者 北嶋 修司, 松久 葉一

学習週数 2 週 同一期週内の受入れ人数 2 名程度

実施時期 全期 (ただし実施の 1 ヶ月以上前に担当教員に実施時期の相談を行うこと)

連 絡 先 総合分析実験センター生物資源開発部門 (2431)

実施場所 動物実験施設

### 1. コースの概要

発生工学手法を用いた疾患モデル動物の作製を通して、ヒト疾患モデル動物作製に必要な発生工学手法を学習するとともに、医学研究において病態解明や治療薬開発に利用される実験動物、動物実験の役割や意義を理解する。

### 2. 実習項目および学修目標

マウスやウサギを使用し、基本的な実験動物の取扱いを実習する。ヒト疾患モデル動物の作製として、マイクロインジェクション法による遺伝子改変動物の作製手技を中心に基礎的な動物実験手技を実習する。

(学修目標)

- ・正しい実験動物の取扱いができる。
- ・動物実験に関連する法律・規則を説明できる。
- ・遺伝子改変動物について説明できる。
- ・医学研究における疾患モデル動物の意義について考察できる。

### 3. 評価の方法と基準

- 1) 評価方法 各自の取り組み状況とレポートの内容を総合的に評価する。
- 2) 評価基準 学修目標について「概ね」の達成状況を可とする。
- 3) 評価結果の開示 レポート課題および出題の意図を開示する。希望者はオフィスアワー等の時間帯を利用して担当教員を訪ねること。

### 4. 履修上の注意

特になし

### 5. テキスト等

特になし

## **B 019. 救急診療の初期対応－指導者としての視点を身につけるために－**

担 当 者 阪本 雄一郎, 小田 康友, 小網 博之, 鳴海 翔悟, 木庭 真由子  
学習週数 4 週 (上限 2 単位) 受入人数 4 名  
実施時期 全期 (履修希望学生と相談の上決定)  
連 絡 先 地域医療科学教育研究センター事務室  
実施場所 スキルスラボ

### **1. コースの概要**

救急診療の初期対応を学び, その教授方法を理解する。

### **2. 実習項目および学修目標**

本コースでは救急患者の診察を指導医の下にシミュレーターを用いて体験し, 救急患者に対する初期対応を理解・実践できるようになる。またその指導方法を学び, 指導者として学生教育に参画し, 学習者と指導者・教育者の両方の視点を学習する。

- ① 患者の全身状態を的確に把握できる。
- ② 基本的心肺蘇生法の理論を理解し, それを正しく実行できる。
- ③ A C L S (advanced cardiovascular life support) の理論を理解し, 実践できるようになる。
- ④ 基本的心肺蘇生法, A C L S の基礎を説明, 伝授することができる。

### **3. 評価の方法と基準**

- 1) 評価方法 指導教員からの報告書と, 学生による指導者としての能力評価を総合的に判断し評価する。
- 2) 評価基準 学修目標について, 「概ね」の達成状況を可とする。
- 3) 評価結果の開示 コース終了後, 達成度及び成績を開示する。

### **4. 履修上の注意**

特になし。

### **5. テキスト等**

特になし。

## B 020. 医学教育体験実習（肉眼解剖学アドバンスドコース）

担 当 者 倉岡 晃夫, 菊池 泰弘, 川久保 善智

学習週数 肉眼解剖学のプログラムに沿った間歇的集中授業の形式で実施する。フルタイム換算で2週分（80時間）、もしくは4週分（160時間）の参加をもって、各々2単位、4単位を認める（1週、3週単位の参加も可）。

受入人数 最大10名程度

実施時期 2024年9月3日（火）～11月22日（金）

連 絡 先 生体構造機能学講座 解剖学・人類学分野 教授室（室番号2105）

実施場所 組織実習室（骨学実習）、系統解剖実習室

### 1. コースの概要

患者にとって分かりやすいムンテラ（病状説明）ができることは、医師が有すべき重要な技能の一つである。肉眼解剖学の教育体験を通してこの能力を磨きつつ、医学教育者としての視点を学習し、さらに卒前の局所解剖学的知識レベルの向上を図る。

### 2. 実習項目および学修目標

担当教員の補助者として骨学実習・肉眼解剖学実習に参加し、質問に対する適切な対応・分かりやすい教授法を習得していく。各回の実習内容をしっかり予習しておくことが望ましいが、質問してきた学生と共に考え、共に調べるというスタンスでも構わない（状況によっては、剖出のデモを行うのも差し支えない）。なお、実習開始前のオリエンテーション（2時間）、全日程終了後のディスカッション（2時間）への参加、そして学習成果をまとめたレポート提出を必須とする。具体的学修目標は下記のとおりである。

- ・様々な解剖学用語につき、分かりやすい説明ができる。
- ・多数の解剖体の系統的観察により、人体構造のバリエーションにつき理解を深める。
- ・学生とは異なる立場から、献体者の尊厳に配慮した遺体の取り扱いができる。

### 3. 評価の方法と基準

- 1) 評価方法 コース終了後のレポートと、担当教員による所見を総合的に判断し評価する。
- 2) 評価基準 学修目標について「概ね」の達成状況を可とする。
- 3) 評価結果の開示 希望に応じて評価結果を開示する。

### 4. 履修上の注意

特になし

### 5. テキスト等

特になし

## B 021. 医療データ解析法の実装

担 当 者 川口 淳

学習週数 4週 年間受入人数 4名

実施期間 学生と相談のうえ決定する

連 絡 先 地域医療科学教育研究センター数理解析部門akawa@cc.saga

実施場所 講義棟セミナー室など

### 1. コースの概要

統計解析やAI解析技法等を駆使した医療データ解析法を臨床実装するための方法を探求する。

### 2. 実習項目および学修目標

受講生と相談しテーマを選定する。脳画像やCovid-19患者の肺画像などの医用画像データ、脳波や心電図などの系列データ、遺伝子データ、創薬や臨床試験データといった医療データに対して、一般的な統計解析手法、深層学習などの医療AI技法の先進的な解析方法を用いた解析を行う。解析結果の解釈や評価を通じて臨床実装に向けた探求を行い、工夫点などをまとめた内容の報告を行う。

学修目標も受講生のテーマに合わせて次のうちのいずれかが該当する。

- 1) 医療データ解析方法の実用状況について説明できる。
- 2) 解析ソフトウェアもしくはプログラム言語を使用して医療データ解析ができる。
- 3) 臨床実装のための解析方法や結果の評価ができる。

### 3. 評価の方法と基準

- 1) 評価方法 レポートやプレゼンテーションの内容及び学習態度の総合的評価。
- 2) 評価基準 評価は成果物作成が合格最低基準。プレゼンテーションの内容により加点する。
- 3) 評価結果の開示 希望するものは担当教員に申し出ること

### 4. 履修上の注意

特になし

### 5. テキスト等

特に指定なし。テーマに合わせて適宜紹介する。

## B 101. 冠動脈インターベンション治療

担 当 者 夏秋 政浩, 横井 研介, 園田 信成, 野出 孝一

学習週数 2 週か 4 週 同一期間内の受入人数 10 名

実施時期 全期

連 絡 先 内科循環器研究室 (内線 2222)

実施場所 佐賀大学循環器内科

### 1. コースの概要

冠動脈造影法, 経皮的冠動脈形成術の実施方法を学ぶ。

### 2. 実習項目および学修目標

冠動脈造影法, 経皮的冠動脈形成術をもとにした心機能の評価の検討を行う。心臓カテーテル検査, PTCA等のインターベンション治療の実際を見学し, その意義を理解する。

### 3. 評価の方法と基準

- 1) 評価方法 実施期間中の取組み状況を総合的に評価する。
- 2) 評価基準 検査, 治療に対して, 積極的に見学し, 理解しているかを判断する。
- 3) 評価結果の開示 閲覧を希望するものは電子メールで担当教員に申し込むこと。

### 4. 履修上の注意

特になし

### 5. テキスト等

特になし

## B 102. 生活習慣病治療の実際

担 当 者 野出 孝一, 田中 敦史

学習週数 2 週か 4 週 同一期間内の受入人数 10 名

実施時期 全期

連 絡 先 内科循環器研究室（内線■■■■）

実施場所 佐賀大学循環器内科

### 1. コースの概要

最近増加している生活習慣病の診断と治療について学ぶ。

### 2. 実習項目および学修目標

生活習慣の変化に伴い増加している生活習慣病について最新の研究も含めて解説する。生活習慣と疾患発症との関係について理解する。

### 3. 評価の方法と基準

- 1) 評価方法 各自のテーマに対する取組状況を総合的に評価する。
- 2) 評価基準 学修目標について「概ね」の達成状況を可とする。
- 3) 評価結果の開示 閲覧を希望するものは電子メールで担当教員に申し込むこと。

### 4. 履修上の注意

特になし

### 5. テキスト等

特になし

### B103. 不整脈診療の実際

担 当 者 山口 尊則, 新里 広大, 野出 孝一  
学習週数 2 週か 4 週 同一期間内の受入人数 10 名  
実施時期 全期  
連 絡 先 内科循環器研究室 (内線 2222)  
実施場所 佐賀大学循環器内科

#### 1. コースの概要

不整脈診療の実施方法を学ぶ。

#### 2. 実習項目及び学修目標

電気生理学的検査 (EPS) ・不整脈治療、カテーテルアブレーション等不整脈診療の実習を行う。EPS ・不整脈治療、カテーテルアブレーション治療等を見学し、その意義を理解する。

#### 3. 評価の方法と基準

- 1) 評価方法 実施期間中の取組み状況を総合的に評価する。
- 2) 評価基準 検査、治療に対して、積極的に見学し、理解しているかを判断する。
- 3) 評価結果の開示 閲覧を希望するものは電子メールで担当教員に申し込むこと。

#### 4. 履修上の注意

特になし

#### 5. テキスト等

特になし

## B 104. 膠原病・リウマチ性疾患を対象とした臨床研究

担 当 者 多田 芳史, 赤星 光輝, 丸山 暁人  
学習週数 2週間 受入人数 2名  
実施時期 全期 (2025年4月21日～5月9日は受け入れ不可)  
連 絡 先 膠原病・リウマチ内科研究室 (2367)  
実施場所 膠原病・リウマチ内科研究室 (2367)

### 1. コースの概要

膠原病・リウマチ性疾患を対象とした症例研究を行い臨床研究の方法を学ぶ。

### 2. 実習項目および学修目標

研究テーマについては各自の興味も考慮して相談の上決定する。症例研究ではある患者集団における臨床所見の解析や比較対照研究などを行う。既存のデータベースを用いたものや、新たな既存情報の取得により研究を行う。文献などを参照して考察を行い、その成果についてレポートを作成し成果発表を行う。内容により研究会など公式の場での発表も奨励する。

(学修目標)

- ・症例研究のテーマより調査計画を立てることができる。
- ・基本的な統計解析を行うことができる。
- ・得られた結果について文献等と比較検討することができる。
- ・研究内容についてわかりやすく発表することができる。

### 3. 評価の方法と基準

- 1) 評価方法 取組状況とレポート・発表の内容を総合的に評価する。
- 2) 評価基準 学修目標に対する取組つき、「概ね」達成されれば可とする。
- 3) 評価結果の開示 課題の意図およびレポート、発表の結果を開示する。閲覧を希望する者はオフィスアワー等の時間帯を利用して担当教員を訪ねること。

### 4. 履修上の注意

特になし

### 5. テキスト等

特になし

## B105. 神経筋疾患の診断の進め方

担 当 者 鈴山 耕平, 七條 千佳, 小池 春樹

学習週数 2～4週 同一期間の受入人数 1～2名

実施時期 全期

連 絡 先 神経内科研究室（内線██████）

実施場所 神経筋外来, 3階北病棟（南）

### 1. コースの概要

系統的な神経疾患の診断の進め方を身に付ける。

### 2. 実習項目および学修目標

外来にて新患患者の病歴を聴取し、主訴、年令、病歴から神経疾患の診断の進め方を習得する。

回診に参加し、各種神経疾患の臨床的特徴と治療法を習得する。

脳卒中、認知症、神経難病などのカンファレンスに積極的に参加すること。

（学修目標）

- ・ 基本的な神経徴候（パーキンソニズム、錐体路徴候、小脳症状など）の診察を学ぶ。
- ・ 3-step diagnosisにそって臨床診断する。
- ・ 基本的な頭部CT/MRIの所見を学ぶ。

### 3. 評価の方法と基準

1) 評価方法 各自のとりくみ状況を総合的に評価する。

2) 評価基準 学修目標について、「概ね」の達成状況を可とする。

3) 評価結果の開示 レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は、電子メールで担当教員に申し込むこと。

### 4. 履修上の注意

特になし

### 5. テキスト等

特になし

## B106. 急性期脳血管障害の診断と治療

担 当 者 江里口 誠（佐賀県医療センター好生館）、七條 千佳、小池 春樹  
学習週数 2～4週 同一期間の受入人数 2名  
実施時期 全期  
連 絡 先 神経内科研究室（内線██████）  
実施場所 佐賀県医療センター好生館

### 1. コースの概要

急性期脳血管障害患者の診断および治療を学習する。

### 2. 実習項目および学修目標

急性期脳血管障害患者の診療に関し、急性期の診断・治療を脳卒中診療班とともに行動することで実践的な実習を行う。

患者が救急部を受診する際には可能な範囲で脳卒中診療班の呼び出しに応じる。

（学修目標）

- ・病型、病態に応じた治療法を学ぶ。
- ・超急性期脳梗塞に対するrt-PA（遺伝子組み換え組織プラスミノゲン・アクチベーター）静注治療の適応を学ぶ。
- ・脳血管障害の基本的な頭部CT/MRI/MRAの所見を学ぶ。

### 3. 評価の方法と基準

- 1) 評価方法 各自のとりくみ状況を総合的に評価する。
- 2) 評価基準 学修目標について、「概ね」の達成状況を可とする。
- 3) 評価結果の開示 レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は、電子メールで担当教員に申し込むこと。

### 4. 履修上の注意

特になし

### 5. テキスト等

脳卒中治療ガイドライン2015、及び追補2017（購入不要）

## B107. 腎代替療法とその治療の実際

担 当 者 山崎 政虎、池田 裕貴、福田 誠、宮園 素明

学習週数 2週 同一期間内の受入人数 1名

実施時期 全期（但し、4月～5月を除く）

連 絡 先 腎臓内科研究室（2465）

実施場所 腎臓内科

### 1. コースの概要

腎代替療法の実施方法を学ぶ

### 2. 実習項目および学修目標

血液透析、持続血液ろ過透析、腹膜透析、シャント手術、腎移植等の腎代替療法に関連する治療法について実習を行う。血液透析、持続血液ろ過透析、腹膜透析、シャント手術、腎移植等の見学ならびに補助を行い、その意義を理解する。

（学修目標）

- 1) 腎代替療法の原理ならびに方法を理解する。
- 2) 腎代替療法の治療法の種類、適応を判断できる。

### 3. 評価の方法と基準

- 1) 評価方法 実施期間中の取組み状況を総合的に評価する。
- 2) 評価基準 学修目標について、「概ね」の達成状況を可とする。
- 3) 評価結果の開示 閲覧を希望する者はオフィスアワー等の時間帯を利用して担当教員を訪ねること。

### 4. 履修上の注意

特になし

### 5. テキスト等

特になし

## B108. 消化器診療の実際

担 当 者 江崎 幹宏, 下田 良, 鶴岡 ななえ, 山口 太輔, 芥川 剛至, 島村 拓弥

学習週数 2週ないし4週 同一期間内の受入人数 2名

実施時期 全期

連 絡 先 消化器内科研究室 (2460) 内線

実施場所 消化器内科研究室 (2460)、内視鏡室および4階西病棟

### 1. 各コースの概要

消化器疾患の診断および治療を学習する。

### 2. 実習項目および学修目標

(実習項目)

消化器疾患の診断から治療法決定までのプロセスを学習し消化器疾患についての理解を深める。内視鏡の構造や操作法について理解を深め、内視鏡検査及び治療に助手として参加する。

(学修目標)

- ・内視鏡検査・治療の方法と適応を説明できる。
- ・炎症性腸疾患の診断と治療について説明できる。
- ・消化器系薬剤の使用法および副作用について説明できる。

### 3. 評価の方法と基準

- 1) 評価方法 取り組み状況を総合的に評価する。
- 2) 評価基準 学修目標について、「概ね」の達成状況を可とする。
- 3) 評価結果の開示 閲覧を希望するものは担当教官を訪ねること。

### 4. 履修上の注意

特になし

### 5. テキスト等

特になし

## B 109. 糖尿病・内分泌の病態とその治療

担 当 者 小島 基靖, 美奈川 仁美  
学習週数 2週 同一期間内の受入人数 2名  
実施時期 全期  
連 絡 先 肝臓・糖尿病・内分泌内科研究室 (2450) (内線■■■■)  
または美奈川 (■■■■)@cc.saga-u.ac.jp) へメール  
実施場所 肝臓・糖尿病・内分泌内科研究室および4階西病棟

### 1. コースの概要

糖尿病・内分泌患者の病歴, 身体所見, 検査所見からその病態を把握し, 適切な治療法を導くことができることを目的とする。

### 2. 実習項目および学修目標

現在, 本邦における糖尿病患者総数は1,100万人と推定され, さらに増加傾向にある。糖尿病の病態は, 生活習慣, インスリン分泌能, インスリン感受性, 様々な血管合併症などが複雑に関係しているため非常に多様性に富み, 病態を把握することが困難な場合も少なくない。また, その治療方針も個々の症例に応じて検討する必要があるため, 基本的な血糖コントロール法や合併症に対する対処法を熟知しておく必要がある。内分泌疾患としては, 甲状腺疾患や二次性高血圧の原因として多い原発性アルドステロン症など一般的内分泌疾患を鑑別診断し, 合併症の評価ができる事が望ましい。また, 肝臓におけるメタボリックシンドロームの表現型であるMASLD, MASHについても修得する。このような観点から本コースにおいては症例を中心に, 以下のような病態, 合併症の把握, 治療法の選択について修得できるようにする。

病 態: 1型糖尿病

2型糖尿病

その他の特定の機序, 疾患によるもの

妊娠糖尿病

甲状腺疾患 (バセドウ病, 橋本病, 甲状腺腫瘍)

視床下部・下垂体疾患

副甲状腺疾患

副腎疾患など

MASLD (代謝機能不全に関連した脂肪性肝疾患)

合併症: 神経障害, 網膜症, 腎症, 動脈硬化症

内分泌疾患に伴う高血圧, 糖尿病, 脂質異常, 骨粗鬆症

(学修目標)

- ① 糖尿病・内分泌疾患の病態, 合併症を把握できる。
- ② 糖尿病・内分泌疾患の治療法の種類, 適応を判断できる。

### 3. 評価の方法と基準

- 1) 評価方法 実習の取り組み状況と口頭発表の内容を総合的に評価する。
- 2) 評価基準 学修目標について, 「概ね」の達成状況を可とする。
- 3) 評価結果の開示 レポートの課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望するものは, オフィスアワー等の時間帯を利用して担当教員を訪ねるか, 電子メールで申し込むこと。

### 4. 履修上の注意

特になし

### 5. テキスト等

特になし

## B 110. 肝・胆・膵疾患の評価法

担 当 者 桑代 卓也, 田中 賢一, 窪津 祥仁, 野下 祥太郎

学習週数 2週 同一期間内の受入人数 3名以内

実施時期 全期

連絡先 肝臓・糖尿病・内分泌内科研究室 (2450) (内線 ) または @cc.saga-

実施場所 肝臓・糖尿病・内分泌内科研究室, 超音波検査室, 内視鏡室および4階西病棟

### 1. コースの概要

肝・胆・膵疾患の評価法を学習し, 実際の臨床に応用できることを目的とする。

### 2. 実習項目および学修目標

肝・胆・膵疾患は良性, 悪性疾患ともに多種多様であり, その原因はウイルス性, アルコール性, 薬剤性, 自己免疫性, 代謝性, 遺伝性など多岐にわたる。日常診療において肝・胆・膵疾患に遭遇する頻度は高いため, 同領域の解剖や機能などに習熟するのはもちろんのこと, 個別の疾患を正しく評価し, 原因を鑑別できる能力は臨床医として重要である。このコースでは指導医とともに実際の症例の血液検査, 画像検査および病理組織検査等の評価を行い, 肝・胆・膵疾患の診断および治療方針について考察し, 総合討論を行う。

希望がある場合は, 当教室に集積している肝・胆・膵疾患患者のデータをもとに, データ解析, 解釈に関するトレーニングを行うことも可能である。

(学修目標)

主) 個々の患者に応じた肝・胆・膵の検査項目を選択できる。

主) 肝・胆・膵疾患の活動性等を評価できる。

副) 基本的な腹部超音波検査が実施できる。

副) 肝・胆・膵領域のCT, MRI所見が読影できる。

副) 疾患特異的な病理組織像が読み取れる。

### 3. 評価の方法と基準

1) 評価方法 実習の取り組み状況と口頭発表の内容を総合的に評価する。

2) 評価基準 学修目標について, 「概ね」の達成状況を可とする。

3) 評価結果の開示 口頭発表の課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望するものは, オフィスアワー等の時間帯を利用して担当教員を訪ねるか, 電子メールで申し込むこと。

### 4. 履修上の注意

特になし

### 5. テキスト等

特になし

## B 111. 肺がん遺伝子検査・がんゲノム検査結果の解釈と理解

担 当 者 中島 千穂

学習週数 2週 受け入れ人数 2名

実施時期 全期

連 絡 先 呼吸器内科研究室（院生棟4階2474室）（内線■■■■）

実施場所 呼吸器内科研究室（院生棟4階2474室）

### 1. コースの概要 2. 実習項目および学修目標

肺がんの化学療法においては、がん遺伝子検査とその結果に基づいた分子標的治療が重要な地位を占めている。本コースでは、肺がん遺伝子検査をはじめとしたがんゲノム検査結果の解釈の仕方を理解し、治療選択の理論を学修する事を目的とする。

（学修目標）

遺伝子検査方法について、その種類と概要を説明できる。

遺伝子検査報告書の内容を理解し、結果に基づいた分子標的薬の選択について説明できる。

### 3. 評価の方法と基準

- 1) 評価方法 テーマに対する取り組みを総合的に評価する。
- 2) 評価基準 学修目標について「概ね」の達成状況を可とする。
- 3) 評価結果の開示 実習終了後、本人に直接開示する。

### 4. 履修上の注意

特になし

### 5. テキスト等

特になし

## B 112. 肺結核の診断、治療の実際

担 当 者 柴田 貴章、犬山 正仁、高橋浩一郎 他

学習週数 2週 受入人数 2名

実施時期 全期

連 絡 先 呼吸器内科研究室 (2 4 7 4 室)

実施場所 独立行政法人国立病院機構東佐賀病院

### 1. コースの概要

肺結核の診断、治療について経験する。

### 2. 実習項目および学修目標

結核症も高齢者や社会的弱者への偏在化を招き、発病者も年間2万5千人と減少しつつあるためか忘れられつつあるのか、診断や治療の遅れが目立ち、医療機関ではステロイド薬や免疫抑制剤投与患者からの肺結核の発生もあって、結核の集団感染や集団発生の原因ともなっている。今日でも日本人の4人に1人が結核既感染者であり、未だ結核は過去の病気ではない。本コースではこれらの肺結核、非結核性抗酸菌症含む抗酸菌感染症について、胸部レントゲン診断にはじまり、薬物治療、呼吸管理について体得してもらう。

(学修目標)

- ・肺結核患者の実例を通して、病歴、身体所見、画像所見について多くの症例について経験を積み、結核の病態、病像について説明することが出来る。
- ・結核の治療方針について説明できる。
- ・現在の結核医療の問題点について理解する。
- ・COPDの診断、治療、慢性呼吸不全患者の管理方法について説明することが出来る。

### 3. 評価の方法と基準

- 1) 評価方法 各自のテーマに対する取り組み状況を総合的に評価する。
- 2) 評価基準 学修目標について「概ね」の達成状況を可とする。
- 3) 評価結果の開示 実習終了後、本人に直接開示する。

### 4. 履修上の注意

特になし

### 5. テキスト等

特になし

## B 113. 慢性閉塞性肺疾患（COPD）の身体活動性とQOL改善への取り組み

担 当 者 高橋浩一郎

学習週数 2週 受け入れ人数 2名

実施時期 全期

連 絡 先 呼吸器内科研究室（院生棟4階2474室）（内線■■■■）

実施場所 呼吸器内科研究室（院生棟4階2474室）、3階東病棟、呼吸器内科外来

### 1. コースの概要

COPDの病態、呼吸リハビリテーション、身体活動性について理解する。

### 2. 実習項目および学修目標

COPD患者では、日常生活における身体活動性の低下が予後不良と関連する。COPDに対する治療は、長時間作用性抗コリン薬（LAMA）や長時間作用性 $\beta$ 2刺激薬（LABA）などの吸入薬を使用する。身体活動性を改善させるために、呼吸リハビリテーションが有用である。この実習では、COPD患者に対する呼吸リハビリテーションと身体活動性の重要性を学ぶ。学生自身も3軸加速度計を装着し日常生活を送ることにより、運動強度を体験する。また、実習を通して、COPD患者の包括的管理（診断および治療）を学ぶ。

（学修目標）

- ・ COPDについて、患者さんにわかりやすく説明することができる。
- ・ COPDの診断に必要な呼吸機能検査を実施、検査結果を判読することができる。
- ・ COPDの薬物療法・呼吸リハビリテーションについて述べることができる。

### 3. 評価の方法と基準

- 1) 評価方法 各自のテーマに対する取り組み状況とレポートの内容を総合的に評価する。
- 2) 評価基準 学修目標について「概ね」の達成状況を可とする。
- 3) 評価結果の開示 実習終了後、本人に直接開示する。

### 4. 履修上の注意

特になし

### 5. テキスト等

特になし

## B 114. 血液疾患の診断から治療に至る系統的学習

担 当 者 木村 晋也, 安藤 寿彦, 勝屋 弘雄, 岡本 翔

学習週数 2週 同一期間内の受入人数 2名 対象学生 特に条件を設けない。

実施時期 全期

連 絡 先 内科事務室 (2456室)

実施場所 血液外来, 血液研究室, 教員室, 2階北病棟

### 1. コースの概要

血液腫瘍性疾患について, 主に骨髓所見, 表面マーカー, 病理所見から診断に至るまでの過程を総合的に学ぶことを目的とする。また細胞再生治療としての造血幹細胞移植および輸血療法の実際について学習する。

### 2. 実習項目および学修目標

5年次に経験できなかった初診から診断確定までの過程を主に学習する。特に末梢血液像の見方, 診断までのフローチャート, 治療方針決定のためのEBMに基づいた治療戦略を学ぶ。また輸血医療の基礎から最近のトピックについても輸血部業務を経験して学習する。

具体的内容として:

1. 新患者の末梢血液像, 骨髓像の見方, 診断までの過程を担当医とともに学習する。
2. 期間中に造血幹細胞採取, もしくは造血幹細胞移植が予定されている場合は採取の仕方, 移植の実際を経験する。
3. 輸血部において自己血採取, 末梢血幹細胞採取, 顆粒球輸血について学習する。
4. リンパ系腫瘍の遺伝子検査および骨髓細胞の培養等の基礎研究を希望する者については別に研修内容を設定する。

(学修目標)

- ・症状, 身体所見を基に的確な検査計画を立てることができる。
- ・末梢血液像の評価ができる。
- ・急性白血病, 悪性リンパ腫の標準的治療法を計画できる。
- ・造血幹細胞移植, 輸血療法の適応疾患, 基準について述べることができる。

### 3. 評価の方法と基準

- 1) 評価方法 各自のテーマに対する取組状況とレポートの内容を総合的に評価する。
- 2) 評価基準 学修目標について, 「概ね」の達成状況を可とする。
- 3) 評価結果の開示 レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は電子メールで担当教員 ( [\[REDACTED\]@cc.saga-u.ac.jp](mailto: [REDACTED]@cc.saga-u.ac.jp) ) に申し込むこと。

### 4. 履修上の注意

特になし

### 5. テキスト等

特になし

## B 115. 固形がん治療の実際

担 当 者 木村 晋也, 勝屋 弘雄, 佐野 晴彦

学習週数 2週 同一期間内の受入人数 2名 対象学生 特に条件を設けない。

実施時期 全期

連 絡 先 内科事務室 (2456室)

実施場所 外来化学療法室, 2階北病棟南

### 1. コースの概要

固形がんの治療法決定、治療方法について系統的に学習する。特に、外来化学療法の実際について学習する。

### 2. 実習項目および学修目標

腫瘍内科実習は5年次に組み込まれていないため、固形がん、消化器がん、膵・胆道がん、原発不明がん、肉腫について本選択コースで学習する。分子マーカー解析を含めたデータから治療法決定までのプロセスを学習する。また、外来化学療法室での実習を通じて、化学療法の実際について経験する。

具体的内容として：

1. 新患者の診断、治療方針決定までの過程を担当医とともに学習する。
2. 外来化学療法室において、化学療法施行決定判断、施行補助を担当医指導下で行う。
3. 毎週水曜日朝8時から開催の腫瘍内科カンファレンスで、症例全体の協議に参加する。
4. 病院全体から提案されるカンサーボードに参加し、症例検討を行う。

(学修目標)

- ・各種固形がん、肉腫について診断確認、治療方針決定までのプロセスを述べる事ができる。
- ・治療方針決定に必要な分子マーカーについてその意義を説明できる。
- ・化学療法実施についての注意事項を述べる事ができる。

### 3. 評価の方法と基準

- 1) 評価方法 各自のテーマに対する取組状況とレポートの内容を総合的に評価する。
- 2) 評価基準 学修目標について、「概ね」の達成状況を可とする。
- 3) 評価結果の開示 レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は電子メールで担当教員 (●●●●@cc.saga-u.ac.jp) に申し込むこと。

### 4. 履修上の注意

特になし

### 5. テキスト等

特になし

## B 116. 伊万里市黒川町研究を通じた高齢者の精神的健康に関する生物学的検討

担 当 者 溝口 義人

学習週数 2週

実施時期 全期 同一期間内の受入人数 1名まで

連 絡 先 精神科事務室 (2147号室、内線●●●●)

実施場所 精神医学講座 (2147号室)

### 1. コースの概要

黒川町研究を通じて、高齢者心理と生物学的指標の関連を検討する。

### 2. 実習項目および学修目標

黒川町研究では、高齢者の認知機能検査やうつ病自己評価とともに生活習慣、死生観、生活満足度などの調査を済ませ、血清と唾液を採取してきた。研究室ではノルアドレナリン代謝産物 (MHPG)、コルチゾール、炎症性サイトカイン、神経栄養因子 (BDNF)、オキシトシン等を定量し、高齢者心理と生物学的指標の関連を検討している。

(学修目標)

- 1) 実験を実施 (補助) し、データを解釈、考察できる。
- 2) 関連文献を検索し、研究論文を理解できる。

### 3. 評価の方法と基準

- 1) 評価方法 各自の取り組み方、論文理解等を総合的に評価する。
- 2) 評価基準 学修目標について、「概ね」の達成状況を可とする。
- 3) 評価結果の開示 閲覧を希望する者はオフィスアワー等の時間帯を利用して担当教員を訪ねること。

### 4. 履修上の注意

特になし

### 5. テキスト等

特になし

## B 117. コンサルテーション・リエゾン精神医学

担 当 者 溝口 義人

学習週数 2週 同一期間内の受入人数 1名

実施時期 全期

連 絡 先 精神科事務室（2147号室、内線■■■■）

実施場所 精神科医局員室

### 1. コースの概要

総合病院における精神科の役割を、実際の臨床場面を経験し理解する。

### 2. 実習項目および学修目標

コンサルテーション・リエゾン精神医学とは、総合病院の一般身体科でみられる精神医学的問題を対象とするサブスペシャリティである。精神科では教員1名、医員1名をコンサルテーション活動に専任としている。実習ではコンサルテーション専任医師とともに実際の臨床場面を経験し、カンファレンスに参加するなど学習していく。

（学修目標）

- ・内科・外科など一般身体科でよくみられる精神障害（せん妄、抑うつ、不安、不眠など）を学習する。
- ・経験した症例をSOAPに基づき発表することができる。

### 3. 評価の方法と基準

- 1) 評価方法 各自、症例に対する意欲的な取り組み方、発表内容等を総合的に評価する。
- 2) 評価基準 学修目標について、「概ね」の達成状況を可とする。
- 3) 評価結果の開示 評価結果の閲覧を希望する者はオフィスアワー等の時間帯を利用して担当教員を訪ねること。

### 4. 履修上の注意

特になし

### 5. テキスト等

特になし

## B118. ベッドサイドの小児の診かたーadvanced courseー

担 当 者 松尾 宗明, 實藤 雅文, 尾形 善康, 垣内 俊彦, 岩永 学, 西 真範, 熊本 崇,  
岡 政史, 中村 拓白  
学習週数 2 週 受入人数 数名 (同時期は2名まで)  
実施時期 全期 (ただし、2024年10月21日～11月1日を除く)  
連 絡 先 小児科事務室 (2239) 内線  
実施場所 小児科病棟, 小児科関連病院

### 1. コースの概要

5年次の病棟実習で不十分であった小児科学のsubspeciality areaのポイントを集中的に学習する。

### 2. 実習項目および学修目標

- ① NICUコース：NHO佐賀病院でNICU、新生児搬送を中心に1週間、大学NICUで1週間の実習
- ② 発達障害コース：大学病院、佐賀整肢学園こども発達医療センターでの発達外来見学  
PT, OT, STの見学
- ③ 小児外来、小児救急コース：一般病院での小児外来・小児救急の実習 (嬉野医療センターまたは唐津赤十字  
病院各4日間)、佐賀休日夜間こども診療所見学実習、開業小児診療所の見学実習②は1週間の予定。①、  
③は2週間だが1週間も可能

希望により各コースを自由に組み合わせることができます。

(学修目標) 上記の課題をクリアすること。

### 3. 評価の方法と基準

- 1) 評価方法：口頭試問, レポート併用。
- 2) 評価基準：出席, 目標到達度で評価する。
- 3) 評価結果の開示：担当教員に直接問い合わせができる。

### 4. 履修上の注意

特になし

### 5. テキスト等

特になし

## B 119. 一般・消化器外科手術と基本手術手技

担 当 者 能城 浩和, 他教員

学習週数 2週 受入人数 各2名

実施時期 全期

連 絡 先 一般・消化器外科事務室（内線■■■■）

実施場所 4階東病棟（主として）

### 1. コースの概要

実際の消化器外科手術への参加やシミュレーター、ドライボックスを用いた模擬修練・折り鶴トレーニングによりその手技を体験することで外科診療の理解や興味を深める。

### 2. 実習項目および学修目標

コース実施期間中の手術から選択して、第2あるいは第3助手として手術に参加する。参加した手術に関しては、主治医グループとして術前評価を含めた周術期管理に加わり、疾患と手術の理解を深める。指導医のもとで基本的な手術手技（縫合、結紮）を縫合実習モデルで練習する。さらに、腹腔鏡手術用シミュレーターやドライボックスを用いて腹腔鏡手術操作を模擬体験する。

（学修目標）

- ・手術を中心とする消化器外科診療に積極的に取り組む。
- ・担当した患者の病態と疾患を理解し、重要点を説明できる。
- ・縫合・結紮の手技を習得する。
- ・周術期管理の基本を理解し、述べることができる。
- ・腹腔鏡手術の基本的な操作感覚を体験する。

### 3. 評価の方法と基準

- 1) 評価方法 担当教員が取り組み状況と達成度、理解度にて総合的に評価する。
- 2) 評価基準 学修目標について、「概ね」の達成を可として判定する。
- 3) 評価結果の開示 開示を希望する者はオフィスアワー等の時間帯を利用して担当教員を訪ねること。

### 4. 履修上の注意

特になし

### 5. テキスト等

特になし

## B 120. 乳腺疾患の診断と治療

担 当 者 能城 浩和, 他教員

学習週数 2週 受入人数 各2名

実習時期 全期

連 絡 先 一般・消化器外科事務室（内線██████）

実施場所 4階東病棟, 消化器外来, 他

### 1. コースの概要

乳腺疾患の実地臨床を体験し、診断と治療に関する理解を深める。

### 2. 実習項目および学修目標

乳腺外来における診療に参加し、視・触診、画像診断を指導医とともに行う。また、乳癌の治療選択や手術への参加や化学・ホルモン療法の見学を行うとともに、インフォームドコンセント、術前・術後の身体的・精神的ケアを診療チームの一員として体験し、乳癌を中心とする乳腺疾患への理解を深める。

（学修目標）

- ・積極的に乳腺診療に参加する。
- ・乳癌などの乳腺疾患の病態を理解し、重要点を説明できる。
- ・乳腺の視・触診法、画像診断を習得する。
- ・インフォームドコンセントや精神的ケアの重要性を理解する。

### 3. 評価の方法と基準

- 1) 評価方法 担当教員が取り組み状況と達成度、理解度にて総合的に評価する。
- 2) 評価基準 学修目標について、「概ね」の達成を可として判定する。
- 3) 評価結果の開示 開示を希望する者はオフィスアワー等の時間帯を利用して担当教員を訪ねること。

### 4. 履修上の注意

特になし

### 5. テキスト等

特になし

## B 121. 心臓・大血管の病態と外科治療

担 当 者 蒲原 啓司, 伊藤 学

学習週数 2週 受入人数 2人/回

実施時期 全期

連 絡 先 胸部外科医局 (2356) 内線

実施場所 胸部外科医局, 動物実験施設, 手術室等

### 1. コースの概要

1. 心臓・大血管の解剖を理解する。
2. 心臓・大血管の代表的疾患群の病態と外科治療を理解する。

### 2. 実習項目および学修目標

1. 実験動物（ウェットラボ）を用いて、心臓の解剖、大血管の解剖実習を行う。
2. 冠動脈模型の作製
3. 冠動脈造影、冠動脈C T、冠動脈バイパス術中所見などから、冠動脈疾患の病態と外科治療を学ぶ。
4. 心エコー所見、弁膜症術中所見などから、弁膜症の病態と外科治療を学ぶ。
5. 大動脈C T所見、大動脈疾患術中所見などから、大動脈疾患の病態と外科治療を学ぶ。
6. 術中補助手段としての、人工心肺・体外循環や、重症心不全の外科治療・補助循環装置の実際を学ぶ。

(学修目標)

1. 冠動脈の解剖を理解し、冠動脈疾患の病態と外科治療を概説できる。
2. 各々の弁の解剖を理解し、弁膜症の病態と外科治療を概説できる。
3. 大動脈の解剖を理解し、大動脈疾患の病態と外科治療を概説できる。
4. 人工心肺・体外循環法の理論と、各手術術式への応用を概説できる。
5. 重症心不全の外科治療法や、補助循環療法（補助人工心臓など）を概説できる。

### 3. 評価の方法と基準

- 1) 評価方法 筆記試験やレポート提出は原則として行わない。実習中の熱意も高く評価する。  
各種疾患への理解度を口頭試問で総合評価するとともに、スタッフの総合意見で決定する。
- 2) 評価基準 学修目標について、「概ね」の達成状況を可とする。
- 3) 評価結果の開示 評価結果の開示を希望する者は、担当教員へ連絡してください。面談の上、開示します。

### 4. 履修上の注意

特になし

### 5. テキスト等

特になし

## B 122. 呼吸器疾患の病態と外科治療

担 当 者 平塚 昌文

学習週数 2週 受入人数 4名/回

実施時期 全期

連 絡 先 胸部外科医局 (2356) 内線

実施場所 胸部外科医局

### 1. コースの概要

1. 手術見学, 3D画像作成
2. 胸写と胸部CTの解剖学的読影

### 2. 実習項目および学修目標

肺模型の作製を通して, 呼吸器外科領域疾病の病態と外科治療を学ぶ。

(学修目標)

- ・呼吸器外科領域疾病の診断・治療計画の立案。
- ・肺模型の作製

### 3. 評価の方法と基準

- 1) 評価方法 3D画像をもとに質疑応答および画像診断の質疑応答を行い, 総合的に評価する。
- 2) 評価基準 学修目標について, 「概ね」の達成状況を可とする。
- 3) 評価結果の開示 開示を希望する者は, 学生課を通じ担当教員へ申し込むこと。

### 4. 履修上の注意

特になし

### 5. テキスト等

特になし

## B 123. 整形外科アドバンスセミナー

担 当 者 森本 忠嗣, 藤井 政徳, 塚本 正紹  
学習週数 2週 受入人数 2名以内  
実施時期 全期  
連 絡 先 整形外科医局 (2343)  
実施場所 整形外科医局

### 1. コースの概要

整形外科は、運動器外科、機能外科、疼痛外科とも呼ばれ、疾病や外傷によって障害された運動機能を再建したり、疼痛を改善させたりすることで、患者の生活の質を回復あるいは向上させることがその目的である。そのため、整形外科の診療内容は非常に多岐にわたり、日常診療で経験する疾患が数多く存在する。

本コースでは整形外科の基本となる四肢関節外科・脊椎外科および外傷・スポーツ整形外科について、より臨床に即した研修を行い、その基礎的知識を習得することを目的としている。

### 2. 実習項目および学修目標

佐賀大学整形外科にて研修を行い、学生1名につき指導医1名が担当し、期間中の研修を行う予定である。

(学修目標)

四肢関節外科・脊椎外科および外傷・スポーツ整形外科の基礎的知識を理解する。

### 3. 評価の方法と基準

- 1) 評価方法 各自のテーマに対する取組状況について指導医を中心として評価する。
- 2) 評価基準 学修目標について、「概ね」の達成状況を可とする。
- 3) 評価結果の開示 評価結果の開示を希望する者は、各自指導医を訪ねること。

### 4. 履修上の注意

特になし

### 5. テキスト等

【教科書】標準整形外科学 第15版 (医学書院)

## B124. リハビリテーション医療の実際

担 当 者 村田 和樹

学習週数 2週 同一期間内の受入人数 1名

実施時期 全期

連 絡 先 リハビリテーション科（内線■■■■）

実施場所 リハビリテーション科・先進総合機能回復センター

### 1. コースの概要

リハビリテーション医療はICUから地域医療にわたるまで必要なものであり、機能改善のみならずその人に適した自立や社会復帰を支援することを目的としている。当院は大学病院であり、リハビリテーション医療は脳血管障害から神経筋疾患整形外科疾患、小児疾患など多彩な疾患を対象としている。本コースでは、これらの症例を通じて、ベッドサイドリハビリテーションからリハ室リハビリテーションそして地域リハビリテーションにおよぶチームアプローチとしてのリハビリテーション医療の実際を学ぶ。

### 2. 実習項目および学修目標

#### 1) 実習項目

リハビリテーション医療として、診察と評価、理学療法、作業療法言語療法、義肢装具療法（ロボットリハ）などリハビリテーション医療の各分野について学び、各治療法についての体験学習も行う。

#### 2) 学修目標

- ① リハビリテーション医療の各分野の概要について説明できる。
- ② リハビリテーション医療における基本的な診察や評価を遂行できる。
- ③ リハビリテーション適応症例の治療計画を立案し、考察することができる。

### 3. 評価方法と基準

- 1) 評価方法 取組状況とレポートなどの課題内容を総合的に評価する。
- 2) 評価基準 学修目標について、「概ね」の達成状況を可とする。
- 3) 評価結果の開示 閲覧を希望する者は電子メールで担当教員に申し込むこと。

### 4. 履修上の注意

履修にあたっては、担当者と十分に連絡を取り合う。

### 5. テキスト等

特になし

## B 125. 形成再建外科の治療学入門

担 当 者 上村 哲司, 渡邊 英孝, 永野 義博, 吉住 茉莉子

学習週数 2週 受入人数 1名まで/1回につき

実施時期 学生の受け入れ不可期間 (学会期間と重なるため)

連 絡 先 形成外科医局2330 (内線●●●●)

実施場所 5階東病棟, 形成外科医局 (2330)

### 1. コースの概要

形成再建外科の治療学を学ぶ。

### 2. 実習項目および学修目標

形成外科学は、診療科の基本診療科であるにも関わらず、本学医学部学生が学ぶ機会が乏しい分野である。形成外科の2週間の臨床実習では、形成外科の創傷治癒から組織移植に至る治療学のプロセスを術前カンファレンスにて学び、実際の手術に参加する。形成外科は、再建外科医として外科系の他の診療科（耳鼻咽喉科、一般消化器外科、胸部外科、脳神経外科、整形外科、皮膚科、歯科口腔外科、産婦人科など）から依頼の再建手術を行う。再建手術の中心は、マイクロサージャリーを用いた組織移植となるので、実際の微小血管吻合を見学し、研究室では模擬血管を用いた微小血管吻合を実際に行う。

現在、既に医師国家試験出題委員に形成外科医が新たに加わり、創傷治癒、顔面領域の先天異常外傷学などの疾患を担当しているので、興味のある学生はぜひ選択してもらいたい。マンツーマンで行うため、2週間の受け入れ人数を1名としていることを留意のこと。

(学修目標)

形成再建外科の8大治療法を理解する。

### 3. 評価の方法と基準

1) 評価方法 術前カンファレンス、手術中の個別の質問等で総合的に評価する。

2) 評価基準 学修目標について、「概ね」の達成状況を可とする。

3) 評価結果の開示 閲覧を希望する者は、電子メール（上村：●●●●@cc.saga-u.ac.jp）で申し込むこと。

### 4. 履修上の注意

朝の開始時間：07：30-（月、火、水、金），07：15-（木；術前カンファレンス）に注意のこと!!

### 5. テキスト等

標準形成外科学、Text 形成外科学

## B 126. 脳神経外科手術のための微小外科解剖と基本手術手技

担 当 者 阿部 竜也, 増岡 淳, 緒方 敦之, 吉岡 史隆, 古川 隆

学習週数 2～4週 受入れ人数 4名

実施時期 全期

連絡先 脳神経外科事務室 (2349) 内線

### 1. コースの概要

脳神経外科手術に必要な微小外科解剖を学習し、実際の手術に参加することで、脳神経外科診療の理解や興味を深める。手術用顕微鏡下での血管吻合を通し、マイクロサージャリーの基本を身につける。

### 2. 実習項目および学修目標

脳神経外科の手術に必要な微小外科解剖を、実習を含めて学習する。特にコース期間中の手術から選択して、指導医のもとでその解剖学的アプローチについて学習した後、第2あるいは第3助手として手術に参加する。担当した症例については主治医グループとともに周術期管理に加わる。また脳神経外科研究室で、屍体脳を用いて脳神経外科手術のシミュレーションを行い、脳神経外科手術への理解を深める。同時に手術用顕微鏡下で血管吻合の練習を行い、マイクロサージャリーの基本手技を身につける。

- ・ 基本的外科手技を習得する。
- ・ 脳神経外科手術に必要な微小外科解剖を学習する。
- ・ 脳神経外科手術の周術期管理の基本を理解する。
- ・ 血管吻合を通してマイクロサージャリーを体験する。

### 3. 評価の方法と基準

- 1) 評価方法 担当教員が取り組み状況と達成度、理解度にて総合的に評価する。
- 2) 評価基準 学修目標にて、概ねの達成を可として判定する。
- 3) 評価結果の開示 レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は電子メールで阿部 (abe.t@cc.saga-u.ac.jp) に申し込むこと。

### 4. 履修上の注意

特になし

### 5. テキスト等

「Rhoton 頭蓋内脳神経解剖と手術アプローチ」(脳神経外科医局より貸し出します)

## B 127. 脳腫瘍の遺伝子解析と腫瘍幹細胞をターゲットとした新規治療法の開発

担 当 者 阿部 竜也, 中原 由紀子, 伊藤 寛

学習週数 2～8週 受け入れ人数 数名

実施時期 全期

連 絡 先 脳神経外科事務室 (2349) 内線

### 1. コースの概要

脳腫瘍の遺伝子解析の方法を学び、遺伝子解析に対する探求心と理解を深める。

脳腫瘍幹細胞を培養し、新規治療法について研究する。

### 2. 実習項目および学修目標

脳腫瘍の遺伝子解析の方法を学び、脳腫瘍幹細胞を用いて新規治療法に関する研究に参加する。4週間の実習は脳神経外科研究室で行うが、8週間の実習を選択すれば、米国・マサチューセッツ総合病院脳神経外科などでの海外研修が可能である。

- ・脳腫瘍の遺伝子解析の意義を理解する。
- ・脳腫瘍の遺伝子解析の方法を理解する。
- ・脳腫瘍幹細胞をターゲットにした新規治療法について理解する。

### 3. 評価の方法と基準

- 1) 評価方法 担当教員が取り組み状況と達成度、理解度にて総合的に評価する。
- 2) 評価基準 学修目標にて、概ねの達成を可として判定する。
- 3) 評価結果の開示 評価結果について開示する。閲覧を希望する者は電子メールで阿部 (abet@cc.saga-u.ac.jp) に申し込むこと。

### 4. 履修上の注意

特になし

### 5. テキスト等

WHO脳腫瘍分類第5版2021 (脳神経外科医局より貸し出します)

## B128. 脳血管内治療入門

担 当 者 阿部 竜也, 緒方 敦之, 古川 隆

学習週数 2～4週 受入れ人数 数名

実施時期 全期

連 絡 先 脳神経外科事務室 (2349) 内線

### 1. コースの概要

脳血管内治療の対象疾患の病態と治療の実施法を学ぶ。

### 2. 実習項目および学修目標

- ・脳血管内治療に必要な脳血管造影検査の実施法と読影法を学ぶとともに最新のシミュレーターEVEを用いてカテーテル操作や動脈瘤コイル塞栓術および血栓回収術を行う。コース期間中の脳血管内治療の第3助手として治療に参加し、担当した症例については主治医グループとともに周術期管理に参加する
- ・血管造影に必要な基本手技を、卒後臨床研修センターに配備されたシミュレーターを用い学習する。
- ・頭蓋内動脈・静脈の走行を理解し、脳血管造影検査の読影法を学習する。
- ・脳血管内治療の実施法を学習する。
- ・脳血管内治療の周術期管理の基本を理解する。

### 3. 評価の方法と基準

評価方法 担当教員が取り組み状況と達成度、理解度にて総合的に評価する。

評価基準 個別行動目標にて、概ねの達成を可として判定する。

評価結果の開示 レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は電子メールで阿部 (abet@c.c.saga-u.ac.jp) に申し込むこと。

### 4. 履修上の注意

特になし

### 5. テキスト等

「超」入門 脳血管内治療 改訂第2版 メディカ出版, パーフェクトマスター脳血管内治療 第3版 メジカルビュー社

(脳神経外科医局より貸し出します。)

## B 129. 小児・女性泌尿器疾患の診断・治療

|       |                      |
|-------|----------------------|
| 担 当 者 | 野口 満, 東武 昇平          |
| 学習週数  | 2週間                  |
| 受入人数  | 2名                   |
| 実施時期  | 全期                   |
| 連 絡 先 | 泌尿器科医局（臨床研究棟3階2356室） |
| 実施場所  | 泌尿器科医局、泌尿器外来、手術室など   |

### 1. コースの概要

- ① 小児腎尿路・生殖器疾患の多くは不妊、腎不全、排尿障害、性機能障害など成人へtransitionするものが多い。当科で多く取り扱っている、停留精巣、膀胱尿管逆流症、先天性水腎症、尿失禁、外陰部疾患など小児期の疾患の診断・治療を学びながら、成人期を見据えた学習を行う。
- ② 女性泌尿器疾患として代表的なものに骨盤臓器脱、尿失禁がある。QOLに重点を置いた医療が求められるという時代の流れから、年々、受診患者数は増加している。これらの疾患の病因をはじめ、その診断・治療について学習をしていただく。
- ③ 小児・女性泌尿器科の診療は、取り扱っている大学は多くなく当科の特徴でもある。  
他大学では学べないことを学修できるコースである。

### 2. 実習項目および学修目標

#### (1) 実習項目

小児泌尿器科疾患、女性泌尿器科疾患で来院した患者の外来診察、検査を担当医とともに行う。また、手術に助手として参加し、手術方法、実際の発生学および解剖について理解を深める。

#### (2) 学修目標

- ・代表的な疾患の病態を概説できる。
- ・診断治療計画を立案できる。
- ・検査法（内診、膀胱造影検査、排尿記録、尿流量検査、RI検査など）を概説できる。
- ・治療法（手術、運動療法、内服など）を概説できる。
- ・手術症例については、手術によるメリット、デメリットおよび起こり得る合併症を概説できる。

### 3. 評価の方法と基準

- 1) 評価方法 取り組み状況と理解度から総合的に評価する。
- 2) 評価基準 学修目標について概ね到達できていれば可とする。
- 3) 評価結果の開示 閲覧希望のものはオフィスアワーの時間帯に担当教員を訪ねること。

### 4. 履修上の注意

特になし

### 5. テキスト

特になし

## B130. 内視鏡外科手術を中心とした泌尿器低侵襲治療の手術実習

担 当 者 野口 満, 有働 和馬, 東武 昇平, 柿木 寛明

学習週間 2～4週間 受入人数 2～4名

実地期間 全期

連 絡 先 泌尿器科医局（臨床研究棟3階2356室）

実地場所 泌尿器科医局、泌尿器科研究室、手術部 等

### 1. コースの概要

内視鏡技術の進歩により低侵襲治療が可能となり、より低侵襲な治療を求められるようになった。泌尿器科手術では、多くが鏡視下で行われている。尿路結石・前立腺肥大症・膀胱腫瘍などの経尿道的手術はもちろん、多くの泌尿器科癌において腹腔鏡、ダビンチ手術が一般的である。本実習では、泌尿器内視鏡治療を学習し、それぞれのメリットとデメリットについて理解を深める。

### 2. 実習項目と学修目標

#### 1) 実習項目

治療機器の構造や操作法について理解を深め、内視鏡手術症例（経尿道的手術）および腹腔鏡手術に助手として参加する。

疾患の病態、腎尿路・生殖器の解剖を習得し、泌尿器内視鏡手術の概要を理解する。

#### 2) 学修目標

- ・適応疾患に対する診断、治療計画を立案することができる。
- ・手術に必要な機器、機能を理解することができる。
- ・ロボット補助下腹腔鏡手術（ダビンチ）の治療機器の構造、機能を理解する。
- ・ドライボックスを用いて、腹腔鏡手術手技を習得する。
- ・手術症例の術前評価と治療プランについて立案することができる。

### 3. 評価の方法と基準

- 1) 評価方法 取り組み状況と理解度から総合的に評価する。さらに、ドライボックスによるシュミレーションテストを加味する
- 2) 評価基準 学修目標について概ね到達できていれば可とする。
- 3) 評価結果の開示 閲覧希望のものはオフィスアワーの時間帯を利用して担当教員を訪ねること。

### 4. 履修上の注意

特になし

### 5. テキスト

特になし

## B 131. 周産期医療（母体・胎児）実習

担 当 者 横山 正俊, 山本 徒子, 津村 圭介（佐賀病院）

学習週数 2週 受入人数 1～2名

実施時期 全期

連 絡 先 産婦人科医局（2257）内線

実施場所 独立行政法人 国立病院機構 佐賀病院

〒849-8577 佐賀市日ノ出一丁目20-1 TEL：0952-30-7141

### 1. コースの概要

周産期医療の実際を学ぶ

### 2. 実習項目および学修目標

実習項目：佐賀病院は佐賀県で唯一の総合周産期母子医療センターであり，県内の周産期医療の中核を担っている。

大学の実習では体験できない妊娠28週未満の切迫早産管理など多数の症例を有するため，2週間の間に患者・家族・スタッフと日々接しながら実習することで周産期に関連した高度専門医療を理解していく。

学修目標

- ・各種疾患の病態を理解する
- ・各種疾患に対する治療の実際を体験，理解する
- ・胎児を含む妊婦という存在についてのアプローチの特殊性を理解する
- ・医師（産科，小児科など），助産師，ソーシャルワーカーなどのチームアプローチについて理解する

### 3. 評価の方法と基準

- 1) 評価方法 実習態度とレポートの内容で総合的に評価する。
- 2) 評価基準 学修目標について，「概ね」の達成状況を可とする。
- 3) 評価結果の開示 閲覧を希望する場合は大学担当者へ連絡すること。

### 4. 履修上の注意

特になし

### 5. テキスト等

特になし

## B 132. 産婦人科領域における細胞診断学

担 当 者 横山 正俊, 奥川 馨, 梅崎 靖

学習週数 2～4週 受入人数 2名

実施時期 全期

連 絡 先 産婦人科医局 (2257) 内線

実施場所 産科婦人科学病理実験室および資料作成室

### 1. コースの概要

臨床で得られた細胞診標本を対象として、細胞診の見方および所見の報告の仕方を学ぶ。

### 2. 実習項目および学修目標

#### 実習項目

細胞診斯学の進歩により、子宮癌の早期発見・早期治療が可能となり、癌死亡率の低下がみられるようになった。特に、子宮頸癌の細胞診断学はほぼ確立されたといえる状況にある。本実習では、子宮頸部を中心とした細胞診断学の原理を理解してもらうとともに、スライドを用いて代表的異常細胞所見を理解してもらう。さらに、実際の子宮頸部細胞標本を対象として、細胞形態の見方を学ぶとともに細胞所見の報告の仕方を学ぶことができる。

#### 学修目標

- ・顕微鏡を正しく操作できる。
- ・扁平上皮細胞と腺細胞の特徴を説明できる。
- 正常子宮頸部細胞像と子宮頸部異型細胞像を鑑別できる。
- 子宮頸部扁平上皮癌の細胞像を診断できる。

### 3. 評価の方法と基準

- 1) 評価方法 自の鏡検への取り組み状況とレポートの内容を総合して評価する。
- 2) 評価基準 学修目標について、「概ね」の達成状況を可とする。
- 3) 評価結果の開示 ポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者はオフィスアワー等の時間帯を利用して担当教員を訪ねること。

### 4. 履修上の注意

特になし

### 5. テキスト等

特になし

## B 133. 眼球の解剖の理解と手術シミュレーション（ウェットラボ実習）ならびに手術助手実習

担 当 者 江内田 寛、坂井 博明（医局長：連絡先）、永浜 秀規ほか眼科学教員および医員

学習週数 2 週 受け入れ人数 4 名（1 名ずつ別の時期での受け入れ）

実施時期 2024年10月21日～2025年 3 月21日および2025年 8 月 4 日～8 月15日（受入可能時期）

連 絡 先 眼科事務室（2384）を経て坂井 博明助教へ連絡のこと

実施場所 臨床研究棟および附属病院手術室

### 1. コースの概要

豚眼を用い実際の眼球の解剖を理解すると同時に、白内障手術のシミュレーションを体験する。（感染症の流行状況によりプログラム内容の変更が生じる場合があります。）

手術の助手は硝子体手術、白内障手術などを予定。

### 2. 実習項目および学修目標

眼科手術のなかでも白内障に対する手術治療は現在日本において年間170万件ほど行われている。現在は一般に超音波水晶体乳化吸引といった方法で行われ、その際に挿入される眼内レンズの改良も進み、2mm程度の極めて小さな切開創から操作が行われる。また白内障手術は顕微鏡下で行われ、眼科手術においては基本の手術である。

本コースでは眼球の解剖を理解した上で豚眼を用いたウェットラボによる手術のシミュレーションや手術助手を体験することで、眼科手術の基本である白内障手術について体系的に学習する。

（学修目標）

- ・眼球の解剖を理解する。
- ・白内障の病態を理解する。
- ・手術の原理を理解する。
- ・手術助手を通じ、実際の手術を見学し、理解を深める。
- ・手術用顕微鏡の操作を体験する。
- ・摘出豚眼を用いた手術を実際に行い、治療手技と原理を学習する。

### 3. 評価の方法と基準

- 1) 評価方法 学修目標が達成できているかどうかを実地場で口頭試問などを交え評価する。
- 2) 評価基準 学修目標について、「概ね」の達成状況を可とする。
- 3) 評価結果の開示 本人に直接開示する。

### 4. 履修上の注意

特になし

### 5. テキスト等

特にないが、眼科e-ラーニングの手術のシリーズ（臨床実習用）を再学修しておくこと

### 6. 備考

感染症の流行時期などは決められた実習内容を実施することが困難な場合があります。

実施が困難であった場合は別の課題を指定することや、別の日程であらためて予定するかを相談の上決定します。希望通りの形態で実習を行うことが出来なくなるリスクを考慮の上希望してください。

希望者が募集人員を上回る場合は、将来眼科医を志望する学生を優先します。

## B 134. 頭頸部癌

担 当 者 杉山 庸一郎, 峯崎 晃充

学習週数 2週 同一期の受入人数 2名

実施時期 全期 (Unit 8 耳鼻咽喉科講義期間中, 日本耳鼻咽喉科学会および日本頭頸部癌学会期間中を除く)

連 絡 先 耳鼻咽喉科学講座事務室 (2523) 内線

実施場所 耳鼻咽喉科学講座医局 (2523)、耳鼻咽喉科・頭頸部外科外来, 手術室

### 1. コースの概要

頭頸部癌に対する理解を深める。

### 2. 実習項目および学修目標

近年、頭頸部癌に対する治療法の標準化が進んでいる。そこで国内の頭頸部癌取扱い規約、ガイドライン、ガイドランス、米国ガイドライン、海外文献を参照し、実際の症例のTNMを診断し、その上で標準的な治療選択肢を挙げ、さらには患者の状態に応じた最適な治療方針を立てることを通じて、頭頸部癌の治療方針の立て方の基本を学ぶ。

頭頸部癌のTNM分類を理解でき、頭頸部癌に対する標準的治療選択肢を挙げることができるようになることを目標とする。

### 3. 評価の方法と基準

- 1) 評価方法 各自のテーマに対する取組状況とレポートの内容を総合的に評価する。
- 2) 評価基準 学修目標について、「概ね」の達成状況を可とする。
- 3) 評価結果の開示 本人に直接開示する。

### 4. 履修上の注意

特になし

### 5. テキスト等

特になし

## B135. 聴覚および音声障害

担 当 者 杉山 庸一郎, 嶋崎 絵里子, 森本 邦子

学習週数 2週 同一期の受入人数 2名

実施時期 全期 (Unit 8 耳鼻咽喉科講義期間中, 日本耳鼻咽喉科学会および日本頭頸部癌学会期間中, 2024年10月21日～25日, 2024年12月23日～2025年1月5日を含む期間を除く)

連 絡 先 耳鼻咽喉科学講座事務室 (2523) 内線

実施場所 耳鼻咽喉科・頭頸部外科外来および5階西病棟

### 1. コースの概要

聴覚, 音声障害に対する理解を深める。

### 2. 実習項目および学修目標

実習項目: 聴覚障害に関しては, 自覚的・他覚的検査などを組み合わせ, 聴覚障害の診断に必要な検査およびその原理, 結果の見方について理解する。さらに難聴児・者の聴覚補償 (補聴器の設定など) およびその後の療育を知り, 現在の佐賀県内の支援体制について知る。音声については, 手術患者の音声検査, ストロボスコピーを行い, 障害の原因を詳細に分析する。また手術の原理および有用性について理解する。

学修目標:

- ・聴覚検査の結果に基づき, 聴覚障害を理解できる。
- ・音声検査, ストロボスコピーの結果を理解できる。
- ・音声外科手術の適応を理解できる。

### 3. 評価の方法と基準

- 1) 評価方法 各自のテーマに対する取組状況とレポートの内容を総合的に評価する。
- 2) 評価基準 学修目標について, 「概ね」の達成状況を可とする。
- 3) 評価結果の開示 本人に直接開示する。

### 4. 履修上の注意

特になし

### 5. テキスト等

特になし

## B 136. 鼻副鼻腔疾患の診断と内視鏡下鼻副鼻腔手術

担 当 者 杉山 庸一郎, 佐藤 有記

学習週数 2 週 同一期の受入れ人数 2 名

実施時期 全期 (2024年11月11日-15日, 12月23日-2025年1月5日を含む期間を除く)

連 絡 先 耳鼻咽喉科学講座事務室 (2523) 内線

実施場所 耳鼻咽喉科学講座医局 (2523)、耳鼻咽喉科・頭頸部外科外来, 手術室

### 1. コースの概要

- ・鼻・副鼻腔の解剖を理解する。
- ・鼻副鼻腔疾患の診断と治療、特に内視鏡下鼻副鼻腔手術について理解を深める。

### 2. 実習項目および学修目標

実習項目：

- ・鼻咽腔内視鏡・CT・頭蓋骨標本を使用した鼻・副鼻腔の解剖の学習
- ・検査の実際：鼻咽腔内視鏡検査、鼻腔通気度検査、嗅覚検査、アレルギー検査など。
- ・手術見学、手術助手、手術用硬性内視鏡を使用したシミュレーション。

学修目標：

- ・副鼻腔および隣接臓器の解剖を理解する。
- ・鼻副鼻腔の正常および基本的疾患の内視鏡所見、CT所見を理解する。
- ・検査結果を解釈し、術式を含めた適切な治療法を選択できる。

### 3. 評価の方法と基準

- 1) 評価方法 各自のテーマに対する取組状況とレポートの内容を総合的に評価する。
- 2) 評価基準 学修目標について、「概ね」の達成状況を可とする。
- 3) 評価結果の開示 本人に直接開示する。

### 4. 履修上の注意

特になし

### 5. テキスト等

特になし

## B137. 画像診断入門

担 当 者 中園 貴彦, 山口 健, 江頭 秀哲, 江頭 玲子, 西原 正志, 平井 徹良, 武下 剛  
学習週数 2週 受入人数 2名  
実施時期 全期  
連 絡 先 放射線医学医局(第1資料室)(2148)(内線 〇〇〇〇)  
附属病院放射線部読影室 (内線 〇〇〇〇)  
実施場所 附属病院放射線部

### 1. コースの概要

実診療における症例の画像診断を実践し、診断の仕方や画像所見に習熟する。

### 2. 実習項目および学修目標

実習項目：単純写真，CT・MRI検査の読影を中心に，画像診断の方法や画像所見を学ぶ。興味があれば，血管造影検査やIVR超音波検査，消化管造影検査など，放射線科にて行っている検査・手技に立ち会い，これらを学習することも可能。

学修目標

- 1) 単純写真：正常像を正しく認識し，異常所見の存在を指摘できる
- 2) CT・MRIの読影：正常な画像解剖を覚え，異常所見の解析の方法，代表的疾患の画像所見を学ぶ
- 3) その他の検査・手技：それぞれの手技の特性と適応，画像所見の見方を知る

### 3. 評価の方法と基準

- 1) 評価方法 日常診療に参加し、実際の症例を診断する中で、指導医が評価する。
- 2) 評価基準 指導医が個別に準備、努力、技能を判断する。
- 3) 評価結果の開示 不合格、あるいは評価保留となった者で成績評価の資料開示を希望する者に対しては、実習中の試験成績や教員による実習態度評価成績を開示するので、成績発表後一ヶ月以内に実習責任者へ連絡をとること。

### 4. 履修上の注意

特になし

### 5. テキスト等

特になし

## B 138. 手術麻酔を中心とした周術期管理・ICU管理

担 当 者 坂口 嘉郎, 谷川 義則, 中川内 章

学習週数 2週 受入人数 2名(同一期)

実施時期 全期

連 絡 先 麻酔・蘇生学事務室(2324)

実施場所 手術部, 集中治療部

### 1. コースの概要

5年次Phase IVの麻酔科実習での学習をさらに発展させ, 手術症例について術中だけでなく術後管理を含めて学習する。

### 2. 実習項目および学修目標

#### <麻酔管理>

- 1) 高リスク患者や侵襲の大きい手術を受ける患者の術前評価, 麻酔計画を立てることができる
- 2) 麻酔科医の指導の下に, 麻酔導入, 維持, 覚醒の全身麻酔および付随する全身管理を行える
- 3) 侵襲的なモニタリングや神経ブロックなどの手技に関し, 理解説明できる
- 4) 予想される術後合併症を理解, 説明できる

#### <ICU管理>

- 1) 人工呼吸の各種様式, その適応について理解する。
- 2) 血管作動薬の効果, 適応を理解する。
- 3) 術後疼痛管理についてその効果, 適応を理解する。

### 3. 評価の方法と基準

- 1) 評価方法 実習期間中の取組状況およびレポート内容について総合的に評価する。
- 2) 評価基準 学修目標について概ね到達できれば可とする。
- 3) 評価結果の開示 希望者には閲覧できるようにする。

### 4. 履修状の注意

特になし

### 5. テキスト等

臨床麻酔科学書 中山出版 2022年

新臨床麻酔スタンダード 克誠堂出版 2020年

病態で考える人工呼吸器管理 羊土社 2014年

重症患者管理マニュアル メディカルサイエンス社 2018年

ICU実践ハンドブック-改訂版 羊土社 2019年

## B139. ペインクリニックにおける疼痛治療

担 当 者 山田 信一, 原野 りか絵

学習週数 2週 受入人数 2名

実施時期 10月～8月末 ただし下記の期間を除く  
2025年6月30日～7月12日までの2週間

連絡先 [redacted]@cc.saga-u.ac.jp (山田信一)

実施場所 ペインクリニック外来および病棟

実習の最初の日は、外来棟3階のペインクリニック・緩和ケア外来に9時前に来ること

### 1. コースの概要

疼痛伝達および疼痛制御機構について理解を深めるとともに、各種疼痛性疾患の病態および治療を理解する。

### 2. 実習項目および学修目標

ペインクリニック外来および病棟で難治性慢性疼痛、複合性局所疼痛症候群（CRPS）、癌性疼痛、三叉神経痛、椎間板ヘルニア、帯状疱疹後神経痛などの疼痛疾患に対する薬物療法や神経ブロック療法、脊髄刺激療法や高周波熱凝固療法などの治療方法、身体的な診察、精神心理的評価について学ぶ。

さらに、難治性疼痛患者に行った除痛術の前後にわたる詳細な臨床的経過観察を行う。

(学修目標)

- ・各種疼痛疾患の病態の違いを理解する。
- ・各種神経ブロックの適応、手技について理解する。
- ・疼痛疾患患者に対する問診および身体所見の診察ができるようにする。
- ・非オピオイド性鎮痛薬、鎮痛補助薬や、オピオイド鎮痛薬について理解する。

### 3. 評価の方法と基準

- 1) 評価方法 実習期間中の取組状況およびレポート内容について総合的に評価する。
- 2) 評価基準 上記の内容について概ね目標に到達できれば可とする。
- 3) 評価結果の開示 レポート課題および出題の意図を開示する。結果に関しては希望者には閲覧できるようにする。

### 4. 履修上の注意

毎朝9時前にペインクリニック外来に集合し、患者の情報把握を行い、当日に行われる治療内容について予習をする。

### 5. テキスト等

特になし

## B 140. 一般病棟および緩和ケア病棟における緩和ケア

担 当 者 山田 信一、原野 りか絵、久保 麻悠子、小杉 寿文

学習週数 2 週 同一期間内の受入人数 2 名

実施時期 10月～8月末 ただし下記の期間を除く

2025年6月30日～7月12日までの二週間

連 絡 先 [REDACTED]@cc.saga-u.ac.jp (山田信一)

実施場所 佐賀大学医学部附属病院（1 週目）及び佐賀県医療センター好生館（2 週目）

実習の最初の日は、外来棟3階のペインクリニック・緩和ケア外来に9時前に来ること

### 1. コースの概要

がんの患者に対する緩和ケアの実際について、緩和ケアチームおよび緩和ケア病棟での日々の体験を通じて学ぶことを目的とする。

### 2. 実習項目および学修目標

佐賀大学医学部附属病院では緩和ケアチーム・緩和ケアセンターを有している。また、佐賀県医療センター好生館は、現在緩和ケア病棟および緩和ケアチーム（県内2番目）を有し緩和ケアを総合的に実践している。2週間の中で患者、家族およびスタッフと日々接しながら実習することで医療や緩和ケアの原点に触れることができる。

（学修目標）

- ・緩和ケアの概念が理解できる。
- ・「WHO方式がん疼痛治療法」を説明できる。
- ・医療用麻薬の有効性と副作用について説明できる。
- ・全人的な痛み（Total pain）について説明できる。
- ・緩和ケアチームの機能と役割について説明できる。
- ・ボランティア活動の意義と重要性について説明できる。

### 3. 評価の方法と基準

- 1) 評価方法 日々の取組み状況とレポートの内容（自由感想）を総合的に評価する。
- 2) 評価基準 レポートの提出および個々の達成度を評価する。
- 3) 評価結果の開示 閲覧を希望する者はオフィスアワー等の時間帯を利用して担当教員を訪ねること。

### 4. 履修上の注意

特になし

### 5. テキスト等

特になし

## B 141. 口腔顔面の先天異常

担 当 者 合島 怜央奈, 他

学習週数 2週 受入人数 1名

実施時期 全期（同時に1テーマのみ）（実施時期に関しては症例によって要相談）

連 絡 先 口腔外科事務室（院生棟4F 2471）内線

実施場所 口腔外科外来, 口腔外科病棟, こどもセンター, 手術室

### 1. コースの概要

顎顔面領域の先天奇形の病態を把握し、総合一貫治療の必要性を理解する。

### 2. 実習項目および学修目標

実習項目 唇顎口蓋裂は口腔顔面領域での先天異常で頻度が高い疾患である。本コースでは破裂型の病態, 種々の手術法と手術時期, 手術後の言語訓練スピーチエイドによる鼻咽腔閉鎖機能の改善法, 咬合の管理などについて, 実際の臨床例を参照しながら学習する。

学修目標

- ・唇顎口蓋裂治療に対するチームアプローチによる一環治療の流れを把握する。
- ・各種の治療内容と適切な年齢を理解する。
- ・口腔顎顔面の成長発育様式を理解する。
- ・頭部X線規格写真, 歯列石膏模型の分析と評価法を理解する。

### 3. 評価方法と基準

#### 1) 評価方法

- ・唇顎口蓋裂治療に関する理解度を把握するためにレポートと面談により評価する。
- ・患者, 医療スタッフとのコミュニケーションが適切にできるか評価する。

#### 2) 評価基準 学修目標について, 「概ね」の達成状況を可とする。

#### 3) 評価結果の開示 レポート課題の意図および面談の評価結果を開示する。

閲覧を希望する者はオフィスアワー等の時間帯を利用して担当教員を訪ねること。

### 4. 履修上の注意

特になし

### 5. テキスト等

特になし

## B 142. 顎顔面外傷

担 当 者 檀上 敦, 他  
学習週数 2 週 受入人数 1 名  
実施時期 全期 (同時に 1 テーマのみ)  
連 絡 先 口腔外科事務室院生棟 4 F (2471) 内線  
実施場所 口腔外科外来, 病棟, 手術室

### 1. コースの概要

顎顔面外傷の中で, 問題となる咬合 (かみ合わせ) を理解し, 咬合不全を来たさない顎顔面外傷の治療法を実習を通じて学習する。

### 2. 実習項目および学修目標

実習項目 このコースでは, 外来または病棟の外傷患者を主治医とともに受け持ってもらい, 顔面軟組織の外傷, 歯牙の外傷顔面顎骨々折の診査診断治療について学ぶ。特に口腔の機能を十分に理解するため, 歯牙の形態, 咬合, 顎運動を教材を用いて学習し, 理解する。さらに, 顎骨々折の場合の固定法として多用される骨結紮法, 組織内副子, 囲繞結紮法などの観血的固定法, 歯牙結紮法, 線副子, 金属, レジン床副子など口腔副子についても実習を通じて学ぶ。また, 手術見学で実際の手術手技についても理解を深める。最後に, 担当した患者についてレポートを作成する。

#### 学修目標

1. 顎顔面領域の外傷に対する診査や検査ができるようになる。
2. 上下顎骨, 頬骨骨折における診断 (鑑別診断を含む) 方法について, 説明ができるようになる。
3. 咬合の重要性, 顎骨骨折の治療方法, 顎間固定を説明できる。

### 3. 評価の方法と基準

#### 1) 評価方法

- ・実習態度, 個別学習方法の口頭試問, レポートの内容を総合的に評価する。
- ・患者, 医療スタッフとのコミュニケーションが適切にできるか評価する。

#### 2) 評価基準 学修目標について, 「概ね」達成していれば可とする。

#### 3) 評価結果の開示 レポート課題および出題の意図を開示する。

閲覧を希望する者はオフィスアワー等の時間帯を利用して担当教員を訪ねること。

### 4. 履修上の注意

特になし

### 5. テキスト等

特になし

## B 143. 口腔の腫瘍および炎症

担 当 者 山下 佳雄, 他

学習週数 2週 受入人数 1名

実施時期 全期 (同時に1テーマのみ)

連 絡 先 口腔外科事務室 (院生棟4F 2471) 内線

実施場所 口腔外科病棟, 口腔外科外来, 手術室

### 1. コースの概要

口腔内に発生する良性・悪性腫瘍, ならびに炎症 (特に菌性感染症) について一般的基礎知識を学ぶ。

### 2. 実習項目および学修目標

実習項目 舌, 歯肉, 顎骨などの口腔には色々な悪性腫瘍や良性腫瘍が発生する。それらについて, 実際の症例を見ながら, 診断法, 治療法, 顎骨の再建法, 軟組織の再建法, 顎義歯による顎骨の補綴法, 人工歯根による咀嚼機能の回復法などについて学ぶ。

口腔領域は身体の中でも炎症性疾患の多い部位で, 顎骨が炎症に罹患する頻度は人体のすべての中で最も高い。

ここでは齶蝕や歯周炎の発生, 顎骨炎の診断, 治療などについて学習する。

学修目標 症例に応じた診断法と治療法を立案できる。

### 3. 評価の方法と基準

#### 1) 評価方法

- ・担当症例に対するテーマに関するレポートにて評価する。
- ・患者, 医療スタッフとのコミュニケーションが適切にできるか評価する。

#### 2) 評価基準 学修目標について, 「概ね」達成していれば可とする。

#### 3) 評価結果の開示 レポート課題の意図を開示する。

閲覧を希望する者はオフィスアワー等の時間帯を利用して担当教員を訪ねること。

### 4. 履修上の注意

特になし

### 5. テキスト等

口腔癌 医歯薬出版株式会社 東京 2023年

## B 144. ゲノム医療入門コース

担 当 者 末岡 榮三朗、中村 秀明、佐藤 明美、吉原 由利重

学習週数 2～4週 受入人数 2名

実施時期 全期

連 絡 先 病院検査部 (3242)

実施場所 病院検査部 血液検査部門

### 1. コースの概要

一般臨床においても、遺伝子診断、細胞生理学的検査の重要性や需要はますます高まっている。本コースでは、臨床医学上汎用性の高い遺伝子・細胞診断である、悪性腫瘍の診断や臨床病態の評価に必要な代表的遺伝子異常について学ぶとともに、EGFR, BRAF, KRASなどの遺伝子群については、臨床検体を用いての解析方法と臨床的意義について学習する。さらに現在ゲノム医療として実施されているがん遺伝子パネル検査についても、実際臨床で行われた検査を例に検体の準備から提出・検査結果の解釈などをゲノム情報検索に必要な基礎知識とWebツールを用いて学習する。また、COVID-19などの感染症における遺伝子診断についても基礎的技術を習得する。

### 2. 実習項目および学修目標

- (1) 悪性腫瘍の診断のために提出された遺伝子検査について、結果と臨床病態を含めて評価し、臨床的意義について検証する。
- (2) 遺伝子異常の判明している検体を用いて、検査部の保有する遺伝子解析装置を使って実際に解析を行う。
- (3) 自身の末梢血液を用いて、フローサイトメトリー法により血球系表面マーカーの解析を行う。
- (4) ゲノム情報検索に必要な基礎知識とWebツールを用いて、がん遺伝子パネル検査結果について検証する。
- (5) COVID-19などの病原体同定における遺伝子診断技術の応用について、臨床応用例を用いて学習する。

(学修目標)

- (1) 临床上重要な遺伝子異常とその病態における意義について学習する。
- (2) 遺伝子異常の解析方法と、臨床検査としての重要事項を把握する。
- (3) 遺伝子・細胞診断検査の判定において注意すべき点を学習する。
- (4) ゲノム情報検索に必要な基礎知識とWebツールの利用法を把握する。

### 3. 評価の方法と基準

- 1) 評価方法 担当教員が、取り組みの現状と達成度、理解度を総合的に評価する。
- 2) 評価基準 学修目標について概ね達成できていれば「良」とする。
- 3) 評価結果の開示 閲覧を希望する者は電子メールで末岡 [REDACTED]@cc.saga- に連絡する。

### 4. 履修上の注意

特になし

### 5. テキスト等

特になし

## B145. 救急診療と救急患者の初期対応

担 当 者 阪本 雄一郎, 小網 博之, 中山 賢人

学習週数 2週 受入人数 4名

実施時期 全期

連 絡 先 救急医局室（内線■■■■）

実施場所 当院救急外来と病棟, ないし他医療施設

### 1. コースの概要

救急診療の初期対応を広く学ぶ。

### 2. 実習項目および学修目標

実習内容としては、あらゆる患者が受診する救急外来はまさに身体所見の宝庫であり、絶好の学習の場である。本コースでは救急患者の診察を指導医と共に行うことによって、実際に所見のある「生の」患者の診察を経験し、身体所見のとり方のレベルアップを図る。本学救急部以外の他施設をまわり、各地域における地域医療から救命医療にいたる広い救急医療を学ぶ予定である。（好生館救命センター、大手町病院、唐津赤十字病院救命センター、聖マリア病院などの各救急部、および久留米大学、福岡大学などの各救命センター）

救急患者の適切な初期対応ができるように、幅広い知識と全身状態を的確に評価できる診療能力および即応性のある技能を修得し、これらの必要性を学ぶ。

- ① 患者の全身状態を的確に把握できる。
- ② 心肺蘇生法の理論を理解し、それを正しく実行できる。
- ③ 救急患者に対する検査や治療の優先順位が決定できる。
- ④ 救急器材の使用法とその適応を正しく理解できる。
- ⑤ 患者及びその家族に、わかりやすく十分な説明を行うことができる。
- ⑥ 実習期間中は帰宅せずに各実習場所で勉強する。

### 3. 評価の方法と基準

- 1) 評価方法 指導教員からの報告書を参考に、各自のテーマに対する取組状況とレポートの内容を総合的に評価する。
- 2) 評価基準 学修目標について、「概ね」の達成状況を可とする。
- 3) 評価結果の開示 レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は電子メールで担当教員に申し込むこと。

### 4. 履修上の注意

特になし。

### 5. テキスト等

特になし。

## B146. ACLS特訓コース

担 当 者 阪本 雄一郎, 小網 博之, 品田 公太

学習週数 2週 受入人数 2名

実施時期 全期

連 絡 先 救急医局室 (内線 )

実施場所 救急部 (高度救命救急センター)

### 1. コースの概要

蘇生法を学習し、その実践と応用によって理解力を深める。

### 2. 実習項目および学修目標

皆さんは5年次の病棟実習中に心肺蘇生に参加する機会がどのくらいあったであろうか？

もし今、目の前で人が倒れて心肺停止に陥ったとしたら、皆さんは確実に心肺蘇生を行う自信はあるだろうか？ “ガイドライン2015”に象徴されるように、心肺蘇生の手順は世界的に標準化されてきており、その内容を身につけ、確実に心肺蘇生が実施できることは今やすべての医師にとって必須の素養である。本選択コースでは、BLS (Basic Life Support) の復習を行うとともに、ACLS (Advanced Cardiorascular Life Support) について学び、人形を用いてACLSが実行できるように訓練を積む。更に救急外来にCPAOA (Cardiopulmonary Arrest on Arrival: 来院時心肺停止) の症例が来院した場合には、実際に蘇生チームの一員として心肺蘇生に参加してもらう。救命救急医療に興味のある学生、心肺蘇生について納得のゆくまで勉強したい学生、医師としての必須の素養とは何かを追求したい学生に最適のコースである。なお希望者には、外傷の初期対応法であるJ-A TEC (Japan Advanced Trauma Evaluation and Care) の初歩的な内容についても手ほどきを行う予定である。

- ① BLSを実践できる。
- ② ACLSを実践できる。
- ③ J-A TECの初歩的な内容を説明できる。

### 3. 評価の方法と基準

- 1) 評価方法 各自の実技を評価する。
- 2) 評価基準 学修目標について、「概ね」の達成状況を可とする。
- 3) 評価結果の開示 レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は電子メールで担当教員に申し込むこと。

### 4. 履修上の注意

特になし。

### 5. テキスト等

特になし。

## B 147. JATEC特訓コース

担 当 者 阪本 雄一郎, 小網 博之, 中山 賢人

学習週数 2週 受入人数 4名

実施時期 全期

連 絡 先 救急医局室 (内線 〇〇〇)

実施場所 救急部 (高度救命救急センター)

### 1. コースの概要

外傷初期診療を学習し、その実践と応用、さらには外傷根本治療に焦点を当てた外傷専門診療についても学習する。

### 2. 実習項目および学修目標

みなさんは5年次の病棟実習においてどの程度外傷診療に接することができたであろうか？日本における外傷診療はここ10年急速に発展してきた。急性期に「防ぎえる外傷死」を回避することを最大の課題とし、JATEC (Japan Advanced Trauma Evaluation and Care) 日本外傷初期診療ガイドラインが作成され、そのトレーニングコースが全国各地で開催されている。しかし、重症外傷患者の初期診療に関する卒前教育は十分でなく、外傷診療の質の向上のためには外傷診療の教育・研修を充実させることが急務である。そこで将来、救急・外傷診療に携わる事に興味がある6年生を対象に、JATECインストラクターが中心となって、医学部卒業前に外傷初期診療のエッセンスを伝えるべく、上記「JATEC特訓コース」を開設する。内容としては、JATECに則った外傷初期診療の講義を行った上で、まずは、人形での外傷初期診療のシミュレーション教育を行う。シミュレーションをある程度行ったら、次は実際の症例で、研修医に混じって外傷初期診療を行っていただく。その中で、外傷初期診療において必要手技であるFAST (エコー)、胸腔穿刺、胸腔ドレーン、輪状甲状靱帯穿刺、切開、IOI (骨髄輸液)、心臓穿刺のやり方、胸写や骨盤Xp、全身CTの読影の仕方などをしっかり教育する。また、実際の症例やシナリオを提示し、decision makingの教育も行う。症例によって、体幹部外傷手術の際には、手洗いもしてもらい実際に手術に入っていただく。時期によって、5月開催予定のJATEC佐賀コースや外傷手術のoff the job training course (ATOM, SSTTなど) にもアシスタント参加していただく。以上のように外傷初期診療から外傷手術などの根本的な治療まで一貫して学んでいただく中身の濃い内容となっている。卒前に一気に外傷診療のエッセンスを学びたい方は奮って希望していただきたい。

- ・JATECに則った外傷初期診療が実践できるようになる。

### 3. 評価の方法と基準

- 1) 評価方法 各自の実技を評価する。
- 2) 評価基準 学修目標について、「概ね」の達成状況を可とする。
- 3) 評価結果の開示 レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は電子メールで担当教員に申し込むこと。

### 4. 履修上の注意

特になし

### 5. テキスト等

特になし

## B 148. 病院総合診療実践コース

担 当 者 多胡 雅毅, 徳島 圭宜, 藤原 元嗣, 相原 秀俊, 香月 尚子, 大石 透, 牧尾 成二郎,  
山下 駿

学習週数 2～4週 受入人数 1回4名まで

実施時期 全期

連 絡 先 総合診療部医師室（内線■■■■）

実施場所 総合診療部医師室、病棟、総合外来、救急外来

### 1. コースの概要

臨床実習（PhaseⅣ）で習得した問診と診察技術を活かして病院総合診療を実践し、その本質を学び体得することを目的とする。

### 2. 実習項目及び学修目標

- ①総合診療医としての基本姿勢：「断らずにまず対応する」「患者の良き相談相手となる」「全身を診る」「必要に応じて適切なマネージメントを行い各専門診療科間の調整役となる」など総合診療医としての基本姿勢を身につける。また、総合病院における総合診療医の役割について述べるができるようになる。
- ②外来診療の実践：指導医の下で、新患に対して問診と診察を行い、検査方針の決定と検査結果を正しく評価し、治療方針を決定するプロセスを学ぶ。またショック・胸痛・意識障害など緊急性のある症候について、初期対応と必要なスキルについて理解を深め、実践する。夜間救急外来では指導医とともにWalk-in外来を経験し理解を深める。
- ③入院診療の実践：主治医チームの一員となり、回診や検査・治療計画についての意思決定に関与する。肺炎・尿路感染・心不全などのCommon diseaseの診療、診断困難症例や不明熱症例の診療、重症患者の集中管理など総合診療医に必要なスキルについて理解を深める。超音波検査や消化管内視鏡検査を指導医の下で施行し、その所見と評価について理解を深める。
- ④臨床上の疑問（CQ: Clinical Question）を解決する：診療中に芽生えたCQに対して、まず文献検索を行う。収集したEvidenceの内容を自ら精査し、実際の患者に適用するEBM（Evidence Based Medicine）のプロセスについて理解を深め、実践する。

### 3. 評価の方法と基準

- 1) 評価方法：指導教員からの報告書や実習態度から評価する。
- 2) 評価基準：学修目標の達成状況に基づき判断する。
- 3) 評価結果の開示：希望者には面接の上、評価についての詳細を説明する。（担当教員に申し込むこと）

### 4. 履修上の注意

実習初日は午前8時20分に北病棟2Fカンファレンス室2へ集合とする。

### 5. テキスト等

特に指定のテキストはなし。

## B 149. 在宅医療・在宅ケア実習

担 当 者 鐘ヶ江 寿美子（ひらまつ在宅クリニック）、  
江村 正、多胡 雅毅・徳島 圭宜

学習週数 2週 受入人数 1名

実施時期 全期

連絡先 医師育成・定着支援センター事務室（内線3000・地域医療支援センター1階）

実施場所 医療法人ひらまつ病院 ひらまつ在宅クリニック  
佐賀県小城市三日月町久米2155-2  
TEL：■■■■■■■■■■ FAX：■■■■■■■■■■

### 1. コースの概要

在宅医療・在宅ケア地域包括ケアシステム・地域共生社会について学ぶ。

### 2. 実習項目および学修目標

1. 訪問診療に同行し、小児～高齢者の在宅医療を体験する。
2. 訪問看護、訪問リハビリ、訪問栄養管理指導、ソーシャルワーカーの患者宅訪問への同行ケアカンファレンス（退院時共同指導やサービス担当者会議への参加）。
3. 患者宅にて医療や生活支援に関する意見を患者や家族から聴取し、地域に暮らす患者や家族介護者の在宅支援について考察する。

\* 白衣と聴診器を持参。実習前週の木曜日までに診療所に確認の電話を入れる。

（学修目標）

1. 老年医学的課題への対応：高齢者総合機能評価、認知症、嚥下・栄養・排泄・褥創に関するマネジメントについて述べるができる。
2. 在宅緩和ケア：トータルペイン、意思決定支援（アドバンス・ケア・プランニング（ACP）等）、グリーフケアについて述べるができる。
3. 小児の在宅医療：発達・教育の視点、親やその他家族へのサポートなど、成人の在宅医療との違いを学ぶ。
4. 在宅高度医療：在宅人工呼吸療法、酸素療法、中心静脈栄養、経管栄養について述べるができる。
4. 在宅医療の諸相：在宅医療への移行、入退院支援、自宅看取りまでのシームレスな関わり合いを知り、患者の個性に応じた対応について述べるができる。
5. チームアプローチ：訪問看護、保険薬局、介護保険サービス事業所などとの連携を通し、多職種協働や地域包括ケアシステムについて学ぶ。

### 3. 評価の方法と基準

- 1) 評価方法 レポートの内容と実習態度を総合的に評価する。
- 2) 評価基準 学修目標について、「概ね」の達成状況を可とする。
- 3) 評価結果の開示 面接の上、レポート課題と出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は電子メールで担当教員に申し込むこと。

### 4. 履修上の注意

特になし

### 5. テキスト等

特になし

## B 150. 地域包括ケア実習

担 当 者 織田 良正（祐愛会織田病院）、千々岩 親幸（ゆうあいヴィレッジ）  
江村 正、多胡 雅毅・徳島圭宜

学習週数 2週 受入人数 1回1名まで

実習時期 全期

連 絡 先 医師育成・定着支援センター事務室（内線■■■■・地域医療支援センター1階）  
社会医療法人 祐愛会織田病院（■■■■■■■■■■）

実施場所 祐愛会織田病院および関連施設（ゆうあいヴィレッジ、他）

### 1. コースの概要

地域包括ケアの実際を学ぶ

### 2. 実習項目および学修目標

本コースでは、「地域で暮らす高齢者がどのような医療・介護・福祉に支えられて生活しているか」をテーマに、地域の急性期病院の救急・入院から在宅医療に至る医療の流れを体験し、ケアマネジャーの作成するケアプランのもとに行われる訪問看護・訪問介護・通所系サービス・ショートステイ等の介護保険サービスの実際を学ぶことを目的とする。また、希望に応じて、学生が行うことのできる手技（静脈血採取、動脈血採取、静脈路確保など）も豊富に経験することが可能である。

（学修目標）

- 1) 保健―医療―福祉に関する幅広いビジョンと知識。
- 2) 患者を疾病や障害を中心とした医療モデルだけにあてはめず、精神的、社会的、スピリチュアル的な視点（社会モデル）から総合的に評価できる技術。
- 3) 患者、サービス利用者およびその家族介護者に共感する態度。
- 4) 多職種で構成される病院内と地域でのチーム医療・ケアの一員として責任を果たす能力。
- 5) 入院、外来、在宅医療、リハビリテーション、予防医学、介護保険サービス、介護予防サービスなど多様な医療福祉サービスをうまく活用する柔軟性。
- 6) 地域包括ケアシステムの完成に向け地域で実践されていることの理解。

本コースはこれらを実際の現場で効率的に習得できる絶好の機会であり、実習体験が実習生の将来に少しでも役に立つことができれば幸いである。

参考書 ・川越正平編：在宅医療バイブル、日本医事新報社（2014）

・田中滋監修：地域力を高めて高齢者の在宅生活を支える地域包括ケアサクセスガイド、MCメディカル（2014）

・隅田好美ら編：よくわかる地域包括ケア、ミネヴァ書房（2018）

### 3. 評価の方法と基準

- 1) 評価方法 レポートの内容と実習態度を総合的に評価する。
- 2) 評価基準 個別の到達目標について、「概ね」の達成状況を可とする。
- 3) 評価結果の開示 閲覧を希望する学生は、教員に連絡を取る。

### 4. 履修上の注意

特になし

### 5. テキスト等

特になし

## B 151. 地域家庭医療実習

担 当 者 大野 每子, 伊集院 正仁, 秋山 瞳, 竹内 幸治 (唐津市民病院きたはた)

江村 正, 多胡 雅毅・徳島圭宜

学習週数 2～4週 受入人数 1回1名まで

実施時期 全期

連 絡 先 医師育成・定着支援センター事務室 (内線■■■■)・地域医療支援センター 1 階)

唐津市民病院きたはた (■■■■■■■■■■)

実施場所 唐津市民病院きたはた, 唐津市民病院きたはた訪問看護, 離島診療所, 北波多総合保健センター 他

### 1. コースの概要

地域における家庭医療の実際を学ぶ。

### 2. 実習項目および学修目標

- ・外来にて, 新患者・慢性疾患患者・予防接種・健診受診者の問診・診察を指導医と共同して行う。
- ・訪問診療・訪問看護に同行する。特別養護老人ホーム・介護付有料老人ホームの回診に同行する。
- ・地域連携研修として, 以下のコースからいくつかを選択する。

|                                                             |                                                           |
|-------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|
| 島嶼・山間僻地医療見学<br>ケアマネージャー研修<br>ヘルパー研修<br>外来患者待合研修<br>外来栄養指導見学 | 薬局実習<br>保健センター研修<br>デイサービス研修<br>グループホーム・老人施設見学<br>産業医活動見学 |
|-------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|

希望に応じ, 各種レクチャー (各種疾患・患者へのアプローチ法・家庭医療とは, 他) を提供する。

実施内容について, 個人の希望に応じて随時変更が可能である。

(学修目標)

- ・かかりつけ医・家庭医の役割を述べることができる。
- ・地域の特性が, 患者の罹患する疾患, 受療行動, 診療経過に如何にどのように影響するかを述べるができる。
- ・患者の心理社会的な側面 (生活の様子, 家族との関係, ストレス因子など) について情報収集できる。
- ・疾患のみならず, 生活者である患者に目を向け問題リストを作成できる。
- ・患者とその家族の要望や意向を尊重しつつ問題解決を図ることの必要性を説明できる。
- ・患者の日常的な訴えや健康問題の基本的な対処について述べるができる。
- ・患者の年齢・性別に応じて必要なスクリーニング検査, 予防接種を述べることができる。
- ・健康維持に必要な患者教育 (食生活, 運動, 喫煙防止または禁煙指導) が行える。
- ・患者診療に必要な情報を適切なリソース (教科書, 二次資料, 文献検索) を用いて入手できる。
- ・患者の問題解決に必要な医療・福祉資源を挙げることができる。
- ・診療情報提供所や介護保険のための主治医意見書の作成を補助できる。

### 3. 評価の方法と基準

- 1) 評価方法 振り返りシート, 実習レポートを用いて毎日形成的評価を行う。大学の評価シートで総括的評価を行う。
- 2) 評価基準 大学の評価基準にのっとり
- 3) 評価方法の開示 実習初日に説明する。

### 4. 履修上の注意

特になし

### 5. テキスト等

特になし

## B 152. 海外臨床実習

担 当 者 小田 康友、青木 洋介、福森 則男

学習週数 2～4週 受入人数 指定無し

実習期間 5年次後期～6年次前期

連絡先 福森則男 (福森)@gmail.com)

地域医療科学教育研究センター・医学教育開発部門事務室（基礎研究棟2F・2208室 内線(福森)）

実施場所地域医療科学教育研究センターおよび海外臨床実習施設

### 1. コースの概要

- ・海外臨床実習施設での臨床実習を通して、実習施設およびその国の医療や医学教育の特性を理解し、日本の医療の特性および課題の理解を深める。
- ・本コースが承認している海外臨床実習は、下記のとおりである。

#### ① 輔仁カトリック大学臨床実習（台湾・台北市）

時期・期間：6年次6月頃・4週間。定員：4名。

本学部協定校間の交換留学プログラム。現地で4週間の臨床実習に参加する。

5年次7月頃に希望者を公募し、医学部国際交流事業実施部会で選考を行う。

#### ② Kuakini Medical Center実習（米国・ハワイ州）

時期・期間：2025年1月～8月（受入れ施設の都合による）・4週間。定員：1名。

本学部協定校のハワイ大学への留学プログラム。教育関連施設であるKuakini Medical Centerで4週間の臨床実習に参加する。

5年次7月頃に希望者を公募し、医学部国際交流事業実施部会で学内選考を行う。

学内選出者は、派遣先教員の最終選考により参加の可否が決定される。

#### ③ マインツ大学麻酔科臨床実習（ドイツ）

時期・期間：6年次随時（受入れ施設の都合による）・3～4週間。定員：1～2名。

九州大学医学部麻酔科のプログラム。本学麻酔・蘇生学講座を通して、受入れ大学担当者との調整により参加の可否が決定される。

希望者は、本学麻酔・蘇生学講座へ問い合わせること。

#### ④ マイプラン：随時・2～4週間

自身で海外医療機関や教育機関等で臨床実習プログラムを計画して参加するもの。

実習として一定の水準を満たすものであれば選択科目単位として承認する。

参加希望者は、事前に担当教員に相談し、実習開始2ヶ月前までに申請書を提出すること。実習終了後の事後申請は、受け付けない。

#### ⑤ 英国短期留学フェローシップ（英国）

期日・期間：5年次3月～6年次6月・4週間。定員：1名。

医学教育振興財団が実施するプログラム。英国の大学医学部で4週間の臨床実習に参加する。毎年5年次4～7月頃に応募が行われる。学生課を通して応募して学内推薦者1名を決定する。財団で最終選考が行われ参加の可否が決定する。

詳細については、医学教育振興財団のホームページを参照すること。

<https://www.jmef.or.jp/fellowship/>

## 2. 実習項目および学修目標

- 1) その国・地域の疾病構造の特徴を述べることができる。
- 2) 患者の受療行動や患者医師関係の特性を述べることができる。
- 3) 医療実践と医療制度の特性を述べることができる。
- 4) 医学教育の制度や方法を述べることができる。
- 5) 上記の特性をもたらし、文化・社会的背景を述べることができる。
- 6) 日本の医療および医学教育が学ぶべき点を考察し、提言できる。

## 3. 評価の方法と基準

### 1) 評価方法

- ・参加者は実習受け入れ施設における①実習実施証明、②実習成績評価を取得し、実習終了後1ヶ月以内に実習レポートと共に提出すること。
- ・成績評価は、上記の総合評価とする。

### 2) 評価基準

- ① 安全を十分に配慮した渡航準備（旅券や医療保険）、実習先での真摯な態度、帰国後の手続き（提出物等）の適切な対応がなされたことが成績判定の前提である。
- ② 上記①が適切に実施できていれば60点相当を付与し、実習成績評価（40%）、実習レポートの内容（60%）を加点し、最終評価とする。
- ③ 上記①に問題があれば、「不可」とする。

### 3) 評価結果の開示

- ・開示を希望する際は、担当教員にメールでアポイントを取ること。

## 4. 履修上の注意

- ・留学期間に他科の臨床実習に配属されている場合は、日程調整が必要となる。留学が決定次第、すぐに学生課に申し出て調整すること。
- ・各プログラムの参加者には、佐賀大学医学部後援会、佐賀医科大学・佐賀大学医学部同窓会等の奨学金を申請して承認されれば奨学金を支給する予定である。奨学金を希望する場合は、担当教員に申し出ること。但し、学修成績により全額支給できない場合がある。
- ・医学部HPに過去の参加者の留学レポートが掲載されているので申請の参考にすること。

## 5. テキスト等

特になし

## B 153. 感染症の診断と抗菌薬治療

担 当 者 青木 洋介、的野 多加志、浦上 宗治  
学習週数 2～4週 受け入れ人数 2～4名  
実施時期 全期（通年）  
連 絡 先 感染制御部（内線■■■■），的野（内線）または浦上  
実施場所 感染制御部

### 1. コースの概要

- ① 入院患者に認められる頻度の高い感染症の診断と適切な抗菌化学療法の基本（～応用編）を修得する。
- ② 入院患者の“発熱”の幅広い鑑別疾患・病態を想起し、原因となる病態を正しく考察することができるようになる。
- ③ 新型コロナウイルス感染症のようなパンデミアについて正しく理解できるようになる。

### 2. 実習項目および学修目標

- ① 感染制御部が行う感染症コンサルト診療に参加し、まず自ら患者病態を把握、診察し、可能性の高い感染症について指導医と共にdiscussionする。
- ② 感染臓器が想定できたら、臨床検体のグラム染色を行い、その所見を基に最も可能性の高い病原菌種を推定し、抗菌薬初期治療方針について決定する。
- ③
- ④ しく把握できるトレーニングを行う。
- ⑤ 毎週一回の感染症テキスト輪読会に参加する。
- ⑥ 担当患者の病態に関して与えられた英語文献を読み、内容についてdiscussionする。
- ⑦ 感染対策を含む全ての活動に参加し、医療関連感染とその防止策について学習する。

（学修目標）

- ① 代表的病原微生物を列挙できる
- ② 各病原菌の第一選択となる抗菌薬を述べることができる
- ③ 入院患者における感染症以外の発熱の原因を挙げることができる
- ④ 症例検討会でpresentationを行い、定められた時間内で適格な情報提供ができるようになる

### 3. 評価の方法と基準

- 1) 評価方法 病態鑑別のdiscussionで発言を求め、それについての回答の適正性を評価する。
- 2) 評価基準 形成的評価を主体とする。基本的に優・良・可の三段階評価とする
- 3) 評価結果の開示：開示（本人への通知）あり

### 4. 履修上の注意

特になし

### 5. テキスト等

レジデントのための感染症診療マニュアル 第3版 青木 眞、 医学書院 所蔵あり  
ちょっと待った！その抗菌薬はいりません 青木洋介（編）メジカルビュー社 所蔵あり

## B154. 教育者としての視点を身につけるー学ぶ立場からカリキュラムを開発する

担 当 者 江村 正、徳島 緑、徳島 圭宜、七條 千佳

学習週数 2週 受入人数 3名

実施時期 全期

連 絡 先 医師育成・定着支援センター教職員室（地域医療支援センター棟2階）

医師育成・定着支援センター（内線[REDACTED]）

電子メール：[REDACTED]@cc.saga-u.ac.jp

実施場所 同上（前の週の木曜日までに電子メールで集合時間を確認のこと）

### 1. コースの概要

現在学ぶ立場の医学生も、近い将来、医師として医学生や他の医療スタッフの指導に関わることになる。教え、共に学び育つ医師となるために、医学教育に関する基本的な理論を理解し、到達目標・方略・評価を作成する能力を修得し、佐賀大学医学部（以下、本学）及び佐賀県内で今後展開しうる新しい医学教育、地域医療教育等を開発する。

### 2. 実習項目および学修目標

- （1）教育理論を学び、それが、本学の医学教育にどのように活かされているか（活かされていないか）を考え、現行の医学教育の良い点・改善すべき点を挙げる。
- （2）他施設での医学教育に関する情報を収集し吟味する。
- （3）学ぶ立場から新しいカリキュラムを開発する。

### 3. 評価の方法と基準

- 1) 評価方法 筆記試験（教育理論の知識）と観察記録（出席の回数、態度の積極性、作成した内容の有用性）
- 2) 評価基準 学修目標の（3）まで経験できれば合格（可以上）。カリキュラムの出来具合で、秀、優、良、可を決める。（1）ができない場合は不可。
- 3) 評価結果の開示 評価結果の閲覧を希望するものは、電子メールで担当教員（ ）に申し込むこと。

### 4. 履修上の注意

特になし

### 5. テキスト等

特になし

## B. 155 ヘルスプロモーションを实践！幼児を対象とした健康講話をしよう

担 当 者 山下 駿, 八板 静香, 溝口 ゆかり, 井上 香, 井手 則子  
 学習週数 2週 受入人数 1～4名/回  
 実施時期 10/21～12/13, 1/14～3/7, 5/19～7/25  
 (実習受入不可時期 12/16～1/10, 3/10～5/16, 7/28～9/5)  
 連 絡 先 八板静香 ( )@cc.saga-u.ac.jp)  
 地域医療科学教育研究センター臨床実習コーディネーター室 (講義棟2F 1212室)  
 実施場所 地域医療科学教育研究センター センター会議室  
 臨床実習コーディネーター室  
 健康講話実施施設 (ひなた村自然塾, 三瀬保育園, 佐賀カトリック幼稚園のいずれか)

### 1. コースの概要

対象施設のニーズに合わせた健康講話および職業体験の内容を検討・作成し, 幼保施設で健康講話および職業体験イベントを実施することで, 健康教育の実践および社会貢献を行う。

(健康教育は医師養成の観点から医学生が実施すべき医行為の一つである)

### 2. 実習項目および学修目標

(実習項目)

- ・学生が主体となって約15分程度の幼児を対象とした健康講話の内容を検討・作成し, 幼保施設で講話を実施する。
- ・健康講話終了後に幼児を対象とした医師職業体験イベント (30分程度) を企画・実施する。  
 ※指導医ならびに学習者の状況などにより, 実習項目の変更などを実施する可能性あり。

#### <実習スケジュール例>

|                                          |                                                                                                           |
|------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1日目<br>オリエンテーション<br>ミニレクチャー<br>健康講話テーマ選択 | 9:15 集合 (講義棟1212室 or 地域医療科学教育センター センター会議室)<br>※オリエンテーション後は情報収集・資料作成開始<br>16:00 選択テーマ, 情報収集状況確認 (講義棟1212室) |
| 2～5日目<br>作成資料の指導・修正                      | 9:15 集合・資料作成開始 (講義棟1212室)<br>16:00 進捗状況確認 (講義棟1212室)                                                      |
| 土日                                       | 休日                                                                                                        |
| 6～8日目<br>作成資料の指導・修正<br>職業体験準備<br>リハーサル   | 9:15 集合 (講義棟1212室)<br>16:00 進捗状況確認 (講義棟1212室)<br>※リハーサル日時はオリエンテーション時に案内予定                                 |
| 9 or 10日目<br>健康講話本番                      | 9:15 対象施設駐車場に集合<br>10:00 健康講話+職業体験実施<br>12:00 終了後振り返り                                                     |

※上記スケジュールは一例です。詳細なスケジュールは実習初日のオリエンテーションで提示します。

※作成資料の指導・修正は基本的には対面で行いますが, コーディネーターの都合上Teamsやメールでの指導・修正となる場合もあります。

※指導時間や場所の変更は適宜口頭連絡, もしくはTeamsで連絡します。

※体調不良時は学生課への連絡の他に、直接八坂までTeamsで連絡をお願いします。

※健康講話＋職業体験の日程は基本的に2週目の木・金いずれかの朝10時開始予定です。実施場所へはご自身で集合をお願いします。

(学修目標)

- ・健康教育はすでに病院に通院している患者だけに行うものではなく、健康な人々も対象とすることを理解する。
- ・ヘルスプロモーション活動は医師の重要な仕事の一つであることを理解する。
- ・ヘルスプロモーションの概要と小児における問題点、介入ポイントを学ぶ。
- ・小児を対象としたヘルスプロモーション活動の代表的な項目について知る。
- ・対象者がヘルスマンテナンスに必要な事項を容易に受け入れられるようなプレゼンテーションや働きかけを行うことの重要性を学ぶ。
- ・健康講話と職業体験を通じて社会貢献を行うことで、医学生であることの自覚を高めると同時に、自身のなりたいたい医師像を再検討する機会とする。

### 3. 評価の方法と基準

#### 1) 評価方法

各自の取組状況とレポート（構造的振り返り）内容、指導に関わった臨床実習コーディネーター、健康講話実施施設職員、同時期に当講座を受講した学生への360° 評価アンケート結果を総合的に評価する。

#### 2) 評価基準

- ・問題なく健康講話を実施でき、レポート提出を確認できれば合格（可以上）とする。  
ただし、健康講話実施施設の評価が著しく悪い場合や連絡なく欠席をした場合（やむを得ない場合を除く）は不可とする。
- ・健康講話実施施設の評価が芳しい場合は優以上とする。
- ・体調不良などにより当日健康講話を実施できなかった場合は、取り組み状況とレポート、指導に関わった臨床実習コーディネーターによる評価を行う。場合によっては、別日に臨床実習コーディネーターへの健康講話を実施してもらう可能性もある。

#### 3) 評価結果の開示

希望者には面接の上、評価についての詳細を説明する。（電子メールもしくはTeamsで担当教員に申し出る  
こと）

### 4. 履修上の注意

特になし

### 5. テキスト等

特になし

# 地域枠入学生特別プログラム

## 地域枠入学生特別プログラムの概要

本プログラムは、地域枠入学生（佐賀県推薦入学、学校推薦佐賀県枠）の医学生を対象に開発された特別なプログラムである。2021年（令和3年）より「地域枠」の定義が見直され、佐賀県推薦入学生のみが狭義の「地域枠」となったが、学校推薦佐賀県枠入学生も広義の「地域枠」とし「地域枠入学生特別プログラム」という呼称を継続して使用する。

本プログラムは必修ではなくPhaseⅤ（選択コース）と位置付けられているが、一般の学生が履修する選択コースの単なる“代わり”ではなく、今後のキャリア形成を考える上で地域枠学生には“不可欠な”コースと考えられる。選択コースとして認定される単位は2単位までと定められているため、2単位を超えた分は加算されないが、できるだけ多くのプログラムへの参加が望ましい。

本プログラムでは地域枠入学生を優先するが、それ以外の学生も単位修得が可能である（下表参照）。応募者多数の場合は医師育成・定着支援センターで調整を行うことがある。

| 授業名                | 地域枠医学科生         |            | 地域枠以外の<br>医学科生 |
|--------------------|-----------------|------------|----------------|
|                    | 佐賀県推薦入学         | 学校推薦佐賀県枠   |                |
| （１）基幹病院・中核病院実習     | ◎（キャリア形成卒前プラン＊） | ◎          | △参加可能（若干名）     |
| （２）地域医療／キャリア形成セミナー | ◎（キャリア形成卒前プラン＊） | ◎          | ○希望者全員         |
| （３）夏期地域医療実習        | ◎（キャリア形成卒前プラン＊） | △参加可能（若干名） | △参加可能（若干名）     |
| （４）学外チューター制度       | ◎（キャリア形成卒前プラン＊） | ×令和7年は対象外  | ×令和7年は対象外      |
| （５）西部医療圏等での病院実習    | ◎（キャリア形成卒前プラン＊） | ○希望者全員     | ○希望者全員         |

◎：原則参加，○：参加可能，△：若干名のみ参加可能，×：対象外

＊キャリア形成卒前プラン：修学資金の貸与を受け、卒業後に「キャリア形成プログラム」の適応を受ける地域枠の医学生が、卒業前の学生の時から地域医療マインドを育むため、都道府県が策定した地域医療に関する実習等のこと。2021年（令和3年）から医療法で規定された。

なお、医師育成・定着支援センターでは、佐賀県から任命された4名のキャリアコーディネーター（医師）が全医学科生を対象に「キャリア支援面談」を行っている（地域枠医学生は必須）。大いに活用し、今後のキャリア形成の一助にして欲しい。

## 学士力番号 2-（2）

## 全プログラム共通

### 1. コースの概要

将来佐賀県の地域医療に貢献する医師となるために、県内の地域医療提供体制や地域医療の実際を学ぶことを目的としている。県内の医療関係者や将来佐賀県の医療に従事する自大学・他大学の医学生との交流を通して、学修のモチベーションを高め、自分がどのような能力を修得しないといけないかを継続的に考える習慣を身につけることができるよう、複数のプログラムから構成されている。

本学の卒業時学修成果に掲げられている、プロフェッショナルリズム、コミュニケーションと協働、国際的な視野に基づく地域医療への貢献、全大学が共通して取り組むべき「医学教育モデル・コア・カリキュラム」に掲げられている、PR、GE、LL、CM、IP、SOに関しては、どのプログラムでも共通して修得することがで

きる（文末の表を参照）。

## 2. 実習項目および学修目標

（実習項目）講義，実習，グループ討論など

（学修目標）

- ・佐賀県内の地域医療提供体制を知り，地域医療の現状と課題について理解する。
- ・地域医療の学修のモチベーションを高め，今後の自己学修目標を考える。
- ・自分のキャリア形成に継続的に関心を持つ。
- ・将来佐賀県の医療に従事する自大学・他大学の医学生や県内の医療関係者と積極的に交流し良好な関係を構築する。
- ・チーム医療の重要性や介護・福祉との連携の必要性を理解する。
- ・地域医療に従事する理想の医師像を継続的にイメージしていく。

## 3. 評価の方法と基準

- 1) 評価方法 観察記録及びレポート
- 2) 評価基準 実習への参加姿勢と指定のレポートの内容から総合的に評価する。
- 3) 評価結果の開示 希望する場合は，電子メールで担当教員に申し込むこと。

## 4. 履修上の注意

講義は自分の将来にどのように役立つか関連付けながら集中して聴講すること。実習中は指導医のみならず，全ての医療スタッフ及び実習に協力して下さる患者さん方への感謝の気持ちを忘れずに行動すること。服装・髪・爪の清潔さなど身だしなみには十分注意し，きちんと挨拶をする等医学生としての自覚を持って行動すること。白衣が必要な実習に関しては別途連絡をする。

## 5. テキスト等 特になし

## 6. 日程表 各コースの記載を参照

## 7. リソースパーソン／担当者一覧／連絡先

江村 正，徳島 圭宜，徳島 緑，七條 千佳，実習関連施設の指導者，学内外の講師  
連絡先 医師育成・定着支援センター

### （1）佐賀県内基幹病院・中核病院実習

#### 1. コースの概要

佐賀県内の基幹病院・中核病院での実習を通し，基幹病院・中核病院に求められている役割を理解し，早期から佐賀県の地域医療に関心を持つ。実習初日にオリエンテーション，講義等を行い，翌日から3日間下記の医療機関で実習を行う。最終日にグループ討論，まとめ，評価を行う。

#### 2. 実習項目および学修目標

（学修目標）

- ・佐賀県内基幹病院・中核病院に求められている役割を理解する。

#### 3. 4. 5. 7. 全プログラム共通を参照

#### 6. 日程表

|      |                                    |      |                   |
|------|------------------------------------|------|-------------------|
| 学習日数 | 1 週（1 単位修得）                        | 受入人数 | 1 施設に1～2 名（原則2 名） |
| 実施時期 | 夏季休暇最後の週（令和6 年は9 月9 日～9 月13 日に行った） |      |                   |
| 対 象  | 医学科1 年生（地域枠学生を優先とする）               |      |                   |

実施場所 佐賀県医療センター好生館, NHO佐賀病院, NHO嬉野医療センター, 唐津赤十字病院, 唐津市民病院きたはた, 佐賀市立富士大和温泉病院, 町立太良病院, 伊万里有田共立病院, 小城市民病院, 織田病院(鹿島市), 山元記念病院(伊万里市), 今村病院(鳥栖市)(予定)

## (2) 地域医療セミナー／キャリア形成セミナー

### 1. コースの概要

県内外の地域医療の現状や課題についての理解を深める講演や, 医師のキャリア形成に関する講演である。

### 2. 講義・実習項目および学習目標

#### (学修目標)

- ・佐賀県内外における医療の現状を知る。
- ・さまざまな分野の講師等との交流を通して自分のキャリア形成を考える。

### 3. 4. 5. 7. 全プログラム共通を参照

### 6. 日程表

学習日数 1回の参加で0.1単位修得

実施時期 適宜開催(医師育成・定着支援センターが主催・共催もしくは当センターが認めた講演・学術集会)。LiveCampusや学内掲示板等で連絡を行う。通常は講師の都合で17:30から行うが, 可能であればいわゆる5コマ目(16:20-17:50)に行う。また学術集会等は土曜日, 日曜日も開催される。

対 象 医学科1年生～6年生

## (3) 夏期地域医療実習(自治医科大学・佐賀大学・長崎大学合同夏期実習)

### 1. コースの概要

佐賀県出身の自治医科大学大学生及び長崎大学医学部の佐賀県枠学生との合同実習である。佐賀県健康福祉部医務課の協力を得て企画・運営する。将来佐賀県の地域医療に貢献する予定の医学生と離島やへき地に行き, 佐賀県の地域医療の実践を体験する。地域医療へのモチベーションを高めることを目的とする。

### 2. 実習項目および学修目標

#### (学修目標)

- ・離島やへき地の医療(在宅医療を含めて)を理解する。
- ・地域住民のニーズを知る。
- ・離島やへき地の抱える諸問題に関心を持ち, 解決策を考える姿勢を維持する。
- ・将来佐賀県で働く学生同士と積極的に情報交換を行う。

### 3. 4. 5. 7. 全プログラム共通を参照

### 6. 日程表

学習日数 3日(0.6単位)(予定)

実施時期 夏期休暇中(令和6年は8月7日から9日まで二泊三日で行った。)

対 象 医学科1～4年生(佐賀県推薦入学の上級生優先とする)

連 絡 先 医師育成・定着支援センター(内線■■■■ 直通TEL ■■■■■■)

実施場所 佐賀県内の協力施設(予定)

#### (4) 学外チューター (alumni tutor) 制度

##### 1. コースの概要

佐賀県で地域医療を行っているロールモデルの医師 (学外チューター, alumni tutor) と入学時早期より交流するプログラムである。学外チューターや他の医療スタッフとのミーティングやその医師の所属する医療施設の見学等を行う。

##### 2. 実習項目および学修目標

###### (学修目標)

- ・地域医療に従事する理想の医師像を継続的にイメージしていく。

##### 3. 4. 5. 7. 全プログラム共通を参照

##### 6. 日程表

|       |                                |
|-------|--------------------------------|
| 学習日数  | 年に数回, 数時間/回 (0.1単位/回)          |
| 実施時期  | 適宜 (土曜日午前中または休暇中の平日など)         |
| 対 象   | 医学科 1 年生 (令和7年度は佐賀県推薦入学生のみを対象) |
| 連 絡 先 | 医師育成・定着支援センター                  |
| 実施場所  | 佐賀県内の協力医療機関                    |

#### (5) 西部医療圏等での病院実習

##### 1. コースの概要

佐賀県の医師不足地域である西部医療圏などの医療機関を10名程度の医学生で訪問し, 講義や実習等を通して, その地域を知り, 地域医療の現状と課題を理解するプログラムである。

##### 2. 実習項目および学修目標

###### (学修目標)

- ・医師不足地域特有の医療の課題を理解する。
- ・課題の解決策を学ぶ。
- ・地域を知る。

##### 3. 4. 5. 7. 全プログラム共通を参照

##### 6. 日程表

|      |                    |      |          |
|------|--------------------|------|----------|
| 学習日数 | 1 年に 1 回 (0.2単位/回) | 受入人数 | 1 回10名程度 |
| 実施時期 | 適宜                 |      |          |
| 対 象  | 全医学科生              |      |          |
| 実施場所 | 西部医療圏等の協力医療機関      |      |          |

**医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）**

**キャッチフレーズ「未来の社会や地域を見据え、多様な場や人をつなぎ活躍できる医療人の養成」**

**PR：プロフェッショナリズム（Professionalism）**

人の命に深く関わり健康を守るという医師の職責を十分に自覚し、多様性・人間性を尊重し、利他的な態度で診療にあたりながら、医師としての道を究めていく。

**GE：総合的に患者・生活者をみる姿勢（Generalism）**

患者の抱える問題を臓器横断的に捉えた上で、心理社会的背景も踏まえ、ニーズに応じて柔軟に自身の専門領域にとどまらずに診療を行い、個人と社会のウェルビーイングを実現する。

**LL：生涯にわたって共に学ぶ姿勢（Lifelong Learning）**

安全で質の高い医療を実践するために絶えず省察し、他の医師・医療者と共に研鑽しながら、生涯にわたって自律的に学び続け、積極的に教育に携わっていく。

**RE：科学的探究（Research）**

医学・医療の発展のための医学研究の重要性を理解し、科学的思考を身に付けながら、学術・研究活動に関与して医学を創造する。

**PS：専門知識に基づいた問題解決能力（Problem Solving）**

医学及び関連する学問分野の知識を身に付け、根拠に基づいた医療を基盤に、経験も踏まえながら、患者の抱える問題を解決する。

**IT：情報・科学技術を活かす能力（Information Technology）**

発展し続ける情報化社会を理解し、人工知能等の情報・科学技術を活用しながら、医学研究・医療を実践する。

**CS：患者ケアのための診療技能（Clinical Skills）**

患者の苦痛や不安感に配慮し、確実に信頼される診療技能を磨き、患者中心の診療を実践する。

**CM：コミュニケーション能力（Communication）**

患者及び患者に関わる人たちと、相手の状況を考慮した上で良好な関係性を築き、患者の意思決定を支援して、安全で質の高い医療を実践する。

**IP：多職種連携能力（Interprofessional Collaboration）**

医療・保健・福祉・介護など患者・家族に関わる全ての人々の役割を理解し、お互いに良好な関係を築きながら、患者・家族・地域の課題を共有し、関わる人々と協働することができる。

**SO：社会における医療の役割の理解（Medicine in Society）**

医療は社会の一部であるという認識を持ち、経済的な観点・地域性の視点・国際的な視野なども持ちながら、公正な医療を提供し、健康の代弁者として公衆衛生の向上に努める。

# 7 学位授与の方針 教育課程編成・実施の方針



# 医学部医学科 学位授与の方針

## 【学位授与の方針】

佐賀大学学士力を踏まえ、学生が身に付けるべき以下の具体的学習成果の達成を学位授与の方針とする。また、学則に定める卒業の認定の要件を満たした者には、教授会の議を経て、学長が卒業を認定し、学位記を授与する。

### 1. 知識と技能

- (1) 文化・自然・現代社会と生活に関する授業科目を履修・修得し、基礎的な知識と技能ならびに多様な文化と価値観を理解するとともに、それらの知識を基に、医療職者としての自己の存在を歴史・社会・自然・人間生活と関連付けて理解できる。
- (2) 言語・情報・科学リテラシーに関する授業科目を履修・修得し、日本語と英語を用いたコミュニケーション・スキルを身に付け、情報通信技術（ICT）などを用いて、多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。
- (3) 医学・医療分野の基礎的な知識・技術を体系的に修得し、医師としての業務を遂行する職業人として必要な実践能力を有する。

### 2. 課題発見・解決能力

- (1) 実践演習型学習や問題解決型学習を通して地域における医療・保健・福祉・医療経済など包括医療を巡る動向等を含む現代的な課題に関心・理解を持ち、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、科学的・論理的な思考に基づいて、その問題の解決に取り組むことができる。
- (2) 研究室選択コース等の学習により医学・医療の進歩における生命科学・臨床医学研究の必要性を理解し、課題解決に向けての基本的研究技能と研究マインドを身に付けている。
- (3) グループ学習や臨床実習を通して人間理解に立った良い人間関係の形成、医療チームの一員としての協調・協働した行動、リーダーシップを発揮する率先した行動、後輩等に対する指導力などを身に付け、実践できる。

### 3. 医療を担う社会人としての資質

- (1) 問題解決型学習などを通して自己学習の習慣を身に付け、絶えず医療の質の向上に向けて生涯学習を行う意欲と態度を有する。
- (2) 6年間の教養教育及び専門教育課程を通して高い倫理観と多様な文化や価値観を理解しうる豊かな人間性を育み、医師の責務を自覚して継続的に社会に還元する強い志を有し、自らを律して社会および医師の規範に従って行動できる。

# 医学部医学科 教育課程編成・実施の方針

## 【教育課程編成・実施の方針】

教育方針を具現化するために、以下の方針の下に教育課程を編成し、教育を実施する。

### 1. 教育課程の編成

- (1) 効果的な学習成果を上げるために、教養教育科目と専門教育科目を順次的・体系的に配置した6年一貫の教育課程を編成する。
- (2) 教養教育において、市民社会の一員として共通に求められる基礎的な知識と技能に関する授業科目（基本教養科目）、市民社会の一員として思考し活動するための技能に関する授業科目（外国語科目、情報リテラシー科目）、現代的な課題を発見・探求し、問題解決につながる協調性と指導力を身につけさせるための授業科目（大学入門科目、インターフェース科目）を、幅広く履修できるように配置する。
- (3) 教養教育における市民社会の一員として思考し活動するための技能に関する教育は、初年次から開講し、基礎的な汎用技能を修得した上で、専門課程における応用へと発展的な学習に繋げる。
- (4) 医師として必要な素養、知識、技術を身に付けるための基本的事項を学習する専門教育科目（コア・カリキュラム）を、以下の「専門基礎科目」、「基礎医学科目」、「臨床・社会医学科目」、「臨床実習」に大別し、Phase I～Vの区分により1～6年次まで段階的に配置する。
  - ・「専門基礎科目」：高い倫理観と豊かな人間性を育むことを目標とした総合人間学（倫理、心理、法制、福祉、生活支援など）の授業科目で構成する。
  - ・「基礎医学科目」：医学に必要な基礎的な知識と技能を学ぶ授業科目（分子生物学Ⅰ・Ⅱ、免疫学、人体発生学、組織学、神経解剖学、肉眼解剖学概説、肉眼解剖学、生化学、動物性機能生理学、植物性機能生理学、薬理学、微生物学、病理学）で構成する。
  - ・「臨床・社会医学科目」：疾病とそのメカニズムに関する総合的な内容を人体の機能・系統別に学習する授業科目で構成し、知識の習得とともに、自己学習の習慣を身につけ、科学的論理的思考に基づいた問題解決に努めることを目標として少人数グループの問題解決型学習方式で実施する。
  - ・「臨床実習」：医学の知識・技術ならびに医師としての実践能力を習得するとともに、地域社会における医療の意義を理解し、医師の責務への自覚を培うキャリア教育の場として、またチーム医療の一員として他者と共感して良い人間関係を作る実践の場として、医学部附属病院と地域の医療機関との連携の下に実施する。
- (5) 学生の目的に応じた分野を自主的に発展させていくアドバンスト・コース科目（研究室等に配属する基礎系・臨床系選択コース、海外研修コースなど）をPhase Vとして開設する。

佐賀大学学士力と科目区分との対応表

| 学士力（大項目）     | 学士力（小項目）                        | 科目区分      |
|--------------|---------------------------------|-----------|
| 1. 基礎的な知識と技能 | (1) 市民社会の一員として共通に求められる基礎的な知識と技能 | 基本教養科目    |
|              | (2) 市民社会の一員として思考し活動するための技能      | 外国語科目     |
|              |                                 | 医学英語      |
|              |                                 | 情報リテラシー科目 |
|              | (3) 専門分野に必要とされる基礎的な知識・技能        | 専門基礎科目    |
|              |                                 | 基礎医学科目    |

|                     |                              |            |
|---------------------|------------------------------|------------|
| 2. 課題発見・解決能力        | (1) 現代的課題を見出し、解決の方法を探る能力     | 大学入門科目     |
|                     |                              | インターフェース科目 |
|                     | (2) プロフェッショナルとして課題を発見し解決する能力 | 臨床・社会医学科目  |
|                     |                              | 臨床実習       |
|                     |                              | 選択科目       |
|                     | (3) 課題発見につながる協調性と指導力         | 大学入門科目     |
|                     |                              | インターフェース科目 |
|                     |                              | 臨床・社会医学科目  |
|                     |                              | 臨床実習       |
| 3. 個人と社会の持続的発展を支える力 | (1) 多様な文化と価値観を理解し共生に向かう力     | インターフェース科目 |
|                     | (2) 地域や社会への参画力と主体的に学び行動する力   | インターフェース科目 |
|                     |                              | 臨床実習       |
|                     | (3) 高い倫理観と社会的責任感             | インターフェース科目 |
|                     |                              | 臨床実習       |

## 2. 教育の実施体制

- (1) 授業科目の教育内容ごとに、その分野の授業を行うのに適した専門性を有する教員が講義・実習等を担当するよう担当教員を配置する。
- (2) 各授業科目に教科主任を置き、複数の担当教員により実施する授業の一貫性を担保するなど、授業科目を統括する。
- (3) 各Phaseにチェアパーソンを置き、Phase内およびPhase間の教育内容および実施の整合性・統合性を図る。

## 3. 教育・指導の方法

- (1) 講義による知識の学習と実験・実習による実証的学習や体験学習とをバランスよく組み合わせて学習成果を高める。
- (2) グループダイナミクスによる自己学習と問題解決法の獲得などの効果を狙った問題解決型学習（PBL，CBL）や演習を積極的に取り入れる。
- (3) 少人数の学生グループごとに指導教員（チューター）を配置し、きめ細かな履修指導や学習支援を行う。

## 4. 学修成果の評価

- (1) 授業科目の学修成果を評価するために、授業科目担当教員は、到達目標に応じて、筆記試験、レポート（論文）、発表、活動内容等により多面的評価を行う。
- (2) 個別の授業科目の成績評価方法については、シラバスに明示する。
- (3) 成績の評語（評価）は、100点を満点とした評点又は評価基準に基づき判定するものとし、評点及び評価基準は、次の表に掲げるとおりとする。

| 評語<br>(評価) | 評点         | 評価基準                         | 合否判定 | 成績評定<br>(G P) |
|------------|------------|------------------------------|------|---------------|
| 秀          | 90点以上      | 学修到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果を上げている | 合格   | 4             |
| 優          | 80点以上90点未満 | 学修到達目標を十分に達成している。            |      | 3             |
| 良          | 70点以上80点未満 | 学修到達目標をおおむね達成している。           |      | 2             |
| 可          | 60点以上70点未満 | 学修到達目標を最低限達成している。            |      | 1             |
| 不可         | 60点未満      | 学修到達目標を達成していない。              | 不合格  | 0             |

※上記により評価が難しい授業科目は、合又は不可の評語によって表し、合を合格とし、不可を不合格とする。

- (4) 各Phaseの終了時に、各学生の学修到達度を評価し、進級判定を行う。
- (5) 全国共通の共用試験による臨床実習適格認定審査ならびに卒業認定試験を実施し、医師として必要な実践能力（統合された知識、技能、態度・行動に基づく総合的診断能力）の修得状況を判定する。
- (6) 教育課程を通した学修成果を、学士力項目の達成状況（ルーブリック評価等）及び各授業科目の成績を用いて総合的に評価する。
- (7) 成績評価の結果は、評価分布等を使用して定期的に点検を行い、必要に応じて教育方法等の改善を行う。

## 8 その他



# コースナンバリングについて

## ○コースナンバリングとは

佐賀大学では、学生が受講する授業科目について、その学問分野と水準を容易に確認して主体的に学ぶことを支援するとともに、教育組織による学問分野と水準に基づいた教育カリキュラムの体系的・順次性の検証・改善に資するために、授業科目に番号を附し、授業科目の学問分野と水準等を示すコースナンバリング制度を導入します。

## ○コースナンバリングの意味

コースナンバーは、「授業水準」―「分野」―「開設部局等」からなる8桁の文字列で構成されています。

例：物理学の世界 I    1 220x-000

免疫学

2 491x-211

水準コード

分野コード

第6～8文字コード  
(開設部局等)

○各コードは、次の①から③に定める内容を示しています。

### ① 授業水準コード（1桁）

授業水準は、下記に示す1から5の5段階を数値で示す。

|                                 |     |
|---------------------------------|-----|
| 入門的・導入的（1年次履修程度）専門基礎            | ： 1 |
| 中程度の内容（2～4年次履修程度）専門必修           | ： 2 |
| 応用・高度な内容（5～6年次履修）専門選択・卒業制作・研究など | ： 3 |
| 修士課程・博士前期課程                     | ： 4 |
| 博士後期課程・博士課程                     | ： 5 |

### ② 分野コード（4桁）

授業科目が対象とする主たる学問分野を日本図書分類要目表（第3次区分表）に基づき分類したコード（3桁）と各部局が定義できるアルファベット小文字（1桁）から構成されています。

（3桁＋1桁（アルファベット小文字）＝4桁）

・要目表による3桁の附番を原則とし、いずれの番号にも該当しない場合は、各学部がルールを定めて意味を定義し、アルファベットを附番しています。附番しない場合は、アルファベットの「x」を使用しています。

### ③ 第6～8文字コード

開設部局等（学部・学科等）を示す3桁の数値で構成されています。

学籍番号8桁（1 9 2 1 1 6 7 8）の（2 1 1）を利用する。

全学教育機構開設科目は、000です。

【医学科】 **コースナンバリング（令和２年度以降入学生）**

| 区分     | 授 業 科 目  | コース<br>ナンバリング | 区分          | 授 業 科 目         | コース<br>ナンバリング |
|--------|----------|---------------|-------------|-----------------|---------------|
| 専門基礎科目 | 生命倫理学    | 1491x-211     | 機能・系統別PBL科目 | 地域医療            | 2492x-211     |
|        | 行動科学原論   | 1491x-211     |             | 消化器             | 2492x-211     |
|        | 医療入門Ⅱ    | 1491x-211     |             | 呼吸器             | 2492x-211     |
|        | 医療統計学    | 1491x-211     |             | 循環器             | 2492x-211     |
|        | 物理学      | 1491x-211     |             | 代謝・内分泌・腎・泌尿器    | 2492x-211     |
|        | 化学       | 1491x-211     |             | 血液・腫瘍・感染症       | 2492x-211     |
|        | 生物学      | 1491x-211     |             | 皮膚・膠原           | 2492x-211     |
| 基礎医学科目 | 分子細胞生物学Ⅰ | 2491x-211     |             | 運動・感覚器          | 2492x-211     |
|        | 分子細胞生物学Ⅱ | 2491x-211     |             | 精神・神経           | 2492x-211     |
|        | 分子細胞生物学Ⅲ | 2491x-211     |             | 小児・女性           | 2492x-211     |
|        | 免疫学      | 2491x-211     |             | 救急・麻酔           | 2492x-211     |
|        | 人体発生学    | 2491x-211     |             | 社会医学・医療社会法制     | 2498x-211     |
|        | 組織学      | 2491x-211     |             | 臨床入門            | 2492x-211     |
|        | 神経解剖学概説  | 2491x-211     |             | 医学英語            | 2492x-211     |
|        | 肉眼解剖学概説  | 2491x-211     |             | 総括講義            | 2492x-211     |
|        | 肉眼解剖学    | 2491x-211     | 臨床実習        | 臨床実習            | 3492x-211     |
|        | 生化学      | 2491x-211     |             | 地域医療実習          | 3492x-211     |
|        | 動物性機能生理学 | 2491x-211     |             | 関連教育病院実習        | 3492x-211     |
|        | 植物性機能生理学 | 2491x-211     | 選択コース       | 基礎系・臨床系選択科目     | 3492x-211     |
|        | 薬理学      | 2491x-211     |             | 地域枠入学生特別プログラム科目 | 3492x-211     |
|        | 微生物学     | 2491x-211     |             | 特定プログラム教育科目     | 3492x-211     |
|        | 病理学      | 2491x-211     |             | 学外研修・ボランティア等    | 3492x-211     |
|        | 遺伝医学     | 2491x-211     |             |                 |               |

※実務経験のある教員による授業科目について

「機能・系統別PBL科目」と「臨床実習」の区分に属する全科目は、医師の実務経験を有している教員が臨床医学の実践的な教育を行う科目である。

## アクティブラーニングについて

本学では、学生の能動的な学びを生み出すため、アクティブラーニング教育手法の導入を推進しています。

アクティブラーニングとは、教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修過程の中に知識獲得だけでなく、他者との協働を伴った「書く・話す・発表する」等の思考を活性化する活動があり、佐賀大学学士力が求める基礎的・汎用的能力の育成につながるような学修法と位置づけています。

アクティブラーニング教育手法の内容に応じて、以下に示すようにカテゴリ 0 からカテゴリ 4 までの 5 段階に分類しています。

### アクティブラーニングのカテゴリ及び内容等について

| カテゴリ | 内 容                                                                                  |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| 4    | 学生が自ら主体となって、学修の方向性を定め、問題解決に導くための授業。                                                  |
| 3    | グループや個人で行った能動的学修の成果を、教室内外で発表し、その評価を受けたり、質問に対応したりすることにより、学修した内容を深化させるための授業。           |
| 2    | 学生自らが自由に発言し、グループやペアでの協働活動により課題に取り組み、何らかの帰結に到達するための能動的学修の授業。                          |
| 1    | 学生からの自由な発言機会はないものの、授業時間中に得られた知識や技能を自ら運用して、問題を解いたり、課題に取り組んだり、授業の振り返りをしたりする能動的学修を行う授業。 |
| 0    | 基本的に学生は着席のまま、講義を聞き、ノートを取り、知識や技能を習得に努める授業。                                            |

## 令和５年度 アクティブラーニング導入状況

### 【医学科】

| 区分            | 授 業 科 目      | カテゴリー 4 | カテゴリー 3 | カテゴリー 2 | カテゴリー 1 | カテゴリー 0 |
|---------------|--------------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 専門基礎科目        | 生命倫理学        | 50      | 30      | 20      | 0       | 0       |
|               | 行動科学原論       | 10      | 30      | 60      | 0       | 0       |
|               | 医療入門Ⅱ        | 35      | 30      | 10      | 25      | 0       |
|               | 医療統計学        | 40      | 0       | 0       | 60      | 0       |
|               | 物理学          | 35      | 0       | 0       | 65      | 0       |
|               | 化学           | 25      | 0       | 0       | 75      | 0       |
|               | 生物学          | 25      | 0       | 0       | 75      | 0       |
| 基礎医学科目        | 分子細胞生物学Ⅰ     | 10      | 0       | 0       | 90      | 0       |
|               | 分子細胞生物学Ⅱ     | 10      | 0       | 0       | 90      | 0       |
|               | 分子細胞生物学Ⅲ     | 20      | 0       | 0       | 80      | 0       |
|               | 免疫学          | 20      | 0       | 0       | 80      | 0       |
|               | 人体発生学        | 15      | 0       | 0       | 85      | 0       |
|               | 組織学          | 70      | 0       | 0       | 30      | 0       |
|               | 神経解剖学概説      | 15      | 0       | 0       | 85      | 0       |
|               | 肉眼解剖学概説      | 10      | 0       | 0       | 90      | 0       |
|               | 肉眼解剖学        | 70      | 0       | 0       | 30      | 0       |
|               | 生化学          | 30      | 0       | 0       | 70      | 0       |
|               | 動物性機能生理学     | 55      | 0       | 0       | 45      | 0       |
|               | 植物性機能生理学     | 45      | 0       | 0       | 55      | 0       |
|               | 薬理学          | 15      | 0       | 0       | 85      | 0       |
|               | 微生物学         | 70      | 0       | 0       | 30      | 0       |
|               | 病理学          | 50      | 30      | 20      | 0       | 0       |
|               | 遺伝医学         | 25      | 45      | 0       | 30      | 0       |
| 機能・系統別 PBL 科目 | 地域医療         | 0       | 5       | 25      | 70      | 0       |
|               | 消化器          | 10      | 0       | 15      | 75      | 0       |
|               | 呼吸器          | 10      | 0       | 0       | 90      | 0       |
|               | 循環器          | 20      | 20      | 20      | 40      | 0       |
|               | 代謝・内分泌・腎・泌尿器 | 70      | 15      | 0       | 15      | 0       |
|               | 血液・腫瘍・感染症    | 20      | 20      | 20      | 40      | 0       |
|               | 皮膚・膠原        | 5       | 0       | 25      | 70      | 0       |
|               | 運動・感覚器       | 15      | 0       | 0       | 85      | 0       |
|               | 精神・神経        | 25      | 0       | 25      | 50      | 0       |
|               | 小児・女性        | 10      | 0       | 15      | 75      | 0       |
|               | 救急・麻酔        | 0       | 0       | 20      | 80      | 0       |
|               | 社会医学・医療社会法制  | 30      | 5       | 15      | 50      | 0       |
|               | 臨床入門         | 5       | 10      | 55      | 30      | 0       |
|               | 医学英語         | 0       | 0       | 0       | 100     | 0       |
|               | 総括講義         | 0       | 0       | 0       | 100     | 0       |
| 臨床実習          | 臨床実習         | 70      | 20      | 10      | 0       | 0       |
|               | 地域医療実習       | 70      | 20      | 10      | 0       | 0       |
|               | 関連教育病院実習     | 100     | 0       | 0       | 0       | 0       |

## 9 オフィスアワー一覧

### オフィスアワーについて

「オフィスアワー」とは、各教員が学生からの個別相談に応じるために設定しているの時間のことです。授業や学習に関する質問や学生生活・進路相談などについての相談があれば、教員は随時相談に応じるのですが、他の授業や会議、診療などで席を離れるため、常に教員室や研究室に居るとは限りません。

そこで、学生の来訪に備えて教員室や研究室で待機し、相談に応じるのに都合が良い時間帯を「オフィスアワー」として、教員ごとに設定しています。

巻末に、医学部全教員の「オフィスアワー」を示した一覧表を掲載してあります。「オフィスアワー」の曜日、時間帯、連絡先（メールアドレス、内線番号）などが記載されていますので、各教員を訪ねる際に活用してください。なお、建物配置図は「学生便覧」巻末に表示しているので、参照してください。



**学修要項**－PhaseⅣ・Ⅴ－  
(医学部医学科)

編 集 佐 賀 大 学  
発 行

〒849-8501 佐賀市鍋島五丁目1番1号  
電話 (0952) 31-6511 (代表)



佐賀大学医学部医学科